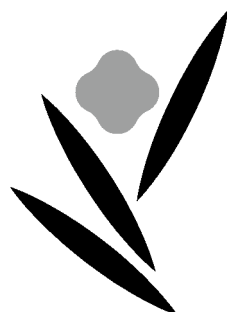


こども学科の教育と授業計画

2019年度



福島学院大学 福祉学部
こども学科

福祉学部こども学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程の編成および学位授与の方針

(1) 入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）

こども学科では、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門領域において、地域社会に根ざし、将来に渡って保育および幼児教育の領域における指導者として地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

こども学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して学科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、こども学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

こども学科の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目からなり、さらに各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成しています。

教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程の編成は、幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者のために教育職員免許法および同法施行規則に規定する科目を置き、保育士の資格を取得しようとする者のために児童福祉法および同法施行規則に規定する科目を置き、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を設置しています。また、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格双方の取得により認定こども園に勤務した場合は、保育教諭となることを可能としています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得など対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるよう各年次に配当して編成しています。

(3) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

こども学科においては、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していることども学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（こども学）」の学位を授与します。

2. 学生の努力目標

福祉学部こども学科は、教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う人材育成を目指し、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を養成することを目的とし将来的に幼稚園教諭、保育士、さらには保育教諭としての活躍を期待しています。

幼児教育・保育に関わる知識は、次世代を育む社会の一員として皆さんに等しく求められていくもので、免許・資格の取得そのものを卒業時の必須要件とはしていませんが、学生のみなさんには本学科における学びの証として、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得できるよう努力してください。

3. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために次の点が求められますので、よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の学是「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりでなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でもゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。

注：「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、評価方法などが記載されています。

また、それぞれの授業の事前・事後の学修についても明記されていますので、予習・復習を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を学ぶための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

I. 教育課程と履修の方法

1. 教育課程(カリキュラム)

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」(P15～P22)のとおりです。

教育課程(カリキュラム)は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。

そして科目ごとに、授業の方法(講義・演習・実習)、履修できる学年、科目の種類(必修・選択)、単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験、レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取りあげていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 履修方法

4年間で学ぶ全ての授業科目は、教育課程にまとめられています。この中から、卒業および幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する科目を決めていきます。

(3) 科目の種類

科目には、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」と「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時までになんとも取得できていなければ、卒業することができません。

(4) 授業の開講期

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭一種免許状、保育士指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

学修期間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。

(5) 単 位 制

① 単位とは学修時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。

② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を「時限」としていますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間（90分）で15回の授業では、2時間×15回＝30時間（90時間の1／3）の学修になります。90－30＝60時間は授業外の学修時間（予習・復習）となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(6) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。

こども学科の「卒業に必要な単位数」は、合計124単位です。詳細については教育課程表をご覧ください。

(7) 科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入方法、提出期日等は、オリエンテーションで教務課から説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修することができません。

また、教員や教務課員が早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修確認を完了させるようにしてください。

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 履修規程第26条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。1、2年次の必修科目を落としてしまうと、3、4年次で実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格・免許状取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なります。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、**1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位**としています。

4. 免許状・資格の取得

こども学科において指定された単位を取得すると、次の免許状・資格が取得できます。

詳しくは、免許状・資格取得の方法（P7～P14）をよく読んでください。

こども学科

(1) 幼稚園教諭一種免許状

(2) 保育士資格

*幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得することにより、幼保連携型認定こども園において保育教諭を名乗ることができます。

II. 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数えます。そして、授業時間は1回90分で設定されています。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

2. 成績評価と単位認定

各科目の成績評価は以下のとおりです。その他に本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとに、本学独自のGPA（Grade Point Average：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

(1) 本学独自のGPA（以下単にGAPと表記）成績評価とは、

- ① 授業科目はシラバスにより学修目標、成績評価基準を明示したうえ100点満点で成績評定し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
- ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち、各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。
- ③ GPAは、次項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学修指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
- ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意してください。

- (2) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次のとおりとなっています。

A + (100~90点)	A (89~80点)	B (79~70点)
C (69~60点)	D (59~50点)	F (50点未満)

※ GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

- (3) 単位の認定は、必要な課程として定められた時数について、学外実習および実習指導科目等、別に定める場合を除き、3分の2以上出席し、本学の行う試験その他による成績審査に合格したものに対して行います。

学外実習および実習指導科目等別に定める科目の必要な出席時数は次のとおりです。

1. 学外実習科目の事前・事後指導については5分の4以上。
2. 学外実習については所定の全日数。ただし、実習中、病気、忌引等やむを得ない事情により欠席した場合で、実習期間の延長が可能な場合は当該欠席日数分を延長して補充することができます。
3. 海外実習または演習を行う場合は、当該実習または演習における所定の全プログラム。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く。）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。補足的な措置として、以下のような例があげられます。

○授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・注意1回につき1点減点

※ 同一学生の注意3回以降は、1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。

○遅刻・早退・欠席

・遅刻・早退1回につき1点減点

・欠席1回につき3点減点

※ 遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（認定こども園基本実習、保育実習、幼稚園教育実習等）
- ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行動
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学修成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験に関わる情報は、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配布されたりすることはありませんので注意してください。

(1) 試験の種類

① 定期試験（中間試験、期末試験等）

授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。

② 追 試 験

履修規程第11条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。

ただし、本人の不注意だった場合には、80点満点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）

③ 再試験【履修規程第12条】参照

卒業学年に在籍し、履修規程第13条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目につき5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

① 筆 記 試 験

筆記試験は通常90分です。

試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められます。

科目によって、教科書やノートを持ち込んで良いという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。

② レポ ー ト

レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。

③ その他の方法

調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 「情報機器操作」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としますが、「情報機器操作Ⅰ（初級レベル）」の履修者は、「情報機器操作Ⅱ（中級レベル）」まで計4単位以上を必修とします。

5. 「英会話」の履修

科目名	レベル	履修年次	単位数
英会話Ⅰ	ベーシックレベル	1年	2単位
英会話Ⅱ	アドバンスレベル	1・2年	2単位
英書リーディング	—	2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。英語教育の履修については、以下のとおりです。

• 1年次に「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を指定された者

「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を履修して2単位を取得した後、2年次で「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

• 1年次に「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」を指定された者

「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」の2単位を取得した後、2年次で「英書リーディング」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、教育・保育に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次4年次と2カ年の継続履修で、2学年が同じ空間で学修に励むことも学科の特徴的な科目となっています。

「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文の提出（研究過程上に制作物が伴う場合は制作物を含みます）が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は当該学年学生数の20%～25%とし、事前希望調査により極端な偏りを防ぐよう計画されています。こども学科の学生のみなさんは1年次より教育・保育に関する問題意識を持ち、3年次履修時までには自分自身の研究課題を絞り込んでいきましょう。

また、4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表をおこなっていきます。1、2年生にとっては先輩方の研究結果を聞くことにより、より具体的な研究課題を見つける機会となるでしょう。

Ⅲ. 免許状・資格取得の方法

1. 幼稚園教諭一種免許状

(1) 幼稚園教諭一種免許状とは

幼稚園教諭一種免許状は、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則に基づく国家資格です。この免許状は、次の(2)に定められた科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

教育職員免許法に基づく免許状の取得に必要な科目を履修し、単位を修得することによって、幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。本学では、「幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目として配当しています。（2019年度入学生はP7～、2018年度以前の入学生はP9～参照）

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な授業科目一覧（2019年度入学生）

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体 育	体育講義	1	1	
	体育実技 I	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話 I (ベーシックレベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	英会話 II (アドバンスレベル)	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作 I (初級レベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	情報機器操作 II (中級レベル)	1・2	2	
合 計			12	

※ 教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「文章表現」、「会話演習」「生活教養」、「英書リーディング」（「英会話 II（アドバンスレベル）」を履修した者）の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	各科目に含めることが必要な事項	開設科目名	単位数
領域及び保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項	国語	2
		算数	2
		音楽	2
		図画工作	2
		体育	2
	□ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	2
		保育内容指導法健康	2
		保育内容指導法人間関係	2
		保育内容指導法環境	2
		保育内容指導法言葉	2
保育内容指導法表現Ⅰ		2	
保育内容指導法表現Ⅱ	2		
教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2
	□ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）	保育者論	2
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政	2
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1
		発達心理学	4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2
ヘ 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育・教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等	イ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法及び技術	2
	□ 幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	2
	ハ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2
教育実践に関する科目	イ 教育実習	幼稚園教育実習（事前事後指導1単位含む）	5
	□ 教職実践演習	保育・幼稚園教職実践演習	2
合 計			52

(2) その他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な授業科目一覧（2016～2018年度入学生）

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体 育	体育講義	1	1	
	体育実技 I	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話 I (ベーシックレベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	英会話 II (アドバンスレベル)	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作 I (初級レベル)	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修。ただし、レベル I の履修者は II まで必修
	情報機器操作 II (中級レベル)	1・2	2	
合 計			12	

※ 教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「国語表現」、「会話演習」「生活教養」、「英書リーディング」（「英会話 II（アドバンスレベル）」を履修した者）の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
国 語	国 語	3	2
算 数	算 数	3	2
生 活	—	—	—
音 楽	音 楽	1	2
図 画 工 作	図 画 工 作	1	2
体 育	体 育	2	2
合 計			10

(2) 教職に関する科目

第一欄	免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履修年次	単位数	
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	保育者論	1	2
		教員の職務内容			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	1
			発達心理学	1	4
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育行政	3	2

免許施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	履修年次	単位数
第四欄	教育課程の意義及び編成の方法	保育・教育課程論	1	2
		保育内容総論	1	2
	保育内容の指導法	保育内容指導法 健康	3	2
		保育内容指導法 人間関係	3	2
		保育内容指導法 環境	2	2
		保育内容指導法 言葉	2	2
		保育内容指導法 表現Ⅰ	2	2
		保育内容指導法 表現Ⅱ	3	2
	教育の方法及び技術	教育方法及び技術	3	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	3	2
	教育相談の理論及び方法	教育相談	3	2
第五欄	教育実習	幼稚園教育実習 *事前事後指導1単位を含む	3・4	5
第六欄	教職実践演習	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計				40

(3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	履 修 年 次	単 位 数
教科又は教職に関する科目	認定こども園基本実習	2	1

(4) そ の 他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

2. 保育士資格

(1) 保育士とは

保育士は、「児童福祉法」に基づく国家資格です。その仕事の内容は、児童福祉施設（保育所、施設など）で児童の健全な育成をめざし保育にあたるとともに、ソーシャルワークの視点からカウンセリング能力や対話能力を身につけ、児童の保護者に対しても子育ての支援を行うことです。この保育士の資格の取得は、次の(2)に定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

児童福祉法に基づく資格の取得に必要な科目を履修することによって、保育士資格を取得することができます。本学では、「保育士資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目、選択必修科目を配当しています。(2019年度入学生はP11～、2018年度以前の入学生はP13～参照)

保育士資格取得に必要な科目一覧（2019年度入学生）

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教 科 目	単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
外国語・体育 以外の科目	6以上	本学の教育	1	1	
		文章表現	1	4	
		会話演習	2	2	
		情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	* 2単位以上必修。 Ⅰの履修者はⅡまで計 4単位必修
		情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
		生活教養	1	4	
外 国 語	2以上	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	* 2単位以上必修。 Ⅰの履修者はⅡまで計 4単位必修
		英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
体 育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合 計	10以上			21	

(2) 専門教育科目

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修 年次	単位数
保育の本質・目的に関 する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論	2	2
	社会的養護	2	社会的養護Ⅰ	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関 する科目	保育の心理学	2	発達心理学	1	4
	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	2
	子どもの理解と援助	1	幼児理解の理論と方法	3	4
	子どもの保健	2	子どもの保健	1	2
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
保育の内容・方法に関 する科目	保育の計画と評価	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
保育内容指導法 表現Ⅰ			2	2	

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修 年次	単位数
保育の内容・方法に関する科目	保育内容の理解と方法	4	音楽	1	2
			図画工作	1	2
			体育	2	2
	乳児保育Ⅰ	2	乳児保育Ⅰ	2	2
	乳児保育Ⅱ	1	乳児保育Ⅱ	2	2
	子どもの健康と安全	1	子どもの健康と安全	2	1
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ	2	1
子育て支援	1	子育て支援	2	1	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅰ	2・3	2
	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅰ	3	4
総合演習	保育実践演習	2	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計		51	合 計		62

2. 選択必修科目

(1) 専門教育科目

系 列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の対象の理解に関する科目	15単位 以上	教育行政	3	2	この中から 6単位以上 必修
		教育心理学	2	1	
		特別支援教育	3	2	
保育の内容・方法に関する科目	15単位 以上	教育方法及び技術	3	2	
		教育相談	3	2	
		国語	3	2	
		算数	3	2	
保育実習	2	保育実習Ⅱ	4	2	
		保育実習Ⅲ	4		
	1	保育実習指導Ⅱ	3・4	1	
		保育実習指導Ⅲ	3・4		
合 計	18単位 以上	合 計		18	

(2) その他の科目

系 列	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている科目	認定こども園基本実習	2	1	いずれか 2単位必修
	ピアノ演習Ⅰ	1	2	
	器楽演習	1		
	ゼミナール	3・4	4	
合 計			7	

保育士資格取得に必要な科目一覧（2016～2018年度入学生）

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教 科 目	単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数	備 考
外国語・体育 以外の科目	6以上	本学の教育	1	2	
		国語表現	1	4	
		会話演習	2	1	
		情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
		生活教養	1	4	
		国際理解論	1	2	
外国語	2以上	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	2単位以上必修。Ⅰの履修者はⅡまで計4単位必修
		英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
体 育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合 計	10以上			23	

※ 児童福祉法に基づく、保育士資格の必修科目の他に、「英書リーディング」（1年次英会話Ⅱの履修した者）を必修科目としています。

(2) 専門教育科目

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	児童家庭福祉	2	児童家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	相談援助	1	相談援助	2	1
	社会的養護	2	社会的養護	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	2	発達心理学	1	4
	保育の心理学Ⅱ	1	教育心理学	2	1
	子どもの保健Ⅰ	4	子どもの保健Ⅰ	1	4
	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの保健Ⅱ	2	1
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
	家庭支援論	2	家庭支援論	2	2
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
保育内容指導法 表現Ⅰ			2	2	

系 列	教 科 目	最低修得 単位数	授 業 科 目	履修年次	単位数
保育の内容・方法に関する科目	乳児保育	2	乳児保育	2	2
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護内容	1	社会的養護内容	2	1
	保育相談支援	1	保育相談支援	2	1
保育の表現技術	保育の表現技術	4	音 楽	1	2
			図画工作	1	2
			体 育	2	2
保育実習	保育実習指導 I	2	保育実習指導 I	2・3	2
	保育実習 I	4	保育実習 I	3	4
総合演習	保育実践演習	2	保育・幼稚園教職実践演習	4	2
合 計		51	合 計		61

2. 選択必修科目

(1) 専門教育科目

系 列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の本質・目的に関する科目	15以上	地域福祉論	4	2	この中から 6単位以上 必修
保育の対象の理解に関する科目		発達障害	4	2	
		子育て支援政策	4	2	
		臨床心理学	3	2	
保育の内容・方法に関する科目		カウンセリング概論	3	2	
		カウンセリング演習	3	1	
		幼児理解の理論と方法	3	2	
保育の表現技術		ピアノ演習(初級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(中級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(上級レベル)	1	2	
		器楽演習	1	2	
保育実習		1	保育実習指導 II	3・4	
	2	保育実習 II	4	2	
	1	保育実習指導 III	3・4	1	
	2	保育実習 III	4	2	
合 計	18以上	合 計		27	

※ 「ピアノ演習」または「器楽演習」のうちいずれか2単位を必ず履修しなければなりません。さらに、実習科目から「保育実習II」・「保育実習指導II」、または「保育実習III」・「保育実習指導III」のいずれか3単位は必ず履修しなければなりません。

(2) そ の 他

こども学科では、児童福祉法に基づく保育士資格の必修科目の他に、「認定こども園基本実習」と「ゼミナール」を必修科目としています。

福祉学部こども学科 教育課程表 (2019年度入学生)

科 目				単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履修年次				卒業		幼稚園 教諭一種		保育士		備 考	
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
分野	幼一	保	授業科目															
教 養	教育方針		本学の教育	1	講義	8	○				1		1	1				
	表現力 向上分野		文章表現	4	講義 演習	30	○				4		4	4				
			会話演習	2	演習	15		○			2		2	2		対話及びプレゼンテーションを含む		
	情報教育分野		情報機器操作Ⅰ	2	演習	15	○				① 2	2	2	2	2	2	2	① 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。
			情報機器操作Ⅱ	2	演習	15	○	○										
			情報機器操作Ⅲ	2	演習	15			○	○	2	2	2	2				
			スマートフォン活用法	1	演習	8			○	○	1	1	1	1				
			スマートフォンのモラルとリスク	1	演習	8			○	○	1	1	1	1				
	教 育	人間関係分野		生活教養	4	講義 演習	30	○				4		4	4			
				音楽演習	2	演習	15	○				2	2	2	2			
		美術演習	2	演習	15	○				2	2	2	2					
		文学演習	2	演習	15	○				2	2	2	2					
教養分野			日本国憲法	2	講義	15		○			2	2		2				
			テレビ報道に見る現代理解	2	演習	15				○	2	2		2				
			教養演習Ⅰ	2	演習	15				○	2	2		2				
			教養演習Ⅱ	2	演習	15				○	2	2		2				
			地域研究	1	演習	15		○	○	○	1	1		1				
目		国際理解分野		英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	2	演習	15	○			② 2 科目 4 単位 必修	2	2	② 2 科目 4 単位 必修	2	② 入学時の能力検定により履修レベルを決定する。 Ⅰの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。		
			英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	2	演習	15	○	○		2							2	2
			英書リーディング	2	演習	15		○		2							2	2
			国際理解論	2	講義	15	○			2	2	2						
			国際理解演習	2	演習	15	○			2	2	2						
	体育分野		体育講義	1	講義	8	○				1	1	1	1				
			体育実技	1	実技	20	○				1	1	1	1	種目選択制			
小 計				48 単位			14 科目	6 科目	4 科目	8 科目	19 単位	35 単位	8 単位	44 単位	19 単位	35 単位		

	幼教系列	保育士系列	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次				卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考			
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択				
専門教育	イ □ 教育の基礎的理解に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	教育原理	2	講義	15		○			2		2		2					
			保育者論	2	講義	15	○				2		2		2					
			保育原理	2	講義	15	○				2			2	2					
			社会的養護 I	2	講義	15	○				2			2	2					
			社会福祉	2	講義	15	○				2			2	2					
			地域福祉論	2	講義	15				○		2		2			2			
			子ども家庭福祉	2	講義	15	○					2		2	2					
	子ども家庭支援論	2	講義	15		○				2		2	2							
	ハ 二 ホ 保育の対象の理解に関する科目	教育行政	2	講義	15			○			2	2		※	2					
		教育心理学	1	講義	15		○			1		1		※	1					
		発達心理学	4	講義	30	○				4		4		4						
		子ども家庭支援の心理学	2	講義	15		○				2		2	2						
		特別支援教育	2	講義	15			○			2	2		※	2					
		臨床心理学	2	講義	15			○		2			2	※	2					
		心理査定法	2	演習	30			○			2		2			2				
		発達障害	2	講義	15				○		2		2			2				
		カウンセリング概論	2	講義	15				○		2		2			2				
		カウンセリング演習	1	演習	15				○			1	1			1				
		子どもの保健	2	講義	15	○					2		2	2						
		子どもの食と栄養	2	演習	30		○				2		2	2						
子育て支援政策		2	講義	15				○		2		2			2					
幼児理解の理論と方法	2	演習	15				○		2	2		2								
育科 道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等	ハ イ 保育の内容・方法に関する科目	保育・教育課程論	2	講義	15	○				2		2		2						
		教育方法及び技術	2	演習	15			○			2	2		※	2		オムニバス			
		社会的養護 II	1	演習	15		○				1		1	1						
		子育て支援	1	演習	15		○				1		1	1						
		乳児保育 I	2	講義	15		○				2		2	2						
		乳児保育 II	1	演習	15		○				1		1	1						
		子どもの健康と安全	1	演習	15		○				1		1	1						
	障害児保育	2	演習	30			○			2		2	2							
	教育相談	2	講義	15			○			2	2		※	2		カウンセリングを含む				
	イ □ 領域及び保育内容の指導法に関する科目	国語	2	講義	15			○			2	2		※	2					
		算数	2	講義	15			○			2	2		※	2					
		音楽	2	演習	30	○				2		2		2						
		図画工作	2	演習	30	○				2		2		2						
体育		2	演習	30		○			2		2		2							
保育内容総論		2	演習	30	○				2		2		2							
□	保育内容指導法 健康	2	演習	30			○		2		2		2							
	保育内容指導法 人間関係	2	演習	30			○		2		2		2							
	保育内容指導法 環境	2	演習	30		○			2		2		2							
	保育内容指導法 言葉	2	演習	30		○			2		2		2							
	保育内容指導法 表現 I	2	演習	30		○			2		2		2							
保育内容指導法 表現 II	2	演習	30			○			2	2		※	2							
小	計	82 単位				11 科目	14 科目	15 科目	3 科目	39 単位	43 単位	45 単位	37 単位	※6 54 単位	28 単位	※印の科目は6単位以上、保育士資格必修				

	幼教系列	保育士系列	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次				卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考		
							1年次	2年次	3年次	4年次	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
							専		門		教		育		科			目	
専 門 教 育 科 目	教育実践に関する科目	イ	幼稚園教育実習	5	実習	時間割外			○	○		5	5			5	事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回・4年後期：3回		
		ロ	総合演習 保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15					○		2	2		2			
	保育実習		保育実習指導Ⅰ	2	演習	30			○	○			2		2	2		保育実習指導Ⅰ 授業回数 2年前期：2回・2年後期：8回 3年前期：15回・3年後期：5回	
			保育実習Ⅰ	4	実習	時間割外				○			4		4	4			
			保育実習指導Ⅱ	1	演習	15				○	○		1		1	3	1	保育実習指導Ⅱ 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	
			保育実習Ⅱ	2	実習	時間割外					○		2		2	③④	2		
			保育実習指導Ⅲ	1	演習	15				○	○		1		1	3	1	③、④ いずれが 3単位 必修	
			保育実習Ⅲ	2	実習	時間割外					○		2		2	④	2		保育実習指導Ⅲ 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回
	本学独自の科目		認定こども園基本実習	1	実習	時間割外			○				1		1	1			
			学童保育	2	講義	15					○			2		2		2	
			ピアノ演習Ⅰ	2	演習	30	○						2	⑤	2	2	2	⑤	⑤ この内より2単位卒業必修
			器楽演習	2	演習	30	○						2	⑤	2	2	⑤	2	
			ピアノ演習Ⅱ	2	演習	30				○				2		2		2	
			音楽療法概論	2	講義	15				○	○			2		2		2	
			音楽療法演習Ⅰ	2	演習	15				○	○			1		1		1	
			音楽療法演習Ⅱ	2	演習	15				○	○			1		1		1	
			器楽活用法Ⅰ	2	演習	15				○	○			2		2		2	
			器楽活用法Ⅱ	2	演習	15				○	○			2		2		2	
			園芸	2	演習	30					○			2		2		2	
			創作ミュージカル	2	演習	30				○			2			2	2		
バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流			2	演習	時間割外	○	○						2		2		2		
特別研究Ⅰ			1	演習	15						○		1		1		1		
特別研究Ⅱ	1	演習	15						○		1		1		1				
ゼミナール	4	演習	60					○	○	4			4	4	4	2年間継続履修 (単位認定は4年次)			
小 計			50 単位			3 科目	3 科目	13 科目	16 科目	8 単位	42 単位	7 単位	41 単位	20 単位	37 単位				
専 門 科 目 合 計			132 単位			14 科目	17 科目	28 科目	19 科目	47 単位	85 単位	52 単位	78 単位	80 単位	65 単位				
総 合 計			180 単位			28 科目	23 科目	32 科目	27 科目	66 単位	120 単位	60 単位	122 単位	99 単位	100 単位				

最低必要単位数

授 業 科 目		卒 業		幼稚園教諭一種		保育士	
		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
教養教育科目	教育方針	1単位	7単位以上	1単位	5単位以上	1単位	7単位以上
	表現力向上分野	6単位		6単位		6単位	
	情報教育分野	2単位		2単位		2単位	
	人間関係分野	4単位		4単位		4単位	
	教養分野	—		2単位		—	
	国際理解分野	4単位		4単位		4単位	
	体育分野	2単位		2単位		2単位	
小 計		19単位	7単位以上	21単位	5単位以上	19単位	7単位以上
合 計		26単位以上		26単位以上		26単位以上	
専 門 教 育 科 目	教職・保育士	39単位	51単位以上	52単位	38単位以上	65単位	18単位以上
	本学独自の科目	8単位		8単位		9単位	
小 計		47単位	51単位以上	60単位	38単位以上	80単位	18単位以上
合 計		98単位以上		98単位以上		98単位以上	
総 合 計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

■福祉学部子ども学科カリキュラムツリー (2019年度入学生用)

福祉学部子ども学科の教育目標…教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を養成	[3] 学内・学外実習とその事前・事後指導を通じて子ども達の発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要知識、技術、態度を修得
項目	[2] 保育者として望まれる語彙、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協働性などを修得
[1] 「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得	

科目名	専門教育科目		教養教育科目		専門教育科目 (実習)		
	領域及び保育内容の指導法／道徳・総合的な学習の指導法及び生徒指導・教育相談等	保育の内容・方法	本学独自の科目	※上記語彙(明瞭、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協働性等)は教養教育科目全般を通して学ぶものである	—	教育実践	
幼稚園教諭一種	保育の本質・目的	保育の対象の理解	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※
保育士	保育の本質・目的	保育の対象の理解	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※
4年	地域福祉論	子育て支援政策	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※
3年	幼児理解の理論と方法 教育行政 臨床心理学 心理査定法 特別支援教育	保育内容指導法 人間関係 保育内容指導法 表現Ⅱ 教育方法及び技術 障害児保育	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※
2年	子ども家庭支援論 保育者論 保育原理 社会的養護Ⅰ 社会福祉 子ども家庭福祉	子育て支援 子ども家庭支援の心理学 保育内容指導法 環境 保育内容指導法 言葉 保育内容指導法 表現Ⅰ 子ども食と栄養	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※
1年	子ども家庭福祉 子ども家庭福祉	子育て支援 子ども家庭支援の心理学 保育内容指導法 環境 保育内容指導法 言葉 保育内容指導法 表現Ⅰ 子ども食と栄養	学童保育 園芸 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ セミナー (3～4年継続科目)	音楽療法概論 (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅰ (3・4年生共通科目) 音楽療法演習Ⅱ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅰ (3・4年生共通科目) 器楽活用法Ⅱ (3・4年生共通科目)	ウェブ動画制作 教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ テレビ報道に見る現代理解 情報機器操作Ⅱ (3・4年生共通科目) 地域研究 (2～4年生共通科目)	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ (3～4年継続科目) 保育実習指導Ⅲ (3～4年継続科目)	教育実践 総合演習※

福祉学部こども学科 教育課程表 (2016～2018年度入学生)

科 目				単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼稚園 教諭一種		保育士		備 考
							1年次		2年次		3年次		4年次		必修	選択	必修	選択	必修	選択	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
分 野	幼一	保	授業科目																		
教 養 教 育 科 目	教育方針		本学の教育	2	講義	15	○								2		2		2		
	表現力 向上分野		国語表現	4	講義 演習	30	○	○								4		4		4	
			会話演習	1	演習	15			○							1		1		1	
	情報教育 分野			情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	2	演習	30	○	○						20	2	20	2	20	2	① 入学時の能力 検定により履修 レベルを決定す る。2単位以上 必修とするが、 初級レベルの履 修者は、中級レ ベルまで計4単 位以上を必修と する。
				情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	2	演習	30	○	○	○	○			2		2		2			
				情報機器操作ⅢA	2	演習	30			○	○	○	○			2		2		2	
				情報機器操作ⅢB	2	演習	30			○	○	○	○			2		2		2	
	人間関係 分野			生活教養	4	講義 演習	30	○	○						4		4		4		
				生活と安全	2	講義	15	○							2		2		2		
	教養分野			音楽演習	2	演習	30			○	○				2		2		2		
				美術演習	2	演習	30	○	○						2		2		2		
				文学演習	2	演習	30	○	○						2		2		2		
				食彩演習	1	演習	15			○					1		1		1		
	育			日本国憲法	2	講義	15			○					2		2		2		
				女性と保健	2	講義	15		○						2		2		2		
	国際理解 分野			英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	2	演習	30	○	○						②2科目4単位必修	2	②2単位必修	2	②2単位必修	2	② 入学時の能力 検定により履修 レベルを決定す る。Ⅰの履修者 はⅡまで、Ⅰ 年次Ⅱの履修者 は、英書リーデ ィングまでの計4 単位必修とする。
				英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	2	演習	30	○	○	○	○			2		2		2			
				英書リーディング	2	演習	30			○	○			2		2		2			
			中国語会話Ⅰ	2	演習	30			○	○			2	2		2					
			中国語会話Ⅱ	2	演習	30					○	○	2	2		2					
			国際理解論	2	講義	15	○						2			2		2			
目	体育分野		体育講義	1	講義	8		○						1		1		1			
			体育実技Ⅰ	1	実技	23	○	○						1		1		1		バレーボール、テ ニス、バドミント ン、ヒップホップ &ジャズダンス、 ボディ・コンディ ショニング	
			体育実技Ⅱ	1	実技	23		○	○					1		1		1		バレーボール、テ ニス、バドミント ン、ヒップホップ &ジャズダンス、 ボディ・コンディ ショニング	
小 計				47 単位			12 科目	11 科目	5 科目	6 科目	4 科目	4 科目	3 科目	3 科目	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位	

関する区分	教員免許に 関係する科目	保育士(幼稚園)の 資格取得に 関係する科目	単位		授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼稚園 教諭一種		保育士		備 考		
			幼一	保			授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		必修	選択	必修	選択	必修		選択	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目	○	○	保育者論	2	講義	15		○						2		2		2				
		○	○	教育原理	2	講義	15			○					2		2		2				
			○	保育原理	2	講義	15			○					2		2		2				
			○	社会的養護	2	講義	15			○					2		2		2				
			○	社会福祉	2	講義	15	○							2		2		2				
			◇	地域福祉論	2	講義	15						○			2		2		2			
			○	相談援助	1	演習	15			○						1		1		1			
			○	児童家庭福祉	2	講義	15	○								2		2		2			
		保育の基礎理論に関する科目	○		教育行政	2	講義	15				○				2	2					2	
			○	○	教育心理学	1	演習	15			○					1		1		1			
			○	○	発達心理学	4	講義	30	○	○						4	4		4				
				◇	臨床心理学	2	講義	15					○				2		2		2		
				心理査定法	2	演習	30				○	○				2		2		2			
				育児ストレス	2	講義	15					○				2		2		2			
			◇	発達障害	2	講義	15						○			2		2		2			
			◇	カウンセリング概論	2	講義	15					○				2		2		2			
			◇	カウンセリング演習	1	演習	15					○				1		1		1			
			○	子どもの保健Ⅰ	4	講義	30	○	○							4		4		4			
			○	子どもの保健Ⅱ	1	演習	15			○	○					1		1		1			
	保育の内容・方法に関する科目				母子保健Ⅰ	2	講義	15							○		2		2		2		
				母子保健Ⅱ	2	講義	15							○		2		2		2			
			○	子どもの食と栄養	2	演習	30			○	○					2		2		2			
				食物アレルギー事例研究	1	演習	15						○			1		1		1			
			○	家庭支援論	2	講義	15					○				2		2		2			
			◇	子育て支援政策	2	講義	15						○			2		2		2			
		教育課程及び指導法に関する科目	○	○	保育・教育課程論	2	講義	15		○						2		2		2		オムニバス	
			○	○	保育内容総論	2	演習	30	○	○						2		2		2			
			○	○	保育内容指導法 健康	2	演習	30				○	○			2		2		2			
			○	○	保育内容指導法 人間関係	2	演習	30				○	○			2		2		2			
			○	○	保育内容指導法 環境	2	演習	30			○	○				2		2		2			
			○	○	保育内容指導法 言葉	2	演習	30			○	○				2		2		2			
	○		○	保育内容指導法 表現Ⅰ	2	演習	30			○	○				2		2		2				
	○			保育内容指導法 表現Ⅱ	2	演習	30				○	○				2	2			2			
				教育方法及び技術	2	演習	15				○					2	2			2			
			○	社会的養護内容	1	演習	15			○						1		1		1			
			○	保育相談支援	1	演習	15				○					1		1		1			
	保育実習		○	○	乳児保育	2	演習	30			○	○				2		2		2			
		○	○	障害児保育	2	演習	30				○	○			2		2		2				
		○	◇	幼児理解の理論と方法	2	講義	15					○			2	2			2				
		○		教育相談	2	講義	15					○			2	2			2		カウンセリングを含む		
				保護者対応事例研究	1	演習	15						○			1		1		1			
		○	○	保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15						○			2	2		2				
			認定こども園基本実習	1	実習	時間 割外			○	○					1	1		1					
		○	幼稚園教育実習	5	実習	時間 割外					○	○	○		5	5		5		事前：事後指導1単位を含む 授業回数：7回 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回			
		○	保育実習指導Ⅰ	2	演習	30			○	○	○	○			2		2		2		保育実習指導Ⅰ 授業回数：2回 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回		
		○	保育実習Ⅰ	4	実習	時間 割外					○	○			4		4		4				
			保育実習指導Ⅱ	1	演習	15					○	○	○		1		1		3③		1		
		◆	保育実習Ⅱ	2	実習	時間 割外						○	○		2		2		3③		2		
		保育実習指導Ⅲ	1	演習	15					○	○	○		1		1		3④		1			
	◆	保育実習Ⅲ	2	実習	時間 割外							○		2		2		3④		2			
小 計					98 単位		5 科目	7 科目	12 科目	10 科目	11 科目	14 科目	9 科目	7 科目	35 単位	63 単位	41 単位	57 単位	59 単位	39 単位			

専 門 教 育 科 目	教員免許に關する科目	保育士資格に關する科目	履 修 年 次		単 位 数	授 業 形 態	授 業 回 数	履 修 年 次								卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士		備 考
			1 年 次					2 年 次		3 年 次		4 年 次		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択			
			前 期	後 期				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教 科 目 開 講 科 目	保 育 の 表 現 技 術	◇	ピアノ演習 (初級レベル)	2	演習	30	○	○							26	2	2	2	⑤ この内より2単位必修			
		◇	ピアノ演習 (中級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	ピアノ演習 (上級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2				
		◇	器楽演習	2	演習	30	○	○								2	2	2				
	●		国 語	2	講義	15				○					2	2		2				
	●		算 数	2	講義	15				○					2	2		2				
	●	◎	音 楽	2	演習	30	○	○						2	2		2					
	●	◎	図画工作	2	演習	30	○	○						2	2		2					
	●	◎	体 育	2	演習	30			○	○				2	2		2					
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目			学童保育	2	講義	15					○			2	2		2				
			学童保育実習	1	実習	時間割外					○	○		1	1		1					
			教育内容指導演法 国語	2	演習	15					○			2	2		2					
			教育内容指導演法 算数	2	演習	15					○			2	2		2					
			教育内容指導演法 音楽	2	演習	15						○		2	2		2					
			教育内容指導演法 図画工作	2	演習	15						○		2	2		2					
			教育内容指導演法 体育	2	演習	15						○		2	2		2					
本 学 独 自 の 科 目				園芸	2	演習	30					○	○		2	2		2				
			創作ミュージカル	2	演習	30					○	○	2		2		2					
			バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	2	演習	時間割外	○	○	○	○				2	2		2					
			特別研究Ⅰ	1	演習	15					○			1	1		1					
			特別研究Ⅱ	1	演習	15						○		1	1		1					
			ゼミナール	4	演習	60					○	○	○	○	4	4		4	2年間継続履修			
小 計				43			7	7	2	2	2	2	8	8	14	29	14	29	10	33		
総 合 計				188			24	25	19	18	17	20	20	18	70	118	76	112	90	98		

最低必要単位数

授 業 科 目		卒 業		幼 稚 園 教 諭 一 種		保 育 士	
		必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
教 養 教 育 科 目	教 育 方 針	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上
	表 現 力 向 上 分 野	5単位		5単位		5単位	
	情 報 教 育 分 野	2単位		2単位		2単位	
	人 間 関 係 分 野	4単位		4単位		4単位	
	教 養 分 野	—		2単位		—	
	国 際 理 解 分 野	6単位		4単位		6単位	
	体 育 分 野	2単位		2単位		2単位	
小 計		21単位	7単位以上	21単位	7単位以上	21単位	7単位以上
合 計		28単位以上		28単位以上		28単位以上	
専 門 教 育 科 目	教 職	35単位	47単位以上	41単位	41単位以上	71単位	21単位以上
	教 科	8単位		10単位 (●印)		(◎印61単位+○印より6単位+●印より3単位+1単位)	
	学 童 ク ラ ブ 指 導 科 目	—		—		—	
	本 学 独 自 の 科 目	6単位		4単位		4単位	
小 計		49単位	47単位以上	55単位	41単位以上	75単位	21単位以上
合 計		96単位以上		96単位以上		96単位以上	
総 合 計		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

福祉学部こども学科カリキュラムツリー (2016～2018年度入学生用)

福祉学部こども学科の教育目標…教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに保育士として指導的役割を担うことのできる人材を養成
項目
(1) 「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得 (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち、 ① 明るく、意欲深く、思いやり、使命感、責任感、専門意識、協働性(努力)は職業教育科 ② 研究意欲、協働性(努力)は職業教育科 ③ 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の課題の把握 や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得

科目名	専門教育科目				教養教育科目				専門教育科目(実習)			
	教育の意義、教育の基礎理論 保育の本質・目的 保育の対象の理解	教育課程及び指導法/ 生徒指導・教育相談及び進 路指導等 保育の内容・方法	教職実践 教職実践 総合演習	教科に関する科目 保育の基礎技術	学童クラブ指導科目	本学独自の科目	※上記諸資質(明朗、意欲深く、思いやり、使命感、責任感、専門意識、協働性(努力))は職業教育科 自立案を通して学ぶものである	事前・事後指導	教育実習 (事前・事後指導を 含む)	教科又は教職に 関する科目	保育実習	
4年	発達障害 母子保健Ⅰ 母子保健Ⅱ 食物アレルギー—事例研究 地域福祉論	保育課程及び指導法 健康 人間関係 表現Ⅱ 保育内容指導法 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3～4年継続科目)	情報機器操作ⅢA (3～4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3～4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (3～4年継続科目)	幼稚園教育実習 (3～4年継続科目)					
3年	教育行政 臨床心理学 心理衛生法 育児ストレス カウソレリング概論 カウソレリング演習	健康 人間関係 表現Ⅱ 保育内容指導法 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3～4年継続科目)	情報機器操作ⅢA (3～4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3～4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (3～4年継続科目)	幼稚園教育実習 (3～4年継続科目)					
2年	教育心理学 子どもの保健Ⅱ 子どもの食と栄養 教育原理 相談援助 家庭教育論	健康 人間関係 表現Ⅱ 保育内容指導法 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3～4年継続科目)	情報機器操作ⅢA (3～4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3～4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (3～4年継続科目)	幼稚園教育実習 (3～4年継続科目)					
1年	保育者論 保育原理 社会的養護 社会福祉 児童家庭福祉 児童心理学 子どもの保健Ⅰ	健康 人間関係 表現Ⅱ 保育内容指導法 教育方法及び技術 障害児保育 カウソレリング概論 カウソレリング演習	保育・幼稚園実践演習	学童保育 学童保育実習 図画 創作ミュージカル 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール (3～4年継続科目)	情報機器操作ⅢA (3～4年生共通科目) 情報機器操作ⅢB (3～4年生共通科目) 中国語会話Ⅱ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ (3～4年継続科目)	幼稚園教育実習 (3～4年継続科目)					

IV. 実習（認定こども園基本実習・幼稚園教育実習・保育実習・学童保育実習）

(1) 認定こども園基本実習

認定こども園基本実習は、保育士資格取得のための必修科目です。

福島学院大学認定こども園で1週間の基本実習を行います。認定こども園基本実習をまとめると、表1のようになります。

表1 「認定こども園基本実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
福島学院大学認定こども園 (幼保連携型)	2	9月又は2月	1週間	1単位	保育士資格取得希望者必修

〈認定こども園基本実習の指導内容〉

1. 保育者としての愛情と使命感を深め、自己の保育者としての能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（保育者の心構え）
 - 保育者の望ましい資質
 - 幼児教育の考え方
 - 実習の反省と適性への自己評価
2. 実習日誌、指導計画作成の仕方を学び、日案や部分的な指導案を理解する。
 - 実習日誌の書き方
 - 週案と日案の関係、目標の立て方
 - 環境構成の仕方
3. 観察実習・技術演習等を通じて、指導法の基礎を体験的に理解する。
 - 幼児への興味を引き出す保育方法
 - 自由遊びにおける指導法
 - 音楽を通しての幼児とのかかわり方
 - 教材研究と教材教具の準備の仕方
 - 一人ひとりの子どもの発達の特性に応じたかかわり方
 - 基本的生活習慣の指導
4. 実際に保育者と幼児のかかわりを通して幼児理解を深める。
 - 幼児の行動の観察からの読み取り
 - 幼児とのかかわり方
5. 幼児教育の実際についての体験的・総合的理解を与え、適切な勤務態度を身につける。
 - 施設・設備とその活用
 - 園の1日・1年の生活
 - 保育者の職務内容
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、清掃と整理整頓の仕方等）

(2) 幼稚園教育実習

幼稚園教育実習は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。履修方法は学外実習と実習に関する事前・事後指導（1単位）があり、単位数は5単位です。

学外実習は4年次に幼稚園での本実習が4週間（4単位）です。教育実習をまとめると、表2のようになります。

表2 「幼稚園教育実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
幼稚園	4	9月	4週間	5単位	幼稚園教諭一種免許状取得希望者必修

実習に関する事前・事後指導は、クラスセミナーでの実習指導や実習授業、実習反省会等で行います。

幼稚園教育実習の目標

1. 幼稚園についてその実態を知り理解を深める。
2. 幼稚園教諭の職務や役割を体験的に理解し、責任感を喚起する。
3. 指導計画の役割について実際の保育に即して理解する。
4. 指導・援助について実践的に学ぶと共に、経験者の幼児教育に対する姿勢や考え方に触れる。
5. 幼稚園教諭としての適切な勤務態度を身につける。
6. 子どもの発達を現実に即して理解すると共に、幼稚園教諭が担う役割について考える。
7. 幼稚園教諭に求められる適性や態度、能力等について実感を持って考え、自己を見直す。

〈幼稚園教育実習の指導内容〉

1. 幼稚園教諭としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（幼稚園教諭の役割） ○幼児教育の考え方
 - 幼稚園教諭の望ましい資質 ○実習の反省と適性への自己評価
2. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、指導計画の作成と実施・評価等の関連の理解と実践のための能力を高める。
 - 日案や部分的な指導案の作成の仕方 ○実施結果の反省・評価の仕方
 - 反省・評価に基づく新たな計画のたて方
3. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、様々な指導方法を体験し、理解する。
 - 指導案として計画された経験や活動の望ましい指導方法
 - 幼児の動きに即応した弾力的な指導法
 - 環境構成の仕方 ○生活指導の技術
4. 幼児理解の方法について体験し、実際の指導の上で活用する能力を高める。
 - 観察と記録のとり方 ○幼児の行動記録の集積とその活用
 - 問題行動への対応の仕方 ○幼児の発達を考慮した指導計画や指導方法への生かし方
5. 幼児教育の実践についての体験的、総合的理解と、適切な勤務態度を身につける。
 - 幼稚園の施設・設備とその活用 ○幼稚園の教育計画
 - 幼稚園教諭の職務内容 ○保護者や地域との関連と接し方
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、職場内の人間関係等）

表3 『幼稚園教育実習』での標準的な指導計画

実 習 内 容	
事前	○実習園を訪問し、事前打ち合わせを十分に行う。 （園舎内外の見学、実習期間中の行事等について、出勤・退勤時間の確認、服装、その他勤務上の注意点、部分実習や全日実習で準備するもの等）
第1週	○指導講話（園長や主任、実習担当者の講義） （オリエンテーション：設立の沿革、教育目標、特色ある教育内容、経営方針、年齢・園児数・クラス編成、職員組織・構成、教育実習の心得等） ○見学（幼稚園の環境、園舎、その他の施設・設備の状況等） ○観察（クラスの幼児の活動、一日の生活の流れ、担任の保育の仕方等） ○参加（保育室の環境構成、援助の補助、教材・教具の準備、清掃、保育室の整理・整頓等） ○長期間の指導計画の説明（実例に基づいて指導）
第2週	○観察・参加（第1週に同じ。次第に参加は多くなる） ○部分実習の指導案の作成（作成の仕方の指導） ○部分実習（できる限り2回以上） ○部分実習についての反省会（反省会や研究会の行い方の指導） ○園長講話（幼児教育や幼稚園教諭の在り方に関連する講義……体験談を中心に）
第3週	○教育にティーチングアシスタントとして参加
第4週	○観察・参加（第2、3週に同じ） ○日案の作成（その園の形式による作成の仕方の指導） ○全日実習（できる限り2日以上） ○全日実習についての反省会（保育の仕方の改善についての指導） ○園長、主任、担任との話し合い（実習のまとめと評価についての指導）
事後	○実習のまとめをする。 ○実習園へ礼状を出す。（実習終了後、1週間以内が望ましい） ○実習園から評価が届く。（実習終了後、2週間程度）

(3) 保育実習

〔保育実習Ⅰ〕

保育実習Ⅰは保育士資格取得のための必修科目です。保育実習指導Ⅰの2単位の他、保育所における実習2単位と、その他表4(A)に掲げる保育所以外の施設における実習2単位を履修します。

実習実施の細目は下記のとおりです。

表4 『保育実習Ⅰ』実施基準(その1)

実習種別	履修方法		実習施設
	単位数	おおむねの実習日数	
保育実習Ⅰ	4単位	20日	(A)

※実習施設の種別は、次の通りです。

- (A) 保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第6条の3第10項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）第3章第2節に規定する小規模保育事業A型及び同基準同章第3節に規定する小規模保育B型に限る）若しくは同条第12項の事業所内保育事業であって同法第34条の15第1項の事業及び同法同条第2項の認可を受けたもの（以下「小規模保育A・B型及び事業所内保育事業」という。）及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る）、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

以上の実施基準を別表にまとめると次のようになります。

表5 『保育実習Ⅰ』実施基準(その2)

実習種別	保育実習Ⅰ		
	保育士資格取得希望者は必修		
実習施設 実習日数 単位数	保育所	おおむね10日間	2単位
	保育所を除く表4(A)欄に掲げる施設	おおむね10日間	2単位

表4、表5に示されているのが現行の実施基準です。本学ではこの基準を踏まえて、より実習の効果をあげることを目的として、独自の方法で実施しています。

保育実習Ⅰの履修方法は、学外実習と学内での保育実習指導Ⅰがあります。

2年次には、実習の基礎を学ぶために福島学院大学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間実施します。3年次には保育所と児童福祉施設実習での実習をおおむね10日間ずつ行います。実習の実施時期は、表6の通りです。

学内での実習に関する事前・事後指導は、教育実習同様、1年次から3年次までの3年間、クラスセミナーでの実習指導や実習の授業、実習反省会等に出席しなければなりません。

表6 「保育実習Ⅰ」実施時期

実習施設	学年	実施時期	実習日数	備考
保育所	3	7月～8月	おおむね10日間	保育所実習
児童福祉施設（保育所を除く）	3	10月～11月	おおむね10日間	児童福祉施設実習

保育実習Ⅰの目標（保育所・児童福祉施設）

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

〔保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ〕

保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、保育士資格取得の選択必修科目です。したがって、資格を取得するためには、保育実習のほかにもどちらかを選択し、履修しなければなりません。詳細は表7の通りです。

なお、保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（各1単位）もどちらかを履修します。授業内容は授業計画をご覧ください。

表7 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」実施基準・時期

実習種別	実習施設	単位数	学年	実習日数	実習時期	備考
保育実習Ⅱ	保育所	2単位	4	おおむね10日間	7～8月	どちらか一科目 を履修する
保育実習Ⅲ	(B)	2単位	4	おおむね10日間	7～8月	

(B) 児童厚生施設又は児童発達支援センター、その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）

保育実習Ⅱの目標（保育所）

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習Ⅲの目標（児童福祉施設）

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

(4) 児童福祉施設見学実習

一年次後期以降各授業への動機づけによる幼児教育・保育に関わる専門学科での学びの意識高揚を目的とした教育行事として児童福祉施設見学実習を実施します。

表8 「児童福祉施設見学実習」実施時期

見学実習先	学年	実習時期	実習日数
児童福祉施設および保育所	1	9月	1日

(5) 実習反省会について

本科では、教育実習・保育実習における事前・事後指導の一環として、学外における全実習終了後に「実習反省会」を開催します。

この実習反省会は、教育実習・保育実習の授業回数に含められ、単位認定に関わるものなので、必ず出席しなければなりません。

〈実習反省会の目的〉

実習反省会の目的は、1・2年次は実習事前学習の一環として実施するもので、実習内容の理解と実習に対する意欲高揚を図ります。

3・4年次は実習事後学習の一環として、実習の振り返りと保育者としての自覚深化を目指します。

(6) 実習の履修制限・解除

教育実習・保育実習などについては、実習の履修制限があります。

※詳細については履修規程第27条（実習の履修制限）をご覧ください。

なお、履修制限にかかっても、本人の努力次第で解除される場合もありますので、同規程の第28条（履修制限の解除）も併せてご覧ください。

V. その他

(1) クラスセミナー

こども学科では、各学年ともにクラスセミナーを実施しています。その内容は、就職に関する説明会や相談会、学力向上を目指す講座、さらに、現代社会に対応していくための生活指導など、学生の皆さんにとって直接的に関わる重要な内容が数多く計画されております。

また、教員と学生一人ひとりとの直接的な話を重視するという観点から、クラスアドバイザー（クラス担当教員）による個人面談を年2回実施し、学習や生活相談などを受ける機会を設けています。

(2) 表彰制度

本学では、GPA制度の導入により、教育の質的向上及び学生の学力向上を図ると共に、学業成績が特に優秀で、人格に優れ他者の模範となるような学生を褒賞する各表彰制度を設けています。自ら研鑽して修得する姿勢に報い、学友と共に、若き日に努力することの尊さを認め合う点からも異議あることと考えています。

表彰には、授業科目の成績の他、教育実習や保育実習など学外実習の成績、また学外活動等を参考に学長賞、学部長賞、学科長顕賞が授与されます。

制定 15. 4. 1
改正 16. 4. 1
// 23. 3. 1
// 30.10. 1

制定 15. 4. 1

制定 30. 10. 1

福島学院大学学長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する学長褒賞の実施について定めることを目的とします。

(褒賞の実施)

第2条 褒賞は卒業時に行います。
ただし、必要に応じ適時とすることがあります。

(褒賞者の選考および決定)

第3条 褒賞者の選考は、第4条の規定に該当し、各学科長が学科会議の議を経て学部長の了解のもとに推薦する学生について、教授会において審査し、学長が決定します。

(褒賞者選考の基準)

第4条 選考は学則第51条第2項の各号に沿い、次の各号(基準)の2以上に該当する者を対象として行います。

1. 学業成績が優秀で、人格に優れている者
成績評点平均点88点以上の者、またはA評価が40科目以上でC評価がない者で、人格に優れ、他の模範となる者
 2. 学外実習において、特に高い成績評価を得た者
 - (1) 福祉心理学科にあっては、開設する学外実習において、90点以上の評価を得た者。
ただし、2科目以上の学外実習を履修した場合は、その平均点が90点以上の評価を得た者
 - (2) こども学科にあっては、幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの学外実習において、履修した3種実習科目の平均点が90点以上を得た者
 3. 学生の課外活動もしくは学内の自主活動において特に優れた実績をあげた者
学友会、学科学友会、クラブの責任者として本学の充実・発展につながる業績をあげた者
 4. 学外活動もしくはボランティア活動において優れた実績をあげた者
 - (1) 地方または全国的規模で行われた権威のある展覧会、コンクール、体育大会、競技会等において入賞(順位の定めのある場合は3位以内)もしくは国際的な大会等に日本代表として出場、出展した者
 - (2) 社会的貢献活動において顕著な業績をあげ、本学の名誉の高揚に貢献した者
 5. その他学生の模範となる顕著な行為のあった者
善行、人命救助、奉仕的活動、研究発表、発明発見等において顕著な行為のあった者
- 2 前項各号により、顕著に優れた者は、該当基準を1とすることができます。

(褒賞の重複)

第5条 学長賞と学部長賞については、学長賞を優先し、重複を避けて褒賞するものとします。

(褒賞の方法)

第6条 褒賞は、表彰状、記念品等によって行います。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行し、平成30年度卒業生から適用します。
2. この規程の所管は教務課とします。

学部長賞授与規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する学長褒賞以外に福祉学部の学生のうち、学業優秀かつ品行善良で他の模範となる者の表彰について定めることを目的とする。

(表彰の実施)

第2条 表彰は卒業時に学長の立会いのもとに、学部長がこれを行う。

(表彰者の選考および決定)

第3条 表彰者の選考は、第4条の規定に該当する学生について、教授会の議を経て、学長の承認のもとに学部長が決定する。

(表彰者選考の基準)

第4条 選考は、次の各号のすべてに該当する者を対象として行う。

1. 品行善良な者
 2. 学業成績が特に優秀な者
原則としてGPA85点以上の者、またはA評価35科目以上でC評価のない者
 3. 学外実習において特に優秀な評価を得た者のうち各々実習総合評価点80点以上の者
 4. 課外活動(学友会、クラブ、クラス活動等)においてよくその職責もしくは活動を遂行した者
- 2 前項第2号該当者の中で、GPA88点以上の者、もしくは学外活動(ボランティア活動を含む)で実績をあげた者、またはA評価40科目以上を取得した者については、その他の各号に該当しない場合でも、表彰選考対象者に加えるものとする。

(表彰の方法)

第5条 表彰は、表彰状、記章、記念品等によって行う。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

こども学科長顕賞規程

(目的)

第1条 この規程は学則第51条に規定する褒賞のうち、こども学科の学生について、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育目標に沿い、幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ(保育所・福祉施設)、および保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの4種実習のうち履修した3種実習以上について、80点以上の者の顕賞について定めることを目的とします。

(顕賞の実施)

第2条 顕賞は各年度、学部長の立会いのもとに、実習反省会実施時にこども学科長がこれを行います。

(顕賞者の決定)

第3条 顕賞者の決定は、こども学科会議で確認の上、学部長及び学長の承認のもとにこども学科長が決定します。

(顕賞の方法)

第4条 顕賞は、表彰状と図書カード(5千円)をもって顕賞者に授与するものとします。

附 則

1. この規程は、平成30年10月1日から施行します。
2. この規程は、こども学科の所管とします。

2019年度 福祉学部こども学科「授業計画」目次 【1年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
本学の教育	桜田 葉子	1			1	1			33
文章表現	佐藤 晴雄	4		4		4			35
情報機器操作Ⅰ	桑木 道子	2①	2	2①	2	2①	2	①入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。	39
情報機器操作Ⅱ	桑木 道子		2		2		2		42
生活教養	渡辺 雅子	4			4	4			45
美術演習	古畑 雅規		2		2		2		50
音楽演習	長尾 順一郎		2		2		2		52
文学演習	中野 真樹		2		2		2		55
英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	ハリマン・ティビッド	2②	2	2②	2	2②	2	②入学時の能力検定により履修レベルを決定する。Ⅰの履修者はⅡまでを、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。	58
英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	オカンボ・メリッサ・プラザ		2		2		2		61
国際理解論	坂本 恒夫		2		2		2		65
国際理解演習	中丸 一志		2		2		2		68
体育講義	島田 貴広	1		1		1		11月下旬より 8コマ	70
体育実技 バレーボール	島田 貴広	1 単位 必修		1 単位 必修		1 単位 必修			72
体育実技 バドミントン	島田 貴広							75	
体育実技 レクリエーションスポーツ	金野 麻衣							78	
体育実技 バスケットボール	入澤 裕樹							81	
体育実技 卓球	入澤 裕樹							84	
保育者論	長島 輝子	2		2		2			87
保育原理	山崎 信政	2		2		2			90
社会的養護Ⅰ	八木 孝憲	2		2		2			93
社会福祉	北本 明日香	2		2		2			96
子ども家庭福祉	今 清孝		2		2	2			99
発達心理学	梅宮 れいか	4		4		4			102
子どもの保健	湯田 厚子	2			2	2			106
保育・教育課程論	渡辺 博志	2		2		2			109
音楽	長尾 順一郎	2		2		2			112
図画工作	古畑 雅規	2		2		2		1/2クラスで実施	115
保育内容総論	鈴木 智子	2		2		2			118
ピアノ演習Ⅰ	山崎 信政	2 単位 必修	2	2 単位 必修	2	2 単位 必修	2		123
ピアノ演習Ⅰ	ミハウ・ソブコヴィアク		2		2		2	126	
器楽演習	長尾 順一郎		2		2		2	130	
パリダソルックと パリ島幼稚園交流	佐藤 敦子		2		2		2		134

2019年度 福祉学部子ども学科「授業計画」目次 【2年次生】

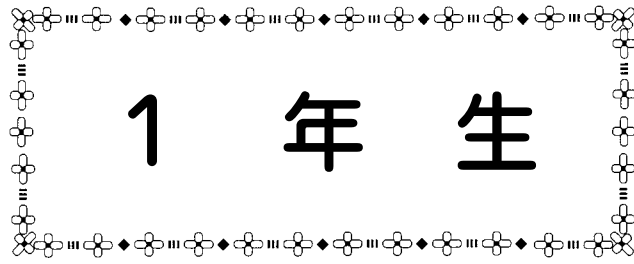
授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
会話演習	藤間 久子	2			2	2		1/2クラスで2コマ実施	137
情報機器操作Ⅱ(中級レベル)	酒井 創		2		2		2	1年次、情報Ⅰの履修者は必修	140
食彩演習	橋本 ヨシイ		1		1		1		144
日本国憲法	新村 繁文		2	2			2		147
英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	オカンボ・メリッサ・ブラザ	2 単位 必修	2		2	2 単位 必修	2	1年次にⅠの履修者はⅡまでを、 1年次Ⅱの履修者は、英書リー ディングまでの計4単位必修とす る。	150
英書リーディング	高橋了治		2		2		2		158
体育実技Ⅱ バレーボール	島田 貴広		1		1		1		162
体育実技Ⅱ バドミントン	島田 貴広		1		1		1		165
教育原理	関本 仁	2		2		2			168
相談援助	八木 孝憲		1		1		1		171
教育心理学	田辺 稔	1		1		1			173
子どもの保健Ⅱ	湯田 厚子		1		1		1	1/2クラスで実施	176
子どもの食と栄養	田村 佳奈美		2		2		2		179
家庭支援論	高橋 雄二		2		2		2		183
社会的養護内容	板垣 健太郎		1		1		1		186
保育相談支援	今 清孝		1		1		1		188
乳児保育	永澤 孝子		2		2		2		191
体育	島田 貴広	2		2		2			196
保育内容指導法 環境	杉浦 広幸	2		2		2			199
保育内容指導法 言葉	中野 真樹	2		2		2			203
保育内容指導法 表現Ⅰ	鈴木 美樹	2		2		2		1/2クラスで実施	207
認定子ども園基本実習	長久保 和子		1		1		1	実習時期9月・2月	211
保育実習指導Ⅰ	今 清孝 鈴木 翔太		2		2		2	2年間継続履修 授業回数 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回	213
パリダソックスと パリ島幼稚園交流	佐藤 敦子		2		2		2		134

2019年度 福祉学部子ども学科「授業計画」目次 【3年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
音楽演習	長尾 順一郎		2		2		2		217
教育行政	阿内 春生		2	2			2	前期集中講義（9月）	221
臨床心理学	佐藤 佑貴	2			2		2		224
心理査定法	渡邊 宏周		2		2		2		227
カウンセリング概論	杉山 雅彦		2		2		2		230
カウンセリング演習	杉山 雅彦		2		2		2		233
幼児理解の理論と方法	佐藤 佑貴		2	2			2		236
教育方法及び技術	佐藤 博英 清水 英典		2	2			2	オムニバス 佐藤 1コマ（前半） 清水 4コマ（後半）	239
障害児保育	北村 壽秋		2		2	2			242
教育相談	佐藤 佑貴		2	2			2		246
国語	中野 真樹		2	2			2		249
算数	佐藤 博英		2	2			2		252
保育内容指導法 健康	藤本 要	2		2		2			255
保育内容指導法 人間関係	鈴木 智子	2		2		2			259
保育内容指導法 表現Ⅱ	鈴木 裕美子		2	2			2		265
創作ミュージカル	佐藤 敦子	2			2	2			353
保育実習指導Ⅰ	今 清孝 鈴木 翔太		2		2	2		2年間継続履修 授業回数 2年前期：2回 2年後期：8回 3年前期：15回 3年後期：5回	213
保育実習Ⅰ	今 清孝 鈴木 翔太		4		4	4		実習時期7月～8月	269
幼稚園教育実習	長久保 和子 長島 輝子		5	5			5	2年間継続履修 事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回	271
保育実習指導Ⅱ	今 清孝 鈴木 翔太		1		1		1 単 位 必 修	2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	274
保育実習指導Ⅲ	鈴木 翔太		1		1			2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	277
ゼミナール	田辺 稔	4		4		4		2年間継続履修	279
ゼミナール	長尾 順一郎	4		4		4		2年間継続履修	284
ゼミナール	渡辺 博志	4		4		4		2年間継続履修	290
ゼミナール	鈴木 美樹	4		4		4		2年間継続履修	296
ゼミナール	今 清孝	4		4		4		2年間継続履修	303
ゼミナール	佐藤 佑貴	4		4		4		2年間継続履修	310
ゼミナール	島田 貴広	4		4		4		2年間継続履修	315
ゼミナール	八木 孝憲	4		4		4		2年間継続履修	320
ゼミナール	山崎 信政	4		4		4		2年間継続履修	324

2019年度 福祉学部子ども学科「授業計画」目次 【4年次生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭 一種		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
地域福祉論	日下 輝美		2		2		2		329
発達障害	星野 仁彦		2		2		2		333
子育て支援政策	桜田 葉子		2		2		2		335
保護者対応事例研究	山崎 信政		1		1		1		338
保育・幼稚園教職実践演習	渡辺 博志		2	2			2		340
保育実習Ⅱ	今 清孝 鈴木 翔太		2		2	2 単位 必修		実習時期7月～8月	343
保育実習Ⅲ	鈴木 翔太		2		2			実習時期7月～8月	345
教育内容指導法 国語	渡辺 博志		2		2		2		347
教育内容指導法 算数	佐藤 博英		2		2		2		350
創作ミュージカル	佐藤 敦子	2			2		2		353
特別研究Ⅰ	橋本 ヨシイ		1		1		1	お菓子作り・パン作り	356
特別研究Ⅱ	菅田 清正		1		1		1	園行事等映像制作	359
幼稚園教育実習	長久保 和子 長島 輝子		5	5			5	2年間継続履修 事前・事後指導1単位を含む 授業回数 3年後期：7回 4年前期：10回 4年後期：3回	271
保育実習指導Ⅱ	今 清孝 鈴木 翔太		1		1	1 単位 必修		2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	274
保育実習指導Ⅲ	高橋 雄二		1		1			2年間継続履修 授業回数 3年後期：5回 4年前期：8回 4年後期：2回	277
ゼミナール	田辺 稔	4		4			4	2年間継続履修	279
ゼミナール	長尾 順一郎	4		4			4	2年間継続履修	284
ゼミナール	渡辺 博志	4		4			4	2年間継続履修	290
ゼミナール	鈴木 美樹	4		4			4	2年間継続履修	296
ゼミナール	今 清孝	4		4			4	2年間継続履修	303
ゼミナール	佐藤 佑貴	4		4			4	2年間継続履修	310
ゼミナール	島田 貴広	4		4			4	2年間継続履修	315
ゼミナール	八木 孝憲	4		4			4	2年間継続履修	320
ゼミナール	山崎 信政	4		4			4	2年間継続履修	324



1 年 生

授業科目名	本学の教育		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：桜田葉子		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県議会議員・平成15年～平成29年			
社会貢献としての委員会・職等	聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学声楽学科卒業（芸術学士）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。 オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 建学の精神「真心こそすべてのすべて」の理念と本学の教育が目指す姿を学ぶことによって、感性豊かな心を育み、大学生活の充実につなげる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。	目標	D・F・H		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション（授業の進め方、評価方法等） ①大学とは何か ②本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ③まごころの実践	「本学の教育」 「学生生活ガイドブック」 パワーポイント及び映像 利用 ※スーツ着用指定	「本学の教育」の「建学の精神」「教育の理念」を読んでおく。
2	本学の教育(1) ～魅力ある授業を目指して～ ①アクティブラーニング授業の実施 ②学生受講規程の説明と学生の授業改善意見 ③シラバスと成績評価の方法 ④本学のGPAとその活用（進級・留年・卒業判定への活用及び学生の表彰制度） ⑤本学の文章表現及び会話表現教育	「本学の教育」 「学生生活ガイドブック」 ※スーツ着用指定	「本学の教育」「学生生活ガイドブック」の諸規程集の「学則」「履修規程」「学生受講規程」を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	校歌の練習 第一校歌と第二校歌	「本学の教育」 「学生生活ガイドブック」 校歌歌詞映像利用	「本学の教育」の「校歌」のページを読み、歌詞を事前に見ておく。CDを聴き、自分で校歌を口ずさみ予習しておく。
4	本学の教育(2) あいさつ ～まごころの始まり～ ①大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ②学生らしい服装(学友会有志をモデルに) ③学習スタイルの構築 ④学生のボランティア活動、社会貢献活動	「本学の教育」 「学生生活ガイドブック」	レポートの構想を練る。
5	本学の教育(3) 大学での生活	「本学の教育」 「学生生活ガイドブック」	「学生生活ガイドブック」を復習する。
6	先輩からのアドバイス 卒業生のアドバイス	卒業生の話(ビデオレターを含む)	レポート作成を始める。(レポート提出は6月7日まで)
7	第一校歌を斉唱 教員からのアドバイス	「本学の教育」 資料配布 ※スーツ着用指定	
8	第二校歌を斉唱 レポート発表 ①学生のプレゼンテーション ②レポート総評	「本学の教育」 ※スーツ着用指定	
期末試験	なし(レポート提出)		
【期末試験の講評】 レポートの評価は、コメントを付して返却します。			
【授業の到達目標に不応する到達度の評価(評価方法・基準)】 目標D・F・Hについてレポートにより100点満点で評価します。 レポート(1,000字以上1,200字以内)は、次のいずれかのテーマで作成し、6月7日(金)13:00までに教務課(駅前キャンパスは5階事務室)へ所定様式にて提出のこと。なお、誤字・脱字の多いもの、文章不整なもの及び内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求めます。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とします。 <レポートのテーマ> 2つのうちのいずれかを選択 ①私の夢 ②私のキャリアデザイン			
【教科書】 「本学の教育」「学生生活ガイドブック」 ※入学時配布されたものを使用します。また、必要に応じて資料を配布します。			
【その他補足事項】 授業はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行い、出欠確認をスムーズに行うため座席指定とします。 授業8回の3分の1を超える回数を欠席した場合は欠格となります。遅刻・早退は3回で1回の欠席となります。2コマ連続授業ですので注意してください。			

授業科目名	文章表現		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤晴雄		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島民報社論説委員（平成7年4月～平成27年3月、このうち平成19年6月～平成21年3月まで論説委員長）。編集局長、編集主幹も歴任			
社会貢献としての委員会・職等	中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員（平成20年～平成26年）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学文学部卒業 文学士 日本マス・コミュニケーション学会、日本ビジネス実務学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 社会人として求められる文章作成の基本を身に付けるための講義と演習を展開します。 前期は、プリントを使ったトレーニング、日本語検定受検対策、日本語検定模擬試験、小論文を通して文章作成の基本を身に付けます。 日本語検定は、日本語の総合的な運用能力を見る試験です。この授業では、3級（高校卒業レベル）に合格した後、2級（大学卒業レベル）合格を目指します。 後期は、実際に広報紙を作ります。テーマを提示しますから、グループで取材、記事作成、割り付けを実践し、人に伝えるための文章力を身に付けてください。授業外で取材することもあります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
① 社会人として通用する文章表現力を習得します。		目標	C・D	
② グループ活動によって、問題設定から取材、執筆、割り付けまで一連の作業を通して、文章力を磨き上げます。		目標	C・D・I	
③ 日本語検定を受検し、3級に合格した後、2級合格を目指します。		目標	C・D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法 (3) 日本語検定試験（19回目まで毎回、授業の終わりに問題を配布します。自宅で予習として、その問題を解いてもらい、次回授業の冒頭に答え合わせと解説をします） (4) 日本語検定（3級）の過去問題を実際に解いてみる。 (5) 教科書予習の解説	授業計画 ワークシートに平仮名、片仮名を書き提出する。	日本語検定問題を解く。 教科書予習（12P～22P）

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	文章表現力(1) 文は短く書く (10回目まで毎回、不適切な表現を記入したプリントを配布します。直して解答してもらった後、解説します)	ワークシートを返却。 日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	平仮名、片仮名の正しい書き方を復習。 日本語検定問題を解く。 教科書予習 (24P～42P)
3	文章表現力(2) 主語と述語、能動と受動	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (43P～69P)
4	文章表現力(3) 「に」「を」を正しく	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (70P～83P)
5	文章表現力(4) 話し言葉を避ける	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (86P～107P)
6	文章表現力(5) 分かりやすく書く	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (108P～124P)
7	日本語検定の模擬試験 (60分) 文章表現力(6) 「これ」「それ」に注意	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (125P～136P)
8	文章表現力(7) 「ことで」でつながない	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (138P～156P)
9	文章表現力(8) 簡潔に書く	日本語検定模擬試験の返却と解説。 日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定の返却模擬試験を復習。 日本語検定問題を解く。 教科書予習 (157P～206P)
10	文章表現力(9) 余分な「つなぎ語」は削る、句読点、かっこの正しい使い方	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
11	日本語検定過去問題 トレーニング1 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受検の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
12	日本語検定過去問題 トレーニング2 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受検の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
13	日本語検定過去問題 トレーニング3 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受検の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
14	広報紙作りの基本(1) (新聞を活用しながら、広報作りの基本となる作業を解説します。自宅などで新聞や広報紙などに目を通して理解を深めてもらいます) グループ分け テーマ一覧から問題設定へ	日本語検定問題を解答。 新聞	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	広報紙作りの基本(2) テーマの設定、取材の仕方、写真の効果的な利用、夏の取材計画	日本語検定問題を解答。 新聞 夏休み時の取材計画の策定など	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
期末試験	小論文 (600～800字)		
16	広報紙作りの具体化(1) 作業過程の理解、割り付けソフト「パーソナル編集長」の使い方 *ゲストスピーカー 梅宮れいか教授	小論文の返却。 日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	返却小論文を復習。 日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
17	広報紙作りの具体化(2) 広報紙は、署名記事で作ります。 各自が署名記事を執筆し、それを割り付けて紙面とします。17回から28回までに3回の発行を目指してください。発行回数に応じて、そのグループの加点とします。 優秀な記事には、別に加点します。	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
18	広報紙作りの具体化(3)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。 記事の執筆。
19	広報紙作りの具体化(4)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。 記事の執筆。
20	広報紙作りの具体化(5)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
21	広報紙作りの具体化(6)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
22	広報紙作りの具体化(7)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
23	広報紙作りの具体化(8)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
24	広報紙作りの具体化(9)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
25	広報紙作りの具体化(10)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
26	広報紙作りの具体化(11)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
27	広報紙作りの具体化(12)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
28	広報紙作りの具体化(13)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	広報紙作り発表会の準備 感想発表や反省の準備	新聞 グループワーク	新聞を読む。 発表会の準備。
30	広報紙作り発表会 感想発表や反省 *ゲスト 学内評価協力者	発表会 講評	広報紙作りを総括。
期末試験	小論文 (600~800字、広報紙作りを振り返り、まとめる)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーなどを通じて説明します。			
【授業の到達目標に不応する到達度の評価(評価方法・基準)】 目標①：授業中の返答(10点)、授業中の日本語試験(15点)、前期小論文(15点)、後期小論文(15点) 55点満点 目標②：グループ活動による広報紙作り(1回10点)、特に優れた記事(1回15点) 目標③：日本語検定の合格級に応じて点数を加算 加点内容(準3級5点、3級8点、準2級20点、2級30点) 30点満点 以上を合計して100点を上回る場合は、一律100点として評価します。 詳しくは初回授業時に説明します。			
【教科書】 書名：文章力の基本 著者名：阿部紘久 発行所：日本実業出版社 価格：1,300円(税別) 書名：日本語検定公式練習問題集3訂版 3級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：900円(税別)		【参考書】 書名：日本語検定公式練習問題集3訂版 2級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：1,000円(税別) 各自購入	
【その他補足事項】 前期・後期の小論文は、内容と正しい表現の両面から評価します。 記事の優秀者加点は、授業担当者と学内評価協力者2人の合計点(5点×3=15点)で構成します。 日本語検定の受検料は、大学が1回目を負担します。2回目は、合格者に受検料と同じ額を支給します。日本語検定の受検日は、1回目6月8日(土)、2回目11月9日(土)です。授業の開講キャンパスでの実施です。病気・けが、家族の事情など、やむを得ない事情で2回とも受検できなかった場合は、追試(本学独自)で加点採点をします。			

授業科目名	情報機器操作Ⅰ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：桑木道子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるICT（情報通信技術）活用に必要な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目です。コンピュータ利用経験の少ない受講者を対象に、本科目と後期の「情報機器操作Ⅱ」を併せて以上の内容を実施します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
(1) 後期に履修する「情報機器操作Ⅱ」において実践的な技術・知識の演習を実施するためのベースができる。			目標	A・B
(2) パーソナルコンピュータの基本操作とタイピング操作、日本語入力操作を習得することができる。			目標	A・B
(3) 具体的な「道具（ソフト）」として、ワープロ機能の実践的な利用技術と知識を習得することができる。			目標	A・B・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 実習環境の実際とその理解 タイピング練習ソフトの配布と練習方法の説明 正しいタイピング練習の理解と実践 	シラバス、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：シラバス内容の確認
2	タイピング練習とキーボード操作の確認 <ul style="list-style-type: none"> 正しいタイピング練習の理解と実践 キーボード操作確認 OS (Windows) 操作の基本理解 <ul style="list-style-type: none"> ファイル、フォルダ管理の基本 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3 テキストUnit 2	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 事前理解：テキスト内容 課題：Exe. 1
3	タイピング練習 日本語入力と文書作成 <ul style="list-style-type: none"> 日本語入力システムの確認 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 事前理解：テキスト内容
4	タイピング練習 図形ツール操作演習(1) <ul style="list-style-type: none"> Word文書上での図形ツールの操作 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 事前理解：テキスト内容
5	タイピング練習 図形ツール操作演習(2) <ul style="list-style-type: none"> Word文書上での図形ツールの操作 	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 事前理解：テキスト内容 課題：Exe. 1
6	図形ツールの活用 1 <ul style="list-style-type: none"> 図形操作の確認 案内図を作る 	テキストUnit 3 Exercise 1 (Word)	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
7	図形ツールの活用 2 <ul style="list-style-type: none"> イラストを作る① Word文書上での図形ツール 	テキストUnit 3 Exercise 1	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習
8	図形ツールの活用 3 <ul style="list-style-type: none"> イラストを作る② Word文書上での図形ツール 	テキストUnit 3 Exercise 2	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習
9	図形ツールの活用 4 <ul style="list-style-type: none"> イラストを作る③ Word文書上での図形ツール 	テキストUnit 3 Exercise 3	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習
10	図形ツールの活用 5 <ul style="list-style-type: none"> イラストを作る④ Word文書上での図形ツール 	テキストUnit 3 Let's Try	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 「イラスト集」課題
11	図形ツールの活用 6 <ul style="list-style-type: none"> PowerPointスライド上での図形ツール 	テキストUnit 3 総合課題	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習
12	実践ワープロソフト Word演習 1 - 1 <ul style="list-style-type: none"> 日本語入力とワープロ基本機能の確認 長文入力「保育を学ぼう①(本文)」 	テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業外課題
13	実践ワープロソフト Word演習 1 - 2 <ul style="list-style-type: none"> さまざまな「書式設定」の理解 簡単なお便りの作成 	テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習 Exercise復習 授業外課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	実践ワープロソフト Word演習1-3 ・Word文書上での「図形」「画像」配置	テキストUnit 4	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題
15	Word総合演習 ・これまでの授業課題のまとめ	総合演習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのExercise内容の理解と復習
期末試験	Word総合演習課題(実技試験)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・C：期末試験 60% ・Word文書作成課題 目標A・B・C：提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外での提出課題 目標A・B・C：授業参加状況 10% ・評価基準により採点(初回授業時に説明) 詳細は、初回授業時に説明します。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円(税別)		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入(0冊) 2 本人購入(1冊)	
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、テキストに従い、課題を進める授業形態となります。授業内外において積極的な態度で受講することを希望します。 ・授業内容については、演習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合があります。 ・演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備してください。詳細はオリエンテーション時に説明します。 			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：桑木道子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 現代の情報ネットワーク社会を支えるICT（情報通信技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目です。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
(1) 今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの修得を目標とする。			目標	A・B・C
(2) 自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を養成する。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解 ・MS Officeアプリケーション操作の確認 ・タイピングスキルと「正しいタイピング」の理解と実践	シラバス、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：シラバス内容の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	MS Officeでの図形ツール活用演習(1) ・「Word」「PowerPoint」での図形ツール活用	テキストUnit 3	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・各種イラスト作成課題
3	MS Officeでの図形ツール活用演習(2) ・PowerPointスライド上での図形ツール活用 ・「イラスト集」の作成		・タイピング練習 ・Exercise復習 ・各種イラスト作成課題
4	実践ワープロソフト Word演習 1 ・文書成形機能の確認 ・簡単な文書の作成と再利用	テキストUnit 4	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題
5	実践ワープロソフト Word演習 2 - 1 ビジュアルツールの活用 ・図形、画像、表などの理解	テキストUnit 5	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう①」
6	実践ワープロソフト Word演習 2 - 2 ・イラストの入った案内カードの作成 ・表を組み込んだ文書の作成	テキストUnit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう②」
7	実践ワープロソフト Word演習 2 - 3 ・やや複雑なレイアウト文書の作成	テキストUnit 6	・タイピング練習 ・Exercise復習 ・授業復習課題
8	実践プレゼンテーション PowerPoint演習 ・「スライドショー」実行の基本 ・「SmartArt」の使い方 ・「アニメーション」の基本	テキストPart 4	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
9	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 1 (作表とかんたんな計算) ・表計算ソフトの基本機能確認 ・「クラス表」(グラフ作成含む)	テキストUnit 7	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう③」
10	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 2 (作表とかんたんな計算) ・「年間カレンダー」の作成	テキストUnit 7	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
11	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 1 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳様式」の作成	テキストUnit 8	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう④」
12	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 2 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳」の作成、更新と検索・集計の実際	テキストUnit 8	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
13	実践表計算ソフト Excel演習 3 - 1 (グラフと計算式の活用) ・「身体計測記録表」と「身体計測記録台帳」の作成	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習 ・授業外課題 「保育を学ぼう⑤」
14	実践表計算ソフト Excel演習 3 - 2 ・「身体計測記録台帳」を活用したグラフ作成の実際と簡単なデータ分析	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	実践表計算ソフト Excel演習3-3 <ul style="list-style-type: none"> 「行事写真購入申し込み管理表」「健康診査表」による、場面に応じた活用方法の理解 期末試験(総合演習)の説明 	テキストUnit 9	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解:テキスト内容 Exercise復習 授業外課題「保育を学ぼう⑥⑦」
期末試験	Word/Excel総合演習課題(実技試験) <ul style="list-style-type: none"> これまでの知識とスキルを活用する 		<ul style="list-style-type: none"> Word、ExcelのExercise内容の理解と復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・C・K:期末試験 60% • Word総合課題、Excel総合課題 目標A・B・C・K:提出課題 30% • 授業時作成および授業時間外での提出課題 目標A・B・C・K:授業参加状況 10% • 評価基準により採点(初回授業時に説明) 詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名:保育者のためのパソコン講座 著者名:阿部正平 他 発行所:萌文書林 価格:2,000円(税別)		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入(0冊) 2 本人購入(1冊)	
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> 基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となります。授業内外において、積極的な態度で受講することを希望します。 授業内容については、実習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合があります。 演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備してください。詳細はオリエンテーション時に説明します。 			

授業科目名	生活教養		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：渡辺雅子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島女子短期大学（現福島学院大学）事務局研修担当 （平成元年4月～平成6年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	伊達市子ども・子育て会議委員、伊達市学校施設活用審議会委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島女子短期大学（現福島学院大学短期大学部）準学士 日本保育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは前期と後期の最初の授業時に説明します。			

【授業の概要】 学外実習にあたって、就職してからも、現代社会では、コミュニケーション能力が求められています。そのコミュニケーション能力の基本の一つに「マナー」があげられます。 本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な人間関係を円滑に図るため基本的なマナー（言葉遣いのマナー、訪問のマナー、応対のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得していきます。 授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて、演習や実践を通して学んでいきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）			
社会人としての基本マナー（言葉遣い・訪問・応対・電話等のマナー）を身に付ける。	目標	A・B・L		
冠婚葬祭お付き合いのマナーの基礎知識を修得する。	目標	A		
会食のマナー（食作法）について、実践を通して身に付ける。	目標	A・B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業概要と到達目標、授業内容（学外授業を含む）、評価、その他 あなたのマナー好感度はどれくらい？ 訪問のマナー(1) 訪問前の準備、手土産について	授業計画 教科書・配布資料・スライド DVD「五節句」「長寿の祝い」各5分	授業計画 教科書P32～37、160、164～165、171を見ておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) 玄関先でのマナー、席次のマナー 客間でのマナー①	教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー ①」5分 「和室での作法」7分 「上座・下座」5分	教科書P27～37、44～48、 配布資料を見て、席次の 課題①をまとめる (A 4 判1枚)
3	訪問のマナー(3) 客間でのマナー②、辞去のマナー ◎事例研究①	課題①の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー ②」5分	課題② 実習先に訪問した際の言 葉遣いをまとめる (A 4 判1枚)
4	訪問のマナー(4) ◎事例研究② 茶菓のいただき方 もてなしのマナー	課題②の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「スマートなマナー ③」5分 「煎茶のいれ方」3分 茶菓の出し方の演習	課題③ 訪問のマナー小テストの 準備
5	◆小テスト①：訪問のマナー 電話のマナー(1) 対応のポイント、かけ方(基本編) ◎かけ方の演習①	教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演 習：事例研究	課題④ 実習先に電話をかける際 の言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)
6	電話のマナー(2) かけ方(応用編) ◎かけ方の演習②	課題④の発表・解説 前回実施の小テスト(返 却)・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演 習：事例研究	課題⑤ 就職活動で電話をかける 際の言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)
7	電話のマナー(3) 受け方(基本編) 受け方(応用編)① ◎受け方の演習①	課題⑤の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演 習：事例研究 DVD「家族からの電話」 3分	課題⑥ 職場で電話を受ける際の 言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)
8	電話のマナー(4) 受け方の応用編② ◎受け方の演習② 伝言メモ作成の留意点	課題⑥の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演 習：事例研究 DVD「会社の星：電話」 7分 伝言メモの作成(演習)①	課題⑦ 職場で電話を受ける際の 言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)
9	電話のマナー(5) 受け方の応用編③ ◎受け方の演習③	課題⑦の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 電話機を使用しての演 習：事例研究 伝言メモの作成(演習)②	課題⑧ 伝言メモ(3種類)の作 成、清書 課題⑨ 電話のマナー小テストの 準備
10	◆小テスト②：電話のマナー 対応のマナー(1) 来客対応の心構え お迎え(基本編) 名刺の受け渡し	課題⑧の発表(実物投影 機)・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「会社の星：名刺」 5分 名刺と名刺入れを使用し ての演習(二人一組)	課題⑩ 職場でお客様を迎える際 の言葉遣いをまとめる (A 4判1枚)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	<p>対応のマナー(2)</p> <p>お迎え (応用編)</p> <p>取次ぎ</p> <p>案内</p> <p>見送り</p>	<p>前回実施の小テスト (返却)・解説</p> <p>課題⑩の発表・解説</p> <p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>事例研究 (アポイントメントがないケース他)</p> <p>DVD「案内の仕方」3分</p>	<p>課題⑩</p> <p>教科書P128～134を見て今まで経験した中で、食事の仕方の質問事項をまとめておく (A4判1枚)</p>
12	<p>会食のマナー：西洋料理(1)</p> <p>メニュー、テーブルセッティング、レストランでの基本マナー、会食時の話題</p> <p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(1)</p>	<p>課題⑪の発表・解説</p> <p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>ナプキン、カトラリー、洋食器等を使用しての演習</p>	<p>課題⑫</p> <p>テーブルマナー演習事前レポートの準備 (A4判1枚)</p>
13	<p>会食のマナー：西洋料理(2)</p> <p>食べ方の基本マナー①</p> <p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(2)</p>	<p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>ナプキン、カトラリー、洋食器等を使用しての演習</p> <p>DVD「スマートな食べ方の流儀①②」10分 (5分×2項目)</p>	<p>課題⑫</p> <p>テーブルマナー演習事前レポートの作成 (A4判1枚)</p>
14	<p>会食のマナー：西洋料理(3)</p> <p>食べ方の基本マナー②</p> <p>グラスの扱い方・乾杯のマナー</p> <p>難しい料理の食べ方 (応用編)</p> <p>西洋料理における酒の知識</p> <p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導(3)</p>	<p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>ナプキン、カトラリー、洋食器、グラス等を使用しての演習</p> <p>DVD「スマートな食べ方の流儀③④」10分 (5分×2項目)</p>	<p>課題⑬</p> <p>ナプキン・カトラリーの使い方を日常生活で実践する</p> <p>課題⑭</p> <p>教科書P50～68を見て言葉遣いのプリントをまとめておく</p>
15	<p>◆学外授業「テーブルマナー演習」実施</p> <p>①特別講義「現代の結婚式事情」30分</p> <p>②西洋料理テーブルマナー演習 90分</p>	<p>西洋料理テーブルマナーの実践</p> <p>*予定</p> <p>8月31日(土)</p> <p>11:00～13:00</p> <p>ウエディングエルティ</p>	<p>課題⑮</p> <p>テーブルマナー演習事後レポートの作成 (A4判2枚)</p>
16	<p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事後指導</p> <p>言葉遣いと人間関係のマナー</p> <p>社会生活での言葉のルール</p> <p>前期のまとめ・前期末試験の説明</p>	<p>課題⑭の発表・解説</p> <p>教科書・配布資料・スライド</p>	<p>前期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認</p>
期末試験	<p>前期末試験 (中間試験)</p>	<p>筆記試験</p>	<p>前期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認</p>
17	<p>前期末試験の解説</p> <p>会食のマナー：日本料理(1)</p> <p>日本文化としての箸のマナー</p>	<p>課題⑫⑮の提出</p> <p>前期末試験返却・解説</p> <p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>DVD「箸のマナー」20分</p> <p>箸・椀を使用しての演習</p>	<p>課題⑯</p> <p>カイセキ料理(会席料理・懐石料理)について調べておく (A4判1枚)</p>
18	<p>会食のマナー：日本料理(2)</p> <p>日本料理の流れ (種類)</p> <p>食べ方の基本マナー</p> <p>日本酒の基礎知識</p>	<p>課題⑯の発表・解説</p> <p>教科書・配布資料・スライド</p> <p>DVD「会席と懐石」7分</p> <p>「土瓶蒸しの食べ方」3分</p> <p>箸・椀・和食器等を使用しての演習</p>	<p>課題⑰</p> <p>中国料理 (4大料理)について調べておく (A4判1枚)</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	会食のマナー：中国料理(1) 中国料理の種類 中国料理の基礎知識	課題⑰の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「高級中国料理を学ぶ」 30分(10分×3回) 箸・レンゲ・中国食器等 を使用しての演習	課題⑱ 中国料理(飲茶)について調べておく(A4判1枚)
20	会食のマナー：中国料理(2) 食べ方の基本マナー 中国茶・中国酒の基礎知識	課題⑱の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「中国茶」7分 箸・レンゲ・中国食器等 を使用しての演習	課題⑲ バイキングとビュッフェについて調べておく(A4判1枚) 課題⑳ 会食のマナー小テストの準備
21	会食のマナー：パーティーのマナー パーティーの基礎知識 立食パーティーのマナー 服装のマナー ◆小テスト③：会食のマナー(総合問題)	課題⑲の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「会食マナー①」7分 皿・グラス・カトラリー等 を使用しての演習 グループワーク(ディスカッション) DVD「会食マナー②」10分	課題㉑ 学外授業時の資料を参考に挙式のスタイルをまとめておく(A4判1枚)
22	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(1) 招待状の返信・お祝い電報 祝品	前回実施の小テスト(返却)・解説 課題㉑の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 返信用ハガキの書き方(演習) DVD「六曜」7分	課題㉒ お祝い電報を作ってみる(電文・台紙の選択・金額の算出)
23	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(2) 祝金・かけ紙と祝儀袋の表書き	課題㉒の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「ウエディングマナー①」10分 祝儀袋の表書きの演習	課題㉓ 表書きを筆ペンで書いてみる
24	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー(3) 服装と当日のマナー	課題㉓の発表(実物投影機)・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「ウエディングマナー②」10分 袱紗と祝儀袋を使用しての演習	課題㉔ 授業で視聴したDVDの披露宴受付時のパッドマナーについてまとめておく
25	冠婚葬祭お付き合いのマナー 人生の祝い事(赤ちゃん・子どもの祝い事) 帯祝から十三参りまで	課題㉔の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「七五三の由来」3分 「内祝い」7分	課題㉕ 五節句・二十四節気・雑節について調べておく(A4判1枚)
26	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	課題㉕の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「お正月の過ごし方」 30分(15分×2回)	課題㉖ 自分の誕生月の行事を一つ取り上げ由来や祝い方等をまとめておく(A4判1枚)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(2) 1月から6月までの行事	課題②⑥の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「節分」10分 「ひな祭り」8分 「端午の節句」4分	課題②⑦ 自分が通っていた幼稚園・保育所等で行われた行事をまとめておく(A4判1枚)
28	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(3) 7月から12月までの行事	課題②⑦の発表・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「七夕の祝い」6分 「8・9月の行事」各8分 「クリスマスって何?」5分	課題②⑧ お悔やみ電報を作ってみる(電文・台紙の選択・金額の算出)
29	冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー(1) 葬式のスタイル、葬式の手順、お悔やみ電報、供物・供花、弔慰金、不祝儀袋の表書き	課題②⑧の発表・解説 教科書・配布資料・スライド 不祝儀袋の表書きの演習	課題②⑨ 表書きを薄墨の筆ペンで書いてみる
30	冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー(2) 服装のマナー 通夜・告別式への参列のマナー 後期のまとめ	課題②⑨の発表(実物投影機)・解説 教科書・配布資料・スライド DVD「お香典・お焼香 悩み解決」12分 焼香・玉串奉奠・献花の演習 袱紗と不祝儀袋を使用しての演習	後期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認
期末試験	後期末試験	筆記試験	後期末試験に向けて、教科書・配布資料等、既修内容を再確認
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・L：前期末試験(筆記試験)30% 目標A・B：後期末試験(筆記試験)30% 目標A・B：テーブルマナー演習(事前レポート5%・事後レポート15%)20% 目標A：前期小テスト(2回×5%)10% 目標A・L：後期小テスト(1回：グループごとに実施)10% *その他、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。			
【教科書】 書名：新生活教養 —— 社会人としての基本マナー —— 著者名：近喰晴子・三村善美 他 発行所：建帛社 価格：2,000円(税別) ※授業内容に応じて参考資料を配布します。		【参考書】 特に指定しません。	
【その他補足事項】 1. 配布資料を整理するための専用ファイル(A4判)を1冊準備してください。 2. 学外授業など、指定された場合にはスーツを着用してください。 3. 学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合があります。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出てください。(申し出がない場合は出席扱いとはしないので注意してください) 5. 学外授業「テーブルマナー演習」は、こども学科と保育学科、2学科合同で実施します。 *8月31日(土)11:00~13:00ウエディングエルティにて実施予定です。必ず出席してください。 6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,200円の実費を徴収します。その他の経費は大学で補助します。			

授業科目名	美術演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：古畑雅規		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業 芸術学士 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけではなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェなどを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
(1) 作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	A・B		
(2) さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	B・F		
(3) 意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業内容と計画の説明 (1)授業の概要と目標 (2)授業内容と評価方法 (3)本科目の留意点など	
2	動物のオブジェの制作 ～形の成り立ち	板・アルミ箔・樹脂粘土などを使いオブジェを乗せるための土台づくり	制作する対象の資料を用意する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	動物のオブジェの制作 ～骨格のバランス	アルミ箔・樹脂粘土などを使い動物の基礎の形づくり	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
4	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い肉付けする	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
5	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い背景も同時に制作する	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
6	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	樹脂粘土を使い細部に手を加え完成させる	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
7	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アクリル絵具などを使いおおまかに着彩	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
8	動物のオブジェの制作 ～絵具によるグラデーション	アクリル絵具などを使いグラデーションをとり入れて着彩	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
9	動物のオブジェの制作 ～プロポーションとその背景	アクリル絵具などを使い全体のバランスを整え仕上げ。ニスを塗り完成	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
10	「未来の自分」を描く ～アイデアスケッチ	アイデアノート・鉛筆を使いテーマに沿って描くための準備作業	絵本などを閲覧
11	「未来の自分」を描く ～絵画の構図	アイデアノート・鉛筆 ダーマート(黒)を使い水彩紙に下描きをする	絵本などを閲覧
12	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンの使い方を知りながら描く	絵本などを閲覧
13	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンでの着彩の仕上げ	絵本などを閲覧
14	「未来の自分」を描く ～水彩絵具の特性	バックを水彩絵具で着彩して完成	絵本などを閲覧
15	授業のまとめ	作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・F：作品評価 70点(2作品の技術力、表現力など総合で評価) 目標F：授業態度 20点(授業への意欲、質疑応答の内容などで評価) 目標A：期末試験 10点(ペーパー試験)			
【教科書】 教科書は使用しない。 その都度資料を配布する。			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 材料費として2,700円を徴収する。 • 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授業科目名	音楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業は、単純な楽器でも工夫次第で多様な表現ができること、小さな音に耳を澄ますことの大切さを仲間との協働的な活動を通して学びます。 そのために、身近な打楽器やシュタイナーペンタトニックに調律されたカリンバを用いて即興演奏をしたり、いろいろな歌を演奏したりします。カリンバは半完成品をもとに自分たちで調律をします。演奏に慣れてきたら、グループごとに創作した曲や即興的表現を発表します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
音階によって曲の感じが違うことを理解する。		目標	A
カリンバによる表現の多様性に気づき、様々な表現を工夫する。		目標	B・F
仲間と協働してイメージを交換しあいながら表現に取り組む。		目標	G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標、評価方法 ・これまでの音楽体験 ・グループ分け	授業計画 講義 演習：これまでの音楽体験をもとに自己紹介	前期における授業内容の把握

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	身近な打楽器の基本的な奏法(1) ・カスタネットの基本的な奏法と演奏 ・一人の演奏から人数を増やして演奏	講義：カスタネットによる表現の多様性について 演習：複数のカスタネットによる表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
3	身近な打楽器の基本的な奏法(2) ・楽曲に合わせたカスタネットの演奏 ・カスタネットによるアンサンブル ・小テスト①	演習：楽曲に合わせたカスタネット演奏の映像を視聴し、5つのリズムパターンを演奏できるよう練習する。	復習：授業で演奏したリズムパターンを暗譜で演奏できるようにする。
4	身近な打楽器の基本的な奏法(3) ・タンブリンの基本的な奏法と演奏 ・皮面とシンバル部分の叩き分けによる演奏	講義：タンブリンによる表現の多様性について 演習：タンブリンの叩き方の工夫による表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
5	身近な打楽器の基本的な奏法(4) ・トライアングルの構造と基本的奏法 ・音量変化とリズムの変化について工夫する。	講義：トライアングルの構造と基本的奏法について 演習：音の変化を工夫する。	復習：音の変化をつける方法を練習する。
6	身近な打楽器の基本的な奏法(5) ・トライアングルによるアンサンブルを創作する。	講義：カスタネットでの学習を生かしたアンサンブル 演習：グループごとに複数のトライアングルでのアンサンブルを創作する。	予習：グループごとに複数のパートに分けてリズムを考える。
7	身近な打楽器の基本的な奏法(6) ・カスタネット、タンブリン、トライアングルを用いたアンサンブルを楽しむ。 ・グループごとに発表したり録画をしたりしながら批評し合う。 ・タンブリン、トライアングルの基本奏法 ・小テスト② ・レポート提出①	演習：グループごとにテーマを決め、3種類の打楽器によるアンサンブルを創作する。	予習：日常生活を打楽器で表現する構想をもつ。
8	カリンバの演奏(1) ・カリンバ演奏の視聴 ・ふし問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でふし問答を行う。	予習：様々な音の並びを試す。
9	カリンバの演奏(2) ・リズム問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でリズム問答を行う。	予習：様々なリズムパターンを試す。
10	カリンバの演奏(3) ・即興演奏	演習：仲間の演奏を参考にしながら、即興的に演奏を楽しむ。	予習：前時の学習を生かして自由な表現方法を考える。
11	カリンバの演奏(4) ・即興演奏 ・小テスト③	演習：仲間の演奏を参考にしながら、即興的に演奏を楽しむ。	予習：前時の学習を生かして自由な表現方法を考える。
12	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(1) ・グループでの表現の工夫 ・エフェクターの利用	演習：エフェクターを使うとどのように音色や音質を変化するのか試す。	予習：プリント「エフェクターとは」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(2) ・グループでの表現の工夫 ・多重録音の工夫	演習：多重録音による効果を試す。	予習：プリント「多重録音とは」
14	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(3) ・グループでの表現の工夫	演習：グループごとに表現内容や役割分担を決め、練習する。	予習：何を表現するか、役割分担
15	カリンバと身の回りの楽器とのアンサンブル(4) ・グループごとの発表 ・レポート提出②	演習：グループごとに発表しあいそれぞれの発表にコメントする。	復習：前期の活動を振り返る。
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：小テスト30%（3回×10点） 目標B・F：レポート30%（2回×15点） 目標B・G：授業態度40%（授業への積極的な参加態度及び音楽活動への意欲的な取り組み等）			
【教科書】 授業内容に沿ってその都度プリントを準備します。			

授業科目名	文学演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了 文学（博士） 情報保障研究会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育の場に導入される素ばなしや絵本、人形劇には昔話や童話といった児童文学・児童文化財を原作とするものが多くある。さまざまな時代・地域に伝えられた児童文学をとりあげ、普遍的な「物語」の枠組みやその伝承方法について知ることで、作品への理解を深めていく。 また、昔話・童話から素ばなし、絵本、メディアへの翻案の際の原作との相違点に着目し分析し、さまざまな物語への対応力をつけ、児童文学作品をモチーフとした素ばなし、絵本の読み聞かせ、人形劇の演習発表を行うことで保育技術の向上をはかる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
国内外の文学・児童文学の概要を学び、文学史や物語の構成を知る。			目標	A・B
素ばなしや読み聞かせのモチーフとなる児童文学に関する理解を深め、人形劇や素ばなしを行う。			目標	E・F
授業内容をふまえて文学的観点から絵本を解釈し、読み聞かせを行う。			目標	E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業のねらい、進め方の説明	講義資料を用いて文学についての基本的な説明を行った後、授業のねらい・進め方、評価方法、事前準備に関する説明を行う。	予習：授業計画の確認。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育と文学(1) 「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と文学	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・講義資料を用いての説明およびグループディスカッションを行う。	予習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」の項を事前学習する。
3	保育と文学(2) 児童文学・児童文化財	児童が伝承する文化財についてのグループディスカッションを行う。	予習：言葉遊び、替え歌などの児童が伝承する文学・文化財を記録・収集する。
4	児童文学とメディア(1) — 日本のアニメーション・映画 —	アニメーション・映画化された児童文学作品の解説。DVD「かちかち山」視聴(20分)。日本の主要なメディア化された文学作品について比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：日本の主要なメディア化された児童文学作品を調べ、鑑賞する。
5	児童文学とメディア(2) — 海外のアニメーション・映画 —	アニメーション・映画化された児童文学作品の解説。DVD「3匹の子ぶた」視聴(20分)。海外の主要なメディア化された文学作品について比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：海外の主要なメディア化された児童文学作品を調べ、鑑賞する。
6	伝承文学と児童文学(1) — 昔話から素ばなしへ —	伝承文学を採録したビデオ「日本の昔話」視聴(20分)。昔話を題材とした素ばなしの発表。比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：昔話を題材とした素ばなしの発表準備。
7	伝承文学と児童文学(2) — 童話から素ばなしへ —	童話を題材とした素ばなしの発表およびもとなった童話との比較検討のグループディスカッションを行う。	予習：童話を題材とした素ばなしの発表準備。
8	児童文学研究発表(1) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。
9	児童文学研究発表(2) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。
10	児童文学研究発表(3) 発達に応じた絵本の解釈と読み聞かせ	絵本の読み聞かせの演習発表を行う。	予習：指定されたテーマに沿った絵本を選書し、読み聞かせの練習を行う。
11	児童文学研究発表(4) 昔話・童話を原作とした人形劇の制作	昔話・童話をもとに人形劇の脚本を制作するグループワークを行い、そのねらいや工夫を発表する。	予習：指定されたテーマに沿って、人形劇の原作となる昔話・童話を選び、講読する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	児童文学研究発表(5) 昔話・童話を原作とした人形劇の発表	グループごとに制作した人形劇の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに人形劇を練習する。
13	児童文学研究発表(6) 昔話・童話を原作とした人形劇の発表	グループごとに制作した人形劇の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに人形劇を練習する。
14	児童文学研究発表(7) 昔話・童話を原作とした人形劇の発表	グループごとに制作した人形劇の発表を行う。	予習：制作した脚本をもとに人形劇を練習する。
15	児童文学研究発表(8) 講評と授業のまとめ	これまでの演習発表の講評を教員・学生双方から行い、改善点についてグループディスカッションを行う。	予習：これまでの発表内容についてワークシートをまとめる。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・B ： 期末試験 40% 目標 E・F ： 発表内容 40% 目標 A・B・E・F： 授業参加態度（意欲・理解・授業内小課題の到達度）20%			
【教科書】 毎回授業時に講義資料を配布する。			
【その他補足事項】 履修者には文学・児童文学への興味を持ち、予習のため図書館等での読書を習慣づけることを求める。			

授業科目名	英会話 I (ベーシックレベル)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：ハリマン・デイビッド 〔本務先：マーベリック英会話 職名：代表〕	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	株式会社アゴラ（英会話講師 2004年～2015年） マーベリック英会話・代表（2015年～現在）		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	モホーク・カレッジ（カナダ）卒業		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修	
保育士資格	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後、教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 この授業では、英語のスピーキングやリスニングを通して日常生活における基本的な英語表現や英熟語の習熟を図ります。また、外国の文化や習慣やものの考え方にも注目して異文化理解への関心を深め、場に応じた自己表現を英語で行えるように指導します。 また、補助教材としてプリントを用いて、保育現場で使われる語句に触れたり、英語検定試験の対策を行ったりします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
テキストにてでてくる基本的な英単熟語を会話で応用できる。	目標	A	
保育現場で使われる語句を会話で応用できる。	目標	G	
様々な状況を想定しながら英語で簡単な自己表現ができる。	目標	A・I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標（授業内容）、評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画 テキストの使用法	自分なりに英語を学ぶ意義を考えておくこと
2	Unit 1 Family 家族 Responding Positively and Negatively 肯定と否定の返答	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 p.11～14 意味調べ・音読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	Unit 2 Friends 友達 Expressing Frequency 頻度を表す表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 p.11~14 意味調べ・音読
4	Unit 3 Culture 文化 Talking about what should and shouldn't be done 義務と提案の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 2 p.15~18 意味調べ・音読
5	Unit 4 Education 教育 Expressing opinions and making surprising statements 意見の述べ方	テキスト・CD プリント使用	Unit 3 p.19~22 意味調べ・音読
6	Unit 1~4 Review 文法や表現のまとめ Drill for the Practical English Proficiency Test (1) 英語検定試験にむけた対策(1)	テキスト・CD プリント使用	Unit 4 p.23~26 意味調べ・音読
7	Unit 5 Sports スポーツ Expressing honesty and hope 本音と希望を伝える	テキスト・CD プリント使用	テキストp.11~26 既習項目を確認する
8	Unit 6 Work 作業 Talking about past, present, and future situations 過去・現在・未来(基本時制)	テキスト・CD プリント使用	Unit 5 p.27~30 意味調べ・音読
9	Unit 7 Food 食べ物 Talking about chances and conditions 仮定や条件の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 6 p.31~34 意味調べ・音読
10	Unit 5~7 Review 文法や表現のまとめ Drill for the Practical English Proficiency Test (2) 英語検定試験に向けた対策(2)	テキスト・CD プリント使用	Unit 7 p.35~38 意味調べ・音読
11	Unit 8 Studying English 英語を勉強している Talking about problems and goals 課題とその解決	テキスト・CD プリント使用	テキストp.27~38 既習項目を確認する
12	Unit 9 Health 健康 Taking a sick day and expressing sympathy 体調不良の相手に同情の気持ちを伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 8 p.39~42 意味調べ・音読
13	Unit10 Clothes 服 Giving reasons and conditions 理由と条件を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 9 p.43~46 意味調べ・音読
14	Unit 1~10 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	Unit10 p.47~50 意味調べ・音読
15	まとめ(1~14回)		テキストp.11~50 既習表現を確認する
期末試験	期末試験		理解不足の項目について 補習をしておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について学科を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A・J：期末試験（50%）

目標D・I：授業への貢献、態度、提出物など（50%）

※成績評価への補足的対応措置により減点などを行います。

※英語検定試験の対策は英語学習への動機づけの一つとして行います。英語検定試験の受験は任意で、受験料は自己負担となります。単位取得の条件ではありませんが、年度内での英語検定試験合格者には、合格した級に応じて当該科目の点数に加点します。詳細は初回の授業で説明します。

【教科書】 書名：English Listening and Speaking
Patterns 2
著者名：Andrew E. Bennet
発行所：南雲堂
価格：2,000円（税別）

【参考書】 特に指定しません。

【その他補足事項】

1. 授業には英和辞典を持参してください。（電子辞書可）
2. 授業の実施状況によって、進度や内容が変わることがあります。

授業科目名	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 オカンボ メリッサ ブラザ 氏名：Ocampo Merissa Braza	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程 修了 博士(教育学) TESOL英語教授法資格 -International Psychology of Language Learning (国際言語学習心理学会) 日本大学英語教育学会 全国語学教育学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修	
保育士資格	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時説明します。		

【授業の概要】 英語は世界中に拡がり続けています。重要なのは、どのような種類の英語を学ぶべきかと言うことです。英語は元来アングロサクソン諸国で話されてきましたが、現在では世界中の人々が使用する共通言語となっています。世界共通言語となった英語は、その運用が適切かどうか多くの人にとって判断しやすくなってきました。この授業では、英語はどのような人にも身近なものである、ということを理解することを目的とします。間違ふことを恐れずに、そこから学生が成長していくことが望まれます。FEMA(家族環境モードアプローチ)により、学生は間違いを積極的に受け入れることができ、講義内でストレスを感じずに学ぶことが出来ます	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		○ G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力	
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
貿易や教育交流、そしてコミュニケーションなど、それらグローバル化を理解できるようにする。	目標	G・L	
異なる文化圏の人々とコミュニケーションを図る方法を学ぶ。	目標	G	
他者の意図、謝罪などの社会的行為、要求および賛辞などを理解するために英語を話す方法を学ぶ。	目標	I	
「英語での演劇プレゼンテーション」を通じて、他の人の前で自信を持って話すことができるようにする。	目標	G・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	第1学期 オリエンテーション ・一年分の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ Lesson 1 : Intercultural Communication in Today's World レッスン1 : 今日の世界の異文化コミュニケーション	テキスト・CD Group reading, listening, and discussion (CD) グループリーディング、リスニングと話し合い	Unit 1. 1 (p. 7-9) 予習：あなたの生活の中で「グローバル化」をどこで見ることができますか？ 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
2	Lesson 2 : Intercultural Communication in Today's World レッスン2 : 今日の世界の異文化コミュニケーション	テキスト・CD Critical thinking and self-reflection (List of questions to answer) 批判的思考と自己反省 (質問のリスト)	Unit 1. 2 (p. 10-12) 復習：大学生として、教室外の他の文化についての知識をどのように向上させることができますか。具体的な方法を3つ挙げてください。 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
3	Lesson 3 : English for Intercultural Communication (A) レッスン3 : 異文化コミュニケーションのための英語	テキスト・CD プリント使用 Group discussion and debate グループディスカッションとディベート	Unit 2. a (p. 13-15) 予習：あなたは英語を話すときに間違いを犯すことを恐れていますか？もしそうなら、どんな種類の間違い？ 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
4	Lesson 4 : English for Intercultural Communication (B) レッスン4 : 異文化コミュニケーションのための英語	プリント使用 Think-pair-share シンク-ペア-シェア	Unit 2. b (p. 16-18) 復習：ソーシャルメディアの長所と短所を書く。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
5	Lesson 5 : Important Features of Human Communication レッスン5 : 人間のコミュニケーションの重要な特徴	テキスト・CD プリント使用 Interview students in the class about their old and new habits 新しい習慣や古い習慣についてクラスの生徒にインタビューする。	Unit 3. a (p. 19-21) 予習：文化間で異なるジェスチャーを知っているか？ 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
6	Lesson 6 : Important Features of Human Communication レッスン6 : 人間のコミュニケーションの重要な特徴	プリント使用 Problem-based Learning 問題をベースとした学習 -Encourage students to participate in an International event in Fukushima City -福島市での国際イベントへの参加を奨励する	Unit 3. b (p. 22-24) 復習：国際的な出来事についての自己反省 文化に関係あるポピュラーソングの分析 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
7	Lesson 7 : The concept of Culture (A) レッスン7 : 文化という概念	テキスト・CD プリント使用 Cooperative cases (small group engage in scenario-based problem-solving activity to work on question/issues from the list 協力的なケース (小グループでシナリオベースの問題を解決し、リストからの質問/問題に取り組む。	Unit 4. (p. 25-27) 予習：文化に関係あるポピュラーソングの分析の続き。 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	Lesson 8 : The concept of Culture (B) レッスン8 : 文化という概念	プリント使用 The debate about the advantages and disadvantages of learning cultures of other countries. 他の国の文化について学ぶことのメリットとデメリットについてディベートする。	Unit 4 . (p. 28-30) 予習 : なぜ日本人は海外で寿司を食べるときに驚いたのですか? 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
9	Lesson 9 : Language and Thought (A) レッスン9 : 言語と思考	テキスト・CD プリント使用 Fishbowl (Groups of 3-4 students sit in front of the classroom and discuss an assigned topic so that the entire classroom can hear 金魚鉢 (3~4人の生徒からなるグループが教室の前に座り、割り当てられたトピックについて教室全体に聞こえるように話し合う。)	Unit 5 . (p. 31-36) 復習 : あなたは外国語を学ぶことで人々がより知的になることができると思いますか? どうして? なぜならないのか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
10	Lesson10 : Language and Thought (B) レッスン10 : 言語と思考	プリント使用 Learn popular Foreign and Japanese songs in English Simulation-role play 英語で人気のある外国と日本の歌を学ぶ シミュレーションロールプレイ	予習 : 歌のメッセージについてのあなたの印象を書きなさい。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
11	Lesson11 : Communication Styles (A) レッスン11 : コミュニケーションスタイル	テキスト・CD プリント使用 Peer teaching ピアティーチング	Unit 6 . (p. 37-39) 予習 : コミュニケーションの異なるスタイルは何ですか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
12	Lesson12 : Communication Styles (B) レッスン12 : コミュニケーションスタイル	プリント使用 Role play communication with group members and reaction to a video clip グループメンバーとのロールプレイコミュニケーションとビデオクリップへの反応	予習 : YouTubeか映画から短い会話の場面を選びクラスで発表する。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
13	Lesson13 : Human Psychology and Communication (A) レッスン13 : 人間の心理とコミュニケーション	テキスト・CD プリント使用 Cooperative cases (small groups engage in scenario-based problem-solving activity to work on question/issues from the list) 協力的なケース (小グループはリストの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)	Unit 7 . (p. 43-48) 予習 : 適切なコミュニケーションにどんなノンバーバルコミュニケーション (ジェスチャー) を使っているか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	Lesson14 : Human Psychology and Communication (B) レッスン14 : 人間の心理とコミュニケーション	プリント使用 Invite a foreign visitor (s) to give a talk. Formative survey to assess student comprehension 外国人を招待して会話を する。 生徒の理解度を評価するための形成的調査	復習 : 彼/彼女の話と彼/彼女の話の中の異文化間コミュニケーションの関係についての印象を書く。
15	Lesson15 : Human Psychology and Communication (C) レッスン15 : 人間の心理とコミュニケーション	プリント使用 The psychology of the language learners The peer discussion and debate about the importance of appearance and personality. 語学学習者の心理 外見と個性の重要性についてのピアディスカッションとディベート	学生は知識を得るために耳を傾け、聞いたトピックを分析し、総合して評価する。 各グループはトピックについての印象と意見を発表します。 英訳してくる(200語以内で)。日本語を混ぜても可
期末試験	Final written Test 最終筆記テスト		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標G・I・L : 1. 期末試験(50%) 目標G・I・L : 2. 授業への貢献、態度、提出物など(50%) 以上、合計100点満点で評価する。 ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行う。 ※英検の対策は英語学習への動機づけの一つとして行う。			
【教科書】 書名 : Intercultural Communication for English Language Learners in Japan 日本の英語学習者のための異文化間コミュニケーション 著者名 : Troy McConachy 発行所 : Nan'un-do 価格 : 2,000円(税別)			
【その他補足事項】 1. 授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可) 2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。			

授業科目名	国際理解論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：坂本恒夫		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社外取締役（2000－2003年、2003－2006年）			
社会貢献としての委員会・職等	日本中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム 会長			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	明治大学大学院博士後期課程（経営学博士）博士 日本経営学会、日本経営財務研究学会、証券経済学会、日本経営分析学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択		
保育士資格	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本科目では、個別の国の概要について具体的に説明していきます。最初に、歴史を説明し、その国の現状を理解した後、抱えている課題について述べていきます。 特に、日本との関係およびその交流の歴史について勉強します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
国際的な現状の理解を深め、多様性、応用力を身につけます。	目標	A・J		
各国の抱えている課題を説明し、今、世界で何ができているかを理解します。	目標	A・K		
日本との関係を深く分析し、その国に対しての日本の付き合い方について考えます。	目標	A・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	講義 配布資料	
2	第1章 イギリス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第2章 フランス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
4	第3章 オーストラリア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
5	第4章 ニュージーランド (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
6	第5章 アメリカ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
7	第6章 アジア諸国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
8	第7章 中国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
9	第8章 台湾 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
10	第9章 香港 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
11	第10章 韓国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
12	第11章 マレーシア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
13	第12章 タイ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
14	第13章 シンガポール (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配布資料	配布資料を事前に読む
15	第14章 まとめとディスカッション	グループディスカッション	配布資料を事前に読む
期末試験	前期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 下記の方法で総合的に評価する。 (1) 目標A・J・K：レポート・前期末試験 50点 (2) 目標A・I ：ディスカッションの参加度 50点</p>			
<p>【その他補足事項】 近い将来、あなたがその国に駐在員として派遣されたと仮定して考えてみましょう。</p>			

授業科目名	国際理解演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：中丸一志 <small>なか まる かず し</small>		開講期	後期集中
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		建築施工管理10年、建築設計および工事管理・24年		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本大学工学部 工学士 一級建築士、設備設計一級建築士、一級建築施工管理技士、宅地建物取引主任者・建築学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。 現地研修を行う。 事前授業ではシンガポールの歴史や文化について学ぶほか、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。また、それについての個別指導を行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの取得、旅行計画の立案等を学習できる。			目標	A・L
ホスピタリティとインバウンドの在り方、イノベーションを学ぶことができる。			目標	A・H
各自の興味ある分野を事前調査し、現地体験することによって理解を深められる。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配布資料	シンガポールへの興味関心を確認
2	シンガポール共和国の歴史（歴史・人種・言語）	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	シンガポールの経済・産業(貿易・観光)	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
6	シンガポールの交通事情	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
7	シンガポールの食文化	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
8	入国手続きほか事前準備・現地の法律について	配布資料・インターネット検索	シンガポールの調査
9	現地での行動について(渡航前の最終確認) 各グループの旅程プレゼン	配布資料・インターネット検索	海外旅行の調査
10	現地体験① ガーデンズ・バイザ・ベイ、マーライオン・パーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
11	現地体験② ガーデンズ・バイザ・ベイ、マーライオン・パーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
12	現地体験③ ジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
13	現地体験④ ニューウォータービジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
14	現地体験⑤ 自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
15	現地体験⑥ 自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
期末試験	最終レポート発表	プレゼンの評価・指導	プレゼンの練習

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】

目標A・H: 事前レポート20点、最終レポート40点で評価する。
目標H・L: 団体行動・グループ行動の在り方を40点で評価する。

【教科書】 なし

【その他補足事項】

- ・プリント資料を適宜配布し、各自の研究テーマに沿って指導する。
- ・シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となる。
- ・その他
 - (1) 最小催行人数10名、最多最高人数を15名とする。なお、履修者が10名に達しない場合、または、履修放棄などによって、履修者が10名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても、休講となる。
 - (2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月下旬より指導開始とする。
 - (3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないこと。

授業科目名	体育講義		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	後期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		29時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 現在および将来の生活における健康や体力づくり、生涯学習の一環としての運動およびスポーツについて理解を深めて行く。 主な授業内容として、運動と健康・体力との関連性、慢性疾患と生活習慣、体力と運動にまつわるからだの仕組み、運動処方やスポーツ外傷・障害の予防と応急処置などである。 また、それらの知識を自ら積極的に生活の中で活用し、実践してゆく力と意欲を身につけるよう授業を行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
健康と運動、体力との関連性について理解する。			目標	A
生活習慣病の発症メカニズムとその予防について理解する。			目標	A
目的に応じた運動処方の基礎を学ぶ。			目標	A・K
安全で効果的な運動実践の方法を理解する。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「授業の概要と進め方について」 「運動と健康・体力の関連」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントやノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	慢性疾患と生活習慣① 「生活習慣と慢性症状、発病までのしくみ」 「糖尿病と虚血性疾患について ～インスリンと脂質・糖代謝を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントでインスリンとFFA、中性脂肪、コレステロールの各用語解説を読んでおくこと。
3	慢性疾患と生活習慣② 「がんと生活習慣 ～飲酒と喫煙を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントを読んで生活習慣病発病のメカニズムを復習しておくこと。
4	運動とからだのしくみ 「体力要素と運動機能の関係」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) VTR「驚異の小宇宙人体V なめらかな連係プレー骨・筋肉」	配布プリントやノートの整理
5	運動処方の実際① 「エアロビックな運動とアネロビックな運動」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 (電卓機能付きの携帯電話も使用可)	配布プリントやノートの整理 簡単なトレーニングを家庭で実践してみること。
6	運動処方の実際② 「エネルギー代謝を中心に」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参	事前に1日の食事内容と生活活動の内容と時間を調べておくこと。 配布プリントやノートの整理
7	スポーツ外傷・障害の予防と応急処置	演習：応急処置 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントやノートの整理
8	授業の振り返り(まとめ)	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	総復習をするので配布プリントやノートを整理して持参すること。
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】

目標A・K：40点満点のまとめテスト(筆記試験)を授業の最後に実施。

目標A・K：小レポートを30点満点で評価する(6回実施。1回あたりの配点は5点)。

授業中に興味関心を持った内容や、感想など、当日指示のあった課題についてまとめて記述する。

目標K：学習に対する意欲・興味関心・主体性などについて授業中の行動(例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等)を観察し、30点満点で評価する。

以上、合計100点で評価する。

【その他補足事項】

参考図書は授業中に紹介するが購入の必要はない。

授業科目名	体育実技 (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本スポーツ協会公認バレーボール指導員 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本バレーボール学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。		目標	B
コンビネーションやフォーメーションなどの戦術的理解を深める。		目標	K
チームづくりやチームワークを学ぶ。		目標	G
バレーボールのルールやコートマナーを学ぶ。		目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	バレーボールの用語を予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ (サーブを中心に)	グループワーク	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ (レシーブを中心に)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基本技能③ パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基本技能④ パスの技術と動き(アンダーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基本技能⑤ ボールコントロール (ボールヒット) とスパイクの動き (ミートを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基本技能⑥ ボールコントロール (ボールヒット) とスパイクの動き (ステップを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割 (ローテーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割 (ポジションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション (5人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション (3~4人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション (マンアップフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション (マウンドフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション (クイックを絡めたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション (移動を加えたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	公式戦の運営 (リーグ戦) と審判法①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標B ：技能テスト 30点 目標K ：試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点 目標G ：授業参加時の態度（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点 目標B・G・K：特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p> <p>以上、合計100点で評価する。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（体育館用のスポーツシューズであれば可）</p>			

授業科目名	体 育 実 技 (バドミントン)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	20回
		期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修	
保育士資格	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バドミントンのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。	目標	B	
ドライブ、ハイクリア、サービスなどの基本技能ができる。	目標	B	
戦術を工夫し、試合で生かすことができる。	目標	K	
トーナメントやリーグ戦などの組み立てができ、仲間と試合を楽しめる。	目標	G	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義 授業計画(シラバス)持参	
2	<ul style="list-style-type: none"> 班編成 バドミントンの運動特性に応じた準備運動 基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		バドミントンの用語を予習してくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する 	グループワーク	ダブルスのルールを予習してくる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルのルールを理解する ・審判法 	グループワーク	シングルのルールを予習してくる。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能テスト		課題としている技能を練習しておく。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標B : 技能テスト 30点

目標K : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点

目標G : 授業参加時の態度（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点

目標B・G・K：特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

- （例）
- 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点で評価する。

【その他補足事項】

- 服装はスポーツウェア上下、バドミントンシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可）

授業科目名	体育実技 (レクリエーションスポーツ)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： <small>こんの</small> <small>ま</small> <small>い</small> 金野麻衣		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		桑折町スポーツ推進委員 総合型地域スポーツクラブマルベリーこおり運営委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		仙台大学大学院スポーツ科学研究科修了、修士（スポーツ科学）、 レクリエーションコーディネーター、日本スポーツ運動学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等への対応を行います。		

【授業の概要】 本授業では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとします。様々なニュースポーツ種目を体験して、それぞれの基本技能の課題、チームワークの課題を設定することで、学生がより積極的に自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養っていきます。また、試合形式で行う場合は、準備から審判を含めた試合の管理運営方法までを学び、実践力を身につけていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ニュースポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。			目標	B
チーム戦術、あるいはグループ戦術の理解、またより運動を前向きに楽しむためのルールのアレンジ等、チームで協働して実践できるようになる。			目標	G
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養う。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目と年間計画の説明 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	授業計画 講義・実技	ウォーミングアップ・クールダウンの理解・確認
2	コミュニケーションゲーム(1) (アイスブレイキング)	実技(グループワーク)	アイスブレイキングの理解・確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	コミュニケーションゲーム(2) (アイスブレイキング)	実技 (グループワーク)	アイスブレイキングの理解・確認
4	チャレンジ・ザ・ゲーム(1) (ロープ、ボール、ディスク、フープ使用)	実技 (グループワーク)	チャレンジ・ザ・ゲームの理解・確認
5	チャレンジ・ザ・ゲーム(2) (ロープ、ボール、ディスク、フープ使用)	実技 (グループワーク)	チャレンジ・ザ・ゲームの理解・確認
6	フライングディスク・ドッジビー(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	フライングディスク使用プログラムの理解・確認
7	フライングディスク・ドッジビー(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	フライングディスク使用プログラムの理解・確認
8	フライングディスク・ドッジビー(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	フライングディスク使用プログラムの理解・確認
9	ソフトバレーボール(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
10	ソフトバレーボール(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
11	ソフトバレーボール(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	ソフトバレーボールのルールの理解・確認
12	インディアカ(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
13	インディアカ(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
14	インディアカ(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	インディアカのルールの理解・確認
15	ユニバーサルホッケー(1) 基礎練習・パス練習・ミニゲーム	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
16	ユニバーサルホッケー(2) 試合形式①	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
17	ユニバーサルホッケー(3) 試合形式②	実技 (グループワーク)	ユニバーサルホッケーのルールの理解・確認
18	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(1)	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り
19	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(2)	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り
20	レクリエーションスポーツ プログラムの工夫と実施(3) 振り返り	実技 (グループワーク)	プログラムの実施・検討・振り返り

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標B : 技能・知識の習得度 60%

目標G・K : 授業への参加状況 30%

目標B・G・K : 特記事項 10%※

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

(例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

【教科書】 使用しない。

【参考書】 特に指定しない。

【その他補足事項】

<実施種目について>

実施するニュースポーツ種目は、「インディアカ、ソフトバレーボール、フライングディスク（ドッチビー）、ユニバーサルホッケー」をベースとし、アイスプレーキングやチャレンジ・ザ・ゲーム等を含めた活動とします。各種目の基本ルールでの活動からアレンジしたものまで、より運動に親しむことができるように工夫し活動します。（授業時の気象条件等により種目の順番を変更する場合があります）

<課題について>

ニュースポーツ種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については、各種目実施前に説明を行いますが、事前にインターネット等を活用してルールを確認し、個人で理解を深め準備を整えておいてください。最終課題は、グループごとにレクリエーションスポーツプログラムを工夫し体験することで、実際にそのプログラムを体験したことによる振り返りを行います。

<服装持ち物、活動場所について>

服装は気候・活動内容に合わせたスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズを持参し、各自アクセサリ類ははずし、安全に活動することができるよう努めてください。

活動は、基本的には屋内活動（体育館）となりますが、気象状況・活動内容によっては、グラウンドを使用することが適している場合もあるので、授業最後の事前の準備についての説明を聞き次週の準備を整えてください。

授業科目名	体育実技 (バスケットボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：入澤裕樹 〔本務先：仙台大学 職名：講師〕		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院（体育学修士） 日本体育学会、保健科教育学会 コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等への対応を行います。		

【授業の概要】 主に試合形式を中心に実施します。試合内においてシュートやドリブル、パスワークについての基本的技能を身につけていきます。また、戦術やルールについても簡易ゲームを用いながら理解を深めていきます。 試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得します。 また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようになります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ゲームを通じ、実戦に用いられる基本的技能を習得する。			目標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。			目標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。			目標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明、グループ分け	講義 授業計画	授業計画を熟読しておくこと
2	基礎技術(1) ボールコントロール、ハンドリング、パッシング	グループワーク	用語やルールについて予習すること

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	基礎技術(2) シューティング ドリブルとレイアップシュート	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
4	基礎技術(3) シューティング ジャンプシュートとリバウンド	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
5	基礎技術(4) パッシングとドリブル シューティングとの組み合わせ	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
6	基礎技術の総合練習 ドリブル ドリブルターン レイアップシュート ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
7	ゲーム(簡易化) 5対5のゲーム(シュートなし、ラインゴール形式)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
8	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能① ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
9	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能② ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
10	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能③ パスワークの基本的な技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
11	バスケットボールの戦術やルールの理解	視聴覚教材「バスケットボール指導の最新モデル! Disc 5」60分	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
12	ゲーム 5対5による攻防の実践 マンツーマンディフェンスについて	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
13	ゲーム 5対5による攻防の実践 3点シュートによる展開	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
14	ゲーム 5対5による攻防の実践 リバウンドの影響について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
15	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
16	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
17	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
18	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による④	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
19	オフense技術のまとめ オフenseプレイに必要な基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
20	技能チェックと評価 (ドリブルチェンジ クロスオーバーシュート ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標B : 技能テスト 30点

目標A : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点

目標G : 授業への意欲態度 30点

目標A・B・G : 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価します。

- （例）
- 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点満点で評価します。

【教科書】 使用しません。

【参考書】 特に指定しません。

【その他補足事項】

服装はスポーツウェア上下、バスケットシューズ（屋内用スポーツシューズであれば可）を着用してください。着用していない場合は出席を認めない場合があります。

授業科目名	体 育 実 技 球 (卓 球)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：入 澤 裕 樹 〔本務先：仙台大学 職名：講師〕		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院（体育学修士） 日本体育学会、保健科教育学会 コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等への対応を行います。		

【授業の概要】 主に試合形式を中心に実施する。前半では基本技術の習得やルールなどについて内容を展開していきます。 試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得します。 また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようになります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
実戦に用いられる基本的技能を習得する。			目標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。			目標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。			目標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明、グループ分け	講義 授業計画	授業計画を熟読しておくこと
2	基礎技術(1) 各打法の紹介、ラケットの握り方、簡易ゲームの実施	グループワーク	用語やルールについて予習すること
3	基礎技術(2) 打球時の基本姿勢、フォアハンド、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	基礎技術(3) バックハンド、バックショート、裏面打法、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
5	基礎技術(4) フットワーク、前後左右への動き、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
6	基礎技術(5) 各種サーブとそのレシーブの紹介1、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
7	基礎技術(6) 各種サーブとそのレシーブの紹介2、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
8	ゲームの方法 シングルス(1) シングルの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
9	ゲームの方法 シングルス(2) 正規のルールによる審判法を解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
10	ゲームの方法 ダブルス(1) ダブルスのフォーメーションについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
11	ゲームの方法 ダブルス(2) ダブルスの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
12	競技としての卓球の戦術やルールの理解	視聴覚教材 「初心者からの“戦型別”卓球コーチング」60分	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
13	ゲーム トーナメント形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
14	ゲーム トーナメント形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
15	ゲーム トーナメント形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
16	ゲーム リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
17	ゲーム リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
18	ゲーム リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
19	まとめ 基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
20	技能チェックと評価 (サーブ レシーブ 各打法) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標B : 技能テスト 30点

目標A : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点

目標G : 授業への意欲態度 30点

目標A・B・G : 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価します。

- （例）
- 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点満点で評価します。

【教科書】 使用しません。

【参考書】 特に指定しません。

【その他補足事項】

服装はスポーツウェア上下、屋内用スポーツシューズを着用してください。着用していない場合は出席を認めない場合があります。卓球用ラケットについては毎時、貸し出す予定です。

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：ながしまてるこ 長島輝子	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	福島女子短期大学附属幼稚園教諭、副園長、園長 (昭和50年4月～平成17年3月)			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	國學院大學幼児教育専門学校、幼稚園教諭一種免許状 日本保育学会、日本応用心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 1. 保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)の職務内容とその社会的意義・役割について概説します。 2. 今、保育者に求められている倫理観及び資質・能力を概説します。 3. 保育者の地位・身分、服務、及び養成・研修の制度を概説する。また、連携を必要とされる専門機関・組織・スタッフについて学びます。 4. 保育者間で育んでいきたい力(同僚性や実践的能力等)について学びます。 5. 昨今の幼児教育行政の動向を紹介し、将来の進路決定に役立つような情報を提供します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼児教育の意義と保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)の役割を理解する。	目標	A		
保育者に求められる資質・能力を理解する。	目標	A・C		
保育者の地位・身分、及び守るべき服務及び保育者と専門機関との連携の必要性を理解する。	目標	A・C		
保育者間の連携・協働について理解する。	目標	A		
保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。	目標	A・J		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業内容と評価方法、授業の進め方、その他の留意点 「保育者論」で何を学ぶのか	講義、質疑応答 授業計画 授業資料配布	予習 授業資料第1・2章の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育とは何か ・保育者とは ・保育者のタイプと役割	講義、グループワーク 授業資料配布	復習：本日の話し合いを レポートにまとめる
3	保育者に求められる資質・能力 — 指導者としての実践的指導能力面から (発表会DVDを視聴して) —	講義、授業資料配布 DVD視聴 「子どもはうったえてい る」20分 レポート作成	復習 授業資料第1・2章を読 み込み
4	保育者に求められる資質・能力 — 指導者としての総合的人間力の面から (保育者の哲学、砂遊びを通して) —	講義、授業資料配布 グループワーク、まとめ 発表	復習 「砂遊び」の講義をまと める
5	保育者の社会的位置づけ — 保育者の責務、保育者という職業(地位・身分) —	講義、授業資料配布 質疑応答	復習 授業資料第2章の読み込 み
6	保育者の服務について(1) — 地方公務員法第30条～第33条 — 幼稚園・保育所・認定こども園の業務	講義、授業資料配布 質疑応答	予習 授業資料第8章の下読み
7	保育者の服務について(2) — 地方公務員法第34条と児童虐待防止法 — 児童福祉施設における保育者の業務	講義、授業資料配布 質疑応答	復習 授業資料第8章の読み込 み
8	保育者の服務について(3) — 地方公務員法第35条～第38条と教育公務員特例法 — ・子育て支援センターの業務、保護者に対する理解と支援 ・保育者と専門機関等の連携	講義、授業資料配布 質疑応答	予習 授業資料第12章の下読み
9	保育者の実践的能力について ・子どもを理解する力 ・保育を計画する力	講義、授業資料配布 グループワーク、発表	予習 授業資料第10章の下読み
10	保育者の実践的能力について ・保育を実践する力 ・保育を省察する力	講義、授業資料配布 グループワーク、まとめ、 発表	復習 授業資料第10章の読み込 み
11	保育の展開と再構成 ・保育の計画と記録の大切さ ・保育・教育課程と指導計画 ・省察、計画、実践	講義、授業資料配布 グループワーク、まとめ、 発表	復習 授業資料第7章の読み込 み
12	保育の実践事例(DVD他)から ・保育の展開と再構成	講義、授業資料配布、質 疑応答 DVD視聴 「きえちゃんのイメージ」 20分 「先生ってなあに!」20分	復習 授業資料第7章の読み込 み
13	保育者間の連携・協働と専門機関との連携 ・保育者間で育んでいきたい力とは ・保育カンファレンスの生かし方	講義、授業資料配布、質 疑応答	復習 授業資料第9章の読み込 み
14	最近の幼児教育行政の動向について	講義、授業資料配布、質 疑応答	予習 授業資料第15章の下読み
15	これからの保育者に求められるもの	講義、授業資料配布 レポート作成	復習 授業資料第15章の読み込 み
期末 試験	期末試験	ペーパー試験 (持ち込みなし)	

<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・C・J：期末試験70%（レポート作成を含む） 目標 A・C・J：授業後の感想・質問・意見の提出 30%（授業後毎回提出） ※詳細については初回授業時に説明します。</p>	
<p>【教科書】 授業資料を作成・配布します。（毎時間）</p>	<p>【参考書】 「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)(最新版) 「保育所保育指針解説書」(厚生労働省) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (内閣府他)(最新版) 「教職論」新井保幸・江口勇治編著(培風館) 「教育小六法」(学陽書房)</p>
<p>【その他補足事項】 授業資料を整理するための A 4 判の紙ファイル一冊を準備してください。</p>	

授業科目名	保育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政	やま ざき のぶ まさ	開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業では、保育の基本的概念を学び、保育における理念についての理解を目的とする。 この目的に沿い、保育の理念・思想が、歴史の変遷とともにどのように捉えられてきたのかを学び、併せて現代の教育・保育に関する法令及び制度について理解する。また、保育実践に生かせる知識の習得、専門職としての保育者の役割を理解すると共に、諸外国の教育・保育の多様なあり方への理解を深める。 さらに、日本の保育の現状と今日的課題の理解等を通して、保育現場の実際や、現代の子ども達がおかれている状況を把握し、子どもや保護者へ対してより良い支援の多様なあり方を考察する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育の意義及び目的について理解する。			目標	A・C
保育に関する法令及び制度を理解する。			目標	A・C
保育所保育指針における保育の基本について理解する。			目標	A・C
保育の思想と歴史の変遷について理解する。			目標	A・C・J
保育の現状と課題について理解する。			目標	A・C・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育の意義と目的 ～保育とは何か～	「保育とは何か」について意見交換	教科書p 3～16を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育の基盤 ～子ども観について～	「子どもとはどのようなものか」について意見交換	教科書p19～33を事前に読む
3	子ども理解 ～保育における子ども理解について～	「子どもの行為の意味」について意見交換	教科書p37～52を事前に読む
4	子どもが育つ環境 ～環境による保育について～	「保育環境」について意見交換	教科書p55～67を事前に読む
5	保育内容・方法 ～保育の基本と保育内容について～	「子どものための保育」について意見交換	教科書p71～88を事前に読む
6	保育の計画 ～保育における計画と実践について～	「保育の計画はなぜ必要か」について意見交換	教科書p91～107を事前に読む
7	保育における健康・安全 ～衛生管理と安全管理について～	「子どもの遊びと怪我」について意見交換	教科書p111～126を事前に読む
8	保育の在り方 ～子どもの多様性について；子どもとともに育つ～	「多様な子ども」について意見交換	教科書p129～142を事前に読む
9	保育の思想と歴史 ～保育の歴史に学ぶ～	「保育を学ぶ上で歴史を学ぶ必要性」について意見交換	教科書p145～153を事前に読む
10	保育の思想と歴史 ～日本における保育制度の移り変わり～	「幼保一元化」について意見交換	教科書p153～162を事前に読む
11	保育者とは ～共に学ぶ保育者～	「保育者」について意見交換	教科書p165～179を事前に読む
12	子育てと子育て支援 ～子育て支援の必要性和具体的展開について～	「子育て支援」について意見交換	教科書p183～198を事前に読む
13	保育の現状と課題 ～すべての子どもに保育を～	「待機児童問題」について意見交換	教科書p201～209を事前に読む
14	保育の現状と課題 ～保育の質の維持と向上～	「保育の質」について意見交換	教科書p209～216を事前に読む
15	保育の原理 ～あらためて保育について考える～	「あらためて保育とは何か」について意見交換	教科書p219～234を事前に読む
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A・J：保育者の理念・思想の歴史的変遷による視点、現代の教育・保育に関する法令及び制度についての理解、並びに、諸外国の教育・保育の多様なあり方についての理解 50点

目標A・C・K：保育者の役割についての理解や、子どもや保護者へ対してのより良い支援のあり方等についての考察 50点

目標到達度は、期末試験60%、ミニレポート40%、により評価するが、授業態度・出席状況も加味する

【教科書】 書名：新しい保育講座1 保育原理
著者名：渡邊英則 他 編著
発行所：ミネルヴァ書房
価格：2,200円（税別）

書名：保育所保育指針解説
著者名：厚生労働省 編
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）

書名：幼稚園教育要領解説
著者名：文部科学省 編
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）

書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省 編
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

【その他補足事項】

テキストの予習・復習をすること。

授業科目名	社会的養護 I		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	静岡県スクールカウンセラー（平成21年4月～平成26年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本保育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 社会的養護の意義とその歴史の変遷を踏まえ、子どもの権利擁護を基本とした制度や実施体系及び関連する専門職等に関して理解するとともに、今日の社会的養護の現状と課題を理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。	目標	A		
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。	目標	A		
社会的養護の制度や実施体系等について理解する。	目標	A・J		
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。	目標	A		
社会的養護の現状と課題について理解する。	目標	A・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 (1) 社会的養護の理念と概念	授業の進め方等の説明をする。	予習：児童養護施設の設置数を調べる。
2	(2) 社会的養護の歴史の変遷	講義を踏まえて年表を作成する。	予習：里親の種類と現況を調べて提出。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	2. 社会的養護の基本 (1) 子どもの人権擁護と社会的養護	DVD「子どもの権利とは」13分	予習：子どもの権利条約について調べて内容把握。
4	(2) 社会的養護の基本原則	DVD「子どもの意向と最善の利益」9分	予習：虐待の種類と発生件数を調べる。
5	(3) 社会的養護における保育士等の倫理と責務	グループワーク：保育観と保育士の専門性についてディスカッション	予習：施設における保育士の業務内容を調べる。
6	3. 社会的養護の制度と実施体系 (1) 社会的養護の制度と法体系	施設入所児童の特長についてパワポ資料で説明する。	予習：社会的養護に関連する法律を調べる。
7	(2) 社会的養護の仕組みと実施体系	グループワーク：被虐待児の事例検討	予習：レビューテーマ「児童養護施設について」300字
8	4. 社会的養護の対象・形態・専門職 (1) 社会的養護の対象	グループワーク：アセスメントの方法と理解	予習：児童相談所の機能について調べる。
9	(2) 家庭養護と施設養護	グループワーク：家庭養護・施設養護のメリットデメリットについてディスカッション	予習：家庭養護と施設養護の違いを調べる。
10	(3) 社会的養護に関わる専門職	DVD「専門性と子どもの権利」13分	予習：レビューテーマ「専門職の種類と業務内容」300字
11	5. 社会的養護の現状と課題 (1) 社会的養護に関する社会的状況	プレイセラピーに関する資料配布及び実際を事例で学ぶ	予習：厚労省HPで社会的養護施策を概観する。
12	(2) 施設等の運営管理	DVD「ペアレントトレーニング」15分	予習：児童養護施設の規模や期待を分類把握する。
13	(3) 被措置児童等の虐待防止	DVD「しつけと虐待」13分	予習：レビューテーマ「施設内暴力について」300字
14	(4) 社会的養護と地域福祉	グループワーク：児童養護施設による地域貢献についてディスカッション	予習：児童養護施設による地域貢献について調べる。
15	まとめ	グループワーク：子どもの自立についてディスカッション	復習：ジェノグラム作成
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 到達目標 A : 後期末試験 40% 2. 到達目標 A : 授業内の小レポート等提出物 30% 3. 到達目標 I・J : 授業内の発言及び活動 30%	
【教科書】 使用しない。(適宜資料を配布する)	【参考書】 書名：子どもの未来を育む自立支援 著者名：井出智博・片山由季 発行所：岩崎学術出版社 価格：2,800円（税別）

授業科目名	社会福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：北本明日香 <small>きたもとあすか</small>	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本講義は、社会福祉の制度・法体系の基礎的な知識を学び、保育士として必要な視点を身に着けることを目的とします。 〈講義内容〉 ① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点を養います。 ② 社会福祉の制度や実施体系等について学びます。 ③ 社会福祉における相談援助について理解を深めます。 ④ 社会福祉における利用者の保護に関する仕組みについて学びます。 ⑤ 社会福祉の動向と課題について理解を深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
社会福祉の制度・法体系について説明することができる。	目標	A・C		
社会福祉の歴史の変遷を踏まえ、社会福祉の政策上の位置づけについて理解することができる。	目標	A・C		
社会福祉専門職の専門性と倫理について論じることができる。	目標	A・C・J		
社会福祉専門職としての保育士の役割を説明することができる。	目標	A・C・J		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育と社会福祉	教科書 教科書補足資料	教科書p16～25を事前に読む
3	社会福祉の考え方と役割	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書p28～39を事前に読む 予習のテーマ：「社会福祉とは何か」400字
4	社会福祉のあゆみ	ノーマライゼーションに関するDVD視聴（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書p42～54を事前に読む 復習：感想文提出
5	生活を守る社会保障制度	教科書 新聞記事等を使用しペアワークを行います。	教科書p56～70を事前に読む
6	社会福祉の制度・法体系	教科書 教科書補足資料	教科書p72～88を事前に読む
7	社会福祉の実施機関と行財政	教科書 教科書補足資料	教科書p90～100を事前に読む
8	社会福祉の施設	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書p102～108を事前に読む 予習のテーマ：「社会福祉施設について」800字
9	子どもの人権と児童家庭福祉	教科書 教科書補足資料	教科書p110～124を事前に読む
10	社会福祉の専門職と倫理	専門職に関するDVD①を視聴（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書p126～142を事前に読む 復習：感想文提出
11	相談援助の意味と方法	専門職に関するDVD②を視聴（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書p144～159を事前に読む 復習：感想文提出
12	福祉サービスの利用支援と第三者評価	教科書 教科書補足資料	教科書p162～171を事前に読む
13	権利擁護と苦情解決	精神障害者の人権に関するDVD視聴（30分）（映像利用） 教科書 教科書補足資料	教科書p174～188を事前に読む 復習：感想文提出
14	地域福祉の意味と推進方法	教科書 教科書補足資料	教科書p190～200を事前に読む
15	他分野との連携とネットワークまとめ	教科書 教科書補足資料	教科書p202～214を事前に読む 教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) 目標A・C・J：レポート（50%）
レポート課題は授業内容に沿って設定します。
- (2) 目標A・C：筆記試験（50%）
後期末に記述方式のテストを実施します。

*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。
詳しくは、第1回目の授業時に説明します。

【教科書】

書名：保育と社会福祉
著者名：橋本好市、宮田徹 編
発行所：株式会社みらい
価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

授業内容の理解度を確認するため2～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。

授業科目名	子ども家庭福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 清 孝	きよ たか	開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子ども家庭福祉の意義、制度、実施体系、子どもの人権等を歴史の変遷から学び、子ども家庭福祉の理解を深め、今日の課題と今後の動向と展望について考察することにより、保育者として必要な知識と思考方法を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。	目標	A・C		
子どもの人権擁護について理解する。	目標	A・C・J		
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。	目標	A・J		
子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。	目標	A・J・K		
子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	目標	A・C・J・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 保育における子ども家庭福祉	授業計画 授業資料1 授業資料完成	予習：「保育における子ども家庭福祉」熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	現代社会と子ども・家庭 — 社会・家庭・地域の変容 —	授業資料2 授業資料完成	予習：「現代社会と子ども・家庭」熟読
3	現代社会と子ども家庭福祉 — 子ども家庭福祉の方向性 —	授業資料3 授業資料完成	予習：「現代社会と子ども家庭福祉」熟読
4	子ども家庭福祉の概念と理念 — 児童の権利条約 —	授業資料4 授業資料完成	予習：「子ども家庭福祉の概念・理念」熟読
5	子ども家庭福祉の歴史的展開	授業資料5 授業資料完成	予習：「子ども家庭福祉の歴史的展開」熟読 復習：「1～5のまとめ」レポート作成
6	子ども家庭福祉の法体系 — 児童福祉6法及び関連法 —	授業資料6 授業資料完成	予習：「諸外国の現状」「子ども家庭福祉の法体系」熟読
7	子ども家庭福祉の実施体制	授業資料7 授業資料完成	予習：「子ども家庭福祉の実施体制」熟読
8	子ども家庭福祉の費用 子ども家庭福祉の専門職とネットワーク	授業資料8 授業資料完成	予習：「子ども家庭福祉の費用」「専門職とネットワーク」熟読 復習：「6～8のまとめ」レポート作成
9	子ども家庭福祉の現状と課題(1) — 子育て支援サービスと保育ニーズ —	授業資料9 授業資料完成	予習：「少子化と子育て支援サービス」「多様な保育ニーズへの対応」熟読
10	子ども家庭福祉の現状と課題(2) — 母子保健サービス —	授業資料10 授業資料完成	予習：「母子保健サービス」熟読
11	子ども家庭福祉の現状と課題(3) — 障害のある子どもへの支援 —	授業資料11 授業資料完成	予習：「障害のある子どもへの支援」「子どもの健全育成」熟読
12	子ども家庭福祉の現状と課題(4) — 子ども虐待とDV —	授業資料12 授業資料完成視聴32分 「児童虐待」「DV」	予習「子ども虐待とDVへの対応」熟読
13	子ども家庭福祉の現状と課題(5) — 社会的養護サービス —	授業資料13 授業資料完成	予習：「社会的養護サービス」熟読
14	子ども家庭福祉の現状と課題(6) — ひとり親家庭福祉 —	授業資料14 授業資料完成	予習：「ひとり親家庭福祉」熟読 復習：「9～14のまとめ」レポート作成
15	子ども家庭福祉援助活動 — 子ども家庭福祉援助活動と保育及び相談援助 —	授業資料15 授業資料完成	予習：「子ども家庭福祉援助活動」熟読
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 A・K : 期末試験 (70点満点)。

目標 A・C・J・K : レポート (3回) は30 (各10) 点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。

目標 A・C・J・K : その他 授業内容に関して、質問や意見を積極的に述べる学生には加点する。

100点を越えたものは一律100点とし、ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。

【教科書】 書名：最新・保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉

著者名：柏女霊峰 ほか

発行所：社会福祉法人 全国社会福祉協議会

価格：2,000円 (税別)

【その他補足事項】

期末試験の際には、授業配布資料のみ持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。

授業配布資料は、授業内容及び必要事項を書き込み、授業中または授業後に完成させ試験に臨むこと

授業科目名	発達心理学		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：梅宮 れいか		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		日本学校心理士会福島支部会長（平成30年6月～） 日本臨床発達心理士会研修委員（平成27年～）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学大学院文学研究科博士課程（文学修士） 健康医学会、健康心理学会 学校心理士スーパーバイザー（学校心理士資格認定機構）、臨床発達心理士 スーパーバイザー（臨床発達心理士資格運営機構）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは毎週火曜日午後、宮代キャンパス研究室		

【授業の概要】 本授業は、第Ⅰ部として発達全般に関する基礎知識（発達の定義、人間発達の特異性、発達を規定する要因や相互作用、初期経験や社会的・文化的背景、子ども観・保育観の変遷、主な発達理論、胎児期から老人期までの発達特徴や発達課題）、第Ⅱ部として、乳幼児期・児童期を中心とした身体・運動の発達、認知の発達、言語の発達、社会性の発達、感情の発達、発達障害等について、具体的な事実や現象を例にあげながら解説していきます。 予習では必ずテーマを解決し、そのつどレビューを授業開始時に提出してもらいます。レビューを作るのに、2～3時間程度の時間を想定しています。授業冒頭で提出されたレビューを担当教員が概読、質問に答えるとともに、冒頭のディスカッションの材料とします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
①	子どもの心身の発達に対する主な要因とその相互作用について理解する。		目標	A
②	発達に関する代表的理論を理解する。		目標	A
③	発達の概念、保育・教育に関する発達理解の意義について理解する。		目標	A
④	乳幼児期から青年期の各時期について、運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解する。		目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 発達の定義、生涯発達、発達の原理、発達のメカニズム	授業の進め方の説明をします。	必ずB5版以上のノートを持参してください。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	人間発達の特異性 (生理的早産)	予習のレビューで、有用なものをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。 DVD「生命」 20分	予習：レビューテーマ：極低出生体重児とは 400字
3	発達を規定する要因1 (遺伝的要因と環境的要因)	予習レビューの授業導入活用 DVD「双子の科学」 17分	予習：レビューテーマ：アダルトチャイルド (AC) について 400字
4	発達を規定する要因2 (相互作用の考え方)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：双子コーデについて 400字
5	初期経験と子どもの発達	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：母性について 400字
6	子どもの発達と社会・文化的背景	予習レビューの授業導入活用 DVD「トロブリアンド諸島のクラ交換」 23分	予習：レビューテーマ：通過儀礼について 400字
7	子ども観・保育観の変遷1 (ヨーロッパにおける子ども観と代表的な保育観)	予習レビューの授業導入活用 DVD「ベスタロッチ幼稚園」 23分	予習：レビューテーマ：ベラスケス「ラス・メニーナス」を説明し、中央の人物の考えていることを推測せよ 400字
8	子ども観・保育観の変遷2 (日本における子ども観、現代における子どもの姿)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：昭和の子どもと平成の子どもの違い 400字
9	発達理論の理解1 (ピアジェ、ヴィゴツキー等)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：思考発達段階説について 400字
10	発達理論の理解2 (フロイト、エリクソン、ワロン等)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ：アイデンティティについて 400字
11	胎児期 (胎児の身体・運動発達、胎児期の感覚機能の発達、母胎の影響)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃんの科学」 15分	予習：レビューテーマ：喫煙と肥満の関係について 400字
12	新生児期1 (新生児の生活と行動、新生児の知覚と能力)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃんの科学」 13分	予習：レビューテーマ：最古の記憶は何か？ 400字
13	新生児期2 (新生児期の環境と養育者の及ぼす影響)	予習レビューの授業導入活用 DVD「お母さんの危機」 18分	予習：レビューテーマ：アヴェロンの野生児について 400字
14	乳幼児期1 (乳幼児の発達課題、脳の発達)	予習レビューの授業導入活用 DVD「赤ちゃん成長の道のり」 13分	予習：レビューテーマ：三位一体脳は本当か？うそか？ 400字
15	乳幼児期2 (基本的生活習慣の確立、こころの芽生えと知的発達)、まとめ(1)	予習レビューの授業導入活用 DVD「子どもの世界」 14分	予習：レビューテーマ：子どもの目線とは？ 400字
期末試験	到達目標を評価するため、それぞれ論述題4問で行います	自筆ノート持込可	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	児童期（発達課題、発達の特徴、小1 プロブレム、自己理解、対人関係の発達）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： 幼少接続について 400字
17	青年期（青年期の始期と終期、特徴と発達課題、第二反抗期、自我同一性）	予習レビューの授業導入活用 DVD「OZ」 52分	予習：レビューテーマ： 自分を自分と証明せよ
18	成人期・老人期（成人期の特徴と発達課題、老人期の特徴と発達課題）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： 若返りについて
19	身体・運動の発達1 （身体発達の特徴、運動発達の分類と方向性、移動運動の発達）	予習レビューの導入活用 ゲストスピーカー	予習：レビューテーマ： 運動嫌いについて 400字
20	身体・運動の発達2 （バランス運動、協調運動、幼児期・児童期の運動発達の様相）	予習レビューの導入活用 ゲストスピーカー	予習：レビューテーマ： 不器用について 400字
21	認知の発達1（乳幼児期の特徴、随伴性の理解、表象の形成）	予習レビューの授業導入活用 DVD「刑事コロンボ」 40分	予習：レビューテーマ： 認知症と介護者の表情 400字
22	認知の発達2（保存の概念、心の理論、児童期の特徴）	予習レビューの授業導入活用 DVD「僕のばら色の人生」 43分	予習：レビューテーマ： LGBTについて 400字
23	言語の発達1（前言語的コミュニケーション、母親語と育児語、音声の獲得、3項関係、表象機能）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： 親はなぜ幼児語で話しかけるのか？ 400字
24	言語の発達2（言語的コミュニケーション、一語文の成立、二語文と多語文、読み書きの発達）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習 DVD「スターゲート」 46分	予習：レビューテーマ： 絵本はなぜ有効か？ 400字
25	社会性の発達1（人とのかかわり、社会化、親子関係、仲間関係）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： ヤン・ステーン「大人が歌え ば子供が笛吹く」解釈 400字
26	社会性の発達2（遊びと発達、自己意識と対人関係）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： ブリューゲル「子供の遊 戯」社会性からの解釈 400字
27	感情の発達 （感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会文化の中での感情発達）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： いやいや期とは？ 400字
28	発達障害の理解 （発達障害の概念、発達障害の子どもの特徴、保育者としての対応）	予習レビューの授業導入活用 DVD「きみがおしえてく れたこと」 40分	予習：レビューテーマ： 空気が読めないことにつ いて 400字
29	子どもの発達の理解の方法（アセスメント、発達検査、行動観察）	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： 臨床発達心理学における アセスメントの意義 400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	子どもの支援（遊び、仲間関係、コミュニケーション）、まとめ(2)	予習レビューの授業導入活用 図書館での調べもの学習	予習：レビューテーマ： 孤立している子どもへの 声かけを考えよ 400字
期末 試験	到達目標を評価するため、それぞれ論述題4問で行います	自筆ノート持込可	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A：中間・期末試験（到達目標各25点、計200／4＝50点満点）、レビュー100／2＝50点満点、総計100点満点で評価。ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
【教科書】 書名：発達心理学 著者名：本郷一夫 編著 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			
【参考書】 書名：保育の心理学Ⅰ、Ⅱ 著者名：本郷一夫 編著 発行所：建帛社 価格：2,200円（税別）		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（5冊） 2 本人購入（0冊）	

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：湯田厚子		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県公立小中学校養護教諭（S53年4月～H30年4月） 福島県スクールカウンセラー（H30年4月～現在）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県養護教諭部会会長（H23・24） 全国養護教諭連絡協議会副会長（H27・28）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻修士課程修了修士（教育学） 養護教諭、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、日本学校心理士会、日本LD学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 この授業においては、幼稚園教諭や保育士に求められる子どもの命を守り、健やかな育ちを支えるために必要な資質としての、子どもの心身の健康と安全、成長発達に関する知識や技術を学びます。また、子どもの疾病の特徴や予防、適切な対応についても学びます。授業テーマに沿った講義を進めるだけでなく、授業テーマごとに、現代の保育の現状や実際に起こっている課題等について学生に提示し、グループディスカッションや意見発表等を取り入れて、より良い保健活動の在り方について考えを深めていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの健康を捉えるための基盤となる知識として健康とは何かについて理解し、述べることができる。			目標	A
子どもの発育発達の実態を理解するとともに、疾病の予防とその適切な対応の仕方について理解し、述べるができる。			目標	B・K
子どもの安全管理の在り方や具体的な安全対策、応急処置について理解し、述べるができる。			目標	B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1 (1) 「講義ノート」づくり (2) 授業の概要と目標 (3) 授業内容と評価の方法 (4) その他	シラバス	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	子どもの健康と保健の意義 1 健康の概念とヘルスプロモーション	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (WHO憲章について調べてくる)
3	子どもの健康と保健の意義 2 地域における保健活動と児童虐待防止	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (虐待事例について調べてくる)
4	子どもの発育・発達と保健 1 生物としてのヒトの成り立ち	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (自分の母子手帳を見て、自分の誕生までの様子を知る)
5	子どもの発育・発達と保健 2 身体発育・生理機能運動機能の発達	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
6	子どもの疾病と保育 1 健康状態の把握	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (健康状態の把握の方法について調べてくる)
7	子どもの疾病と保育 2 疾病の理解と適切な対応①	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
8	子どもの疾病と保育 3 疾病の理解と適切な対応②	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
9	子どもの疾病と保育 4 疾病の予防と適切な教育的援助①	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
10	子どもの疾病と保育 5 疾病の予防と適切な教育的援助②	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
11	子どもの精神保健 1 子どものこころの健康	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どものメンタルヘルスの課題について調べてくる)
12	子どもの精神保健 2 障害を持つ子どもへの適切な対応	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
13	環境及び衛生管理並びに安全管理 1 子どもの事故やけがに対する応急処置・救命処置	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どもの事故の事例について調べてくる)
14	健康及び安全の実施体制 1 保育現場における危機管理と安全対策	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
15	健康及び安全の実施体制 2 家庭・専門機関・地域との連携 まとめ	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
期末試験	前期末試験		

<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験40点 ノート10点 小レポート10点 目標B・K：実技演習20点 ディスカッション発言など積極的講義参加20点 ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。</p>	
<p>【教科書】 書名：イラストで学ぼう！子どものケガ・病気・感染症 著者名：朴賢晶・鈴木陽子・赤塚徳子 発行所：芽ばえ社 価格：1,400円（税別）</p>	
<p>【参考書】 書名：保育所保育指針<平成29年度告示> 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）</p> <p>書名：幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）</p> <p>書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（1冊）</p>
<p>【その他補足事項】 「講義ノート」として使用するのので、A4サイズのノート（30ページ程度）1冊を購入し第1回講義時に必ず持参すること。指定した【参考書】は毎時間持参するのが望ましい。</p>	

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡辺博志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事(平成15年4月～平成17年4月) 福島大学総合教育研究センター准教授・教授(平成19年4月～平成25年3月)			
社会貢献としての委員会・職等	川俣町学校教育あり方検討委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員会委員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島大学教育学部卒業 学士(教育学) 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状(国語)、日本カリキュラム学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは金曜日午前宮代キャンパス研究室で行います。			

【授業の概要】 認定こども園、幼稚園、保育所及び連節する小学校低学年で行われている保育・教育活動は、国の意図的、計画的な仕事として行われていることを理解できるようにする。国はその目的を達成するため保育・教育活動の基準として幼稚園教育要領、保育指針、学校指導要領を公示し、充実した保育・教育の具現に努めていること、また各幼稚園、保育所では、地域や子どもの実態を踏まえた保育・教育活動を行うため、最適な教育課程を編成し、特色ある保育・教育を推進していることなどをとらえることができるようにする。 さらに教育課程編成の必要性、指導計画や保育・指導案の作成についても具体事例などをもとに考察するとともに、計画作成の作業に取り組むことができるようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育課程の意義や必要性及び法的根拠や編成手順・方法についての基本的知識を身につける	目標	A		
保育・教育のための指導計画案を作成する	目標	D		
効果的で質の高い教育課程編成のあり方・実施方法、カリキュラム・マネジメントの基本的な方法を身につける	目標	B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業ガイダンス ・幼児教育・保育の基本とカリキュラム — カリキュラムの考え方と展望 —	授業の進め方、資料活用、評価、ミニレポート作成について説明する。 ・パワーポイント資料 ・プリント資料 ・ペア・グループ討議	事前配布する資料の授業テーマキーワードについて予習し、ミニレポートに整理する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	目的・計画的な営み ・教育課程の意義と必要性 ・目的と計画性のある教育と保育	教科書・プリント教材 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート1
3	「保育」「教育」の仕事…意図的・計画的にすすめるために ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「こども園教育・保育要領」の基準性と必要性	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート2
4	教育課程の編成の原則と手順 ・法的根拠 ・ビジョンの構成〈理念、方針、目標〉 ・指導計画	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート3
5	保育課程の編成と原則 ・法的根拠 ・保育のねらい、内容と保育課程の編成 ・「一体化」の意味と具体	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート4
6	保育内容と子どもの活動 ・教育・保育課程と計画性、発展 ・教育・保育課程の具体事例研究	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート5
7	意図的・計画的に保育・教育を行うための「計画」の必要性 ・長期の指導計画 ・年間指導計画 ・月指導計画 ・期の指導計画	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート6
8	短期の指導計画：日案（日の計画）の作成(1) ・生活と保育のデザイン ・日案作成の基本と諸要素 試案「部分案」の作成	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 「部分案の作成」
9	日案（日の計画）の作成(2) ・「ねらい」の具体化と環境構成 ・日案の具体事例研究 ・総合的指導の構想と具体化 ・試案「一日案」の作成	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 「1日案の作成」
10	週案の必要性と週案を作成(1) ・週案作成の基本と子どもの生活リズム ・週案と日案の共通点、相違点 ・週案の具体事例研究	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 週案の具体事例について解説文作成
11	週案の作成(2) ・園行事や環境構成を生かした週計画 ・記録と省察 ・試案「週案」の作成とグループ検討	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 週案作成
12	「評価」とカリキュラム・マネジメント（PDCAサイクル） ・PDCAサイクル、反省・評価の方法、記録の意義・方法	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート7
13	保育・教育の「連携」と子どもの育ち ・幼稚園教育要領と外部の教育資源 ・地域の物的環境・人的環境 ・地域との連携事例研究 —— その効果と成果（聞き取り調査発表）	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 学修ミニレポート8
14	さまざまな教育・保育課程のデザインと実践展開 ・特色ある教育・保育活動の実際・保幼小の連携 ・預かり保育、延長保育	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習 「私の幼稚園」ビジョン等作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	私たちの考える理想の〇〇園 ・園の保育・教育ビジョン ・特色ある教育環境 教育・保育活動 ・プレゼンテーションと冊子作り (完成)	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プレゼン資料作成
期末 試験	後期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に不達する到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 目標A：期末試験60点 2. 目標D：「指導案」「授業テーマに関する学修ミニレポート」30点 学修ミニレポートは、予習課題、振り返り課題、追究課題を設定。 3. 目標B：授業への参加態度（討議、発言、質問、提案など）10点			
【教科書】 書 名：指導計画の作成と保育の展開 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価 格：250円（税別）			
【参考書】 書 名：教育課程の理論 保育におけるカリキュラム・デザイン 著者名：磯部裕子 発行所：萌文書林 価 格：1,800円（税別） 書 名：就学前教育の計画を学ぶ 著者名：松村和子 近藤幹生 椛島香代 発行所：ななみ書房 価 格：2,000円（税別）		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（2冊） 2 本人購入（0冊）	
【その他補足事項】 1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくする。 2. 授業のはじめにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深める。 3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。			

授業科目名	音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名： 講師	開講期		通年
	ふりがな なが お じゅんいちろう 氏名： 長 尾 順 一 郎	授業回数		30回
		期末試験の有無		有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県公立幼稚園長 (平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月) 福島県国公立幼稚園長会会長(平成25年4月～平成26年3月) 福島県音楽教育研究会長(平成24年4月～平成25年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許(理科)、 中学校教諭二種免許(音楽)		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 音楽の表現や聴く活動を通して、音楽を愛好し、音楽に対する感性を育みながら、豊かな情操を養うとともに、幼児の楽しい音楽活動を指導できる人材の育成を目標とする。 そのために、わらべうたや手遊び歌を伸び伸びと歌ったり、身体や身近な打楽器を使ったリズム遊び、簡単なふし遊び、手話を使った歌唱、手作り楽器での音楽表現など、幅広い学習内容を幼児の発達段階に即した活動に置き換え、指導の工夫や活動の在り方を探りながら音楽学習を展開する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
音楽の多様性を理解し、様々な音楽活動に意欲をもって参加することを通して、音楽に対する感性を育て、音楽活動の基礎的な能力を身に付ける。			目標	B・E・F
歌や手遊び、楽器などで音楽を楽しく表現するとともに、音楽で物語を創って発表する。			目標	B・E・F・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ○授業概要・目標、評価方法 ○音楽で自己紹介 ○グループ分け	授業計画 講義 演習：自己紹介	1年間を通じた授業内容の把握

2	手話を使っての音楽表現 ◦手話の必要性 ◦手話で表現（手話で挨拶及び手話を付けた歌）	講義 演習（手話の基本）	手話についてのプリントを読んで予習
3	わらべうたで遊ぶ(1) ◦知っているわらべうたを歌う	講義 演習（わらべうた）	示されたわらべうたの遊び方を予習
4	わらべうたで遊ぶ(2) ◦わらべうたに動きを付けて遊ぶ	講義 演習（わらべうた）	わらべうたの遊び方についての工夫
5	わらべうたで遊ぶ(3) ◦わらべうたに伴奏を付けて歌う ◦レポート提出①	講義 演習（わらべうた）	わらべうたの遊び方についての工夫
6	リズム遊び(1) ◦手拍子や体を使ってリズムを表現する	講義 演習（リズム遊び）	リズム遊びの予習
7	リズム遊び(2) ◦リズムの模倣やリズムのリレーで、楽しくリズム遊びをする	講義 演習（リズム遊び）	リズム遊びの工夫を予習
8	リズム遊び(3) ◦リズム問答やリズムを使った即興的な表現を楽しむ ◦小テスト①	講義 演習（即興的表現）	即興的な表現の予習
9	ふし遊び(1) ◦歌で楽しくふし問答をする	講義 演習（ふし問答）	ふし遊びに関する予習
10	ふし遊び(2) ◦楽器でふし問答や即興的なふし遊びをする	講義 演習（楽器で表現）	楽器を使って即興的に表現することの予習
11	ふし遊び(3) ◦グループでまとまりのあるふしづくりをする	講義 演習（ふしづくり）	ふしづくりに関する予習
12	楽器を使って表現(1) ◦グループで相談し、身近な楽器を使って簡単なアンサンブル表現を計画する	講義 演習（アンサンブル表現①）	発表するアンサンブルの内容について確認
13	楽器を使って表現(2) ◦グループで協力し、身近な楽器を使って簡単な楽曲をアンサンブルで表現する	講義 演習（アンサンブル表現②）	アンサンブルの担当パートを予習
14	楽器を使って表現(3) ◦グループごとに身近な楽器を使ったアンサンブルを仕上げる	講義 演習（アンサンブル表現③）	アンサンブルの担当パートを予習
15	ミニ発表会 ◦前期に学んだ内容を踏まえ、グループで練習した成果をアンサンブルとしてまとめる ◦小テスト②	講義 演習（発表会）	発表会で演奏するパートの練習
期末試験	期末試験		
16	手作り楽器(1) ◦身近にある材料を使い、手作り楽器を作って表現する	講義 演習（手作り楽器）	手作り楽器の内容を通読し予習
17	手作り楽器(2) ◦手作りで「カズー」を制作し楽しく音楽表現をする	講義 演習（カズー作り）	カズーに関する内容を読んで把握
18	手作り楽器(3) ◦手作りで「マラカス」や「風船太鼓」を作り音楽表現をする	講義 演習（マラカス等）	マラカス、風船太鼓の作り方を通読

19	生活に関連した歌 ◦日常生活や子どもに関連した歌を聴いたり歌ったりする	講義 演習 (唱歌・童謡)	唱歌や童謡に関するプリントを通読
20	季節に関連した歌 ◦季節に関連した歌の中から好きな歌を選んで歌う ◦小テスト③	講義 演習 (季節の歌)	季節の歌をいつでもどこでも歌えるよう復習
21	音楽で物語をつくる(1) ◦リメイクした昔話にふさわしい音楽を創作する	講義 演習 (日本昔話)	音楽で物語を表現するための手法を予習
22	音楽で物語をつくる(2) ◦昔話を基にグループでリメイクし簡単な音楽劇を構成する	講義 演習 (音楽劇制作①)	音楽劇に関する内容を通読
23	音楽で物語をつくる(3) ◦リメイクした音楽劇に磨きを掛けよりよいものにする	講義 演習 (音楽劇制作②)	音楽劇に関する内容を通読
24	音楽で物語をつくる(4) ◦リメイクした音楽劇を発表する ◦レポート提出②	講義 演習 (音楽劇制作③)	音楽劇の発表に関する予習
25	手遊びの歌を歌う(1) ◦手遊びの歌を探してグループで歌う	講義 演習 (手遊び①)	手遊び①のプリントで予習
26	手遊びの歌を歌う(2) ◦手遊びの歌を発表する	講義 演習 (手遊び②)	手遊び②のプリントで予習
27	手遊びの歌を歌う(3) ◦手遊びの歌を創作する	講義 演習 (手遊び③)	手遊び③のプリントで予習
28	手遊びの歌を歌う(4) ◦創作をした手遊びの歌を発表する	講義 演習 (手遊び④)	手遊び④のプリントで予習
29	音楽発表会リハーサル(1) ◦1年間学んだ内容を踏まえグループで音楽表現としてまとめる	講義 演習 (音楽会練習)	発表会に対する意識を高めて役割分担を予習
30	音楽発表会リハーサル(2) ◦1年間学んだ内容を踏まえグループで音楽表現としてまとめる	講義 演習 (音楽会練習)	発表会に対する意識を高めて役割分担を予習
期末 試験	音楽発表会 ◦グループで練習した成果を発表する ◦レポート提出③	講義 演習：音楽発表会	各自の役割分担を予習
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】</p> <p>目標B・E・F・G：音楽発表会 20点 目標B：小テスト 30点 (3回×10点) 目標B・E・F：レポート 30点 (3回×10点) 目標B・G：授業態度 20点 (授業への積極的な参加態度及び音楽活動への意欲的な取り組み等)</p>			
<p>【教科書】 書名：「子どものうた 100」 著者名：小林美実 監修 井戸和秀編 発行所：チャイルド社 価格：1,600円(税別)</p>			

授業科目名	図 画 工 作		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：古 畑 雅 規 ふる はた まさ のり		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業 芸術学士 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子供の造形活動に伴う様々な素材、画材、道具等の基礎知識とその具体的な制作活動等について学んでいく。造形活動に関する素材、道具の活用を子供の目線・使用を前提に展開をする。具体的には絵具や色鉛筆を使った絵画作品の制作、立体では粘土などを使い、人物や動物の一部または全体像の制作を学び、子どもの造形活動支援の実際を学んでいく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼稚園・小学校における図画工作について学ぶことをテーマとして、次の各点について受講者一人ひとりが身につけていくことを到達目標とする。				
(1) 作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	A・B		
(2) さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	B・F		
(3) 意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業内容と計画の説明 (1)授業の概要と目標 (2)授業内容と評価方法 (3)本科目の留意点など	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	動植物を図形化して描く ～絵画やデザインの基礎	イラストボード・定規などで図形を描くための準備	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
3	動植物を図形化して描く ～様々な図形	定規やコンパスの使用方を学びながら正確に描けるようにする	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
4	動植物を図形化して描く ～図形としてのバランス	図形を完成させる	空き時間などを使って制作を進める
5	完成させた図形に着色 ～絵具の使い方	色相環を使いポスターカラーで着色する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
6	図形に着色 ～混色の技法	色相環を使いポスターカラーで着色する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
7	図形に着色 ～色(明度)の効果	色相環を使いポスターカラーで着色する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
8	図形に着色 ～色(彩度)の効果	色相環を使いポスターカラーで着色して完成させる	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
9	鉛筆デッサン ～鉛筆の特性	アイディアノートを使い描く対象を考える	鉛筆での絵画作品を調べる
10	鉛筆デッサン ～絵画の構図	決めた対象物のデッサン	鉛筆での絵画作品を調べる
11	鉛筆デッサン ～陰影による立体感	全体のバランスを考える	鉛筆での絵画作品を調べる
12	錯視図形を描く ～錯視の効果	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
13	錯視図形を描く ～形のデフォルメ	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
14	錯視図形を描く ～形のデフォルメ	定規・コンパスなどを使い実際に平面で表現された錯視図を描く	錯視にはどんなものがあるのか調べる
15	前期のまとめ	これまでの作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
16	人物の立体制作 ～人物を制作する意味	板・アルミ箔・樹脂粘土などを使いオブジェを乗せるための土台づくり	空き時間を使って制作を進める
17	人物の立体制作 ～人物の骨格	アルミ箔・樹脂粘土などを使い動物の基礎の形づくり	空き時間を使って制作を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	人物の立体制作 ～人物像の形のバランス	アルミ箔・樹脂粘土などを使い肉付けする	空き時間を使って制作を進める
19	人物の立体制作 ～背景の意味	アルミ箔・樹脂粘土などを使い背景も同時に制作する	空き時間を使って制作を進める
20	人物の立体制作 ～全体のバランス	樹脂粘土を使い細部に手を加え完成させる	空き時間を使って制作を進める
21	人物の立体制作 ～絵具の使い方	アクリル絵具などを使いおおまかに着彩	空き時間を使って制作を進める
22	人物の立体制作 ～絵具によるグラデーション	アクリル絵具などを使いグラデーションをとり入れて着彩	空き時間を使って制作を進める
23	人物の立体制作 ～全体のバランス	アクリル絵具などを使い全体のバランスを整え仕上げ。ニスを塗り完成	空き時間を使って制作を進める
24	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	色鉛筆を使うための絵画を鉛筆で描く	身近にある物の色の観察をする
25	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	グラデーションなどによる着彩	身近にある物の色の観察をする
26	色鉛筆の技法 ～色鉛筆の技法	全体のバランスを整え完成させる	身近にある物の色の観察をする
27	遠近法の学習 ～一点透視図法	鉛筆で遠近法による風景を描く	普段の生活の中で遠近法の観察をする
28	遠近法の学習 ～一点透視図法	鉛筆で遠近法による風景を描く	普段の生活の中で遠近法の観察をする
29	遠近法の学習 ～一点透視図法	色鉛筆で着彩して完成させる	普段の生活の中で遠近法の観察をする
30	後期のまとめ	通年を通しての作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B・F：作品評価 70点（6作品の技術力、表現力など総合で評価） 目標F：授業態度 20点（授業への意欲、質疑応答の内容などで評価） 目標A：期末試験 10点（ペーパー試験）			
【教科書】 教科書は使用しない。 その都度資料を配布する。			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・材料費として1,800円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授業科目名	保育内容総論		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		認可保育園保育士（昭和58年～平成21年）（内副園長歴6年間）		
社会貢献としての委員会・職等		国見町こども・子育て支援推進協議会委員（平成28年～現在） 福島県保育士・保育所支援センター「保育士再就職支援セミナー」 講師（平成26年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院こども心理専攻修士課程修了、修士（こども心理） 保育士資格・幼稚園教諭一種免許状、日本保育学会、日本応用心理学会、日本小児学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 1、保育内容を総合的に捉える視点を養い、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容を中心に、保育の基本・指導の在り方、各領域の捉え方を理解し、総合的に指導することの重要性について学ぶ。 2、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達過程を見通した指導計画作成を理解する。 3、模擬保育を通し、各年齢別の指導方法を具体的に理解し実践力を培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園、保育所の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を学び、総合的指導法について理解する。			目標	A・B
保育内容の歴史的変遷や「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育、保育要領」の基本を理解し、保育内容を総合的に捉える視点を獲得する。			目標	J・K
子どもの生活全体を通して、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と養護（生命の保持、情緒の安定）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。			目標	B・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容総論の概要・本講義のガイダンス	教科書 プリント資料1	教科書の復習10～19
2	幼稚園の役割と幼稚園教育要領の基礎理解①	*授業開始時に復習内容のグループディスカッションを行う(5分間)。教材DVD視聴【子どもを育む保育の環境～3歳以上児を中心に】20分 教科書 プリント資料2	DVD視聴の内容をプリント資料2にまとめる(復習)
3	幼稚園の役割と幼稚園教育要領の基礎理解②	*DVD【子どもを育む保育の環境・3歳以上】の復習内容の確認(5分間) 教科書 プリント資料3	幼稚園の役割と幼稚園教育要領教科書20～37を復習しプリント資料3にまとめる
4	保育所の役割と保育所保育指針の基礎理解①	*プリント資料3の確認 教材DVD視聴【子どもを育む保育の環境～3歳未満児を中心に】20分 プリント資料4	保育所の役割と保育所保育指針 教科書復習20～37 DVD視聴の内容をプリント資料4にまとめる(復習)
5	保育所の役割と保育所保育指針の基礎理解②	*DVD【子どもを育む保育の環境・3歳未満】の復習内容の確認(5分間) プリント資料5	保育所の役割と保育所保育指針 教科書復習20～37
6	教育課程・保育課程(全体的な計画)と保育内容5領域の考え方	*前回の復習内容【保育所の役割と保育所保育指針】のミニテスト(5分間) 教科書 プリント資料6	レポート①教育課程・保育課程(全体的な計画)と保育内容5領域の考え方 教科書復習47～62
7	領域「健康」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【教科書47～62】の確認 教科書 プリント資料7	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 の復習
8	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の健康を中心に確認 教科書 プリント資料8	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 の復習
9	領域「環境」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の人間関係を中心に確認 教科書 プリント資料9	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	領域「言葉」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の環境を中心に確認 教科書 プリント資料10	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 の復習
11	領域「表現」のねらい及び内容の基礎理論と遊びを通した指導方法	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の言葉を中心に確認 教科書 プリント資料11	保育所保育指針 第2章 幼稚園教育要領 第2章 の復習
12	指導計画作成における基本的な考え方(1)	*前回の復習内容【保育所保育指針・幼稚園教育要領】の表現を中心に確認 教科書 プリント資料12	指導計画作成における基本的な考え方復習 教科書63～96
13	指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)	*指導計画作成における基本的な考え方の復習 教科書 プリント資料13	指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)の復習 教科書63～96
14	指導計画作成における具体的な手順とポイント(3)	*指導計画作成における具体的な手順とポイント(2)(復習内容の確認) 教科書 プリント資料14	指導計画作成における具体的な手順とポイント(3)の復習 教科書63～96
15	指導計画の作成と保育の実際(0、1、2歳児の保育方法)画像やグラフを取り入れた指導案の立案(情報の著作権の遵守を含む)	DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境0、1、2歳児～ 20分 プリント資料15 ※グループ演習	グループ演習で立案した指導計画案の復習
期末試験	前期期末試験		
16	指導計画の作成と保育の実際(3歳児の遊びの指導方法)画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	*指導計画案のプレゼンテーション DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境3歳児～ 20分 プリント資料16 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際(3歳児の遊びの指導方法) 教科書復習 85～86・97～112
17	指導計画の作成と保育の実際(4歳児の遊びの指導方法)画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	*指導計画案のプレゼンテーション DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境4歳児～ 20分 プリント資料17 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際(4歳児の遊びの指導方法) 教科書復習 85～96・97～112

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	指導計画の作成と保育の実際（5歳児の遊びの指導方法） 画像やグラフ、イラストを取り入れた指導案を他グループへプレゼンしてみる	* 4歳児の遊びの指導方法の確認 DVD「乳幼児の発達と保育」～こころとからだを育てるあそびの環境5歳児～ 20分 プリント資料18 教科書 ※グループ演習	指導計画の作成と保育の実際（5歳児の遊びの指導方法） レポート② 教科書復習 85～96・97～112
19	模擬保育①（0、1、2歳児）	* 5歳児の遊びの指導方法の確認 教科書 プリント資料19	模擬保育①の振り返り 教科書復習63～84
20	模擬保育②（0、1、2歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料20	模擬保育②の振り返り 教科書復習63～84
21	模擬保育③（3歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料21	模擬保育③の振り返り 教科書復習85～96
22	模擬保育④（4歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料22	模擬保育④の振り返り 教科書復習85～96
23	模擬保育⑤（5歳児）	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料23	模擬保育⑤の振り返り 教科書復習85～96
24	模擬保育の観察から保育記録の作成への取り組み①	* 模擬保育の振り返りの発表(グループワーク) 教科書 プリント資料24	レポート③ 【模擬保育からの学び】
25	模擬保育の観察から保育記録の作成への取り組み②	* 模擬保育からの学び(グループワーク) 教科書 プリント資料25	保育記録の作成プリントの復習
26	保育の展開方法（行事への取り組みを通しての指導法 運動会）	* 保育記録の作成プリントの確認 教科書 プリント資料26	行事への取り組みを通しての指導法「運動会プリント資料の復習」
27	保育の展開方法（日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法 節分豆まき会）	* プリント資料26の確認 教科書 プリント資料27	日本の伝統行事への取り組みを通しての指導法「節分豆まき会プリント資料の復習」
28	保育指導における教材研究について	* 節分豆まき会プリント資料の確認 教科書 プリント資料28	保育指導における教材研究について「プリント資料の復習」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	保育所および幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続について	*復習内容【小学校教育の円滑な接続】ミニテスト 教科書 プリント資料29	保育所および幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続 教科書復習97～112
30	保育内容総論のまとめ	教科書 プリント資料30	保育内容総論のまとめ 【プリント1～30中心に】
期末試験	後期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験 70% 目標J・K：レポート 30%（3回×各10点）			
【教科書】 書名：実践を創造する 演習「保育内容総論」 著者名：豊田和子 発行所：株式会社みらい 価格：2,000円（税別） 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針、保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書		【参考書】 最新保育資料集（子どもと保育総合研究所）	

授業科目名	ピアノ演習Ⅰ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政 やまざきのぶまさ	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル等の練習曲の中から35曲程度抜粋した曲を主な教材とし、それらの曲を正確なリズム、音で弾くこと、感性豊かに弾けることを目標とする。また、保育現場において、子どもたちとともに表情豊かに歌えるような応用力を身に付ける。授業内容は、課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方法により展開していく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を修得する。	目標	B		
バイエル・幼児の歌曲等様々なピアノ曲を通してピアノ表現に親しみ、幅広い行弦力を養う。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、評価方法 ピアノ個室の利用方法 課題曲面談と課題曲の選定	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
3	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
4	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
5	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
6	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
7	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
8	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
9	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
10	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
11	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
12	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
13	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
14	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
15	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末 試験	前期末試験		
16	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
17	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
18	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
19	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
21	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
22	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
23	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
24	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
25	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
26	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
27	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
28	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
29	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
30	各自の課題曲の個別レッスン	課題曲の楽譜 到達度チェックシート	課題曲を各自レッスンしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標B・Fについて下記の通り、100点満点で評価する。 60～69点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力を加味して採点する。 70～79点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、高度な演奏技術を加味して採点する。 90点以上 課題曲35曲を完成する。曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。			
【教科書】 書名：標準バイエルピアノ教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別）			
【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。			

授業科目名	ピアノ演習 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 氏名：ミハウ・ソブコヴィアク	開講期	通年	
		授業回数	30回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	平成7年6月	フランツ・リスト国際ピアノコンクール（ポーランド共和国）ヴロツワフ・プレスセンター賞受賞		
	平成8年6月	ヤマハ音楽振興会主催コンサート「パー・ピアノフォルテ」（ポーランド共和国）優勝		
	平成29年2月	第8回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 最優秀指導者賞受賞		
	平成30年2月	第9回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 最優秀指導者賞受賞		
社会貢献としての委員会・職等	一般社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員、ショパン国際ピアノコンクール in Asia審査員、ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan審査員長			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	ショパン音楽院ピアノ、チェンバロ、オルガン科（ポーランド共和国）修了（学術修士）※平成20年大学名変更、現在ショパン音楽大学一般社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 幼児の歌曲、バイエル、ツェルニー30番、ブルグミュラー25番、ソナチネアルバム I、ソナタ、ショパンエチュードの中から中級者は42曲、上級者は50曲程度を抜粋した曲を主な教材とし、正確なリズム、音で弾くこと、感性豊かに弾けることを目標とする。また、保育現場において、子どもたちとともに表情豊かに歌えるような応用力を身に付ける。授業内容は、習熟度別に課題曲の個別レッスンと曲ごとの確認テストを含む方式により展開していく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育・保育の現場で必要となる、ピアノの基礎技能を習得する。	目標	B		
幼児曲・歌曲も含め、ポップス、クラシック、ジャズなど様々なピアノ表現に親しみ、幅広い表現力を養う。	目標	F		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 授業の進め方 放火方法 レベルの確認 その他(本科目の留意点) 	
2	ピアノの構造について詳しく学ぶ	ピアノの各部の名前を学ぶ。鍵盤を取り出し、ハンマーの動きを確認する。ピアノの蓋を明け、弦の長さや太さを観察する。	課題曲を各自練習しておくこと。
3	ピアノを弾く姿勢について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	上半身の動かし方を中心に学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
4	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	強弱に使われるイタリア語を学ぶ。 ソフトペダルの使い方について学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
5	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	テンポに使われるイタリア語を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
6	楽語について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	表情記号に使われるイタリア語を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
7	ペダリングについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	音が濁らないテクニックを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
8	アーティキュレーションについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	拍子、スラー、スタッカートなど。	課題曲を各自練習しておくこと。
9	フレージングについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	音楽の句読点を、日常の話と共通点を見つけ、学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
10	強弱について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	鍵盤にのせる手の重さによって強弱を変化させることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
11	強弱について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	鍵盤にのせる手の重さによって強弱を変化させることを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
12	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわかる。	課題曲を各自練習しておくこと。
13	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわけ、実際に弾きわけてみる。	課題曲を各自練習しておくこと。
14	タッチについて学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	タッチによる音色の変化を聴きわけ、実際に弾きわかることを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	各自の課題曲の個別レッスン	今まで学んだことを確認し試験にむけ課題曲を仕上げる。	課題曲を各自練習しておくこと。
期末試験	前期末試験	到達度確認のための演奏会	課題曲を各自練習しておくこと。
16	ハーモニーについて学ぶ。 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
17	ハーモニーについて学ぶ。 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
18	ハーモニーについて学ぶ。 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中からハーモニーの変化を感じ取り、演奏することを学ぶことを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
19	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
20	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶことを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
21	標題について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	標題から曲のイメージを感じ取り、演奏につなげることを学ぶことを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
22	時代と音楽様式について学ぶ 各自の課題曲の個別レッスン	時代ごとの曲のスタイルの違いを、演奏を聴かせながら学ぶ。バロック、古典、ロマン派、近現代まで。	課題曲を各自練習しておくこと。
23	曲全体の解釈について学ぶ。 各自の課題曲の個別レッスン	曲の中にある表現の自由さの扱い方を学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
24	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。
25	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
26	クリエイティビティ 各自の課題曲の個別レッスン	課題曲について、創作的なアプローチを深める。	課題曲を各自練習しておくこと。
27	コラボレーション 各自の課題曲の個別レッスン	伴奏について学ぶ。	課題曲を各自練習しておくこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	各自の課題曲の個別レッスン	実際に聴き手がいることを想定し、演奏する。	課題曲を各自練習しておくこと。
29	各自の課題曲の個別レッスン	実際に聴き手がいることを想定し、演奏する。	課題曲を各自練習しておくこと。
30	各自の課題曲の個別レッスン	今まで学んだことを確認し試験にむけ課題曲を仕上げる。	課題曲を各自練習しておくこと。
期末試験	後期末試験	到達度確認のための演奏会	
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に不応する到達度の評価（評価方法・基準）】 目標B・Fについて下記の通り、100点満点で評価する。 <中級者> 60～69点…課題曲42曲（バイエル100番程度・他歌曲を含む）を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲42曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲42曲に加え、ツェルニー30番程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。 <上級者> 60～69点…課題曲50曲に加え、バイエル終了程度（他歌曲も含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力を加味して採点する。 70～79点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番程度（他ソナタも含む）の課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 80～89点…課題曲50曲に加え、ツェルニー30番程度、ブルグミュラー、ソナチネの課題曲を完成する。 曲の表現力、演奏技術を加味して採点する。 90点以上…高度な演奏技能を必要とする楽曲（ソナタ、ショパンエチュード等）を完成する。 曲の表現力、より高度な演奏技術を加味して採点する。</p>			
<p>【教科書】 書名：標準バイエル教則本 発行所：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※その他、歌曲等については担当教員が配布する。 ※バイエル終了レベルの学生については、教科書の購入について別に指示する。</p>			
<p>【その他補足事項】 レベル分けについては担当教員が行う。</p>			

授業科目名	器楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育者の感受性の豊かさは、幼児の音楽表現の質と密接な関係があります。保育者の感受性が多様な音や音楽に対して常に開かれていなければ、幼児の多様な表現に共感することはできません。 そこで、多種多様な楽器に触れ、構造や音色・奏法、歴史的・文化的背景とともに、その奥深さや楽しさ、不思議さなどを感じ取りながら創造的な音楽活動に取り組んでいくことができるように授業を展開します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
多種多様な楽器に触れ、構造や音色、奏法、文化的背景などについて理解する。		目標	A・B	
即興的にふし遊びやリズム遊びをすることができる。		目標	B・F	
リコーダーや身近な打楽器等を用いて楽しく演奏することができる。		目標	B・G	
互いの表現に対するイメージを交流させたり、注意深く演奏を聴き合ったりしながらアンサンブルをすることができる。		目標	B・F・G	
コードネームを理解し、簡単な伴奏をすることができる。		目標	A・B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 評価方法と授業の進め方 これまでの音楽経験 	講義：授業概要等の説明 演習：これまでの音楽経験について記述し、それを基に自己紹介を兼ねて発表する。	年間の授業内容を把握し学修の見直しをもつ
2	カスタネットの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> カスタネットの歴史（教育用カスタネットも含む） カスタネットの基本的な奏法と演奏 拍子木やクラベス、沖縄の三板との比較 	講義：カスタネットの歴史や奏法について 演習：基本的な奏法	予習：カスタネットの基本奏法についてのプリント
3	カスタネットの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> カスタネットの基本的な奏法と演奏 一人の演奏から人数を増やして演奏 	講義：カスタネットによる表現の多様性について 演習：複数のカスタネットによる表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
4	カスタネットの基本的な奏法(3) <ul style="list-style-type: none"> 楽曲に合わせたカスタネットの演奏 カスタネットによるアンサンブル 	演習：楽曲に合わせたカスタネット演奏の映像を視聴し、5つのリズムパターンを演奏できるよう練習する。	復習：授業で演奏したリズムパターンを暗譜で演奏できるようにする。
5	カスタネットの基本的な奏法(4) <ul style="list-style-type: none"> 複数パートによるカスタネットアンサンブル曲を演奏する。 グループごとに発表し、録画をしたり批評し合ったりする。 カスタネットの基本的な奏法 小テスト① 	演習：グループごとにパートの分担を決めて演奏に取り組む。	復習：暗譜できるよう、繰り返し練習する。
6	タンブリンの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> タンブリンの歴史、構造 タンブリンの基本的奏法と演奏 	講義：タンブリンの歴史と構造 演習：タンブリンの基本的奏法	予習：プリントで予習
7	タンブリンの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> タンブリンの基本的な奏法と演奏 皮面とシンバル部分の叩き分けによる演奏 	講義：タンブリンによる表現の多様性について 演習：タンブリンの叩き方の工夫による表現の変化を感じ取る。	予習：同一楽器による音楽的表現の変化をどうつけることができるか。
8	トライアングルの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> トライアングルの構造と基本的奏法 音量変化とリズムの変化について工夫する。 	講義：トライアングルの構造と基本的奏法について 演習：音の変化を工夫する。	復習：音の変化をつける方法を練習する。
9	トライアングルの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> トライアングルによるアンサンブルを創作する。 	講義：カスタネットでの学習を生かしたアンサンブル 演習：グループごとに複数のトライアングルでのアンサンブルを創作する。	予習：グループごとに複数のパートに分けてリズムを考える。
10	身近な打楽器による簡単なアンサンブル <ul style="list-style-type: none"> カスタネット、タンブリン、トライアングルを用いたアンサンブルを楽しむ。 グループごとに発表したり録画をしながら、批評し合う。 タンブリン、トライアングルの基本奏法 小テスト② 	演習：グループごとにテーマを決め、3種類の打楽器によるアンサンブルを創作する。	予習：日常生活を打楽器で表現する構想をもつ。
11	スチールパンの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> スチールパンの歴史と構造、基本的奏法 スチールパンによる音遊び 	講義：スチールパンの歴史と構造、基本的奏法 演習：実際に叩いて音の並びを試し、特徴ある音色を感じ取る。	予習：プリントを基にスチールパンの歴史について概観する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	スチールパンの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> スチールパンが使われている楽曲について スチールパンによる音遊び 	演習：実際に叩いて音の並びを試し、特徴ある音色を感じ取る。	予習：スチールパンによる音遊びについて構想する。
13	リコーダーの基本的な奏法(1) <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの歴史と構造 基本的な演奏法 リコーダー演奏の鑑賞 リコーダー製造の動画を視聴 	講義：リコーダーの歴史、構造、演奏について 演習：これまでの各自のリコーダーに対するイメージを記述し発表したり演奏家の演奏を鑑賞したりする。	予習：プリントによりリコーダーの歴史等について概観する。
14	リコーダーの基本的な奏法(2) <ul style="list-style-type: none"> 構え方、運指 呼吸と息のコントロール 歌口だけによる演奏 	講義：リコーダーの構え方や運指、息のコントロール 演習：鏡を使ったり二人組になってモニターをし合ったりする。	復習：授業内容を基に、リコーダーの構えや息のコントロールを試す。
15	リコーダーの演奏(3) <ul style="list-style-type: none"> ピッチの合わせ方を構造面から理解する。 ロングトーン奏法やタンギング奏法 	演習：ピッチが合っている場合と合わない場合の違いを実際の聴取やチューナーでの計測などで把握する。	予習：チューニング方法についてプリントを基に概観する。
16	リコーダーの演奏(4) <ul style="list-style-type: none"> 様々なアーティキュレーションの違いと奏法を理解する。 サミングと運指 	演習：実際の演奏映像と様々なアーティキュレーションを対応させる。サミングを用いて安定した音が出せるよう練習する。	予習：プリントを基に様々なアーティキュレーションについて概観する。
17	リコーダーの演奏(5) <ul style="list-style-type: none"> 2音だけを用いた即興的なふし遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲に合わせてたりして2音による即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に2音による音遊びについて概観する。
18	リコーダーの演奏(6) <ul style="list-style-type: none"> 3音を用いた即興的なふし遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲に合わせてたりして3音による即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に3音による音遊びについて概観する。
19	リコーダーの演奏(7) <ul style="list-style-type: none"> 短いフレーズを組み合わせた音遊び 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲に合わせてたりして短いフレーズを組み合わせた即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に短いフレーズによる音遊びについて概観する。
20	リコーダーの演奏(8) <ul style="list-style-type: none"> 短いフレーズを組み合わせた音遊び リコーダーの基本奏法 小テスト③ 	演習：ベース音に合わせてたり、楽曲に合わせてたりして短いフレーズを組み合わせた即興的なふし遊びを楽しむ。	予習：プリントを基に短いフレーズによる音遊びについて概観する。。
21	リコーダーの演奏(9) <ul style="list-style-type: none"> 多重録音による即興演奏 	演習：ロングトーンやタンギングを生かした短いフレーズや即興的な旋律を多重録音した自分たちの演奏を鑑賞する。	予習：多重録音の方法や機材についてプリントにより概観する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	リコーダーの演奏(10) ・多重録音による即興演奏	演習：ロングトーンやタンギングを生かした短いフレーズや即興的な旋律を多重録音した自分たちの演奏を鑑賞する。	予習：どんなフレーズを組み合わせるか構想をもつ。
23	コードネームの理解と演奏(1) ・コードネームの理論 ・構成音 ・リズムパターン	講義：楽譜に付いているコードネームの意味について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	予習：コードネームと構成音について概観する。
24	コードネームの理解と演奏(2) ・カリンバによるコードによる演奏	講義：楽譜に付いているコードネームの意味について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	復習：コードネームとその構成音を確かめる。
25	コードネームの理解と演奏(3) ・カリンバによるコードによる演奏 ・コードネームについて ・小テスト④	講義：基本的なコード進行について 演習：コードごとのカリンバを用いて、基本的なコード進行を理解する。	復習：コードネームとその構成音を確かめる。
26	リコーダーの演奏(11) ・簡単な楽曲のアンサンブルを楽しむ。 ・カリンバのコード伴奏でのアンサンブル	演習：グループごとに楽曲を決め、カリンバや他の楽器を用いてアンサンブルを楽しむ。	復習：コードネームとその進行を確かめる。
27	リコーダーの演奏(12) ・簡単な楽曲のアンサンブルを楽しむ。 ・カリンバのコード伴奏でのアンサンブル	演習：グループごとに楽曲を決め、カリンバや他の楽器を用いてアンサンブルを楽しむ。	復習：コードネームとその進行を確かめる。
28	身近な楽器を用いてのアンサンブル(1) ・楽曲やパート分担の決定	演習：パート分担と演奏形態等の確認。	予習：演奏曲や形態について
29	身近な楽器を用いてのアンサンブル(2) ・各自パート練習 ・アンサンブルの練習	演習：発表会に向けての練習	予習：各自のパートの練習
30	身近な楽器を用いてのアンサンブル(3) ・グループごとのアンサンブル発表 ・1年間の振り返り	発表会と1年間の授業の振り返り及び反省	発表会に向けての準備
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：授業で扱う打楽器やリコーダーの基本的奏法、コードネームについての理解・実技に対して小テストを実施する。(カスタネット15点満点、タンブリン・トライアングル15点満点、リコーダー15点満点、コードネーム15点満点)計60点 目標B・G：グループで行うアンサンブル活動や発表会に向けた参加態度及び音楽的な演奏。20点 目標F・G：授業への積極的な取り組み及び協働的な学びの態度。20点			
【教科書】 ・教科書等は使用せず、授業内容に沿ったプリントをその都度配付します。 ・使用する教材は多岐にわたるため、ビデオやCDなど適宜選択して使用します。			
【その他補足事項】 ・授業で用いるリコーダー（ソプラノまたはアルト）は各自準備します。			

授業科目名	バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1～2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤敦子	開講期	半期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学認定こども園園長3年2か月		
社会貢献としての委員会・職等	日本音楽療法学会東北支部福島県代表、福島市私立幼稚園協会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	日本音楽療法学会認定音楽療法士、国立音楽大学教育音楽学科卒業・芸術学士・幼稚園教諭一種免許状取得、明星大学大学院修了修士（教育学）幼稚園教諭専修免許状取得、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会、日本保育学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 1. 現地バリ島の研修に参加し、本授業が指定する5つの公式行事に参加する。 2. 音楽や、踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 3. バリ島の文化、芸術、歴史、宗教、教育についての理解を深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		○ F	感性及び感動表現力
		○ G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		○ J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける。	目標	J	
友人と協力しながら、バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、表現力向上、協調性、思いやりを身につける。	目標	G・F	
バリ島に関する文化、芸術、生活、歴史、宗教、教育の中からテーマを一つ選びレポート提出する。	目標	J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について ・現地の子どもたちとの交歓交流の内容 ・訪問先の具体的な説明	授業計画 資料配布	バリ島の事前学習
2	バリ島研修のDVD鑑賞 バリ島について (宗教・歴史・芸術・文化・気候風土・人々の生活の様子・ 現地の治安など) 研究テーマとレポート作成について (研究テーマの仮決定) 渡航手続き	DVD	〃
3	交流の練習(1) 交流の選曲	資料配布 ダンスの練習	〃
4	交流の練習(2) ダンスの振り付け	ダンスの練習	〃
5	交流の練習(3)	〃	バリ島の事前学習
6	研修旅行の実施(1日目) ・飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項確認(移動バス内で実施) ・飛行機搭乗(成田＝バリ島)	バリ島海外研修の実施 2019年8月25日～30日 [4泊6日]予定 全体および個別指導	現地での学習・研究
7 ・ 8	研修旅行の実施(2日目) ・ハラパン幼稚園での歓迎式典、園児との交歓交流、自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学 ・現地での文化視察(美術館、寺院見学)	〃	〃
9 ・ 10	研修旅行の実施(3日目) ・タガス村での歓迎式典、子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス、ガムラン楽器体験 ・タガス村でのバリダンスレッスン受講、ケチャックダンス鑑賞	〃	〃
11 ・ 12	研修旅行の実施(4日目) ・ケランピタン宮殿での子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス ・ケランピタン宮殿でのバリダンスレッスン受講 ・ケランピタン宮殿でのバリ衣装体験	〃	〃
13	研修旅行の実施(5日目) ・デブダンショーを鑑賞	〃	〃
14	研修旅行の実施(6日目) 日本への帰国準備、バリ島からの出国準備 空港・飛行機でのマナー(ホテル・移動バス内で実施)	〃	〃
15	事後指導 反省会・レポート作成指導		

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 F・G：現地での公式プログラム参加（50点）

（真剣に参加したか、交流の仕上がりはどうか、友人と協調していたか、子どもたちと積極的に交流していたか、交流先でのエチケット・マナーは良かったか、健康管理は保たれていたかなど）

目標 F・G：交流のためのダンスレッスン参加（12点）

（積極的に参加していたか、アイデアは出していたか、お互いに協力し合っていたかなど）

* 1回欠席につき2点減点

目標 G：事前指導への参加態度（10点）

（積極的に参加していたか、注意事項を聞いていたか、持参品をきちんと準備できていたか、書類の提出はなされていたかなど）

* 1回欠席につき2点減点

目標 J：空港や機内、渡航中のマナー（8点）

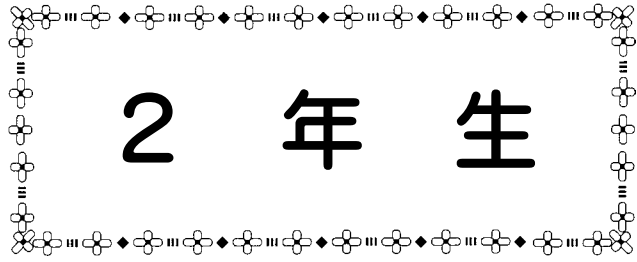
（本学の学生としての品位は保たれていたかなど）

目標 J：最終レポートの内容（20点）

※ 海外研修における現地研修・公式プログラムについては、体調不調もしくは病気・怪我等で所定のプログラムに参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点とする。

【その他補足事項】

1. 履修届は指示された日時までに行うこと。
 2. 渡航手続き、交歓交流の練習等については、授業時間外に実施する。
* 夏期休業期間に実施する場合もある。
 3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回程度行う。（放課後等に実施）
 4. 渡航手続きは、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。
* 夏期休業期間に実施する場合もある。
 5. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。
（現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい）
 6. 各自の健康状態を把握する必要上、健康チェックの用紙を提出してもらう。
 7. 研修旅行中、常備薬や医師からの薬が必要と思われる場合は、各自の責任において薬を持参すること。
 8. 現地での体調管理については、最大限のサポートをするが、自己管理、自己責任とする。
 9. 団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。
（現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする）
 10. 海外旅行保険付保が必要な要件の他、ご家族からの「承諾書」が必要となる。
 11. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合があります。
 12. 最小催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。
- ※ 海外研修の実施にあたり、自然災害、国際情勢（テロ等）や、鳥インフルエンザが発生した等、十分な安全を確保できないと判断した場合、海外研修の実施を中止、または延期する場合があります。



2 年 生

授業科目名	会 話 演 習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：藤 間 久 子 〔職名：フリーアナウンサー〕		開 講 期	前期・後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		テレビユー福島 1983.10～1988.3 (ニュース担当キャスター)		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		昭和女子大学文家政学部卒業 家政学士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 本科目では、社会生活においてコミュニケーション能力を向上させるべく話し方の基礎や円滑な人間関係を築く為の会話法などを学び、その表現技法を習得する。さらにテレビの番組制作を通し、自分の意見や情報を整理し、それを明確に伝える表現力を養うことを総合演習として取り組む。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 基礎的な音声表現を身につけ会話のイメージアップを図る。			目標	A
② コミュニケーションを深めるための会話力を身につける。			目標	L
③ 番組制作を通し多角的なものの見方や自分の言葉で情報を発信する力を養うこと。			目標	I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と評価方法などについて 自己紹介(1)～個性ある自己紹介とは	個別指導	復習：原稿作成
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表 (DVD収録) プリント	課題：DVDチェック レポート提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセントなど	プリント	復習：プリントチェック
4	論理的思考に基づく表現力(1)～プレゼン 論理的に話すための話のまとめ方について	個別指導	復習：原稿チェック
5	論理的思考に基づく表現力(2) 説得力のある話し方について 敬語表現(1) 敬語の必要性と表現方法について	発表 プリント	復習：プリントの内容確認
6	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習：プリントの内容確認
7	敬語表現(3) 様々な状況での会話法について	個別指導 発表	復習：敬語表現、用法についての確認
8	コミュニケーションを高める会話法(1) TPOに応じた言葉遣いと好感の持てる話し方	シナリオ作成 個別指導	予習：シナリオの設定
9	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における非言語表現	ロールプレイング	予習：シナリオチェック
10	ゲストスピーカー 番組制作・取材の方法など・映像の撮り方	特別講義 (TUF)	復習：番組の企画、プラン作成
11	番組制作(1) 企画・構成・取材計画	グループワーク	グループごとの取材（各自のスマホ使用）
12	番組制作(2) 素材編集 台本、原稿作成	グループワーク 各自のスマホで編集	復習：原稿チェック
13	番組制作(3) スタジオリハーサル	グループワーク	復習：手直しを含めた原稿チェック
14	番組制作(4) スタジオ収録	グループワーク	予習：台本の確認
15	番組視聴	試写会 全体討議	
期末試験	前期末試験、後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 A : 期末試験 30点満点

目標 L : 課題スピーチなど表現力の総合 30点満点

目標 I・L : 番組制作（取材、スタジオ収録など）での表現力 40点満点

ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う

<p>【教科書】 使用しない</p>	<p>【参考書】 書名：日本語会話表現法とプレゼンテーション 著者名：古閑博美 発行所：学文社 ※図書館蔵書</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取材活動は授業時間外で行う 2. 撮影・編集は原則各自のスマートフォンを使用のこと 3. 完成した番組は学生ホールで上映 4. ゲストスピーカーは変更になることがある 	

授業科目名	情報機器操作Ⅱ(中級レベル)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：酒井 創	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	玉川大学大学院工学研究科生産開発工学専攻博士課程 情報処理学会、コンピュータ利用教育学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択必修	
保育士資格	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目である。 1年次に「情報機器操作Ⅰ」を受講し単位認定を受けた学生は、必ず履修すること。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
パソコンとネットワークを活用するための具体的な「道具(ソフト)」である、ワープロ機能、表計算機能、画像処理、プレゼンテーション、ネットワーク活用などの実践的な利用技術と知識を修得することができる。	目標	A・B	
情報ネットワーク社会に、独力で積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を身に付けることができる。	目標	A・B	
情報ネットワーク社会の中で、自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断することができる。	目標	A・B・C	
情報ネットワーク社会の中で、主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができる。	目標	A・B・C・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標、評価方法、授業の進め方、その他(本 科目の留意点)	授業計画、テキスト タイピング練習ソフト	・事前理解：授業計画内 内容の確認
2	ネットワーク利用の基礎(1) ・インターネット、電子メールの概要と留意点①	演習	演習内容の復習
3	ネットワーク利用の基礎(2) ・インターネット、電子メールの概要と留意点② ・[課題]「Webメール」の活用	演習	演習内容の復習
4	Wordによる文書作成(1) ・1年次の復習とスキル確認①	応用課題	演習内容の復習
5	Wordによる文書作成(2) ・1年次の復習とスキル確認②	応用課題	演習内容の復習
6	Wordによる文書作成(3) ・1年次の復習とスキル確認③	応用課題	演習内容の復習
7	表計算ソフトの機能と操作(1) ・「ブック」「シート」の構成 ・シートの作成の流れと文字修飾 ・セル操作の基本	テキストPart 3	・Exercise復習 ・授業復習課題
8	表計算ソフトの機能と操作(2) ・ワークシートの構成、作成の流れと文字修飾 ・シート作成の基本 ・[課題]「クラス表」の作成	テキストUnit 7	・Exercise復習 ・授業復習課題
9	表計算ソフトの機能と操作(3) ・ワークシートの構成、作成の流れと文字修飾 ・セルの書式設定、グラフ表示 ・[課題]「クラス表(グラフ付)」の作成	テキストUnit 7	・Exercise復習 ・授業復習課題
10	表計算ソフトの機能と操作(4) ・セルの編集、簡単な計算式、画像貼付操作 ・[課題]「カレンダー」の作成	テキストUnit 7	・Exercise復習 ・授業復習課題
11	表計算ソフトの機能と操作(5) ・データベースの基本 ・入力規則の理解 ・[課題]「児童台帳」の作成①	テキストUnit 8	・Exercise復習 ・授業復習課題
12	表計算ソフトの機能と操作(7) ・データベース機能の理解 ・[課題]「児童台帳」の作成②	テキストUnit 8	・Exercise復習 ・授業復習課題
13	表計算ソフトの機能と操作(8) ・[課題]「身体計測記録表(様式)」の作成	テキストUnit 9	・Exercise復習 ・授業復習課題
14	表計算ソフトの機能と操作(9) ・[課題]「身体計測記録台帳」の作成 ・各種グラフ表示の理解	テキストUnit 9	・Exercise復習 ・授業復習課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ ・これまでの知識とスキルの総合演習	総合演習課題	これまでの演習内容の理解と復習
16	デジタル画像の活用の基本(1) ・スマートフォンで撮影した画像をPCに取込む ・画像活用の実際	課題・解説プリント配布	・授業復習課題
17	デジタル画像の活用の基本(2) ・画像活用の実践 ・[課題]「キャンパス紹介 (Word文書)」の作成	課題・解説プリント配布	・授業復習課題
18	ネット情報の収集と活用方法の実際 ・さまざまなウェブ検索方法の理解 ・情報の収集、管理方法の理解と実践	課題・解説プリント配布	・授業復習課題
19	表計算ソフトの機能と操作(10) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿」の作成	テキストUnit 9	・Exercise復習 ・授業復習課題
20	表計算ソフトの機能と操作(11) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿2」の作成	テキストUnit 9	・Exercise復習 ・授業復習課題
21	表計算ソフトの機能と操作(12) ・簡単なデータ分析 ・「身体計測記録台帳」の活用	テキストUnit 9	・Exercise復習 ・授業復習課題
22	表計算ソフトの機能と操作(13) ・応用課題・文部科学省統計データの活用①	課題・解説プリント配布	・授業復習課題
23	表計算ソフトの機能と操作(14) ・応用課題・文部科学省統計データの活用②	課題・解説プリント配布	・授業復習課題
24	プレゼンテーションソフトの基本(1) ・ソフトの基本操作①	テキストPart 4、Unit10	・Exercise復習 ・授業復習課題
25	プレゼンテーションソフトの基本(2) ・ソフトの基本操作②	テキストPart 4、Unit10	・Exercise復習 ・授業復習課題
26	プレゼンテーションソフトの活用(1) ・素材収集の方法、素材収集 ・スライド作成の実際 ・[課題] スライドの作成①	テキストPart 4、Unit10	・Exercise復習 ・授業復習課題
27	プレゼンテーションソフトの活用(2) ・素材収集の方法、素材収集 ・スライド作成の実際 ・[課題] スライドの作成②、リハーサル	PowerPointファイル (素材収集)	演習内容の復習 資料・素材集め
28	プレゼンテーションソフトの活用(3) ・スライド作成の実際とリハーサル ・[課題] スライドの作成③、リハーサル	PowerPointファイル (スライド、リハーサル) (補足資料紹介)	スライドの完成 発表リハーサル
29	プレゼンテーションソフトの活用(4) ・[課題] 発表と評価①	PowerPointファイル (発表用スライド)	スライドの修正と発表の 練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	プレゼンテーションソフトの活用(5) ・[課題] 発表と評価②	・PowerPointファイル提出	スライドの修正と発表の練習
期末試験	後期のまとめ	総合演習課題(実技試験)	後期課題全般
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 前期のまとめ（目標A・B・C・K）30% • 総合演習による前期内容の理解度の確認 後期のまとめ（目標A・B・C・K）30% • 総合演習による後期内容の理解度の確認 提出課題（課題に応じ、目標A・B・C・K）30% • 授業時および授業時間外作成課題の提出課題 授業参加状況 10% • 評価基準により採点 ※詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書 名：保育者のためのパソコン講座（注：1年次使用テキスト） 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価 格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となる。授業内外において、積極的な態度で受講することを希望する。 授業内容については、実習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合がある。			

授業科目名	食 彩 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：橋本 ^{はしもと} ヨシイ		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		平成3年より郡山市にて「ヘルシークッキング教室」主宰 テレビの料理番組生出演中（平成8年～現在）		
社会貢献としての委員会・職等		郡山市消費生活センター審議委員（終了） 青少年ホーム運営委員（終了） 郡山市環境審議委員（終了）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島県立会津短期大学家政科食物栄養専攻卒業 栄養士、管理栄養士 日本臨床栄養協会認定機構サプリメントアドバイザー 日本栄養改善学会会員 日本臨床栄養協会会員・日本調理科学会会員 日本伝統食品研究会会員・日本栄養士会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、朝食の欠食、食生活の乱れ、肥満傾向の増大等、食生活と健康に関する諸問題が発生している。これらの問題を解決していくためには自ら食に対してのスキルを持ち合わせていなければならない。食育が推進されている状況の中、当然ながら保育者として食の知識は必要である。そこで栄養と食材の知識を踏まえて基本的な調理法を実習し、保育現場や家庭でも展開できる技術を習得する。また、おもてなしの心としてお茶やコーヒーを丁寧に入れる方法を習得することも合わせて行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
毎日の食事が健全な心と体と深く関わることを学ぶ。		目標	A	
栄養バランスの良い食事をするための基本を学ぶ。		目標	A	
調理の基本知識と技術を学ぶ。		目標	A・B	
普段の食生活の中で役立つ身近な料理を学ぶ。		目標	A・B・J	
実社会の中で役立つ食にマナー、代表的な飲み物を学ぶ。		目標	A・J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業内容の概要と授業の進め方、評価方法 ・調理室使用に際しての注意事項 ・調理実習時の身支度や衛生面の注意事項 講義 ・簡単な栄養の知識、食材の知識 ・朝食の重要性、食と子どもの心の関係	シラバスの確認 調理室の器材の確認 安全な調理の確認 調理の手順の説明 配布プリント 講義	シラバスを一読して来る こと
2	和食の素晴らしさを知る① (調理実習) ・洗米と鍋での炊飯 ・みそ汁(煮干しだしの取り方、季節食材のみそ汁) ・卵料理(巣籠り卵)	調理実習 (エプロン、三角布準備) ・配布プリント使用 ・レポート提出	料理の復習とそのアレンジ料理なども試みる
3	和食の素晴らしさを知る② (調理実習) ・秋の味付けご飯(味ご飯のコツ) ・野菜の和え物(青菜の茹で方 他)	同上	同上
4	和食の素晴らしさを知る③ (講義・調理実習) ・和菓子を作る ・日本茶の美味しい入れ方(種類、温度)	同上	同上
5	和食の素晴らしさを知る④ (講義・調理実習) ・巻き寿司 ・お吸い物(混合だしの作り方)	同上	同上
6	身近な洋食① (調理実習) ・海老ピラフ(フライパンで炊くコツ) ・野菜サラダ(ドレッシングの基本)	同上	同上
7	身近な洋食② (調理実習) ・サンドイッチ2種(具材の工夫、上手に作るコツ)	同上	同上
8	簡単なお菓子と紅茶 (講義・調理実習) ・クッキー(基本のクッキー、アレンジの仕方) ・茶葉の種類による美味しい紅茶の入れ方	同上	同上
9	身近な中華① (調理実習) ・中華丼(あんかけ料理のコツ) ・烏龍茶	同上	同上
10	身近な中華・飲茶② (調理実習) ・肉まん(生地の作り方) ・中国茶	同上	同上
11	身近な諸外国料理① (調理実習) ・パスタ(パスタの種類と特徴、適した料理) ・フルーツゼリー(ゼラチンの特徴、扱い方)	同上	同上
12	簡単なお菓子と本格コーヒー (講義、調理実習) ・焼き菓子(りんごのケーキ) ・香りのよいコーヒーの入れ方	同上	同上
13	身近な諸外国料理② (調理実習) ・基本のチキンカレーとターメリックライス ・フルーツサラダ	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	おもてなしの家庭料理(郷土食材) ・散らし寿司 (調理実習)	調理実習 (エプロン、三角布準備) ・配布プリント使用 ・レポート提出	料理の復習とそのアレンジ料理なども試みる
15	課題食材で自由に料理制作 — 準備された食材で各班が自由に創作料理 — (調理実習)	各班で話し合い、自由に創作料理にチャレンジ ・レポート提出	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>目標A : レポート(内容及び提出状況を含む) 50点 目標B・J : 毎回の調理(身支度・理解度・向上心、出席状況を含む)を50点(各回3～4点) 以上、合計100点として評価します。</p> <p>次に該当する場合は、総合評価から減点します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私語、実習中の携帯操作、周囲への迷惑行為など「学生受講規定」に反する場合は減点の対象となります。 ※特に調理実習は危険を伴うので教員の注意を良く聞くこと。 ・レポートの未提出は減点対象となります。 ・調理実習用の服装(上履き、エプロン、三角布など)を整わない場合は減点の対象となります。 ※特に上履きを持参しない場合は入室できないので要注意。 			
【教科書】 なし(プリントによる実習)		【参考書】 特に指定しないが、図書館などで料理本を読んで授業に臨む。	
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業内容は進捗状況や食材の入手状況により、変更することがあります。 ② 食物アレルギーのある者は必ず予め申し出る事と、アレルギーを持つ者は調理中にアレルギー食品が口に入ることの無いように自分で十分に注意してください。 ※特に授業初めに行うアレルギー調査には正確に回答すること。 ③ 調理実習中は火傷や怪我の無いよう、集中して作業を行い、全員で十分に気を配って下さい。 ④ 教材費として7,000円が必要です。 			

授業科目名	日本国憲法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：新村 繁文 〔本務先：福島大学 職名：特任教授〕		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島市権利擁護センター運営委員、伊達市障がい者計画等策定委員等		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了・修士（法学） 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本成年後見法学会等		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等への対応を行います。		

【授業の概要】 日本国憲法の基本理念・基本構造、とりわけ近代立憲主義とその歴史・意義を正確に学ぶことをテーマとする。 その際、英米仏の憲法成立史とその比較、その後の国家構造や憲法のあり方の比較対照、そして、19世紀型の自由権的基本権保障を中心とする近代市民憲法から20世紀型の福祉国家理念を基礎にした社会権的基本権への展開とその背景、その後の推移等に特に重点を置く。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
近代憲法の基本原則・成り立ちについての知識を身につける。			目標	A
近現代憲法の史的展開とその論理構造を理解できる。			目標	C
日本と英米仏等の憲法の歴史・構造の違いを理解できる。			目標	J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス（法の世界と人権・権利） ～憲法にはいる前に、法の基本的概念を学ぶ	基本的に、レジュメを配布してそれに沿って授業を行う。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
2	イギリスにおける立憲主義の確立史① ～中世立憲主義の構造	参考書は、とりわけ憲法条文を参照する際に用いる。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	イギリスにおける立憲主義の確立史② ～近代立憲主義への展開	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
4	イギリスにおける立憲主義の確立史③ ～近代市民憲法の成立とその構造	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
5	アメリカ独立革命の意義と合衆国憲法の成立	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
6	合衆国憲法の構造と違憲審査制の意義	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
7	フランス革命と近代立憲主義	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
8	フランス人権宣言とフランス憲法の変遷	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
9	フランス革命の終結とその後の憲法・立憲主義	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
10	近代市民憲法の特徴	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
11	近代市民憲法の「光」と「陰」	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
12	近代市民憲法の修正へ	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
13	社会権的基本権の考え方を学ぶ	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	近代市民憲法と公私二元論	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
15	現代市民憲法としての日本国憲法の特徴	その時々問題化する時事問題を、イントロとして立憲主義の観点からコメントする。	ニュース・新聞等に日常的に関心を持つこと。
期末試験	筆記試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について学科を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・J：期末試験（穴埋め式問題、各15点6問と記述問題、各10点2問）			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：いちばんやさしい憲法入門 著者名：初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別） *参考書は、とりわけ憲法条文を参照する際に用いますが、購入の必要はありません。	

授 業 科 目 名	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：兼任講師 オカンボ メリッサ ブラザ 氏名：Ocampo Merissa Braza		開 講 期	前期
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程 修了 博士(教育学) TESOL英語教授法資格 -International Psychology of Language Learning (国際言語学習心理学会) 日本大学英語教育学会 全国語学教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 英語は世界中に拡がり続けています。重要なのは、どのような種類の英語を学ぶべきかと言うことです。英語は元来アングロサクソン諸国で話されてきましたが、現在では世界中の人々が使用する共通言語となっています。世界共通言語となった英語は、その運用が適切かどうか多くの人にとって判断しやすくなってきました。この授業では、英語はどのような人にも身近なものである、ということを理解することを目的とします。間違ふことを恐れずに、そこから学生が成長していくことが望まれます。FEMA（家族環境モードアプローチ）により、学生は間違いを積極的に受け入れることができ、講義内でストレスを感じずに学ぶことが出来ます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
貿易や教育交流、そしてコミュニケーションなど、それらグローバル化を理解できるようにする。		目標	G・L
異なる文化圏の人々とコミュニケーションを図る方法を学ぶ。		目標	G
他者の意図、謝罪などの社会的行為、要求および賛辞などを理解するために英語を話す方法を学ぶ。		目標	I
「英語での演劇プレゼンテーション」を通じて、他の人の前で自信を持って話すことができるようにする。		目標	G・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	第1学期 オリエンテーション ・一年分の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ Lesson 1 : Intercultural Communication in Today's World レッスン1 : 今日の世界の異文化コミュニケーション	テキスト・CD Group reading, listening, and discussion (CD) グループリーディング、リスニングと話し合い	Unit 1. 1 (p. 7 - 9) 予習：あなたの生活の中で「グローバルゼーション」をどこで見ることができますか？ 英訳してくる(100語以内で)。日本語を混ぜても可
2	Lesson 2 : Intercultural Communication in Today's World レッスン2 : 今日の世界の異文化コミュニケーション	テキスト・CD Critical thinking and self-reflection (List of questions to answer) 批判的思考と自己反省(質問のリスト)	Unit 1. 2 (p.10-12) 復習：大学生として、教室外の他の文化についての知識をどのように向上させることができますか。具体的な方法を3つ挙げてください。 英訳してくる(100語以内で)。日本語を混ぜても可
3	Lesson 3 : English for Intercultural Communication (A) レッスン3 : 異文化コミュニケーションのための英語	テキスト・CD プリント使用 Group discussion and debate グループディスカッションとディベート	Unit 2. a (p.13-15) 予習：あなたは英語を話すときに間違いを犯すことを恐れていますか？もしそうなら、どんな種類の間違い？ 英訳してくる(100語以内で)。日本語を混ぜても可
4	Lesson 4 : English for Intercultural Communication (B) レッスン4 : 異文化コミュニケーションのための英語	プリント使用 Think-pair-share シンク-ペア-シェア	Unit 2. b (p.16-18) 復習：ソーシャルメディアの長所と短所を書く。 英訳してくる(200語以内で)。日本語を混ぜても可
5	Lesson 5 : Important Features of Human Communication レッスン5 : 人間のコミュニケーションの重要な特徴	テキスト・CD プリント使用 Interview students in the class about their old and new habits 新しい習慣や古い習慣についてクラスの生徒にインタビューする。	Unit 3. a (p.19-21) 予習：文化間で異なるジェスチャーを知っているか？ 英訳してくる(100語以内で)。日本語を混ぜても可
6	Lesson 6 : Important Features of Human Communication レッスン6 : 人間のコミュニケーションの重要な特徴	プリント使用 Problem-based Learning 問題をベースとした学習 -Encourage students to participate in an International event in Fukushima City -福島市での国際イベントへの参加を奨励する	Unit 3. b (p.22-24) 復習：国際的な出来事についての自己反省。 文化に関係あるポピュラーソングの分析 英訳してくる(100語以内で)。日本語を混ぜても可

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	Lesson 7 : The concept of Culture (A) レッスン7 : 文化という概念	テキスト・CD プリント使用 Cooperative cases (small group engage in scenario-based problem-solving activity to work on question/issues from the list) 協力的なケース (小グループでシナリオベースの問題を解決し、リストからの質問/問題に取り組む。)	Unit 4. (p. 25-27) 予習 : 文化に関係あるポピュラーソングの分析の続き。 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
8	Lesson 8 : The concept of Culture (B) レッスン8 : 文化という概念	プリント使用 The debate about the advantages and disadvantages of learning cultures of other countries. 他の国の文化について学ぶことのメリットとデメリットについてディベートする。	Unit 4 . (p. 28-30) 予習 : なぜ日本人は海外で寿司を食べるときに驚いたのですか? 英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
9	Lesson 9 : Language and Thought (A) レッスン9 : 言語と思考	テキスト・CD プリント使用 Fishbowl (Groups of 3 - 4 students sit in front of the classroom and discuss an assigned topic so that the entire classroom can hear) 金魚鉢 (3~4人からなるグループが教室の前に座り、割り当てられたトピックについて教室全体に聞こえるように話し合う。)	Unit 5. (p.31-36) 復習 : あなたは外国語を学ぶことで人々がより知的になることができますか? どうして? なぜならないのか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
10	Lesson10 : Language and Thought (B) レッスン10 : 言語と思考	プリント使用 Learn popular Foreign and Japanese songs in English Simulation-role play 英語で人気のある外国と日本の歌を学ぶ シミュレーションロールプレイ	予習 : 歌のメッセージについてのあなたの印象を書きなさい。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
11	Lesson11 : Communication Styles (A) レッスン11 : コミュニケーション スタイル	テキスト・CD プリント使用 Peer teaching ピアティーチング	Unit 6 . (p.37-39) 予習 : コミュニケーションの異なるスタイルは何ですか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	Lesson12 : Communication Styles (B) レッスン12 : コミュニケーション スタイル	プリント使用 Role play communication with group members and reaction to a video clip グループメンバーとのロールプレイコミュニケーションとビデオクリップへの反応	予習 : YouTube か映画から短い会話の場面を選びクラスで発表する。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
13	Lesson13 : Human Psychology and Communication (A) レッスン13 : 人間の心理とコミュニケーション	テキスト・CD プリント使用 Cooperative cases (small groups engage in scenario-based problem-solving activity to work on question/issues from the list) 協力的なケース (小グループはリストの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)	Unit 7. (p.43-48) 予習 : 適切なコミュニケーションにどんなノンバーバルコミュニケーション (ジェスチャー) を使っているか? 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
14	Lesson14 : Human Psychology and Communication (B) レッスン14 : 人間の心理とコミュニケーション	プリント使用 Invite a foreign visitor (s) to give a talk. Formative survey to assess student comprehension 外国人を招待して会話を する。 生徒の理解度を評価するための形成的調査	復習 : 彼/彼女の話と彼/彼女の話の中の異文化間コミュニケーションの関係についての印象を書く。
15	Lesson15 : Human Psychology and Communication (C) レッスン15 : 人間の心理とコミュニケーション	プリント使用 The psychology of the language learners The peer discussion and debate about the importance of appearance and personality. 語学学習者の心理 外見と個性の重要性についてのピアディスカッションとディベート	学生は知識を得るために耳を傾け、聞いたトピックを分析し、総合して評価する。 各グループはトピックについての印象と意見を発表します。 英訳してくる (200語以内で)。日本語を混ぜても可
期末試験	Written test 筆記テスト		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	Lesson16 : Speech Acts across Cultures (A) レッスン16 : 言語行為と文化	<p>テキスト・CD プリント使用</p> <p>Cooperative cases (small groups engage in scenario-based problem-solving activity to work on intercultural issues. 協力的なケース (小グループは、異文化間の問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)</p> <p>(1st stage)</p> <p>Students will have an autonomy to write their original English drama script and mini book. The 15-minute drama should include the importance of intercultural communication.</p> <p>学生は自分たちで決めてオリジナルの英語ドラマスクリプトとミニ本を書く。15分間のドラマには、異文化間コミュニケーションの重要性が含まれています。</p>	<p>Unit 8. (p.49-54)</p> <p>予習：グループメンバーとのブレインストーミング。自分たちが発表したいストーリーを書く。</p>
17	Lesson17 : : Speech Acts across Cultures (B) レッスン17 : 言語行為と文化	<p>テキスト・CD</p> <p>Cooperative cases (small groups engage in scenario-based problem-solving activity to work on intercultural issues. 協力的なケース (小グループは、異文化間の問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)</p> <p>Students will have an autonomy to choose their script and present it in English. Content of the script should show the importance of intercultural communication.</p> <p>学生は自分たちで決めてオリジナルの英語ドラマスクリプトを書く。15分間のドラマには、異文化間コミュニケーションの重要性が含まれています。</p>	<p>予習：ポピュラーソングを選び、その歌の元の文化の解釈をする。スクリプトのチェックを始める。</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	Lesson18 : Stereotype and Intercultural Communication (A) レッスン18 : ステレオタイプと異文化コミュニケーション	テキスト・CD プリント使用 Case study : Discussion, analysis and conclusion 考察と結論	Unit 9. (p.55-60) 復習 : 日本人として、血液型のステレオタイプについてどう思いますか？英訳してくる (100語以内で)。日本語を混ぜても可
19	Lesson19 : Stereotype and Intercultural Communication (B) レッスン19 : ステレオタイプと異文化コミュニケーション	プリント使用 Peer small talk : encourage students to think critically, more engage and produce a deeper understanding of stereotypes of Japanese to foreigners and vice versa. (Task-Based Learning) ピアスモールトーク : 学生たちに日本人が外国人に対して持っている、また外国人が日本人に対して持っているステレオタイプについてより深く理解するために批判的に考えることを進める。	予習 : 彼らが知っている一人一人を選び、彼の血液型に従って彼女/彼/彼女を説明してください。
20	Lesson20 : Cultural Accommodation in Intercultural Communication (A) レッスン20 : 異文化コミュニケーションにおける文化調整	テキスト・CD プリント使用 Cooperative cases (small groups engage in scenario-based problem-solving activity to work on intercultural issues.) 協力的なケース (小グループは、異文化間の問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)	Unit10. (p.61-66) 復習 : 社会のステレオタイプに関連する英語の映画を見ます。
21	Lesson21 : Cultural Accommodation in Intercultural Communication (B) レッスン21 : 異文化コミュニケーションにおける文化調整	プリント使用 Seminar with an invited speaker. Let student comprehend, analyze and assess what they learned during the talk. 招待講演者によるセミナー トーク中に学んだことを理解し、分析し、評価させる。	予習 : 学生たちは小セミナーに出席する。講義を聞いて、あなたの印象や意見を書いてください。英訳してくる (400語以内で)。日本語を混ぜても可

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	Lesson22 : Intercultural Communication in Higher Education (A) レッスン22 : 高等教育における異文化コミュニケーション	プリント使用 Peer small talk : encourage students to think more critically, more engaged and produce a deeper understanding. ピアスモールトーク : 学生たちに、より批判的に、より積極的に考え、より深い理解をもたらすよう促す。	予習 : ドラマ発表 スクリプトチェック
23	Lesson23 : Intercultural Communication in Higher Education (B) レッスン23 : 高等教育における異文化コミュニケーション	プリント使用 Self-Acceptance and peer workshop (work in groups to learn practice skills) 自己受容とピアワークショップ (グループで練習して練習スキルを習得する)	予習 : ドラマ発表の練習
24	Lesson24 : Intercultural Communication in Higher Education (C) レッスン24 : 高等教育における異文化コミュニケーション	テキスト・CD プリント使用 自己ピア形成的評価 Think-pair-share シンク-ペア-シェア	予習 : ドラマ発表の練習
25	Lesson25 : Intercultural Communication Presentation (D) レッスン25 : 異文化コミュニケーション発表会	Group collaboration, encouraged and engaged in their own task-based English script グループコラボレーション : 独自のタスクに基づいた英語の台本に進んで取り組んでいく。 Performance-Assisted Learning (PAL) パフォーマンスアシスト学習 (PAL)	最終英語ドラマ プレゼンテーション
26	Lesson26 : Study Abroad and Intercultural Adaptation (A) レッスン26 : 海外留学と異文化適応	DVD or Netflix Self-Acceptance and peer workshop 自己受容とピアワークショップ	復習 : 短いビデオクリップを見て (学生に自分のビデオクリップ、例えばCM、ビデオクリップなどを選ぶように頼む) 自分たちの人生への関わりを分析する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	Lesson27 : Study Abroad and Intercultural Adaptation (B) レッスン27 : 海外留学と異文化適応	テキスト・CD プリント使用 Self-peer formative assessment 自己ピア形成的評価	ビデオクリップの個人的な印象について400語(最低限の日本語と英語)で書きなさい。 演劇演習
28	Lesson28 : Intercultural Competence for the Future レッスン28 : 将来のための異文化能力	テキスト・CD プリント使用 Peer group discussion ピアグループディスカッション	Unit13. (p.79-84) 予習 : 将来的に、さまざまな文化の知識が必要だと思いますか。 この質問についてあなたの意見を書いてください。(最大100語) 演劇演習
29	Lesson29 : Review of Units 1 - 7 レッスン29 : ユニット1~7の見直し	テキスト・CD	復習Unit 1 - 7
30	Lesson30 : Review of Units 8 -13 レッスン30 : ユニット8~13の見直し	テキスト・CD	復習Unit 8 - 13
期末試験	Final written Test 最終筆記テスト		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標G・I・L : 1. 前期・後期末試験 (各50%) 目標G・I・L : 2. 授業への貢献、態度、提出物など (50%) 以上、合計100点満点で評価する。 ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行う。 ※英検の対策は英語学習への動機づけの一つとして行う。			
【教科書】 書名 : Intercultural Communication for English Language Learners in Japan 日本の英語学習者のための異文化間コミュニケーション 著者名 : Troy McConachy 発行所 : Nan' un-do 価格 : 2,000円 (税別)			
【その他補足事項】 1. 授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可) 2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。			

授業科目名	英書リーディング		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：高橋了治		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北学院大学大学院文学研究科英語英文学専攻博士前期課程修了、 修士（英文学） 中学・高等学校教諭専修免許状（英語）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 これまでで培われた英語力の上に立ち、英文読解を通して基本的な英文法を整理し、英単熟語・構文の習得を図りながら、英語学習の中でも習得困難なリーディング力の向上を目指す。また本文中で使われている表現を応用した簡単な英作文の練習も行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
辞書を使用して英文の内容を理解できる。			目標	A・C
英文を文法的に分析して正しく解釈できる。			目標	A・C
既習の英語表現を応用して英語で簡単な自己表現ができる。			目標	D・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(1) 授業の概要と目標（授業内容）(2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	自分なりの英語学習の意義を考えておくこと
2	Unit 1 Step 1～3 「<人>または<物>は/が～する」のパターン。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p. 4～9 本文の意味調べ・音読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	Unit 2 Step 1～3 「<人>に<物>を～する」のパターン。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.10～15 本文の意味調べ・音読
4	Unit 3 Step 1～3 人や物を説明しよう(1) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.16～21 本文の意味調べ・音読
5	Unit 4 Step 1～3 人や物を説明しよう(2) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.22～27 本文の意味調べ・音読
6	Unit 5 Step 1～3 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.28～33 本文の意味調べ・音読
7	Unit 6 Step 1～3 「これから～するつもりだ」のパターン。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.34～39 本文の意味調べ・音読
8	Unit 7 Step 1～3 「今～している」のパターンと「その時～していた」の パターン。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.40～45 本文の意味調べ・音読
9	Unit 8 Step 1～3 過去のことが現在まで影響する形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.46～51 本文の意味調べ・音読
10	Unit 9 Step 1～3 「話し手の気持ち」を表す表現(1) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.52～57 本文の意味調べ・音読
11	Unit10 Step 1～3 「話し手の気持ち」を表す表現(2) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.58～63 本文の意味調べ・音読
12	Unit11 Step 1～3 「～すること」を表す2種類の形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.64～69 本文の意味調べ・音読
13	Unit12 Step 1～3 2種類の「～すること」の形を区別する方法。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.70～75 本文の意味調べ・音読
14	Unit13 Step 1～3 「～するために」と「～して」を表す形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.76～81 本文の意味調べ・音読
15	Unit 1～13までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・プリント CD使用	各章の自由英作文を完成 させておく
期末 試験	前期末試験		前期の既修内容を再確認 する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	Unit14 Step 1～3 「～するための」と「～するという」を表す形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.82～87 本文の意味調べ・音読
17	Unit15 Step 1～3 「～される」を表す形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.88～93 本文の意味調べ・音読
18	Unit16 Step 1～3 「～している」を表す形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.94～99 本文の意味調べ・音読
19	Unit17 Step 1～3 「～された」を表す形。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.100～105 本文の意味調べ・音読
20	Unit18 Step 1～3 2つの文を1つにする方法(1) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.106～111 本文の意味調べ・音読
21	Unit19 Step 1～3 2つの文を1つにする方法(2) Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.112～117 本文の意味調べ・音読
22	Unit14～19までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・プリント CD使用	各章の自由英作文を完成させておく
23	Unit20 Step 1～3 2つのものをつないでみよう。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.118～123 本文の意味調べ・音読
24	Unit21 Step 1～3 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.124～129 本文の意味調べ・音読
25	Unit22 Step 1～3 「現実離れたこと」を表す形	テキスト・プリント CD使用	教科書p.130～135 本文の意味調べ・音読
26	Unit20～22までのまとめ。 準動詞の総復習。時制のとらえ方。	テキスト・プリント CD使用	各章の自由英作文を完成させておく
27	Unit23 Step 1～3 「2つのもの」を比べる表現。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.136～141 本文の意味調べ・音読
28	Unit24 Step 1～3 「順位」を表す表現。 Passageと総合演習。	テキスト・プリント CD使用	教科書p.142～147 本文の意味調べ・音読
29	Unit23～24までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・プリント CD使用	後期の既修内容を再確認する
30	Unit14～24までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・プリント CD使用	後期の既修内容を再確認する
期末試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 A・C・D・J：前期末試験が30点、後期末試験が30点

目標 A・C・D・J：授業への貢献、発表、提出物などが40点、合計100点満点として評価する。

欠席、遅刻、授業中の態度等については、シラバスの「学業成績評価の共通基準」に沿う。

【教科書】 書名：A Primer of Communication in English

著者名：小山政史

発行所：松柏社

価格：2,000円（税別）

【その他補足事項】

- 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可）

授業科目名	体育実技Ⅱ (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年
			授業回数	20回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本スポーツ協会公認バレーボール指導員 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本バレーボール学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 前半はバレーボールのルールの理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。 後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。			目標	B
コンビネーションやフォーメーションなどの戦術的理解を深める。			目標	K
チームづくりやチームワークを学ぶ。			目標	G
バレーボールのルールやコートマナーを学ぶ。			目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	バレーボールの用語を予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ(サーブを中心に)	グループワーク	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ(レシーブを中心に)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基本技能③ パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基本技能④ パスの技術と動き(アンダーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基本技能⑤ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ミートを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基本技能⑥ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ステップを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割(ローテーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割(ポジションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション(5人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション(3~4人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション(マンアップフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション(マンダウンフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション(クイックを絡めたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション(移動を加えたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価(ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>目標B : 技能テスト 30点 目標K : 試合中の観察評価(ルール・戦術理解) 30点 目標G : 授業参加時の態度(コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況) 30点 目標B・G・K : 特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p> <p>以上、合計100点で評価する。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ(体育館用のスポーツシューズであれば可) ・バレーボールⅡ(こども学科・選択)ではバレーボールⅠで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。 			

授業科目名	体育実技Ⅱ (バドミントン)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広	開講期	通年
		授業回数	20回
		期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	教養教育科目	選択	
保育士資格	教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
バドミントンのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。	目標	B	
ドライブ、ハイクリア、サービスなどの基本技能ができる。	目標	B	
戦術を工夫し、試合で生かすことができる。	目標	K	
トーナメントやリーグ戦などの組み立てができ、仲間と試合を楽しめる。	目標	G	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義 授業計画(シラバス)持参	
2	<ul style="list-style-type: none"> 班編成 バドミントンの運動特性に応じた準備運動 基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		バドミントンの用語を予習してくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する 	グループワーク	ダブルスのルールを予習してくる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルのルールを理解する ・審判法 	グループワーク	シングルのルールを予習してくる。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能テスト		課題としている技能を練習しておく。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標B : 技能テスト 30点

目標K : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点

目標G : 授業参加時の態度（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点

目標B・G・K：特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

- （例）
- 全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点で評価する。

【その他補足事項】

- 服装はスポーツウェア上下、バドミントンシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可）
- バドミントンⅡ（こども学科・選択）ではバドミントンⅠで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：関本 ひとし 仁	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現・児童青少年課）嘱託員（平成23年～25年） 荒川区自治総合研究所 研究員（平成28年～29年）		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象教員免許状更新講習講師 文部科学省認定（平成29年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		早稲田大学大学院教育研究科修士課程学校教育専攻修士（教育学） 高等学校教諭一種（公民）、専修免許状（公民）、博物館学芸員、社会教育主事 教育史学会、日本社会教育学会、関東教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々 の社会・文化を背景として、どのように教育とい うものを捉えてきたのでしょうか。教育思想の 歴史を概観しつつ、その様々な思想が現在お こなわれている教育に対してどのような影響を 与えているのか、について考えます。特に、 子どもの福祉に関わる教育論に注目しながら、 子どもたちにとって豊かな育ちを支える教育の あり方について、ともに考えていきたいと思 います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育の意義・目的について学び、子ども家庭福祉との関わりについて理解する。			目標	A・J
教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。			目標	A・C
様々な教育実践の取り組み、及びその実践の土台となっている思想について理解する。			目標	A・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業内容と評価方法、その他 教育とは何か — 乳幼児期における教育とは —	授業計画 スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
2	教育の目的について 教育・教化・形成の違い	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
3	教育と子ども家庭福祉	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
4	西洋における教育思想と歴史(1) 古代～コメニウス、ルソー、ペスタロッチまで	確認小テスト①、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
5	西洋における教育思想と歴史(2) フレーベル、デューイ～現代に至るまで	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
6	日本の教育の思想と歴史	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
7	子ども観と教育観	確認小テスト②、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
8	教育制度の基本理論	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
9	教育にかかわる法律と行政	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
10	様々な国の教育制度	確認小テスト③、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	教育実践の基礎・理論	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
12	様々な教育実践	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
13	社会教育と生涯学習	確認小テスト④ 、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
14	教育の権利保障	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	予習：プリント下読み 配布資料の復習
15	教育の現代的課題／まとめ	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・J：期末試験 50% 目標A・C・J：授業内での確認小テスト 20%（4回×5点） 目標A・C・J：各回終了後にまとめて記入するリアクションペーパー（15回） 30% 以上、合計100点満点で評価する。			
【教科書】 教科書は特に指定しません。各回の終わりに次回使用する資料を配布します。予習として、配布した資料の下読みを行い、授業の準備をしておいてください。		【参考書】 書名：子どもの教育の原理 — 保育の明日をひらくために — 著者名：古橋和夫 編 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）	

授業科目名	相談援助		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		静岡県スクールカウンセラー（平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業は、保育・児童・家庭福祉の専門職として、相談実践の方法を具体的事例や体験的な授業を通して学ぶ。また、援助者が持つべき利用者の人権尊重、自己覚知や他者理解といった援助の基本姿勢、傾聴・共感・受容などの具体的技術の習得を目指す。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育活動に必要な相談援助の概要について理解する。			目標	A
相談援助の方法と技術について理解する。			目標	B
保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。			目標	G・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標及び評価方法 第1回 相談援助の理解 (相談事例、生活諸問題)	授業計画 教科書補足資料1	授業専用ファイルの準備
2	第2回 相談援助の意義 (歴史、倫理を含む)	教科書補足資料2 グループワークにてア サーショントレーニング	教科書p14-24を事前に 読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第3回 相談援助の機能 (家庭、地域に果たす役割)	教科書補足資料3	教科書p26-36を事前に読む
4	第4回 ソーシャルワーク (ケースワーク、コミュニティワーク)	教科書補足資料4 グループワークにて「話す・聴く」のトレーニング	教科書p38-48を事前に読む
5	第5回 保育とソーシャルワーク (家庭を支える)	教科書補足資料5	教科書p50-60を事前に読む
6	第6回 相談援助の対象 (保育環境、地域、施設)	教科書補足資料6	教科書p62-72を事前に読む
7	第7回 相談援助の過程 (インテーク面接から援助の終了まで)	教科書補足資料7 DVD「子どもと家族を支援するための包括的アセスメント」14分	教科書p74-84を事前に読む
8	第8回 相談援助の技術・アプローチ (相談者・支援者に対する具体的な支援)	教科書補足資料8	教科書p86-96を事前に読む
9	第9回 相談計画・記録・評価 (記録の意義、記録の書き方等)	教科書補足資料9	教科書p98-108を事前に読む
10	第10回 関係機関との協働 (子ども家庭支援センター・児童相談所等)	教科書補足資料10	レビューテーマ「児童発達支援事業所について」300字
11	第11回 多様な専門職との連携 (職種の理解とネットワーク)	教科書補足資料11	レビューテーマ「保育士と連携する専門職の種類と業務」300字
12	第12回 社会資源の活用、調整、開発 (子どもと生活を支える仕組みの理解)	教科書補足資料12	教科書p134-144を事前に読む
13	第13回 虐待の予防と対応等の事例分析	教科書補足資料13 DVD「しつけと虐待」14分	レビューテーマ「最新の虐待件数とその内容」300字
14	第14回 障害のある子どもと保護者への支援等の事例分析	教科書補足資料14 DVD「ちづる」79分	教科書p172-182を事前に読む
15	第15回 まとめと事例検討	教科書補足資料15	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に不応する到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 到達目標A・B：筆記試験 語句選択方式のテストを学期末に実施する。 30% 2. 到達目標G・I：授業への参加態度・授業ごとのリアクションペーパーによる。 40% 3. 到達目標A・B：レポート 課題については授業時に説明する。 30%			
【教科書】 書名：相談援助 著者名：松原康雄・村田典子・南野奈津子 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 <small>たなべ</small> 稔 <small>みのる</small>	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島市子ども子育て会議 会長（2018. 3まで） 福島市児童福祉専門部会 会長（2018. 4より現在に至る）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業で説明します。		

【授業の概要】 幼児及び児童の学びの場面を想定しながら、教育ならびに保育の過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育を展開するために、必要な教育心理学の基本的事項を修得していく。各単元を通し、子どもの心身の発達、日頃の生活や遊びを通して、「学び（学習）」の過程について理解を深め、幼児・児童教育における支援の在り方や課題について考えていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもの心身の発達への理解		目標	A	
学習の過程について理解		目標	A・C	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育心理学で何を学ぶのか 評価方法等	教育心理学で扱う領域の説明と授業の進め方を説明します。	
2	心理学の研究方法与教育心理学の課題 個人差をどのように捉えていくのか。	友人と自分の違いをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。	次回のための予習：子どもの頃の自分と今の自分の違いを挙げてみる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	発達段階の理解(1) 生涯発達の発達段階と発達課題	子どもの頃の自分と今の自分の違いをテーマとして発達のとらえ方を議論していきます。	教科書p 4～p13を事前に読むこと
4	発達段階の理解(2) エリクソン、ハヴィガーストの発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
5	学習(1) 学習の意味、子どもが学ぶ事の意味やその心理学的な過程の理解 小テスト：日常の行動にみる「学習」	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定 小テストを基に「学習」の観点を議論していきます。	教科書p71～p78を事前に読むこと
6	学習(2) 学習の過程と理論（条件付けの理解）	小テスト：資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読み疑問点を整理
7	学習(3) 学習の過程と理論（学習の転移、認知心理学からの知見）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定。予習による疑問点から展開	教科書p78～p82を事前に読み疑問点を整理
8	学習(4) 学習の過程と理論、こどもがどのように考え、気づき、理解していくか 小テスト：学習のまとめ	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定。疑問点を基に議論していきます	教科書p78～p82を事前に読み疑問点を整理
9	個人差の理解と教育(1) パーソナリティの理解・代表的な見方ととらえ方	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p37～p40を事前に読むこと
10	個人差の理解と教育(2) パーソナリティの発達	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p42～p45を事前に読むこと
11	個人差の理解と教育(3) パーソナリティの測定	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	具体的な測定例として自己分析を試みる
12	教育評価① 評価の種類、その方法と整理	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p197～p200を事前に読むこと
13	教育評価② 教育・保育場面で活用できる統計手法 小テスト：代表値を求める	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	卓上計算機（携帯電話でも可）を用意
14	まとめ1 総括的な振り返り（発達から学習）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
15	まとめ2 総括的な振り返り（人格から教育評価）	資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A・C：期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。</p> <p>目標A・C：レポート 期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とします。 課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とします。</p> <p>目標A・C：小テスト 授業内容の理解度あるいは授業項目上必要とされる事前の知識等の確認のため、単元区分で3回の小テストを実施します。</p>	
<p>【教科書】 書名：基礎から学ぶ教育心理学 著者名：工藤俊郎 高井直美 上田恵津子 発行所：八千代出版 価格：2,200円（税別）</p>	<p>【参考書】 特に定めないが、「発達心理学」、「教育相談」等で使用される教科書をよく読んでおくこと。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を活用していく。実習等により欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。</p>	

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：湯田厚子		開講期	前期・後期
			授業回数	各15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県公立小中学校養護教諭（S53年4月～H30年4月） 福島県スクールカウンセラー（H30年4月～現在）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県養護教諭部会会長（H23・24） 全国養護教諭連絡協議会副会長（H27・28）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻修士課程修了修士（教育学） 養護教諭、学校心理士、ガイダンスカウンセラー、日本学校心理士会、日本LD学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 この授業では、子どもの健康及び安全に係る保健活動の在り方について学ぶ。その中で、子どもの健康増進や心身の発育・発達を促すための適切な養護的対応の在り方や教育的対応の方法の一つである保健指導の展開の仕方を学ぶ。また、日常的な生活援助、疾病予防、救急時の対応、事故防止安全管理について、適切に保健活動を展開できるための基本的な技術と実践できる能力を養う。さらに、現代社会に起きている保育の課題や現状などについてもディスカッションを取り入れて考えを深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの健康増進及び心身の発育・発達のための保健活動の在り方について理解し、具体的な教育的援助法の資料を作成することができる。			目標	A・K
子どもの発育発達の実態を理解するとともに、疾病の予防とその適切な対応の仕方について理解し、述べるができる。			目標	A・B
子どもの安全管理の在り方や具体的な安全対策、応急処置について理解し、述べるができる。			目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション1 (1)「講義ノート」づくり (2) 授業の概要と目標 (3) 授業内容と評価の方法 (4) その他	シラバス	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	健康な子どもの発達過程 生物としてのヒトの成り立ち	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (自分の母子手帳を見て、自分の誕生までの様子を 知る)
3	保健活動の計画及び評価 保健計画と健康診断 PDCAサイクル	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (PDCAサイクルについて調べてくる)
4	子どもの保健と環境 1 養護と教育の一体性について	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
5	子どもの保健と環境 2 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応①	スライドと講義資料による解説、保健指導教材作成	講義内容の復習
6	子どもの保健と環境 3 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応②	スライドと講義資料による解説、保健指導教材作成 保健指導録画	講義内容の予習 (録画逐語録を作成する)
7	子どもの保健と環境 4 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応③	スライドと講義資料による解説、保健指導録画、ディスカッション、	講義内容の予習 (録画逐語録を作成する)
8	子どもの保健と環境 5 子どもの発達援助と保健活動 教育的対応④	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
9	子どもの疾病と適切な対応 1 子どもの病気の特徴の理解と対応	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
10	子どもの疾病と適切な対応 2 感染症予防と対策	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
11	子どもの疾病と適切な対応 3 障害のある子どもへの適切な対応	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習
12	子どもの事故防止と安全管理 1 子どもに多い事故の理解と予防・応急処置	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どもの事故の事例について調べてくる)
13	子どもの事故防止と安全管理 2 救命救急処置法	スライドとテキストによる解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成
14	地域保健活動と保育 1 子どもの養育環境と心の健康問題	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の予習 (子どものメンタルヘルスの課題について調べてくる)
15	地域保健活動と保育 2 まとめ 健やか親子21・子育て支援策	スライドと講義資料による解説、ディスカッション、意見発表	講義内容の復習 小レポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	前期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験40点 ノート10点 小レポート10点 目標B・K：実技演習20点 ディスカッション発言など積極的講義参加20点 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。</p>			
<p>【教科書】 書 名：イラストで学ぼう！ 子どものケガ・病気・感染症 著者名：朴賢晶・鈴木陽子・赤塚徳子 発行所：芽ばえ社 価 格：1,400円（税別）</p>		<p>【参考書】 書 名：保育所保育指針<平成29年度告示> 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別） 書 名：幼稚園教育要領<平成29年度告示> 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別） 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年度告示> 著者名：文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価 格：149円（税別）</p>	
<p>【その他補足事項】 「講義ノート」として使用するので、A4サイズのノート（30ページ程度）1冊を購入し第1回講義時に必ず持参すること。指定した【参考書】は毎時間持参するのが望ましい。</p>			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：田村佳奈美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		金森和心会雲雀ヶ丘病院（1992年10月～2005年3月） 福島労災病院（2005年4月～2011年6月） かとう内科クリニック（2011年7月～現在に至る）		
社会貢献としての委員会・職等		日本在宅栄養管理学会評議委員、日本在宅栄養管理学会福島県支部長 日本褥瘡学会評議委員、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会理事 日本メディカルダイエティシャン研究会副会長 福島県PEGと経腸栄養と在宅医療フォーラム世話人		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島女子短期大学食物栄養学科（現福島学院大学）準学士 栄養士免許、管理栄養士免許		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、毎週木曜日（16時～17時）		

【授業の概要】 乳児期から小児、学童期と子どもの食生活は心身の健全な発育、発達のみならず、生涯にわたる健康的な食習慣を築く基礎となります。さらに女性の妊娠期・子どもの胎児期においても「食」「栄養」は重要であり将来の疾病予防とも大きな関連があります。近年、栄養の偏りや「欠食」、「孤食」の問題も大きく取りざたされています。子どもの成長段階に応じた栄養・健康について食を通して考え、保育士として必要な「子どもの食と栄養」について学び、適正な食、栄養のあり方、栄養学の基本的知識、技術を習得します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
栄養、食に関する基礎知識と栄養素の消化吸収について理解する。			目標	A
健康な生活の基本としての食事の意義や食事の大切さを学ぶ。			目標	A
調理の基礎や離乳食に関する基礎知識を学ぶ。			目標	A・B
子どもの食と栄養を理解し栄養と発育の関連、栄養の過不足が理解できる。			目標	A・J
食育の基本を地域社会、文化との関わりを通して学び食育を企画ができる。			目標	A・J
家庭や児童福祉施設の食生活の現状、特別な配慮を要する子どもの食事を学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業内容)、評価方法・授業の進め方 自身の食事について考えてみる	授業計画 教科書	授業計画を読む
2	第1章 子どもの健康と食生活の意義 子どもをとりまく「食」の問題 *自身の食事について評価し発表する	教科書P 9～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「なぜ食事をするのか？」 200字
3	第2章 栄養に関する基本的知識 三大栄養素・五大栄養素 *栄養素の流れを図に書いて理解を深める	教科書P 17～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「三大栄養素、五大栄養素とは」200字
4	第2章 栄養に関する基本的知識 その他の栄養素(食物繊維、水) *脱水と熱中症状の違いを考える	教科書P 23～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 「食物繊維の働きについて」200字
5	第3章 消化・吸収・代謝に関する基礎知識 口～肛門まで、消化管について *食べ物の消化の旅、流れをまとめ	教科書P 25～ 補足資料、パワーポイント	予習 第3章を事前に読む
6	DVD学習(消化管の構造、食物の流れ) *消化について理解したことをまとめる レポート提出①	教科書P 25～ 補足資料、パワーポイント DVD「人体の小宇宙 ：消化管」約60分	予習：テーマ 「胃の役割」200字
7	第4章 食事摂取基準と小児の特徴 食生活指針・年齢区分・推奨量・目安量 *自分のBMIを計算して評価してみよう	教科書P 33～ 補足資料、パワーポイント	教科書 第4章を事前に読む
8	第4章 食事のバランスについて 「食事バランスガイドコマ」を使ってみる DVDでコマの使い方を視聴 *食事バランスについて評価し発表(各自)	教科書P 39～ 補足資料、パワーポイント DVD「コマの使い方」 10分	予習：テーマ 食べたものの記録
9	第5章 献立・調理の基本 食品区分(3つ、4つ、6つ)PFCバランス *モデル献立を区分してバランスを調べる	教科書P 41～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 3色食品群について調べる
10	第5章 献立・調理の基本 主食・主菜・副菜(一汁三菜の考え方) *3歳児用の献立を班で考えてみよう	教科書P 45～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 献立作成の手順 200字
11	第6章 食品の基礎知識 旬の食材・食品のマーク・栄養補助食品	教科書P 49～ 補足資料、パワーポイント	予習：テーマ 食品のマークについて 200字
12	第7章 調理演習(調理室) だしの取り方、だしの違い	教科書P 57～ 補足資料、パワーポイント	復習：授業のまとめ問題 プリント
13	第7章 調理演習(調理室) 野菜の切り方	教科書P 60～ 補足資料、パワーポイント	復習：授業のまとめ問題 プリント
14	第7章 調理演習(調理室) 幼児のおやつ	教科書P 60～ 補足資料、パワーポイント	予習：事前配布のレシピ をよく読んでくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	調理演習のまとめ、発表 前期のまとめ	教科書 補足資料、パワーポイント	復習：授業のまとめ問題 プリント
期末 試験	前期末試験（中間試験）	筆記試験	
16	食の安全性、食品添加物について考える DVD学習「Supper size me」	教科書、補足資料 DVD「Supper size me」 120分	予習 食品添加物について 200字
17	食の安全性、食品添加物について考える DVD学習「Supper size me」 *食品添加物と子どもの食、ディスカッション DVD学習後 「食の安全性に関して」レポート提出②		予習 食品添加物の種類 200字
18	第8章 出生前期の特徴と食生活 悪阻・便秘・貧血・肥満 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病	教科書P65～ 補足資料、パワーポイント	予習 妊娠期の食生活 300字
19	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 成長と発達・食習慣の形成 離乳食・市販ベビーフード	教科書P73～ 補足資料、パワーポイント	予習 離乳食のすすめ方 300字
20	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 市販食品や市販のベビーフードを調べる アレルギー表示、原材料、見た目、味、食感	教科書 補足資料、パワーポイント	予習 離乳食の種類 200字
21	第10章 幼児期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書P81～ 補足資料、パワーポイント	予習：幼児期の食生活の 問題点 200字
22	第11章 学童期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書P89～ 補足資料、パワーポイント	予習：教科書 第11章を事前に読む
23	第12章 保育所・幼稚園の給食 学校給食摂取基準・食中毒・手洗い・食事のマナー	教科書P97～ 補足資料、パワーポイント	予習 保育所給食の役割 300字
24	第13章 食育の基本と内容 保育所保育指針・食育基本法・食育推進基本計画 食文化・地産地消	教科書P105～ 補足資料、パワーポイント	予習：教科書 第13章を事前に読む
25	食育 DVD学習 「ぼくが命をいただいた3日間」感想をまとめる	教科書、補足資料 DVD「ぼくが命をいた だいた3日間」60分	予習 授業のまとめ問題 プリント
26	食育ポスター作成ポスター提出 班で食育のテーマを決めポスターを作る (色鉛筆、水性ペンなどを持参する)	教科書、補足資料 グループワーク	予習 食育ポスターの構想 200字
27	食育ポスター作成と発表 班でポスター内容を発表する (色鉛筆、水性ペンなどを持参する)	教科書、補足資料 グループワーク	復習 授業のまとめ問題 プリント

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
28	第14章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 共食・孤食・個食・家庭支援	教科書P113～ 補足資料、パワーポイント	予習：家庭での食事の問題点をまとめる 300字
29	第15章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾患と栄養 食物アレルギーがある子どもへの対応	教科書P121～ 補足資料、パワーポイント	予習：特定原材料7品、 特定原材料に準ずる20品 目を調べる 200字
30	まとめ DVD学習	DVD「はじめよう食育」 22分 DVD「食学の法則」 60分	復習：授業のまとめ問題 プリント学習
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に不達する到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A：期末試験 80点（前期末と後期末に40点満点の試験を2回実施） 目標B・J：授業内レポート 20%（10点満点×2回実施）			
【教科書】 書名：「コンパクト版保育者養成シリーズ 〈新版〉子どもの食と栄養」 著者名：水上由紀、細川裕子 編著 発行所：一藝社 価格：2,000円（税別）		【参考書】 特に指定しません。	
【その他補足事項】 調理演習：簡単な調理演習を3回実施致します（エプロン、バンダナ、調理室用上履きを各自準備する）。 離乳食調べ：市販の離乳食の成分や味などを調べる授業を1回行います。 食育ポスター作成：各班で食育ポスター作成を実際に行います（色鉛筆、水性ペンなどを持参）。 DVDによる学習：授業内容に関連するDVDによる授業も数回行実施致します。			

授業科目名	家庭支援論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：高橋雄二		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		NPO法人あざみ会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修士（こども心理） 社会福祉士、介護福祉士 介護福祉教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 保育の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解すると共に、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
家庭の意義とその機能について理解する。			目標	A
子育て家庭を取り巻く社会状況等について理解する。			目標	A
子育て家庭の支援体制について理解する。			目標	A
子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。			目標	B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	家庭の意義と機能 「家庭」「親族」「世帯」とは 家族の定義と機能の変化 支援者として家庭にどう向き合うか	授業の進め方を説明します。DVD「あなたと生きたい」15分	教科書とノートを持参してください。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	家庭支援の必要性 家庭における生活課題 生活の主体である家庭がもつ力	予習レビューで有用なものをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。	予習:レビューテーマ「家庭とはなにか?」 300字
3	保育士等が行う家庭支援の原理 児童福祉法改正と家庭支援の制度化 保育所・幼稚園における家庭支援 家庭支援の原則	予習レビューの授業導入活用DVD「すくすく子育て」20分	予習:レビューテーマ「家庭支援の制度」 300字
4	家庭支援と社会福祉 社会福祉の専門職としての保育士	予習レビューの授業導入活用DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」20分	予習:レビューテーマ「専門職としての保育」 300字
5	地域社会の変容と家庭支援 地域社会の変容 地域における多様な福祉課題 子どもの貧困対策	予習レビューの授業導入活用DVD「見えない貧困」20分	予習:レビューテーマ「支援を必要とする家庭」 300字
6	現代の家庭における人間関係 現代の家族・家庭の変容 家庭支援の際に配慮すべき家族の人間関係	予習レビューの授業導入活用DVD「マザーズ」20分 課題レポートの説明 「多様な形態の家庭を支援する際の配慮すべき事項について」	予習:レビューテーマ「様々な形の家庭」 300字
7	男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス 男女共同参画社会の実現に向けた取り組み 仕事と育児の両立環境	予習レビューの授業導入活用DVD「子育て労働者を支える」20分	予習:レビューテーマ「子育て支援」 300字
8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 児童家庭福祉の施策体系 社会資源としての専門機関	予習レビューの授業導入活用DVD「共生ケアは地域を支える」15分	予習:レビューテーマ「エンパワメントとは」 300字
9	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て支援・次世代育成支援の経緯 子ども・子育て関連3法の概要	予習レビューの授業導入活用DVD「ウワサの保護者会」15分	予習:レビューテーマ「子ども・子育て関連3法」 400字
10	多様な子育て支援サービスの概要 子育て支援サービスの意義 子ども・子育て支援新体制の概要	予習レビューの授業導入活用DVD「地域みんなで子どもを育てる」20分	予習:レビューテーマ「地域子育ての社会資源」 400字
11	保育所入所児童の家庭への支援 保育所の役割 入所している子どもの保護者への支援	予習レビューの授業導入活用DVD「すくすく子育て 保育所の役割」20分	予習:レビューテーマ「保育所を利用する家庭とは」 300字
12	地域の子育て家庭への支援 地域子育て家庭への支援とは何か 保育所の特性を活用した地域子育て家庭への支援	予習レビューの授業導入活用DVD「あそんでくれてありがとう」20分	予習:レビューテーマ「具体的な地域子育て支援方法」 400字
13	要保護児童およびその家庭に対する支援 要保護児童の全体像と家族的背景 親子関係再構築支援	予習レビューの授業導入活用DVD「ウワサの保護者会」20分	予習:レビューテーマ「親子関係再構築支援」 300字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	子育て支援における関係機関との連携 関係機関と連携する意味 子育てしやすい地域づくり	予習レビューの授業導入 活用DVD「固く閉ざした心を開け」20分	予習:レビューテーマ「関係機関と連携」 300字
15	子育て支援サービスの課題 待機児童対策と子育て支援 まとめ	予習レポートの発表内容 についてディスカッション を行うことにより今後 必要とされる家庭支援に ついて考察する。	予習:ディスカッション の準備としてレポートの 提出を求めます 「子育て支援の課題」A 4、3枚以内
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験70点（各35点） 目標B・K：ディスカッションの発言10点、課題レポート20点 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
【教科書】 書名：家庭支援論 著者名：松原康雄 村田典子 南野奈津子 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	社会的養護内容		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：客員教授 氏名：板垣 健太郎		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		(社福)富岳会富岳学園(知的障害児通園施設) 園長(昭和60年4月～平成元年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		福島県社会福祉会保育士研修会講師(平成11年4月～平成12年3月)		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		筑波大学大学院博士課程心身障害学研究所知能障害専攻単位取得後退学、修士(教育学)		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 児童福祉施設における養護内容が、対象児個々の理解のもとに構築されるものであることを理解し、対象児理解の重要性を認識するとともに対象児理解に関する基礎的な態度や技能を養うこと、児童養護の難しさや面白さを実感すること、適正な児童観や養護観を身に付けること等を目的とする。 要養護児童や障害を抱えた児童に関するビデオや実習記録等を事例として採りあげ、グループ討議も含めて、児童の理解とその援助について具体的に検討し演習展開する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
養護内容が対象児の理解のもとに構築されるものであることを理解する。	目標	A	
対象児理解の基礎的な態度や技能を養い、児童養護の難しさや面白さを実感する。	目標	B・C	
適正な児童観、養護観を養う。	目標	A	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、養護的援助行為の特性と専門性についての説明	講義 資料：「養護の構造」	配布資料により復習
2	乳児院の事例の検討① 事例を知る	事例説明 VTR「乳児院物語」(25分)	事例の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	乳児院の事例の検討② 対象児理解の方法を考える	討論 VTR「乳児院物語」(5分)	対象児理解の方法の確認
4	乳児院の事例の検討③ ポイントを絞って観察する	VTR視聴と討論	観察の確認
5	乳児院の事例の検討④ 対象児理解を深める	VTR視聴「狼に育てられた少女」(10分)、討論	対象児理解の確認
6	乳児院の事例の検討⑤ 望ましい対応を考える	討論	対応について確認
7	乳児院の事例の検討⑥ 事例の所見をまとめる	個人作業	所見の完成
8	児童養護施設の事例の検討① 事例を知る	事例説明、資料：実習記録「不思議な質問」	事例の確認
9	児童養護施設の事例の検討② 対象児を理解する	討論	対象児理解の確認
10	児童養護施設の事例の検討③ 例についての所見をまとめる	討論	所見の完成
11	児童養護施設の事例の検討④ 望ましい対応を考える	討論	対応の確認、所見作成準備
12	児童養護施設の事例の検討⑤ ～事例に関する所見を作成する	討論	所見の完成
13	子どもの遊びの事例の検討① 事例を知る	VTR「ある遊び」(10分)	事例の確認
14	子どもの遊びの事例の検討② 対象児を理解する	討論	対象児理解の確認
15	子どもの遊びの事例の検討③ 望ましい対応を考える	討論	対応の確認
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B・C：期末試験（Aに係わる問題20点相当、B・Cに係わる問題各40点相当…計100点）以上、合計100点で評価する。 ※遅刻・早退は1回につき1点の減点、欠席は1回につき3点の減点。			
【教科書】 なし。		【参考書】 なし。	

授業科目名	保育相談支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 清 孝	きよ たか	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 具体的に保護者が抱える育児に関する問題を、子どものより良い保育環境を整える視点から考える。 子どもにかかわる大人の生活（ライフサイクル）を理解し、保護者の子育てに関する問題に適切な対処をし、相談支援の記録・評価ができる力を養う。 本授業は講義のほかグループ討議、模擬相談演習、ロールプレイなどを行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
子どもや保護者の様子、また実際の保護者からの相談内容から、問題を見出し、支援を具体化する能力を身につける。	目標	J・L		
問題の整理方法と支援方法、またそれらの過程を記録し評価する技術を身につける。	目標	A・B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画 授業資料1・ゲーム	復習：課題解決過程

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	予習：親の立場での考え方の検討
5	保育相談支援の技術(1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	予習：保育者の立場での考え方の検討
6	保育相談支援の技術(2)	授業資料6 授業資料完成 グループ討議	予習：保育者の立場での考え方の検討 復習：「1～6のまとめ」
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料7	授業資料の整理 テーマ「1～6のまとめ」
8	保育相談支援の実際(1)	授業資料8 DVD視聴「保育相談支援」37分	予習：「助言」「解説」「情報提供」の在り方の検討
9	保育相談支援の実際(2)	授業資料9 模擬相談演習	予習：「助言」「解説」「情報提供」の在り方の検討
10	保育相談支援の実際(3)	授業資料10 模擬相談演習	予習：「支持」「承認」の在り方の検討
11	保育相談支援の記録(1)	授業資料11 ロールプレイ	予習：「支持」「承認」の在り方の検討
12	保育相談支援の記録(2)	授業資料12 ロールプレイ	予習：「行動見本」「体験提供」の在り方の検討
13	保育相談支援の評価(1)	授業資料13 ロールプレイ	予習：「行動見本」「体験提供」の在り方の検討
14	保育相談支援の評価(2)	授業資料14 ロールプレイ	予習：「環境構成」の在り方の検討 復習：「8～14のまとめ」
15	まとめ 小レポート作成		テーマ「8～14のまとめ」
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A・B : 期末試験（70点満点）。

目標A・B・J : レポート（2回）は30（各15）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。

目標B・L : ロールプレイ時の気づきについて発表できた学生には加点する。

目標A・J・L : その他 授業内容に関して、質問や意見を積極的に述べる学生には加点する。

100点を超えたものは一律100点とし、ほかに、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。

【教科書】 書名：演習 保育相談支援（第2版）

著者名：小林育子

発行所：萌文書林

価格：1,600円（税別）

【その他補足事項】

初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。

ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。

期末試験の際には、授業配布資料のみ持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。

授業配布資料は、授業内容及び必要事項を書き込み、授業中または授業後に完成させ試験に臨むこと。

授業科目名	乳児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：客員講師 氏名：永澤孝子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島福祉施設協会保育所保育士等（昭和47年4月～平成4年3月） 福島福祉施設協会保育所主任保育士（平成4年4月～平成12年3月） 福島福祉施設協会保育所所長（平成12年4月～平成24年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島学院大学認定こども園教職員・保護者カウンセラー 福島学院同窓会理事 福島市民生委員・児童委員 ふくしまマスターズ15期生会副事務局長 福島地区少年補導員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島女子短期大学保育科第一部卒業 準学士 保育士資格 幼稚園教諭一種免許状 甲種防火管理講習課程修了証		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 「乳児保育」は児童福祉施設における3歳未満児の保育について学ぶ科目です。0、1、2歳の発達を学ぶ過程で、この時期が人の一生に大きな影響を及ぼすことを理解し、心身共に最も養護を必要とすること、愛情豊かに応答的に行われることが保育者として求められます。 本授業では、保育所、認定こども園、乳児院における乳児保育の現状と課題、乳児保育の歴史的変遷、乳児の成長発達に即した援助の仕方、乳児保育指導計画の立案等専門的知識を学び、さらに乳児保育の技術や技能を実践演習を通して取得していきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
乳児保育の理念と歴史的変遷や役割について認識ができ、自分の言葉で説明ができるようになる。			目標	A・C
3歳未満児の発達の特徴をふまえて、感覚や運動機能の発達を支え、情緒的絆の形成を理解し、実践に備えることができるようになる。			目標	A・B・C
乳児期の遊びを通して発達が促されることを認識し、子どもの探索活動を十分に保障する環境や自発的活動を尊重する意義について理解できるようになる。			目標	A・B・C
乳児保育の計画・保育内容・環境構成や観察・記録等について理解ができ、実践に備えることができるようになる。			目標	A・B・C
乳児保育を通して保護者や関係機関との連携について理解ができ、保育者としての職務に、誇りと自覚が持てるようになる。			目標	A・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の概要と目標（授業内容） 評価方法・授業の進め方の留意点 乳児保育とは <ul style="list-style-type: none"> 心身共に最も養護を必要とする保育 人が育つことの理解 赤ちゃん人形を抱く	授業計画 たて抱き・横抱きの体験 第1回レポート作成	教科書第1章 「乳児保育とは」を復習する
2	抱っこ・おんぶ・おむつの替え方 <ul style="list-style-type: none"> 乳児とのふれ合いの基本を学ぶ 抱っこ・おんぶ・おむつ交換の技術 	グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 抱っこ・おんぶ・おむつ交換を学ぶ ベビー人形・プリント	教科書第5章「基本的な生活習慣の獲得」(3)援助の実際(1) おむつ交換を事前に読む
3	乳児保育の基本 <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と歴史の変遷 乳児保育の役割と機能 乳児保育の様々な場（保育所 認定こども園 小規模保育所 乳児院等）における現状 	VTR視聴「保育者への歩み」20分 プリント	教科書第2章「乳児保育の基本」第3章「乳児保育の制度と課題」を復習する
4	平成29年告示「保育所保育指針」について <ul style="list-style-type: none"> 改正された保育指針の構成と内容の特徴 平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について <ul style="list-style-type: none"> 改訂された教育・保育要領の構成と内容の特徴 乳児保育に関わる法律 <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法労働基準法育児介護休業法等 	保育所保育指針解説から学ぶ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説から学ぶ プリント	教科書第3章「乳児保育の制度と課題」を復習する
5	乳児の発達過程からみる保育内容 <ul style="list-style-type: none"> 0～6か月未満児の発達と保育内容 6か月以上1歳未満児の発達と保育内容 ポルトマン「生理的早産」から学ぶ	保育所保育指針・保育所保育指針解説から学ぶ	保育所保育指針第2章保育の内容「乳児保育に関するねらい及び内容」を事前に読むP13～P16
6	3歳未満児の発達過程からみる保育内容 <ul style="list-style-type: none"> 1歳以上2歳未満児の発達と保育内容 2歳以上3歳未満児の発達と保育内容 乳児の噛みつき・ひっかき等のトラブルへの対応	グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 噛みつきへの対応（ロールプレイング） プリント	保育所保育指針第2章「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」を事前に読むP16～P22
7	乳児の心の発達 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの人見知り アタッチメントの形成とその意義 	グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> 保育現場におけるアタッチメント プリント DVD視聴「赤ちゃんの秘密」20分	教科書第4章「3歳未満児の発達過程からみる保育内容」を復習する
8	乳児のこぼの発達 <ul style="list-style-type: none"> こぼの発達と必要な力 三項関係の出現 ～9か月の軌跡～ 0歳児1歳児2歳児の喜ぶ絵本	VTR視聴「絵本の読み聞かせ」20分 プリント	「ブックスタート運動」について調べておく
9	基本的な生活習慣 食事(1) <ul style="list-style-type: none"> 授乳の仕方 人工乳・冷凍母乳 離乳食の進め方 	グループ演習 <ul style="list-style-type: none"> 調乳の仕方を学ぶ プリント DVD視聴「離乳食のすすめかた」20分	教科書第8章「食事の計画、提供及び評価・改善」1冷凍・冷蔵母乳の取り扱いについてを事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	基本的な生活習慣 食事(2) <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの対応 基本的な生活習慣 睡眠 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の睡眠 ・睡眠の援助 	DVD視聴「聞いてみよう！食物アレルギーのこと」20分 プリント	教科書第8章2乳幼児と食物アレルギー 3保育室での配慮 教科書第5章「基本的な生活習慣の獲得」1食事3睡眠を事前に読む
11	基本的な生活習慣 排泄 <ul style="list-style-type: none"> ・おむつはずれの援助 基本的な生活習慣 衣服の着脱 <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選び方 ・衣服の着せ方・脱がせ方 	グループ討議 ・トイレの誘い方 グループ演習 ・衣服の着せ方・脱がせ方 ベビー人形 プリント	教科書第5章2排泄 5衣服の着脱を事前に読む
12	基本的な生活習慣 清潔 <ul style="list-style-type: none"> ・清潔とは ・沐浴の仕方 ・清拭の仕方 	DVD視聴「やさしい沐浴法」20分 グループ演習：沐浴の仕方を学ぶ ベビー人形 プリント	教科書第5章4清潔の習慣を事前に読む
13	手作りおもちゃの製作(1) <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わる楽しさを伝えるおもちゃ作り 	おもちゃの製作 ・音の鳴るおもちゃを作る プリント	乳児の発達を考慮し音の鳴る玩具を考えておく
14	手作りおもちゃの製作(2) <ul style="list-style-type: none"> ・完成したおもちゃの発表 	製作したおもちゃの発表 ・わかり易い発表の仕方 第2回レポート作成	子どもが理解できるような発表の仕方を考えておく
15	諸外国の出産の現状と子育て <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジア（アンコールワット）等の出産現状 自分が産まれてきたときのことを知る	DVD視聴「小さな命の詩」30分 プリント	授業後、自分が産まれた頃のことを家族に聞く
期末試験	前期末試験（中間試験）	筆記試験	
16	保護者支援(1) <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の背景 ・虐待の発見と対応 ・産後ケアとは 	DVD視聴「ママ達が非常事態1」20分 グループ討議・虐待の対応を知る プリント	教科書第7章「乳児保育における連携」を事前に読む
17	保護者支援(2) <ul style="list-style-type: none"> ・日本の子育て支援システム ・保育所・認定こども園・地域子育て支援の実際 ・子育て支援の連携法 ・わらべうた、連絡帳の活用法 	DVD視聴「育ち育てる子育ての時間」20分 グループ演習・連絡帳を書く プリント	教科書第7章「乳児保育における連携」を復習する
18	乳幼児の砂遊び <ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びによる発達の要素 ・感覚遊びの重要性 	DVD視聴「砂遊びから見る子どもの発達1」20分 プリント	教科書第9章コラム「砂遊びが子どもの生きる力を引き出す」を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	保育環境の衛生管理 ・保育室内外の衛生 乳児保育における安全管理(1) ・乳児期特有の病気と予防 ・薬の取り扱いと与薬依頼票	VTR視聴「保育の安全管理と事故防止」20分 プリント	保育所保育指針第3章健康及び安全を事前に読む P32～P35
20	乳児保育における安全管理(2) ・日常生活における危険 ・人数確認による子どもの把握 ・不審者の侵入防止	グループ討議 ・日常生活での危険と回避の仕方 第3回レポート作成	実習等で経験した日常生活での危険についてまとめておく
21	子どもの育ちと家庭との連携(1) ・外国につながる子ども、保護者のことば支援 ・民族・宗教等の多文化共生を目指した支援	グループ討議 ・ことばの壁の支援の仕方 プリント	外国につながる子どもや保護者について配慮すべき事を考えておく
22	子どもの育ちと家庭との連携(2) ・児童福祉法の子どもの権利と保護者関係 ・教育基本法の子どもの権利と保護者関係 ・ユニセフと子どもの権利条約	DVD視聴「ママ達が非常事態2」20分	教科書第9章「子育てをめぐる家族の権利と責任」を事前に読む
23	子どもの発達課題(1) ・発達障害とは ・発達の遅れに気づく 乳幼児が喜ぶわらべうた	DVD視聴「君が僕の息子についておしえてくれたこと」30分 第4回レポート作成 プリント	
24	子どもの発達課題(2) ・保育者からの発信の仕方 ・保護者支援と医療との連携	グループ討議 ・保護者支援の進め方 プリント	障害がある子どもの保護者への支援の仕方について調べておく
25	乳児保育の指導計画(1) ・年間指導計画の作成ポイント ・月間指導計画の作成ポイント ・保育の計画と評価・改善	プリント	教科書第6章「乳児保育の計画と記録」を事前に読む
26	乳児保育の指導計画(2) ・年間指導計画の見方 ・クラス運営の仕方 ・月案の部分作成	グループ討議 ・4月指導案の部分作成 プリント	作成した指導案の見直しをする
27	福島の子どもの外遊び・砂遊び ・東日本大震災、原発事故の影響と現在の状況 ・外遊び・砂遊びと乳児の発達 乳幼児の外遊びの取り組みや配慮について	グループ討議 ・外遊びの取り組みや配慮 第5回レポート作成	実習先での外遊びの取り組み等についてまとめておく
28	手作り絵本の製作 ・終わらない絵本作り 絵本の読み聞かせ(1) ・絵本の役割と選び方	簡単な絵本を作る ・絵本の発表 グループ討議 ・3歳未満児の絵本選択	乳児に見せたい絵本を持参する 絵本の5場面を考えておく
29	絵本の読み聞かせ(2) ・読み聞かせの発表をする	グループ演習 ・グループ毎の読み聞かせ	読み聞かせの練習をしてくる
30	まとめ ・乳児保育における保育者の役割と専門性	DVD視聴「地域の顔が見える子育て支援」20分 第6回レポート作成	保育者の役割と専門性についての考えをまとめておく
期末試験	後期末試験	筆記試験	

<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C：前期末試験30点 後期末試験30点 目標A・C：レポート作成（5点満点×6回） 目標B：製作物提出20点満点 目標B・C：グループ討議・演習態度及び意欲10点満点 総計120点満点で評価（100点を超えたものは一律100点とする） ※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細については初回授業時に説明します。</p>	
<p>【教科書】 書名：コンパス乳児保育 著者名：咲間まり子 編著 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）</p>	<p>【参考書】 特に指定しません。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の4、5、6、19回において、平成29年告示「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、および平成29年告示「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を使用します。 2. 乳児にふさわしい絵本をひとり1冊用意しておいてください。 3. 授業配布資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルしておいてください。（配布資料から試験に出題することもあります） 	

授業科目名	体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>	開 講 期	通年	
		授 業 回 数	30回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 子どもの運動あそびや体育領域（体づくり運動、ゲーム、器械運動、ボール運動、表現運動等）の内容について、知識と技術の両面から学習する。発育発達段階に応じた運動あそびの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。また、単元ごとにグループ発表（模擬授業）を実施し、実践能力を養う。 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につけ、保育・教育現場で活用できる運動の方法を習得することを授業目標とする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの発達に応じた運動実践の方法を理解する。			目標	A
模擬保育を通じて運動指導の実践力を身に付ける。			目標	I
運動遊びの指導計画案を作成できるようになる。			目標	A・K
子どもの運動指導に必要な最低限の運動技能を身に付ける。			目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	今後の授業展開や内容について	授業計画(シラバス)持参	配付資料を読んで整理し、ファイリングしておく。
2	体づくり運動	プリント教材・CD使用	資料「体づくり運動」を読んで予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	体力測定(1) (現時点での自分の体力を知る)	グループワーク	体力づくりに努める。
4	マット(1) (様々な遊び)	グループワーク (技や遊びの学び合い)	マットを使った遊びについて調べてくる。
5	マット(2) (グループ発表)	グループ発表	発表担当グループは配布用指導案を作成してくる。
6	マット(3) (スキルチェック)	グループワーク (お互いにスキルチェック)	練習 (前転・後転など)
7	跳び箱運動(1)	グループワーク (技や遊びの学び合い)	とび箱を使った遊びについて調べてくる。
8	跳び箱運動(2) (グループ発表)	グループ発表	発表担当グループは配布用指導案を作成してくる。
9	跳び箱運動(3) (スキルチェック)	グループワーク (お互いにスキルチェック)	体力づくりに努める。
10	フープ (グループ発表⑤) 組み立て体操(1) 計画	グループ発表	フープを使った遊びについて調べてくる。
11	組み立て体操(2) 計画及び実践練習	グループワーク	個人技を練習してくる。
12	組み立て体操(3) 実践練習と発表	グループ発表	計画案を完成させること。
13	パラバルーン(1)	グループワーク (技や遊びの学び合い)	パラバルーンを使った遊びについて調べてくる。
14	パラバルーン(2) 全グループでの発表	グループ発表	技や遊び方のポイントをまとめておくこと。
15	運動遊び指導に必要な基礎理論(1) ～子どもの体、体力・運動能力の発達～	スライド・プリント教材 使用	前期授業で配布された資料をファイリングし、当日持参すること。
期末 試験	前期末試験 (中間試験)		前期の内容を復習しておく。
16	体力測定(2) (10月時点での自分の体力を知る)	前期の体力測定結果を持参すること。	体力づくりに努める。
17	運動会 (計画)	グループワーク	運動会の種目について調べてくる。
18	運動会 (準備)	グループワーク	計画案を完成させること。
19	運動会 (実践) (グループ発表・全グループ)	グループ発表	体力づくりに努める。
20	鉄棒運動(1)	グループワーク (技や遊びの学び合い)	鉄棒を使った遊びについて調べてくる。
21	鉄棒運動(2) (グループ発表)	グループ発表	発表担当グループは配布用指導案を作成してくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	鉄棒運動(3) (スキルチェック)	グループワーク (お互いにスキルチェック)	体力づくりに努める。
23	縄跳び運動(1) (グループ発表)	グループ発表	長縄を使った遊びについて調べてくる。
24	縄跳び運動(2) (スキルチェック)	グループワーク (お互いにスキルチェック)	練習 (前、後、あや、二重跳び)
25	ボール遊び(1) (グループ発表)	グループ発表	ボールを使った遊びについて調べてくる。
26	ボール遊び(2) (スキルチェック)	グループワーク (お互いにスキルチェック)	体力づくりに努める。
27	様々な遊び (鬼あそび・伝承あそび・雪遊びなど) (1) (全グループ発表)	グループ発表	鬼遊び、伝承あそびについて調べてくる。
28	様々な遊び (鬼あそび・伝承あそび・雪遊びなど) (2) (全グループ発表)	グループ発表	鬼遊び、伝承あそびについて調べてくる。
29	運動課題の振り返りとスキルチェック	達成できない運動課題を学び合いながら練習する。	自分にとっての課題が何かまとめておく。
30	運動遊び指導に必要な基礎理論(2) ～幼児期運動指針のまとめ～	DVD「幼児期の運動に関する指導参考資料・スポーツ庁」	後期授業の復習
期末試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】

目標 A : 中間試験 20%、期末試験 40%
 目標 B : スキルチェック 20% (4回×各5点)
 目標 I・K : グループ発表 20% (10回×各2点)

【その他補足事項】

- (1) 運動ができる服装および室内用シューズを着用すること。(忘れ物は減点の対象とする。)
- (2) 授業が始まるまでに、アクセサリ類 (指輪、ネックレス、ピアス等) は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。(教員から注意を受けた場合、減点の対象とする)
- (3) 貴重品は必ずロッカーに入れること。
- (4) 毎回プリントを配布するので、单元ごとにインデックスを付け、各自で管理すること (A4サイズ2穴フラットファイルを用意しておくこと)。
- (5) 天候によって、雪遊びを行わないことがある。

授業科目名	保育内容指導法 環境		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：すぎうらひろゆき 杉浦広幸		開講期	前期・後期
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		新潟県園芸試験場（1989年4月～1996年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		全農福島県特定栽培農産物評議委員（委員長）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		岐阜大学大学院連合農学研究科博士後期課程修了 博士（農学） 農業改良普及員、毒物劇物取り扱い主任者（一般用） 日本放射線安全管理学会、園芸学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは火曜日昼宮代キャンパス研究室にて行います。		

【授業の概要】 本授業におけるテーマは、保育における環境（子どもの暮らし、あそび、学びにとって意味のある外界）としての物的環境、人的環境、自然環境および社会的環境を学習する。また、基本的に知っておくべき動植物について学習してもらう。そして、出身地・実習先の環境に関わる特徴の学習について、学生の自主的な学習を促す。さらに、放射能の問題もまだ残っているため、保護者に安心してもらえるよう、対策と必要な知識を学習してもらう。保護者が安心して子どもを託すことができるよう、安心できる環境の知識を体験的に学ぶ。授業について、能動的学習についても取り入れる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもが周囲の環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味関心を持たせられるように保育できる。		目標	A	
子どもが身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れられるように保育できる。		目標	K	
身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で様々な物や事象に対する感覚が豊かになるように保育できる。		目標	I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 子どもをとりまく環境（事例：附属認定こども園の園庭）	教科書、PowerPoint、園庭見学	復習：附属こども園の園庭を観察しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	乳幼児の教育・保育と環境 本学キャンパスの環境	教科書、PowerPoint	予習：年少児と年長児のロッカーの違いを考えておく。
3	領域「環境」のとらえ方と考え方(1) 幼稚園教育要領	教科書、手製資料	復習：キャンパスの敷地を理解しておく。
4	領域「環境」のとらえ方と考え方(2) 保育所保育指針	教科書、PowerPoint	予習：公園などで遊具を観察しておく。
5	領域「環境」のとらえ方と考え方(3) 認定子ども園教育・保育要領	教科書、手製資料	予習：保育所（幼稚園）設置認可基準をネットで調べておく。
6	領域「環境」のとらえ方と考え方(4) 幼稚園・保育所設置認可基準	教科書、手製資料	復習：幼稚園教育要領を読んでおく。
7	領域「環境」のとらえ方と考え方(4) 保育所保育指針における「環境」とは	教科書、手製資料	復習：保育所保育指針を読んでおく。
8	保育環境の構成(1) 遊びのきっかけ・安定を促す環境の構成	教科書、手製資料、グループ活動1（遊びのきっかけ・安定を促す環境保育室の準備）	予習：保育室の環境構成をシュミレーションしておく。
9	保育環境の構成(2) 自然環境を生かした活動とその指導法（ビオトープ）	教科書、手製資料、グループ活動2 夏マップ	予習：キャンパスの夏を探しておく。
10	環境マップ（初夏～夏）	教科書、PowerPoint、手製資料、グループ活動3（原発事故と保育者）	予習：東北の環境汚染問題を調べておく。
11	人的環境(1) 子どもと保育者の意味、友だちや異年齢の子、様々な人との関わり	教科書、PowerPoint	予習：将来の自分の家庭環境を考えておく。
12	人的環境(2) 物の媒介とイメージの共有（農・園芸の環境と人材の活用と法とその指導法）	手製資料、グループ活動4（年間プランの設定と役割分担）	予習：こどもの担当できる農作業を考えておく。
13	物的環境(1) 屋外環境	教科書、PowerPoint	予習：出身園の菜園・花壇を思い出して整理しておく。
14	物的環境(2) 屋内環境（園舎、保育室、遊戯室など）	教科書、PowerPoint、グループ活動5（すばらしい園舎）	復習：園具、教具、遊具、素材の分類を考えておく。
15	前期の振り返りと前期末試験対策	教科書、PowerPoint、それまで配付した資料	復習：出題範囲を整理しておく。
期末試験	テスト実施	持込なし	
16	乳幼児の発達	教科書、手製資料、レポート（秋マップ）	予習・復習：赤ちゃんの周囲を観察しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	自然環境(1) 自然の事象への関心(身近な自然、広い意味の自然)	教科書、PowerPoint、 グループ活動6(遠足の下見報告)	予習:遠足の下見を想定して報告事項を考えておく。
18	自然環境(2) 生き物との関わり(種類と飼育方法)	教科書、PowerPoint、 グループ活動7(なぜ滅んだ?トキ、ニホンカワウソ)	予習:身近にいる動物をリストアップしておく。
19	自然環境(3) 植物・農作物の利用 本物のカボチャでハロウィンのランタン作り	教科書、PowerPoint、 小テスト①生き物	予習:キリギリス、トノサマバッタ、イナゴの違いを学んでおく。
20	自然環境(4) 植物とのかかわり — 花、樹、農作物の知識と指導の観点、 小テスト①花・草	教科書、農作物(カボチャ)を使った活動、 小テスト②虫	予習:ランタンの顔を考えておく。
21	自然環境(5) 植物とのかかわり — 栽培方法と保育上の意味と指導の観点 小テスト②木	教科書、PowerPoint、 小テスト③花・野草	予習:ジャガイモ、ニンジン、タマネギの収穫期を調べておく。
22	自然環境(6) 動物とのかかわり 小テスト③生き物	教科書、PowerPoint、 小テスト④木・木の実	予習:こどもの頃楽しかった食べる行事を整理しておく。
23	自然環境(7) 生活に必要な文字、数など、看板・形 小テスト④虫など	教科書、PowerPoint、 グループ活動8(標識、数、形)	予習:こどもに文字や標識を覚えさせる方法を考えておく。
24	社会環境(1) 園行事と子ども	教科書、PowerPoint	予習:季節の園行事を整理しておく。
25	社会環境(2) 子どもにとっての身近な文化、地域環境や地域の人々との 触れ合い	教科書、新聞記事、 グループ活動9(こども虐待対策)	予習:こどもに関わる社会問題を調べておく。
26	持続可能な社会への対応(ESD) (グループ活動:ESD計画)	教科書、PowerPoint	予習:環境問題に関する園の取り組みを知っておく。
27	子どもを守る安全な環境(1) 種々の危険、子どもを災害から守るその指導を含む(東日本大震災から)、 レポート・グループ活動	教科書、PowerPoint、 手製資料、グループ活動10(津波対策)	予習:震災当時の自分を思い出し、自分ならどう行動したか考えておく。
28	子どもを守る安全な環境(2) 子どもの特性からくる危険、動線と安全への指導	教科書、PowerPoint	予習:遠足の下見を想定し、通学路周囲を観察しておく。
29	子どもを守る安全な環境(3) 環境放射線・放射能対策(保育者・保護者の対応)、 レポート⑤	教科書、PowerPoint	予習:近隣のモニタリングポストを確認しておく。
30	物的環境(3) 覚えているかな?園の構造物 — 試験前対策 —	教科書、後期に配布した資料	復習:園庭の構造物について設置理由を復習しておく。
期末試験	実施	持込なし	

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A：前・後期末テスト60%。小テスト4回：20%

（10点満点×5、第2回～4回は間違った回答に対しレポートでの再チャレンジを認める）。

目標I：グループ活動（プレゼンテーション）10%。

目標K：レポート10%。

※欠席は1回につき3点減点、遅刻・早退は1回につき1点減点（遅刻・早退3回は欠席1回とみなして3点減点）とする。ただし、実習、就職面接、自然災害、公共交通の遅れ等、正当な理由と判断される欠席（届出のあるもの）は除く。また、授業への取り組みに積極性が評価できる場合は3点加点、授業中の問題行動は1件につき1点減点とする。

【教科書】 書名：生活事例からはじめる ― 保育内容 ― 環境

著者名：徳安敦 瀧川光治 杉浦広幸

発行所：青踏社

価格：1,900円（税別）

【その他補足事項】

季節感や屋外での観察を重視するため、基本的に毎回屋外へ出ることから、靴は土の場所を歩くことができるものを履いてくること。また、日射が気になる場合は帽子、寒い場合は防寒着を準備のこと。

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		國學院大学文学研究科博士課程後期修了 博士（文学） 情報保障研究会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 最初に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園保育要領」にある「言葉」の領域に関するねらいと内容について理解する。その上で、子どもの言葉の獲得と発達についての理解を深めていく。 さらに子どもの言語的資質を高める実践について、ことば遊び・絵本・紙芝居などを取り上げて、どのように指導したらよいか、事例を見ながら分かりやすく指導する。さらに子どもの「言葉のモデル」としての保育者の言葉遣いについても触れる。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
「言葉」の指導法の理解をテーマとし、子どもの言葉の発達の特徴や言語環境とのかわりから、子どもの言語的資質を高める理論と実践について理解を深める。			目標	A・B
子どもの言葉の獲得と発達について理解を深め、乳幼児期の言葉に関する特徴やその指導について知識・能力を深化させることを目標とする。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業計画と評価方法 保育内容「言葉」の位置づけと内容	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：授業計画の確認
2	「言葉」に関するねらいと内容 — 幼稚園教育要領 —	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習：「幼稚園教育要領」についての事前学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第3回:「言葉」に関するねらいと内容 — 保育所保育指針 — — 認定こども園教育・保育要領 —	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習: 保育所保育指針、教育・保育要領についての事前学習
4	保育者のことば(1) 方言・敬語・幼稚園語	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習: 教科書第1章の事前学習
5	保育者のことば(2) 保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習: 教科書第2章の事前学習
6	子どものことば(1) ことばの発達・ことばの発達と条件・音声の発達 (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライドによる解説 (DVD視聴「ことばの発達」21分)・質疑応答	予習: 教科書第2章の事前学習
7	子どものことば(2) 音声の発達・語彙の発達	教科書・配布資料・スライドによる解説・質疑応答	予習: 教科書第2章の事前学習
8	子どものことば(3) 文字の発達・言語障害 (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライド (DVD視聴「早期教育を考える」30分)・質疑応答	予習: 教科書第3章の事前学習
9	文字の早期教育について(1) 「幼稚園教育要領解説」での扱い	教科書・配布資料・スライド (グループワークによる協議)	予習: グループワークにむけての課題作成
10	文字の早期教育について(2) 最新の研究成果では (CiNii (国立情報学研究所学術情報データベース) の検索)	教科書・PC・リファレンスデータベース・表計算ソフト・配布資料を用いてのグループワーク	予習: グループワークにむけての課題作成
11	ことばの指導と計画(1) 年間・学期別・月間指導計画表	教科書・配布資料・スライドを用いてグループワークによる協議	予習: グループワークに向けての課題作成
12	ことばの指導と計画(2) 週案、日案 レポート①	教科書・配布資料・スライドを用いてグループワークによる協議	予習: グループワークにむけての課題作成 レポート作成
13	子どもの言葉を発達させる活動(1) — ことば遊び —	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習: 研究発表に向けての課題作成
14	子どもの言葉を発達させる活動(2) — 絵本 — 絵本の特性 絵本の選択	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習: 研究発表に向けての課題作成
15	子どもの言葉を発達させる活動(3) — 絵本 — 絵本の指導 読み聞かせする時の留意点	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習: 研究発表に向けての課題作成
期末試験	前期末試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	子どもの言葉を発達させる活動(4) — 絵本 — 一読総合法による読み聞かせ絵本を通して	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
17	子どもの言葉を発達させる活動(5) — 絵本 — 「ブックスタート」について (VTR視聴)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表 (DVD視聴「クシュラの奇跡」24分) (DVD視聴「ブックスタートの活動」16分)	予習：指定された範囲の事前学習
18	子どもの言葉を発達させる活動(6) — 紙芝居 — 紙芝居の歴史の変遷 紙芝居の特性	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
19	子どもの言葉を発達させる活動(7) — 紙芝居 — 紙芝居の構成 紙芝居の選択	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
20	子どもの言葉を発達させる活動(8) — 紙芝居 — 電子紙芝居の効果を考える (効果音・クリップアートの活用など)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
21	子どもの言葉を発達させる活動(9) — 紙芝居 — 電子紙芝居の実際と活用 (動く絵や音の出る絵の活用)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
22	子どもの言葉を発達させる活動(10) — その他の活動 — エプロンシアター 人形劇	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
23	子どもの言葉を発達させる活動(11) — その他の活動 — 人形劇 テレビ (ラジオ聴取)	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表 (カセットテープ聴取NHKラジオ第2「お話出てこい」15分)	予習：研究発表に向けての課題作成
24	絵本の教材研究の発表(1) 年少児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
25	絵本の教材研究の発表(2) 年中児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
26	絵本の教材研究の発表(3) 年長児対象の絵本	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
27	紙芝居の教材研究の発表(1) 年少児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
28	紙芝居の教材研究の発表(2) 年中児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	紙芝居の教材研究の発表(3) 年長児対象の紙芝居	教科書・配布資料・スライドを用いてグループ研究発表	予習：研究発表に向けての課題作成
30	総括質疑 今までの授業内容を踏まえて「言葉」についてのまとめと質疑 レポート②	教科書・配布資料・スライドを用いての解説・質疑応答、研究発表の講評	予習：これまでの学習内容をまとめ、質問項目を作成
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B：期末試験80% 目標A・B：課題提出（5回）10% 目標B・F：教科書の朗読10% ほか、評価に関する共通の理解に則る減点を総合点より行う。			
【教科書】 書名：新訂 保育内容指導法「言葉」 著者名：田上貞一郎 高荒正子 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）			
【その他補足事項】 教科書の他に適宜講義資料を配布する。			

授業科目名	保育内容指導法 表現 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年生
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象教員免許状更新講座講師 (平成23年～) 文部科学省認定他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		武蔵野美術大学大学院造形研究科日本画コース修了、芸術学修士 学芸員資格・中学校教諭一種免許(美術)／高等学校教諭専修免許(美術)、 美術科教育学会、全国造形美術教育教員養成協議会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼児の造形表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解します。幼児の姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていきます。実技では保育現場で行う様々な絵画技法と指導上の留意点や、材料用具の特徴を知っていきます。基礎・基本を体験的に学びながら、製作を通して知識や技術を身に付けます。そして「表現」領域における造形表現の望ましい指導の在り方をさぐります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児の造形表現の姿や、表現活動の意義を理解し、保育者として望ましい指導援助の仕方を考えられるようになります。			目標	A・B
感性が豊かになり、イメージを膨らませて、造形的な表現力が高められます。			目標	F・J
作品製作を通して、材料用具の特性を把握し、それをを用いた様々な技法を習得することで、目的に応じた活用ができるようになります。			目標	A・B・F・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保育内容指導法 表現の概要 年間の授業計画、学習の進め方、評価方法について	授業計画 教科書	自然観察 教科書の復習と予習 (領域表現について)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	「表現」のねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領をふまえて	教科書、プリント 映像教材視聴(20分)「0歳からの表現活動」	3法令の復習と教科書の予習 映像教材視聴後の感想をまとめる(レポート①)
3	幼児造形表現の特質 ・領域間の関連性と評価の視点	教科書	教科書の復習と予習
4	幼児造形表現の発達(1) ・発達の特徴	教科書 映像教材視聴(20分)「触れること、かくこと、つくること」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート②)
5	幼児造形表現の発達(2) ・造形表現における発達段階	教科書 映像教材視聴(20分)「かく、つくる、あそぶ～社会性を育む幼児の表現活動」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート③)
6	幼児画の特徴や様式	教科書 映像教材視聴(20分)「子どもの絵を読み取る」	教科書の復習と予習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート④)
7	作品製作の留意点	プリント 画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、製作を進める
8	造形表現(平面)の内容とその指導(1) ・技法を使用して表現する(概要の説明) ・指導案作成の留意点、描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
9	造形表現の内容とその指導(2) ・技法を使用して表現する(マーブリングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介(描画ソフトは使用せず、教示のみです)	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
10	造形表現の内容とその指導(3) ・技法を使用して表現する(デカルコマニーなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
11	造形表現の内容とその指導(4) ・技法を使用して表現する(スパッタリングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
12	造形表現の内容とその指導(5) ・技法を使用して表現する(フロッタージュなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
13	造形表現の内容とその指導(6) ・技法を使用して表現する(ドリッピングなど) ・描画ソフトを用いた作画技法の紹介	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、製作を進める
14	造形表現の内容とその指導(7) ・技法を使用して表現する(スタンピングなど)	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	造形表現の内容とその指導(8) ・技法を使用して表現する(模擬保育とその振り返り)	教科書、プリント 絵具、画用紙等	教科書の復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
16	中間試験 前期分の締めくくりとして授業前半に「学びの振り返り(中間試験)」を実施し、後半に試験内容の解説を含みながら、前期の学びを確認していく。	プリント	試験の復習を行う
17	感性と表現について考える(1) ・エイブル・アートについて	映像教材視聴(40分)「日曜美術館」 課題について発表し、意見を述べ合う	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑤)
18	感性と表現について考える(2) ・脳と心の世界を探索	映像教材視聴(40分)「驚異の小宇宙 人体 脳と心」	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑥)
19	感性と表現について考える(3) ・「自然」と「芸術」を通じた幼児教育を知る	映像教材視聴(40分)「レッジョ・エミリア市の挑戦 — 子どもの輝く創造力を育てる」	プリントの復習 映像教材視聴後の感想を書く(レポート⑦) 教科書の予習
20	幼児造形教育の方法について(1) ・造形遊びの実践 情報機器を活用した指導計画の作成について	プリント 様々な素材 OHPなど 課題について発表し、意見を述べ合う	プリントの復習と教科書の予習 ワークシートの記入と提出
21	幼児造形教育の方法について(2) ・用具や材料についての理解を深める 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書の復習と予習
22	造形表現(立体)の内容とその指導(1) ・紙材の基礎技法を踏まえた模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
23	造形表現(立体)の内容とその指導(2) ・紙材の基礎技法を踏まえた模擬保育の指導案	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
24	造形表現(立体)の内容とその指導(1) ・概要説明、指導案作成の留意点の振り返り ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
25	造形表現(立体)の内容とその指導(2) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育の指導案 情報機器を活用した指導計画の作成について	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める
26	造形表現(立体)の内容とその指導(3) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習と予習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	造形表現(立体)の内容とその指導(4) ・様々な材料を使用して表現する — 模擬保育 情報機器を活用した指導計画の取りまとめ	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習 と予習 空き時間を使って、課題 を進める
28	造形表現(立体)の内容とその指導(5) ・様々な材料を使用して表現する 情報機器を活用した指導計画の取りまとめ	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習 と予習 空き時間を使って、課題 を進める
29	課題の発表と考察(模擬保育の振り返り) ・表現の広がり、教材化を目指して	教科書、プリント 用具、材料等 課題について発表し、意 見を述べ合う	教科書、プリントの復習 と予習
30	まとめと幼児造形教育の課題について(模擬保育の振り返り)	教科書、プリント 用具、材料等	教科書、プリントの復習 試験勉強を行う
期末 試験	後期末試験を行う	プリント	教科書、プリントの復習 試験の復習を行う
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・B・F・J：課題(作品)評価 50% 目標A・B：試験 30% 目標A・B：レポート提出 10% 目標A・B・F・J：受講態度 10%(授業に臨む意欲と姿勢、質疑応答の内容と頻度、提出物の状況)			
【教科書】 書名：「幼児教育法講座 新造形表現 <理論・実践編>」 著者名：花篤實 岡田愨吾 編著 発行所：三晃書房 価格：2,000円(税別)		【参考書】 幼稚園教育要領解説(最新版)240円(税別) 保育所保育指針解説(最新版)320円(税別) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版)249円(税別) ※「保育内容総論」他の授業で使用する教科書 その都度、紹介する。授業時にプリントを 配布。	
【その他補足事項】 材料費として1,600円を徴収します。 ※学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合があります。			

授業科目名	認定こども園基本実習		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名： <small>ながくぼ かず こ</small> 長久保 和 子		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本女子大学家政学部児童学科、学士（家政学） 幼稚園教諭一種免許状、日本保育学会、東北児童青年精神医学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目は、学外での各種実習を行う前に、本学が独自に設定する必修科目である。本学認定こども園（平成27年度から幼保連携型認定こども園とする）にて、1班10名編成で5日間の実習を行う。初日は講義を中心とし、観察の仕方や日誌の書き方について学ぶ。2～4日目では観察実習を行い、5日目では指導計画や記録のまとめ方に重点を置き、幼児理解における基礎を養う。また、幼児の前で自分の得意とする分野（紙芝居、ピアノ、エプロンシアターなど）の演習を行い、環境構成や製作の手伝いなどを経験しながら、指導法の基礎も理解する。さらに、幼児教育の実際について体験し、適切な勤務態度を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児の様子や発達段階を観る。		目標	A・D
保育教諭の仕事や役割について体験的に学ぶ。		目標	A・D・G
認定こども園の目的や機能を知る。		目標	A
保育者として必要、適切な勤務態度を身につける。		目標	A・G・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1 (5	2年次／9月または2月（10名編成） ○実習の目的と意義 ○実習の目標と心構え ○観察（参加）の意義 ○個別観察と全体観察 ○技術演習 ○実習日誌作成 ○環境構成	○講義 ・シラバス、資料に基づいて説明 ・グループディスカッションを行う <場所> 認定こども園2階 実習生室 ○観察、参加、環境構成、技術演習 ・各保育室や園舎内で実際に体験学習を行う。 <場所> 各保育室 (各保育室あたり1～2名)	・一日の活動を振り返り、自分の課題を見つける。 ・一日の活動の流れを日誌にまとめ記録し、翌朝提出する。
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>実習中の態度および実習記録から、以下の項目について100点満点で総合的に評価する。</p> <p>目標A : 認定こども園の機能や保育教諭の仕事や役割についての理解 幼児の様子や発達段階の理解</p> <p>目標D : 観察した内容が整理され、日誌に記録できるかどうか。また、次の活動で生かされているか。</p> <p>目標G・K : 保育教諭として必要、適切な基本的態度</p> <p>※詳細は初回授業にて説明する。</p>			
<p>【実習費】 (1) 基本実習委託費 3,000円 (2) 腸内感染症検査料（1回分） 600円程度</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>(1) 実習最終日に各自、給食費（280円×観察日数）を聴取する。</p> <p>(2) 実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、および風疹・麻疹（はしか）の抗体を有する証明書を実習先へ持参する。</p> <p>(3) 評価に関し、学生もしくは家族等が直接、実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。</p> <p>(4) 実習期間中に何らかの理由で出勤ができなくなった場合は、実習期間中の単位を認定しない場合がある（遅刻・早退・欠席した場合について等、初回授業にて説明する）。</p>			

授業科目名	保育実習指導 I		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2～3年次
担当教員	教授 今 清 孝 （こん きよ たか）	助教 鈴木 翔 太 （すず き しょう た）	開講期	通年
			授業回数	30回
	期末試験の有無	無		
授業に関する主な実務経験と期間	今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭（平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園主幹保育教諭（平成29年4月1日～）			
社会貢献としての委員会・職等	今：福島市産官学プラットフォーム保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

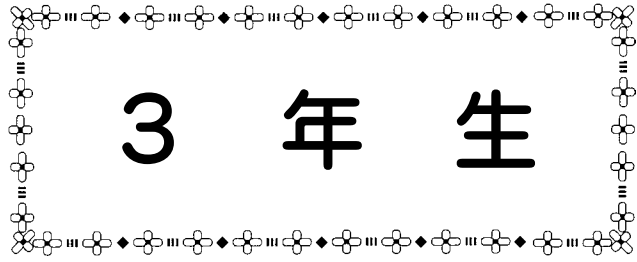
【授業の概要】 保育実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確化して実習に臨めるよう実習に向け準備する。また実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容についても理解する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、今後の課題や目標を明確にする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育実習の意義・目的を理解する。	目標	A		
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。	目標	K		
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。	目標	A・B		
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。	目標	B・J		
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	目標	K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 児童福祉施設の役割と機能 保育所の役割と機能 居宅型児童福祉施設の役割と機能	授業計画 講義 教科書 プリント	教科書第1章を熟読して授業参加のこと
2	保育実習の意義と目的 保育実習の意義と目的の理解 保育実習の目標	VTR「保育者へのあゆみ — 保育実習の実際」(30分) ディスカッション	「保育実習の手引き」第1章を熟読して授業参加のこと
3	子どもの人権と最善の利益 保育者の役割 子どもの理解	プリント ディスカッション	「子どもの権利条約」読後授業参加のこと 「保育所保育指針」第2章を熟読して授業参加のこと
4	保育実習の心構え 保育士の専門性と職業倫理	「保育所実習の手引き」	「保育実習の手引き」第4章を熟読して授業参加のこと
5	実習の諸手続きと内容 実習書類の作成	教科書 実習書類の記入、作成	次回までに書類を仕上げてくること
6	実習記録の理解 記録の意義と役割 実習日誌の留意点	講義 プリント	保育実習反省会の事例を読後授業参加のこと
7	実習日誌の書き方	プリント 日誌の記入練習	保育実習反省会の事例をまとめて資料作成し授業に持参すること
8	実習課題の理解 事前訪問・オリエンテーションについて	講義 グループワーク	各自実習仮課題を検討すること
9	保育所の1日 保育所保育の理解	VTR「保育士・幼稚園教諭になるために」(30分) ディスカッション	「課題レポート」提出
10	保育所実習の実際① 観察・参加・部分実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」 ディスカッション
11	保育所実習の実際② 指導案作成の留意点	VTR「軽度発達障害のある子どもたち」第2巻(30分) 指導案作成資料	指導案作成資料準備 保育教材準備
12	指導案作成練習 保育実践の準備	指導案作成練習 質疑応答	次回までに指導案を完成させること
13	特別講義「保育所の理解」	講義 ゲストスピーカー 課題レポート ディスカッション	保育士の役割を整理して くること 「課題レポート」提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	ロールプレイング① 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
15	ロールプレイング② 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
16	ロールプレイング③ 「指導案の保育実践」	グループワーク 発表 質疑応答	各自作成した指導案と保育教材持参のこと 「指導案」提出
17	実習目標と自己課題の設定	プリント 各自作業 質疑応答	「保育実習の手引き」・教科書から目標と課題を整理しておくこと
18	保育所実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段等
19	保育所実習事後指導 実習総括と自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（保育所）実習日誌」提出 実習終了レポート提出
20	保育所実習の振り返り 実習内容の課題	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	次回授業準備 施設実習について「保育実習の手引き」を熟読後授業参加すること
21	施設実習の意義と目的 施設実習の意義と目的の理解 施設実習の目標	教科書 プリント	「保育実習の手引き」第3章を熟読して授業参加のこと
22	居宅型児童福祉施設等の1日 施設養護の理解	VTR「保育者へのあゆみ — 児童福祉施設の紹介」(31分) ディスカッション	施設の特性を種別ごとに整理しておくこと
23	施設実習の実際① 観察・参加・責任実習の方法と留意点	「保育実習の手引き」 ディスカッション	「保育実習の手引き」第4章を熟読して授業参加のこと 次回授業準備 援助計画作成資料準備 教材準備
24	施設実習の実際② 施設実習目標の設定 援助計画作成の留意点	施設実習目標設定 援助計画作成練習	「援助計画」「実習目標」提出
25	施設の役割と機能の理解① 利用者の理解 養護内容の理解 生活環境・健康管理・安全対策の理解	講義 ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参加のこと
26	施設の役割と機能の理解② 計画と記録の理解 保育士の役割と職業倫理	講義 プリント ディスカッション	教科書Ⅱ部を読後授業参加のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	特別講義「施設養護の理解」	講義 ゲストスピーカー 課題レポート ディスカッション	実習施設の特性を調べて整理してくること 「課題レポート」提出
28	施設実習直前指導 実習の手続き 実習生の心得	「保育実習の手引き」再読 各自作業 質疑応答	実習準備の確認 書類、持ち物、交通手段等の確認
29	施設実習事後指導 実習総括・自己評価	実習終了レポート作成 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実習日誌」仕上げ 実習終了レポート仕上げ
30	施設実習の振り返り 実習内容の課題 課題解決のための目標設定	各自の実習課題の整理 課題解決策の考察 ディスカッション	「保育実習Ⅰ（施設）実習日誌」提出 実習終了レポート提出
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・B・J・L：保育所実習指導案、援助計画、施設実習目標、課題レポート（2年次1回・3年次2回）、各実習終了報告レポート（2回）で評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習 著者名：新保育士養成講座編集委員会／編 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別）</p> <p>書名：保育実習の手引き（2年次配付） 発行所：福島県保育者養成校連絡会</p> <p>書名：福島県保育実習施設（3年次配付） 発行所：福島県保育者養成校連絡会</p>			
<p>【参考書】 書名：実習日誌の書き方 著者名：相馬和子・中田カヨ子 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）</p> <p>書名：指導計画の考え方・立て方 著者名：久富優子／編 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）</p> <p>書名：幼稚園・保育所実習ハンドブック 著者名：田中まさ子／編 発行所：みらい 価格：2,000円（税別）</p>		<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>	
<p>【その他補足事項】 特別講義は保育所長又は主任保育士と、児童養護施設長をゲストスピーカーとして各1回招聘する。</p>			



3 年 生

授業科目名	音楽演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月） 福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 アフリカの楽器カリンバ（kalimba）を自作し、それを使った即興的な演奏ができるようにすることを目指します。そのために、音響学的考察や音階に関する簡単な理論、材料に関する知識・各種工具の使い方の理解、仲間との協働作業等を通して、試行錯誤しながらも手作りで楽器を作る楽しみが味わえるよう授業内容を組織します。さらに、映像とカリンバ演奏を結びつけた動画制作を行い、音や音楽と他のメディアを組み合わせる手法を学び、音や音楽の楽しみ方を広げていくことができるような授業を展開します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
自作楽器（カリンバ）の構造や作り方、調律の仕方を理解する。			目標	A
カリンバを用いて即興演奏やアンサンブル活動を行う。			目標	B・G
タブレットやデジタルデバイスを用いて映像に音や音楽を付ける。			目標	F
様々なエフェクトユニットとカリンバを組み合わせる簡単な曲を作る。			目標	B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と目標 ・評価方法及び授業の進め方	講義：授業についての説明	年間の授業内容の見通しをもつ。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	カリンバについて(1) ・演奏の視聴	講義：カリンバの説明 演習：実際に演奏されている映像視聴	予習：プリント 「カリンバについて」
3	カリンバについて(2) ・構造、部品	講義：カリンバの構成部品 演習：グループごとに実物を分解する。	予習：プリント 「カリンバの構造」
4	カリンバについて(3) ・発音原理	講義：振動数と長さの関係 演習：モデルにより実験	復習：発音原理について
5	純正調と平均律 ・倍音	演習：音階の歴史や作り方についてモノコードを使って理解する。	予習：プリント「音階について」
6	カリンバの製作(1) ・部品ごとの製作方法	演習：個々の部品をどのように製作したらよいか話し合う。	予習：プリント 「カリンバの部品」
7	カリンバの製作(2) ・帯鋼の切断	演習：約3メートルの帯鋼を70ミリに切断	予習：プリント 「リード製作」
8	カリンバの製作(3) ・リードの成形	演習：切断した帯鋼をリードにするための研磨	予習：プリント 「リードの成形」
9	カリンバの製作(4) ・台座の製作	演習：台座に日本の溝を付ける。	予習：プリント「台座の製作」
10	カリンバの製作(5) ・真鍮棒の切断と穴あけ	演習：3種類の真鍮棒を台座の長さに合わせて切断し一本には穴を開ける。	予習：プリント「真鍮棒の穴あけ作業」
11	カリンバの製作(6) ・真鍮棒の切断と穴あけ	演習：3種類の真鍮棒を台座の長さに合わせて切断し一本には穴を開ける。	予習：プリント「真鍮棒の穴あけ作業」
12	カリンバの製作(7) ・リードの取り付け	演習：台座にリードを取り付ける。	予習：プリント「リードの取り付け」
13	カリンバの製作(8) ・リードの音程合わせ ・カリンバ製作についてまとめ発表 ・レポート①	演習：チューナーを使ってリードの音程を合わせる。	・カリンバ製作についてまとめ発表(レポート①)
14	カリンバを使った実験 ・リードの音程を変えて様々な音階を試す	演習：ペンタトニック音階、律音階、沖縄音階にリードの音程を変える。	予習：プリント「様々な音階」
15	カリンバの音程を決定 ・リードの音程を決めて本締めを行う。	演習：自分の好きな音階で調律する。	復習：各自自分のカリンバで演奏を試す。
16	カリンバによる演奏(1) ・ふし問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でふし問答を行う。	予習：様々な音の並びを試す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	カリンバによる演奏(2) ・ふし問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でふし問答を行う。	予習：様々な音の並びを試す。
18	カリンバによる演奏(3) ・リズム問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でリズム問答を行う。	予習：様々なリズムパターンを試す。
19	カリンバによる演奏(4) ・リズム問答	演習：同じ音階のカリンバ同士でリズム問答を行う。	予習：様々なリズムパターンを試す。
20	カリンバによる演奏(5) ・即興演奏を発表 ・小テスト	演習：一人一人即興演奏を発表する。	予習：発表する曲を練習する。
21	カリンバと身の回りの楽器による演奏(1) ・グループによる演奏	演習：数パートに分かれて複数のカリンバや他の楽器で演奏する。	予習：パート分担を決める。
22	カリンバと身の回りの楽器による演奏(2) ・楽曲に合わせて演奏	演習：楽曲における演奏の映像を視聴	復習：他の楽曲でも試す。
23	カリンバと身の回りの楽器による演奏(3) ・カリンバで演奏できる曲を探す	演習：始める音程によって演奏できる楽曲が変わることを理解する。	予習：プリント「カリンバで演奏できる楽曲」
24	カリンバと身の回りの楽器による演奏(4) ・わらべ歌、民謡、民族音楽	演習：ペンタトニック音階で演奏できる曲を練習する。	復習：授業で演奏した楽曲の練習
25	カリンバと身の回りの楽器による演奏(5) ・わらべ歌、民謡、民族音楽 ・カリンバによる演奏についてまとめ発表 ・レポート②	演習：ペンタトニック音階で演奏できる曲を練習する。	・カリンバによる演奏についてまとめ発表(レポート②)
26	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(1) ・様々な情景からイメージを膨らませる	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：プリント「ビデオ編集ソフト」
27	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(2) ・様々な情景からイメージを膨らませる	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：組み合わせについて構想
28	映像とカリンバの演奏を組み合わせる(3) ・短い絵本 アニメ ゲーム	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：組み合わせについて構想
29	映像とカリンバの演奏の発表(1) ・グループごとに映像と音を編集	演習：ムービー作成ソフトを用いて映像にカリンバの演奏を付ける。	予習：役割分担決定
30	映像とカリンバの演奏の発表(2) ・グループごとに発表	演習：大型モニターで互いに発表を鑑賞する。	発表についてコメント作成

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 B・G：カリンバによる即興演奏でイメージをもって演奏できるか小テストを実施します。20点満点

目標 A・B：カリンバの製作についてのレポート及び発表20点満点、カリンバ演奏についてのレポート及び発表20点満点

目標 F・G：製作や演奏への積極的な取り組み、グループ活動等への協力的な態度。40点満点

【教科書】 ・教科書は使用せず、その都度プリントを準備します。

【その他補足事項】

・製作したものは各自の楽器となるため、材料費として実費を徴収します。(1,700円程度)

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名： ^あ 阿 ^{うち} 内 ^{はる} 春 ^お 生 〔本務先：福島大学 職名：准教授〕		開講期	前期集中
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島県私立学校審議会・委員、相馬郡飯館村立学校運営協議会・会長、大沼郡昭和村教育行政外部評価委員会・委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		早稲田大学教育学研究科博士後期課程（単位取得退学）・修士（教育学） 中学校社会科専修免許状、高等学校地理歴史科専修免許状 日本教育学会、日本行政学会、日本教育行政学会、日本教育政策学会、日本教育制度学会、日本教育経営学会、関東教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 教育行政に関する基礎的・基本的な考え方（原理、原則や動向）を幅広く理解する。 そして、教育行政が具体的に幼稚園・学校・教職員、家庭や地域社会とどのような関係を持っているのかについて考え、幼稚園及び学校における適切で効果的な経営・教育実践の在り方について探求する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
	【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
(1) わが国の教育行政の考え方、仕組み、教育制度の変遷等について理解する。		目標	A・D	
(2) 教育行政に基づいた適切で効果的な幼稚園や学校の経営のあり方について考えを深める。		目標	A・D	
(3) 社会の変化に対応できる教育行政のあり方や教職員のあり方について探求する。		目標	A・C・D	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション&教育法令の基礎	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	憲法、教育基本法と教育を受ける権利	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
3	教育の政治的中立性と宗教教育	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
4	教育行政の機関	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
5	教育の地方自治	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
6	学校経営と法制度	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
7	教員養成・教職員人事	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
8	教育課程・教科書行政	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
9	教育と政治	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
10	私立学校	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
11	学校と地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
12	特別支援教育行政	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
13	学校における安全	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
14	就学前教育行政	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
15	海外の教育政策動向	<ul style="list-style-type: none"> PowerPointの使用 コメントシートと応答による双方向性の確保 	レジュメに基づいて復習。授業中、空欄余白にメモをとる。
期末試験	集中講義最終日に筆記試験を行う。		

<p>【期末試験の講評】 試験終了後、希望者には期末試験の講評について説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C：試験55% 目標C・D：小レポート作成45%（毎回提出。各授業内容の理解及び意見・論述の明快さを評価する）</p>	
<p>【教科書】 特になし。自己作成プリントを使用します。</p>	<p>【参考書】 特になし。 各回の参考文献は必要に応じて提示します。</p>

授業科目名	臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)		
社会貢献としての委員会・職等		福島市教育委員会特別支援教育指導員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。		

【授業の概要】 学習や発達等の心理学の基礎理論を用いて、心の問題の解決を図るといふ応用の学問です。現場で起こる事象の理解のために、心や言動をみる視点を学ぶとともに、それに基づいた対応のヒントについて考えます。授業は、知識に関する説明とワークによる体験を合わせてテーマについて深めます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
臨床心理学の諸理論について概要を説明できる。			目標	A
個別性と全体性の両視点をもって、相手を理解することができる。			目標	C・J
臨床心理学的な支援について概要を説明できる。			目標	A・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 心とは何か?	授業計画を使用する。 ワーク『WANTEDゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】自分の心について授業のポイントをふまえ振り返る
2	臨床心理学的な視点とは	ワーク『いつどこゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#2のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	自分の価値観について振り返る	ワーク『価値観の振り返り』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の大事にしていることについて振り返ってみる。
4	体感的理解の重要性について	ワーク『A子さんの心』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#4のプリントを読み返す。
5	心の捉え方	ワーク『メイク・ア・スクエア』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の性格傾向について振り返る 【復習】#5のプリントを読み返す。
6	心はどのように発達するのか 心理社会的発達理論	ワーク『20の私』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】および【復習】自分の心の発達の歴史について振り返る。
7	心のアセスメント	ワーク『多義図形』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】自分の考え方の癖について振り返る【復習】授業での知識をもとに自分の家族についてアセスメントしてみる。
8	臨床心理学的視点(1) 力動論	『簡易版エゴグラム』を実施し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#8のプリントを読み返す。
9	臨床心理学的視点(2) 行動論	ワーク『変則じゃんけん』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#9のプリントを読み返す。
10	臨床心理学的視点(3) 人間性心理学	ワーク『模擬店配置ゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#10のプリントを読み返す。
11	臨床心理学的視点(4) 家族システム論	ワーク『カタカナ伝言ゲーム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【復習】#11のプリントを読み返す。
12	臨床心理学的視点(5) 臨床動作法	『自律訓練法』を体験し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#12のプリントを読み返す。
13	病理水準について	『自我機能調査』を実施し授業テーマについて理解を深める。	【復習】#13のプリントを読み返す。
14	臨床心理学的問題(1) うつ	ワーク『アナグラム』を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】うつに関する記事を探す。 【復習】#14のプリントを読み返す。
15	臨床心理学的問題(2) 不安	事例を題材に授業テーマについて理解を深める。	【予習】不安に関する記事を探す。 【復習】#15のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
期末試験	前期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C：期末試験 80% 目標C・J：受講態度：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度およびリアクションペーパーなど提出物による評価 20%</p>			
<p>【教科書】 使用しない</p>		<p>【参考書】 授業時に随時紹介します。</p>	

授業科目名	心理査定法		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担助教 氏名：渡邊宏周		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士（臨床心理学） 臨床心理士、公認心理師		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目では、心理査定の定義、心理的問題を理解する観点と方法について学びます。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、得られた結果から、解釈とその活用について実践的に学習します。 また、心理学の一般的なレポート形式の書き方を修得することを目指します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
心理査定の意義を理解する。			目標	A
心理検査の各種方法を学ぶ。			目標	A・B
心理学の一般的なレポート構成に沿ってレポートがかける。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	心理的アセスメントの目的及び倫理	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	心理的アセスメントの観点及び展開	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
6	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる
7	知能検査WISC-IV①	検査実習	知能検査を受ける
8	知能検査WISC-IV②	検査実習	知能検査を受ける
9	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	質問紙法QOL、SCI、SRS-18	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法SDS、STAI、GHQ-60	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法TEG	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	質問紙法YG性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
15	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
期末 試験	期末試験	期末レポート	
16	投影法SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
23	投影法ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
24	投影法ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
26	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
27	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	面接法SCID	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法MINI	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	後期のまとめと振り返り		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
期末試験	期末試験	期末レポート	
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・D : レポート（全8回）80点満点 目標B : 授業に臨む姿勢 20点満点 目標A・B・D : 総計100点満点で評価する</p>			
<p>【教科書】 なし</p>		<p>【参考書】 必要に応じて適時お知らせします</p>	

授業科目名	カウンセリング概論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>すぎ やま まさ ひこ</small> 杉 山 雅 彦		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 カウンセリングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。カウンセリングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。その上で、模擬カウンセリングを通して基本的なカウンセリングの技術を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。	目標	A		
カウンセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することが出来る。	目標	B		
カウンセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。	目標	L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 授業進め方の留意点	授業計画	配付資料（次回授業）の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と（資料に関する）討議	会話という相互作用の実施その討議	授業の振り返りと配付した資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	話すことと聞くこと (1) 話すことの実習 話すことの困難さ	話をすることを実施し、その困難性に関する検討	授業の振り返りと配付した資料の学習
4	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の討議	授業の振り返りと配付した資料の学習
5	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
6	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感とは何をしているかの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
7	受容と共感	短いやりとりの中で受容と共感を行う	受容と共感のまとめ
8	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をするのが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
9	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
10	カウンセリングの方法(1) カウンセリングにおける質問	カウンセリング場面での質問に関する討論	授業の振り返りと配付した資料の学習
11	カウンセリングの方法(2) カウンセリングにおける肯定	カウンセリング場面での肯定の実施と討論	授業の振り返りと配付した資料の学習
12	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
13	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
14	カウンセリングの困難性	模擬カウンセリングを踏まえて困難性の検討、議論	カウンセリングとは何かの学習 レポート作成
15	まとめ	カウンセリングで何が出来るかの議論	授業の振り返りと配付した資料の学習
期末試験	学期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A : 期末試験 (40点)

目標B・L : 模擬カウンセリングおよびそのレポート (40点)

目標A・L : 討論や発表に関する態度あるいは内容 (20点)

合計100点満点で評価する

【教科書】 使用しません

【その他補足事項】

資料は配付し、教科書は使用しません。

評価に関して書いたように、模擬カウンセリングに関するレポートと、筆記の期末テスト、両方を行います。

授業科目名	カウセリング演習		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>すぎ やま まさ ひこ</small> 杉 山 雅 彦		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		臨床心理士（臨床心理士資格認定協会） 専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは最初の授業時にお知らせします。		

【授業の概要】 授業の前半ではカウセリングに関する復習を含め、「人」を支援することの基本に関して議論を進める。その上でカウセリングあるいは心理療法に関する理解を深め、さらにはカウセリングを中核に、様々な問題を取り上げ、調べ発表し、討論をすることによって心理的な支援とは何か、またクライアントさんから見て支援はどう見えているのかに関して理解を深めていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
カウセリングが「困ったこと」を抱えている人をサポートするものであることを理解し、そのために何が行われるか（方法）どんなことを目指して行われるか（目的）を理解する。			目標	A
模擬カウセリングの場面において、カウセリングの基礎を理解の上、方法を用いることが出来る。			目標	B
問題に関して自ら学習し、それを発表しあるいは傾聴し、質疑応答をする中で、理解を深める。			目標	C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 授業進め方の留意点	授業計画	カウセリングに関して復習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	初期カウンセリング (1) 関係の形成 (2) 関係の形成のための条件	カウンセリングを希望する方の特徴に関して討論	授業の振り返りと配付した資料の学習
3	受容と共感 (1) 受容の意味 (2) 共感の意味	受容と共感とは何か、討論	受容と共感をイメージ化する 配付した資料の学習
4	変化に向かう方法としての動機づけカウンセリング (1) 変化に向かうことの難しさ	変化することと、その動機づけに関する討論	授業の振り返りと配付した資料の学習
5	変化へのサポートと決断 決断への方法	変化をするとはクライアントさんにとってどういうことかの討論	授業の振り返りと配付した資料の学習
6	変化への模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
7	変化への模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
8	変化へのカウンセリングに関する討論	討論	授業の振り返りと発表に関する準備
9	様々な問題とカウンセリング(1)	いくつかの問題を提示し、それを調べて発表する。発表後質疑応答	発表に関する準備あるいは討論のまとめ
10	様々な問題とカウンセリング(2)	いくつかの問題を提示し、それを調べて発表する。発表後質疑応答	発表に関する準備あるいは討論のまとめ
11	様々な問題とカウンセリング(3)	いくつかの問題を提示し、それを調べて発表する。発表後質疑応答	発表に関する準備あるいは討論のまとめ
12	様々な問題とカウンセリング(4)	いくつかの問題を提示し、それを調べて発表する。発表後質疑応答	発表に関する準備あるいは討論のまとめ
13	様々な問題とカウンセリング(5)	いくつかの問題を提示し、それを調べて発表する。発表後質疑応答	討論のまとめ、レポート作成
14	人を支援するとはどういうことか	心理的支援に関して討論	授業の振り返り
15	まとめ		授業全体の振り返り
期末試験	試験に変えて、発表した部分と、その後の質疑応答に関してレポートを作成し、提出する		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A：ある問題とそのカウンセリング支援に関して調べての発表（40点）

目標B：模擬カウンセリング（20点）

目標C：発表とそれに関する質疑応答をまとめ、心理的支援の観点からレポート（40点）

合計100点満点で評価する

【教科書】 使用しません

【その他補足事項】

資料は配付し、教科書は使用しません。

発表と、それに関する質疑応答を加えた上で、レポートを作成し、提出していただきます。

授業科目名	幼児理解の理論と方法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島市教育委員会 特別支援教育指導員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。			

【授業の概要】 幼児の成長発達に関する基礎理論や方法論はもちろんのこと、目の前の子どもへの対応力を高めるべく、よく観察し、一人ひとりの子どものニーズを的確に把握できる力を養うことが大事である。 本授業では、とくに一人ひとりの子どもに対応するために、幼児教育に対する的確な理解と多面的視点での考察を行っていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育現場における幼児理解の意義と課題について理解している。	目標	A		
幼児理解の具体的な方法や原理について理解している。	目標	A・C		
一人ひとりの幼児を多面的に理解することができる。	目標	J		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 幼児は世界をどう理解しているか	・授業計画を使用する。	【予習】自身の幼児期のエピソードを家族に聞く 【復習】#1の資料を読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	幼児理解の意義	ワーク『混合感情』について体験し、幼児の発達と表現型の関係について考える。	【予習】 実習での印象に残った幼児とのエピソードを思い出す。 【復習】 # 2 の資料を読み返す。
3	幼児理解のための発達理論 発達の最近接領域を意識した理解と支援	ワーク『あるなしクイズ』から授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 3 の資料を読み返す。
4	幼児理解の視点(1) 生育歴・家族歴・他者関係性・発達特性からみる個性記述的理解	自分の歴史を振り返り、自分独自の意味や感覚を客観的に振り返ってみる。	【予習】 自身の気になる行動や心理について挙げる。 【復習】 # 4 の資料を読み返す。
5	幼児理解の視点(2) 教育的視点と特別支援	モデルケースをもとに、ニーズと配慮のあり方についてディスカッションする。	【予習】 実習園での特別支援のあり方について思い出す。 【復習】 # 5 の資料を読み返す。
6	幼児理解の視点(3) 間主観的理解	モデルケースをもとに、間主観的理解について体験する。	【復習】 # 6 の資料を読み返す。
7	幼児理解の実際(1) 遊びに見る幼児理解	ワーク『ブレインストーミング』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【予習】 大人の遊びと子どもの遊びの違いについて考えてくる。 【復習】 # 7 の資料を読み返す。
8	幼児理解の実際(2) 三項関係と共同注視による発達	ワーク『視線会議』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 8 の資料を読み返す。
9	幼児理解の実際(3) 感覚のアンバランスについて	ワーク『聴覚過敏体験』をもとに、授業テーマについて理解を深める。	【復習】 # 9 の資料を読み返す。
10	幼児理解のための面接法 言語メッセージと非言語メッセージ	ワーク『協働絵画』をもとに、授業のテーマについて理解を深める。	【復習】 # 10 の資料を読み返す。
11	幼児理解のための観察法 何を見て、どのように記録するか	モデルケースをもとに、観察記録を作成する。	【復習】 授業で習ったポイントをふまえ、人間観察をする。
12	幼児理解と評価(1) 評価の視点		【復習】 # 12 の資料を読み返す。
13	幼児理解と評価(2) 評価の実践	事例をもとに、評価についてディスカッションをする。	【復習】 授業でのポイントを振り返り、実習時の幼児の様子について評価しなおしてみる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	幼児理解の実践としての保育カンファレンス	事例をもとに、これまでの知識をふまえ、理解と方針のあり方についてディスカッションする。	
15	幼児理解と保護者支援	これまでの学びを総合し、事例をもとに保育者のあり方について考える。	
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・C：期末試験（80%）、 目標 J：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度（10%）、リアクションペーパーなど提出物による評価（10%）			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：おさなごころを科学する：進化する幼児観 著者名：森口佑介 発行所：新曜社 価格：2,400円（税別） 書名：哲学する赤ちゃん 著者名：アリソン・ゴブニック（著）、青木玲（翻訳） 発行所：亜紀書房 価格：2,500円（税別）	

授業科目名	教育方法及び技術		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	兼任講師	佐藤博英	開講期	後期
	客員教授	清水英典	授業回数	15回
	(本務先：シャフト株式会社 職名：工房長)		期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間		佐藤：福島市立ひらの幼稚園園長（平成28年度～平成29年度） 福島市教育委員会学校教育指導委員会指導委員（平成9年度～平成10年度） 福島市小学校長会カリキュラム委員会専門委員（平成11年度） 福島県国立幼稚園・こども園教育研究会幹事として、本県の幼稚園・こども園教諭の研修を担当（平成28年度～平成29年度）福島市教委会学校教育指導員（算数科担当 H9～10年度） 清水：文部科学省委嘱事業（社）日本理科教育振興協会『『その道の達人』派遣事業』 「ネットワークの達人」として学校と家庭そして子どもたちをインターネットで結ぶコミュニティの構築（2003年～2010年）		
社会貢献としての委員会・職等		佐藤：福島県小学校教育研究会田村地区算数科研究部長（平成26年4月） 福島県小学校教育研究会福島地区算数科研究部長（平成28年4月） 清水：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 青少年教育施設におけるIT（情報通信技術）を活用した学習プログラムの在り方に関する調査研究協力者会議検討委員（2003年～2005年） 文部科学省情報化推進コーディネータ部会 推進委員 1999年～2003年		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		佐藤：福島大学教育学部卒業学士（教育学）、小学校教諭一級普通免許状 中学校教諭一級普通免許状(数学)、高等学校教諭二級普通免許状 数学 清水：上越教育大学大学院学校教育研究科（教育学）修士 小学校教諭専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。			

【授業の概要】 教育方法の定義とそれを学ぶ意義を理解した上で、欧米と日本の教育方法の歴史的変遷を関連づけながら概観し、教育方法の基礎的理論と授業（保育）を構成する基本的要件についての理解を深めます。また、幼児理解に基づいた評価の方法を含めた、これからの幼児教育に求められる教育（保育）の基本的技術を身につけていきます。 さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深め、それらを活用する技術を身につけます。子どもたちのリテラシー（情報モラルを含む）を育てるための指導法を理解していきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
教育方法の定義とそれを学ぶ意義について理解する。		目標	A	
教育方法の歴史的展開を概観し、今日の教育（保育）活動の基になっている基礎的理論を理解する。		目標	A	
次代を生きる子どもたちに求められる資質や能力を育てる授業(保育)を構成する基本的要件を理解し、これからの幼児教育の現場に必要な指導(保育)技術を身につける。		目標	A・B	
教育技術の革新について理解するとともに、子どもの体験と関連を考慮しながら情報機器を効果的に活用し教材を作成したり提示したりすることができる。		目標	A・B・K	
情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。		目標	A・B・K	
幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解し、指導計画が作成できる。		目標	A・B・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ ラーニングの方法)及 び、 授業で使用する教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、評価方法 教育方法の定義とそれを学ぶ意義 (担当：佐藤博英)	授業計画 講義とグループ討議 配布資料	授業計画を読んでおく
2	欧米と日本の教育方法の歴史的展開とその関連 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく 小テストの事前学習
3	今日の教育（保育）の基になっている基礎的理論 *小テスト① (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
4	遊びを通した幼児期の総合的な学び (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
5	幼児の主体的活動を促す環境構成と保育者の関わり (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料 レポート課題	配布資料を読んでおく
6	子どもたちの資質や能力を育成するための 「主体的・対話的で深い学び」の具体化 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
7	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を共通して貫く教育・保育の理念と方法 *レポート (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
8	情報機器及び教材の活用 ICTと教育、ICTと幼児教育(1) (担当：清水英典)	解説・課題プリント使用	ネットワーククラウド 環境の確認
9	情報機器及び教材の活用 ICTと教育、ICTと幼児教育(2) (担当：清水英典)	解説・課題プリント使用	ネットワーククラウド 環境の活用
10	情報機器及び教材の活用 ICTと教育、ICTと幼児教育(3) (担当：清水英典)	解説・課題プリント使用	教育現場でのアプリケー ションソフト活用の 理解と実践
11	情報機器及び教材の活用 ICTと教育、ICTと幼児教育(4) (担当：清水英典)	解説・課題プリント使用	知的所有権の理解と事例調査
12	幼児理解に基づく教育評価の理論と実践 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
13	指導計画の立て方と作成 (担当：佐藤博英)	グループ討議 指導計画の作成	学びと評価が明確になる 指導計画を考える
14	指導計画の作成と模擬実践 ※小テスト② (担当：佐藤博英)	指導計画の作成 模擬授業	指導計画と模擬授業の 振り返りをする
15	まとめ 教育方法及び技術の課題と今後の展望 (担当：佐藤博英)	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
期末 試験	期末試験	講義のまとめ	
<p>【期末試験の講評】</p> <p>期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			

<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 「教育の方法」「教育の技術」について（佐藤担当）：70% 目標A・B・K ... 期末試験40% レポート(1回)20% 目標A・B ... 小テスト(2回)10%</p> <p>2. 「情報機器及び教材の活用」について（清水担当）：30% 目標A・B・K ... 課題（3回）30%（10%×3回）</p>	
<p>【教科書】 なし（授業時に適宜資料を配布します。）</p>	<p>【参考書】</p> <p>(1) 書名：「新しい保育・幼児教育方法」 著者名：広岡義之他 発行所：ミネルヴァ書房</p> <p>(2) 書名：「教育方法学」 著者名：佐藤 学 発行所：岩波書店</p> <p>(4) 書名：「教育の方法と技術」 著者名：平沢 茂 他 発行所：図書文化」</p> <p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）</p>

授業科目名	障害児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：北村 壽秋		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科 こども心理専攻修了 修士(こども心理) 日本社会科教育学会 日本授業UD学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 障害児保育の歴史の変遷をふまえながら、障害児保育を支える理念である「インクルーシブ」保育の考え方について理解する。現場において子どもが「ともに育つ」意味と様々な障害特性と保育方法、保護者の育児支援、学校教育制度などについて学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
共生社会を実現するうえでの障害児保育の意義を理解する。			目標	A・D・I
障害のある子ども及びその発達支援の方法について理解する。			目標	A・D・I
障害のある子どもの保護者に対する育児支援の方法について理解する。			目標	A・D・I
学校教育制度（特別支援教育）について理解する。			目標	A・D・I
障害者差別のない地域づくりについて理解する。			目標	A・D・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	シラバスで授業の概要達成目標等を確認する	必ずB5版以上のノートを持参してください
2	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷 ○「障害」の概念 ICIDH、ICFにおける障害者観	予習レビューで有用なものをディスカッションテーマとし、導入する	予習：レビューテーマ「障害」とは何かについて400字程度でまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷 ○障害児保育の歴史の変遷	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どのように改訂されたのか」	予習：「保育指針・教育要領の改訂の趣旨」についてまとめる
4	インクルーシブ保育とは ○インクルーシブ保育という概念が生まれてきた経緯	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「ノーマライゼーションと何が違うのか」	予習：「障害者権利条約」についてまとめる
5	インクルーシブ保育とは ○インクルーシブ保育とは何か	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「合理的配慮」	予習：「合理的配慮」についてまとめる。
6	障害児保育の意義 ○障害のない子にとっての意義	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「障害のある子」に出会う意味	予習：「障害のある子」に出会う意味についてまとめる。
7	身体面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○身体面の支援が必要な子どもの理解について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「肢体不自由児」についてまとめる。
8	身体面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○身体面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「保育の現場でできること」	予習：「保育の場でできること」をまとめる。
9	知的な面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○知的な面の支援が必要な子どもの理解について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「知的障害の分類、判断基準」についてまとめる。
10	知的な面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○知的な面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どんな支援ができるか」	予習：「視覚支援」の具体例をまとめる。
11	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○軽度発達障害とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「軽度発達障害」についてまとめる。
12	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○注意欠陥・多動性障害	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習：「保育場面での効果的関わり」についてまとめる。
13	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○自閉症スペクトラム	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習：「自閉症スペクトラム」についてまとめる。
14	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○学習障害	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「こんなときどうする」	予習：「学習障害」についてまとめる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	行動面・学習面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○保育の目標と支援	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「軽度発達障害」	予習：総ディスカッションの準備。
期末試験	中間試験	前期講義の内容に関するまとめのレポート	
16	愛着・コミュニケーション面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○愛着に課題のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「愛着障害」	予習：「愛着障害」についてまとめる。
17	愛着・コミュニケーション面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○コミュニケーションに課題のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「吃音、緘黙」についてまとめる。
18	情緒面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○情緒障害とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「情緒障害」についてまとめる。
19	情緒面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○情緒障害のある子どもの理解と援助	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「情緒障害の子への支援」についてまとめる。
20	感覚面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○感覚について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「感覚過敏、鈍麻」についてまとめる。
21	感覚面の支援が必要な子どもの理解と援助 ○感覚面の支援が必要な子どもの援助について	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「聴覚過敏の支援機器」についてまとめる。
22	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画とは	予習レビューの授業導入活用 グループワーク	予習：「個別の指導計画」についてまとめる。
23	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画の作成	予習レビューの授業導入活用 グループワークで検討作成	予習：「個別の指導計画」を作成する。
24	個別の指導計画の作成 ○個別の指導計画の作成	予習レビューの授業導入活用 グループワークで完成する	予習：「個別の指導計画」を作成する。
25	個々の発達を促す生活や遊びの環境と記録 ○子どもにとって、居心地のよい保育環境とは	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「子どもにとって居心地の良い環境」	予習：「居心地の良い保育環境」についてまとめる。
26	個々の発達を促す生活や遊びの環境と記録 ○子ども同士の関わり合いと育ち合い	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「子ども同士の関わりで育つこと」	予習：「子ども同士の関わり合いの意味」をまとめる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	保護者や家族に対する理解と支援 ○障害のある子どもの保護者、家族への理解と支援	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「保護者面談」	予習：「保護者との面談」の配慮事項をまとめる。
28	地域の専門機関等との連携と小学校との連携 ○地域の関係機関との連携	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション	予習：「専門機関」についてまとめる。
29	地域の専門機関等との連携と小学校との連携 ○小学校との連携	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「どのように引き継ぐか」	予習：「就学指導」についてまとめる。
30	障害児保育のまとめこれからの課題	予習レビューの授業導入活用 ディスカッション「授業で学んだこと」	予習：総ディスカッションの準備。
期末試験	後期末試験	講義の内容に関する筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・D：中間・期末試験に実施（各30点、平均値） 授業のたびに、「今回の講義で何を学び・何を感じたか」のレポート 50点満点 目標 I ：総ディスカッションにおける発言20点満点			
【教科書】 使用予定なし		【参考書】 書名：よくわかる障害児保育 第2版 著者名：尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子 編 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）	

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)		
社会貢献としての委員会・職等		福島市教育委員会 特別支援教育指導員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		群馬大学大学院教育学研究科修了、修士(教育学) 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは月曜日15:30～16:30、研究室は福島駅前キャンパスです。		

【授業の概要】 教育相談の意義とその実践方法について学ぶ。教育現場における「心の問題」に関する現代的課題およびそれに対応するために必要となるカウンセリングの基礎知識を中心に講義を行う。 カウンセリング能力を高めたい学生には、別にカウンセリング概論やカウンセリング演習の授業履修を勧める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育現場における教育相談の意義と課題について理解している。			目標	A
教育相談の具体的な進め方について理解している。			目標	B
教育相談で必要となるカウンセリングや心の問題に関する基礎知識を理解している。			目標	A・G・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 教育相談では何をめざすのか・意義と課題	ワーク『手のひら伝言ゲーム』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#1のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	教育相談における心理学的基礎(1) 社会的学習理論	ワーク『よく見てみよう』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】見て学んだ経験について振り返る。 【復習】#2のプリントを読み返す。
3	教育相談における心理学的基礎(2) 動機づけに関する理論	ワーク『紙コップタワー』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】やる気が上がる時、下がる時について思い浮かべる。 【復習】#3のプリントを読み返す。
4	教育相談における子ども理解(1) 気になる行動は個性か障害か?	ワーク『あるなしクイズ』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】実習での障害児に対する対応を思い出す。 【復習】#4のプリントを読み返す。
5	教育相談における子ども理解(2) TASP(保育・指導要録のための発達評価シート)を用いたアセスメント	TASPを体験する	【復習】#5のプリントを読み返す。
6	カウンセリング・マインドはどんなときに有効か?	ワーク『理想のカップル』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】カウンセリングマインドを実践してみる。
7	カウンセリング・マインドの実践 アクティブ・リスニングの紹介	ワーク『ワープスピード』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】アクティブリスニングを意識的に行う。
8	子どもへの支援における基本的態度 情動調律と肯定的注目	ワーク『村の宅配便』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】肯定的注目を積極的に投げかけてみる。
9	保護者に対する支援における基本的態度 エンパワメントとペアレントプログラム	ワーク『ブラインドウォーク』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#9のプリントを読み返す。
10	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(1) 発達障害	ワーク『鏡映描写』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【予習】実習時の発達障害児の様子について思い出す。 【復習】#10のプリントを読み返す。
11	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(2) 虐待	ワーク『ジェスチャー伝言ゲーム』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#11のプリントを読み返す。
12	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(3) 心身症	ワーク『スクイグル』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#12のプリントを読み返す。
13	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(4) 登園しぶり	ワーク『文字組合課題』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】#13のプリントを読み返す。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	子どもの心の健康に関する現代的課題と対応(5) いじめ	ワーク『ダウト』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 #14のプリントを読み返す。
15	保育者のメンタルヘルス	ワーク『自分のストレスマネジメント』を題材に授業テーマについてディスカッションする	【復習】 #15のプリントを読み返す。
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A・B：期末試験 80% 目標 G・L：受講態度：授業内の意見表明・質疑応答の内容と頻度およびリアクションペーパーなど提出物による評価 20%			
【教科書】 使用しない		【参考書】 書名：よくわかる教育相談 著者名：春日井敏之・伊藤美奈子（編） 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円（税別）	

授業科目名	国語	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：中野真樹	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了 文学（博士） 情報保障研究会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領や保育所保育指針の「言葉」の領域への理解と、小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てることを目的として、絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教材の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を学びます。 幼稚園・小学校と連続する教科として国語教育の理解をテーマとします。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
豊かな言語感覚と言語能力の育成の大切さを学ぶとともに、しっかりした思考力・表現力・読解力を育成する国語教育を理解する。	目標	A・D		
幼稚園と小学校1、2年の国語の関連性を理解するとともに、幼稚園における国語の在り方、重要性を認識する。	目標	A・D・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業内容と評価方法 国語概論 国語の歴史、社会的役割についての概要説明	授業計画・教科書・講義資料を用いた講義 自己プレゼンテーション	予習：自己プレゼンテーションの準備 授業計画の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	国語の位置づけと対象領域	教科書・講義資料を用いた講義 グループワーク	予習：指定された範囲の事前学習
3	国語とは何か(1) (幼児にとっての国語・全体的な枠組み)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
4	国語とは何か(2) (話すこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
5	国語とは何か(3) (聞くこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
6	国語とは何か(4) (書くこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
7	国語とは何か(5) (読むこと領域の基礎)	教科書・講義資料を用いた講義	予習：指定された範囲の事前学習
8	幼稚園と小学校の国語(1) (幼稚園での文字指導)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
9	幼稚園と小学校の国語(2) (小学校での国語の相違)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
10	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容(1) (話すこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
11	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容(2) (聞くこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
12	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容(3) (書くこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
13	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容(4) (読むこと)	教科書・配布資料・スライドを用いた講義 グループ研究発表	予習：グループ研究発表の準備
14	伝統的な言語文化と国語の関連	教科書・講義資料を用いた解説 DVD鑑賞「わらべうた」20分	予習：指定された範囲の事前学習
15	まとめと振り返り	教科書・講義資料を用いた解説 研究発表のピアレビュー・講評	予習：ピアレビューにむけて研究発表内容のまとめを行う
期末試験	前期末試験		

【期末試験の講評】	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】	
目標A・D：期末試験90%	
目標A・I：グループ研究発表（3回）10%	
【教科書】	【参考書】
書名：小学校学習指導要領解説 国語編 著者名：文部科学省 発行所：東洋館出版社 価格：175円（税別）	特に指定しません。 *教科書の他に適宜講義資料を配布します。

授業科目名	算 数	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任講師 ふりがな さとう ひろひで 氏名：佐藤 博英	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の実施	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島市立ひらの幼稚園園長（平成28年度～平成29年度） 福島市教育委員会学校教育指導委員会指導委員（平成9年度～平成10年度） 福島市小学校長会カリキュラム委員会専門委員（平成11年度） 福島県国公立幼稚園・こども園教育研究会幹事として、本県の幼稚園・こども園教諭の研修を担当（平成28年度～平成29年度）		
社会貢献としての委員会・職等	福島県小学校教育研究会田村地区算数科研究部長（平成26年4月） 福島県小学校教育研究会福島地区算数科研究部長（平成28年4月）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島大学教育学部卒業学士（教育学）、小学校教諭一級普通免許状 中学校教諭一級普通免許状（数学）、高等学校教諭二級普通免許状（数学）		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修	
保育士資格	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー・メールアドレスは初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 指導内容を幼稚園教育要領、学習指導要領等と各教科書会社の作成する算数教科書を資料として、数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。また、子どもに指導するときに、知識・理解に関わる目標を教科書からとらえることができるようになる技術・表現方法を学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
算数科を総括し、算数科の役割、学年別目標などの理解を深めるとともに、指導内容について、その構成と学年別配列やその基盤となる基礎数学について理解を深める。	目標	A、B、C		
問題解決の指導や個人差に応じた指導に対する理解を深めるとともに、各領域の指導内容の検討を踏まえて「算数的活動」の重要性を理解し、算数の学習指導案作成の基本が理解できるようにする。	目標	A、B、C、I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・算数教育の変遷、学習指導要領における算数科の目標と特質	授業計画 小学校学習指導要領解説算数編（※以下、毎回使用）	

2	「数と計算」領域の概要理解 ・数の概念と表記、記数法	自作資料①（事前配布※以下同じ）	自作資料①を事前に読む。
3	「数と計算」領域の概要理解 ・たし算、ひき算、かけ算、わり算	自作資料② ・四則演算の重要教材	自作資料②を事前に読む。
4	「数と計算」領域の概要理解 ・小数、分数	自作資料⑧ ・小数、分数の教材の見方・扱い方	自作資料⑧を事前に読む。
5	「数と計算」領域の概要理解 ・九九表、分数と小数の混合算	自作資料④ ・九九表、分数と小数の混合算の教材の見方・扱い方	自作資料④を事前に読む。
6	「量と測定」領域の概要理解 ・量と測定の意味、外延量と内包量	自作資料⑤ ・量と測定の重要教材	自作資料⑤を事前に読む。
7	「量と測定」領域の概要理解 ・面積、体積、時間	自作資料⑥ ・面積、体積、時間の教材の見方・扱い方	自作資料⑥を事前に読む。
8	「量と測定」領域の概要理解 ・角、単位量あたりの大きさ	自作資料⑦ ・角、単位量あたりの大きさの教材の見方・扱い方	自作資料⑦を事前に読む。
9	「図形」領域の概要理解 ・基本図形の構成要素	自作資料⑧ ・図形の重要教材	自作資料⑧を事前に読む。
10	「図形」領域の概要理解 ・基本図形の理解（定義）	自作資料⑨ ・基本図形（定義）の教材の見方・扱い方	自作資料⑨を事前に読む。
11	「図形」領域の概要理解 ・基本図形考察の視点	自作資料⑩ ・基本図形考察の視点の教材の見方・扱い方	自作資料⑩を事前に読む。
12	「数量関係」領域の概要理解 ・関数の考え方	自作教材⑪ ・数量関係の重要教材	自作資料⑪を事前に読む。
13	「数量関係」領域の概要理解 ・式の表現と読み	自作教材⑫ ・式の表現と読みの教材の見方・扱い方	自作資料⑫を事前に読む。
14	「数量関係」領域の概要理解 ・資料の整理、表とグラフ	自作資料⑬ ・資料の整理、表とグラフの教材の見方・扱い方	自作資料⑬を事前に読む。
15	まとめ	自作資料⑭ ・算数科の重要教材と教材としての見方・扱い方	自作資料⑭を事前に読む。
期末試験	後期試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 (1) 期末試験 50% 【評価する到達目標：A、B、C】 (2) レポートの作成 50%（授業終了後、毎回レポートを提出。各授業の理解及び自己の理解の明確さについて評価する。） 【評価する到達目標：A、B、C、I】</p>			

<p>【参考書】 使用しない</p>	<p>【参考書】 書 名：小学校学習指導要領解説 算数編 著者名：文部科学省 発行所：日本文教出版 価 格： 224円(税別)</p>
--------------------	---

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：藤本 要		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		国見町子ども・子育て支援推進協議会委員（2015年まで2年間）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本体育大学体育学部健康学科卒業 学士（体育学） 日本体育大学体育専攻科修了 中学校教諭一級免許状（保健体育） 高等学校教諭一級免許状（保健体育） 衛生管理者証、日本応用心理学会会員、日本ブリーフセラピー協会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー：研究室前に掲示（月曜3限/12：50～14：30）		

【授業の概要】 幼児にとっての健康とその意義を理解するとともに、保育者として健康を指導する時の具体的な方法を習得することを目標としている。幼児にとっての健康については幼稚園教育要領の領域「健康」にそって授業を展開する。前半では幼稚園教育要領における健康の位置づけ、健康領域「ねらい」と「内容」、幼児の健康にかかわる身体的、精神的発育発達及び健康の保持増進の条件となる運動や生活について授業を進める。後半では保育者として健康を指導する時の具体的な方法について指導案を作成し模擬指導をととして実践力を培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児にとっての健康及びその意義を理解する。			目標	A
保育者として健康を指導する時の具体的な方法を理解する。			目標	B・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 本授業のガイダンス及び授業ノートづくりについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：授業ノート作成	授業ノートを作成しておく
2	幼児にとっての健康とその意義について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児期の健康の意義について	幼児期の健康の意義について調べておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	領域「健康」のねらいについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:領域「健康」のねらいについて	領域「健康」のねらいについて調べておくこと
4	領域「健康」の内容と取り扱いについて	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:領域「健康」の内容と取り扱いについて	領域「健康」の内容と取り扱いについて調べておくこと
5	領域「健康」の内容(1) 食と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:食と健康について	食と健康について調べておくこと
6	領域「健康」の内容(2) 幼児の食と健康について(教材DVD視聴を含む) デジカメを使用した野菜の成長記録～画像を取り込んだ絵本(絵コンテ)の作成	教科書・資料をもとに展開 (教材DVD視聴20分) グループワーク:デジカメを使用した野菜の成長記録	画像を取り込んだ絵本の作成方法について調べておくこと
7	食と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 食と健康のまとめ ・小テスト①	食と健康についてノートをもとめておくこと
8	領域「健康」の内容(3) 運動と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:運動と健康の関連(基礎理論)について	運動と健康の関連(基礎理論)について調べておくこと
9	領域「健康」の内容(4) 幼児の運動と健康について(教材DVD視聴を含む)	教科書・資料をもとに展開 (教材DVD視聴20分) グループワーク:幼児の運動と健康について	幼児の運動と健康について調べておくこと
10	運動と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 運動と健康のまとめ	運動と健康についてノートをもとめておくこと
11	領域「健康」の内容(5) 生活と健康に関する基礎理論について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:生活と健康の関連(基礎理論)について	生活と健康の関連(基礎理論)について調べておくこと
12	領域「健康」の内容(6) 幼児の生活と健康について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:幼児の生活と健康について	幼児の生活と健康について調べておくこと
13	生活と健康のまとめ	教科書・資料をもとに展開 生活と健康のまとめ ・小テスト②	幼児の生活と健康についてノートをもとめておくこと
14	領域「健康」のまとめ1 幼児の発育発達、身心相関について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク:幼児の発育発達、身心相関について	幼児の発育発達、身心相関について調べておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	領域「健康」のまとめ2 ・授業ノート提出 幼児の健康に関する今日的課題について 検索による最新記事・情報を収集しまとめる	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：幼児の健康に関する今日的課題について検索による最新記事・情報を収集しまとめる	幼児の健康に関する今日的課題について調べておくこと
期末試験	前期末中間試験		
16	試験内容の解説を含みながら、前期の学びの確認。	試験内容の解説および前期の学びの確認	試験内容を復習しておくこと
17	子どもの保健指導に関する基礎理論(1) 幼児を対象とする保健指導について 保健指導案に画像情報を取り入れ作成する	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：指導案に画像情報を取り入れ作成	指導案の書き方について調べておくこと
18	子どもの保健指導に関する基礎理論(2) 保健指導の方法論について 保健指導のプレゼンを考えていく	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：保健指導のプレゼンを考える	保健指導のプレゼン方法について調べておくこと
19	保健指導における指導案及び教材教具について	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：指導案及び教材教具について ・小テスト③	指導案及び教材教具について調べておくこと
20	模擬指導方法の説明（担当領域、指導の題材、グルーピング、指導場面の録画と検討方法）	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：担当領域、指導の題材、グルーピング、指導場面の録画と検討方法	模擬指導について調べておくこと
21	保健模擬指導 1 食①	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：食に関する保険模擬指導①	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
22	保健模擬指導 2 食②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：食に関する保険模擬指導②	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
23	食に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：食に関する模擬指導について	食に関する保険模擬指導について調べておくこと
24	保健模擬指導 3 運動①	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：運動に関する保険模擬指導①	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと
25	保健模擬指導 4 運動②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：運動に関する保険模擬指導②	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと
26	運動に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：運動に関する模擬指導について	運動に関する保険模擬指導について調べておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	保健模擬指導 5 生活① チャイルドビジョンの作成と使用 (子どもの視界体験)	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：チャイルドビジョンの作成と使用	チャイルドビジョンについて調べておくこと
28	保健模擬指導 6 生活②	教科書・資料をもとに展開 グループ発表：生活に関する保険模擬指導 ・小テスト④	生活に関する保険模擬指導について調べておくこと
29	生活に関する模擬指導の検討	教科書・資料をもとに展開 グループワーク：生活に関する模擬指導について	生活に関する保険模擬指導について調べておくこと
30	保育内容指導法健康の全体まとめ	教科書・資料をもとに展開 保育内容指導法健康の全体まとめ ・授業ノート提出	授業ノートをまとめ授業全体の振り返りをしておくこと
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標 A : 期末試験（前期20点、後期20点）40点 ・小テスト20点（4回×各5点） 目標 B・G : 講義ノート30点（2回×各15点）、グループ発表10点、合計100点とし、その他、遅刻早退欠席による減点（欠席1回3点減点、遅刻早退1回1点減点）、また授業内における積極的な発言等により加減点を行い、総合的に100点を上限として評価を行います。			
【教科書】 書名：幼稚園教育要領（最新版）		【参考書】 書名：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）	
【その他補足事項】 なし			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：兼任准教授 氏名：鈴木智子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		認可保育園保育士（昭和58年～平成21年）（内副園長歴6年間）		
社会貢献としての委員会・職等		国見町こども・子育て支援推進協議会委員（平成28年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院こども心理専攻修士課程修了、修士（こども心理） 保育士資格・幼稚園教諭一種免許状、 日本保育学会、日本応用心理学会、日本小児学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領と保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領の領域「人間関係」について、乳児期から幼児期にかけて他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し身に付けていく内容と指導上の留意点など事例をとおり様々な側面から理解できる。人間関係の他領域との関係と指導方法を実践事例から具体的に培う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
現代社会における子どもを取り巻く環境とその「人間関係」を理解する。		目標	A	
幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容並びに全体構造を具体的事例から学び、その指導法について理解する。		目標	J	
保育実践での「人間関係」に関わる具体的事例を取り上げ、基本的な考え方と方法を考察し適切な援助や対応ができる力を培う。		目標	K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	保育内容指導法「人間関係」の概要・本講義のガイダンス	教科書 「今までの人生で心にも凝った人々について」グループワーク	乳幼児にとっての人間関係教科書復習9～18

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	乳幼児にとっての人間関係について	*乳幼児にとっての人間関係の復習内容をグループディスカッション 教科書 プリント資料1	レポート① 【乳幼児にとっての人間関係】 教科書復習9～22
3	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」について	*復習内容「領域：人間関係」の確認 教科書 プリント資料2	現代社会の子どもを取り巻く人間関係 教科書復習23～36・150～183
4	教育課程・保育課程（全体的な計画）における領域「人間関係」の考え方	*現代社会の子どもを取り巻く人間関係のグループディスカッション（10分） 教科書 プリント資料3	領域「人間関係」と他領域との関係 教科書予習46～58
5	領域「人間関係」と他領域との関係の基礎理解	*プリント資料4を中心に予習内容の確認 教科書 プリント資料4	領域「人間関係」のねらい及び内容 教科書予習23～36
6	領域「人間関係」のねらい及び内容の基礎理論	*プリント資料5を中心に予習内容の確認 教科書 プリント資料5	領域「人間関係」のねらい及び内容 教科書復習50～183
7	乳幼児の発達と人間関係 (1) 0歳児～3歳未満児の発達とかかわりの方法事例を通した指導方法	*領域「人間関係」のねらい及び内容のミニテスト 教科書 プリント資料6	乳幼児の発達と人間関係 0歳児～3歳未満児 教科書復習37～45
8	乳幼児の発達と人間関係 (2) 3歳児の発達とかかわりの方法事例を通した指導方法	*乳幼児の発達と人間関係【0歳児～3歳未満児】の解説 教科書 プリント資料7 DVD視聴「育ちあい・ある保育園の子どもたち」	乳幼児の発達と人間関係 3歳児 教科書復習7～45・104～115
9	乳幼児の発達と人間関係 (3) 4、5歳児の発達とのかかわりの方法事例を通した指導方法	*乳幼児の発達と人間関係【3歳児】の解説 教科書 プリント資料8	レポート②【乳幼児の発達と人間関係】 教科書復習37～45・104～115
10	領域「人間関係」の指導計画の考え方	*【乳幼児の発達と人間関係】レポート内容のグループディスカッション（10分） 教科書 プリント資料9	領域「人間関係」の指導計画の考え方 教科書復習37～45・104～115

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	「遊びを通した保育者や友達とのかかわり」 「0、1、2歳児」 保育者や友達とのかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法	*領域「人間関係」の指導計画の考え方の確認 教科書 プリント資料10 教材DVD視聴「0歳児の保育・1歳児の保育・自我の芽生え」「2歳児の保育・遊びを育む」	保育者や友達とのかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法 教科書復習72～83・141～149
12	「遊びを通した友達とのかかわり」(3歳児) 友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成 実際の遊びへの導入として、歌遊び、手遊びなど伝承遊び映像を対象児と視聴しながら興味や動機付けを高めつつ、遊び場面と友達とのかかわりに注目した観察のポイントの理解を深める。観察のポイントとしての事前に配布する様式データを基に、グループごと観察場面に応じた指導方法を討議し、まとめていく。	*保育計画案の作成と保育方法の復習内容の確認 教科書 プリント資料11【指導案】 グループワーク	観察のポイントと指導案の構成 教科書復習72～83・141～149
13	「遊びを通した友達とのかかわり」(4歳児・5歳児) 友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成 4歳児・5歳児を対象に歌遊び、手遊びなど伝承遊び映像を対象児と視聴しながら、実際の遊びへの興味や動機付けを高めつつ、遊び場面と友達とのかかわりに注目した観察のポイントの理解を深める。観察のポイントとしての様式データを基に、グループごと観察場面に応じた指導方法を討議し、まとめていく。	*復習内容【観察のポイントと指導案の構成】の確認 教科書 プリント資料12【指導案】 グループワーク	友達とのかかわりをねらいとした観察のポイントと指導案の構成 教科書復習72～82・141～149
14	「模擬保育 ― 遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(1) 友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成 年齢別(年齢の選択はグループごとに選択)に様式データの再利用(実習先・勤務先での利用を含む)を念頭に、今まで取りまとめた様式データを基にグループごと実践場面に応じた指導案を作成し、授業内でプレゼンしていく。	*各自の復習内容【指導案の構成】をもとにグループワーク 教科書 プリント資料13	「模擬保育 ― 遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(1) 教科書復習72～82・141～149
15	「模擬保育 ― 遊びを通した友達とのかかわり」 振り返り(2) 友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成 年齢別(年齢の選択はグループごとに選択)に様式データの再利用(実習先・勤務先での利用を含む)を念頭に、今まで取りまとめた様式データを基にグループごと実践場面に応じた指導案を作成し、授業内でプレゼンしていく。	*模擬保育の振り返りをグループディスカッション 教科書 プリント資料14	友達とのかかわりをねらいとした指導案の作成 教科書復習72～82・141～149
期末試験	前期末試験		
16	「模擬保育 ― 遊びを通した友達とのかかわり」 友達とのかかわりをねらいとした指導のまとめ	*立案した指導案での模擬保育 教科書 プリント資料15	友達とのかかわりをねらいとした指導のまとめ 教科書復習72～82・141～149

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	環境とのかかわりから生まれる幼児期の人間関係物とのかかわりを通した指導方法(1)	*友達とのかかわりをねらいとした指導計画案の確認 教科書 プリント資料16	物とのかかわりを通した指導方法(1) 教科書復習61～72
18	社会とのかかわりを通した指導方法(2)	*物とのかかわりを通した指導方法(1)の内容確認 教科書 プリント資料17	社会とのかかわりを通した指導方法(2) 教科書復習61～72
19	自然とのかかわりを通した指導方法(3)	*社会とのかかわりを通した指導方法のグループディスカッション【復習内容をもとに】 教科書 プリント資料18	自然とのかかわりを通した指導方法(3) 教科書復習61～72
20	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(1)	*自然とのかかわりを通した指導方法のグループディスカッション【復習内容をもとに】 教科書 プリント資料19 自由遊び 保育現場のDVD視聴「育ちあい・ある保育園の子どもたち」(20分)	異年齢とのかかわりの指導方法 教科書復習93～97 プリント19にDVD視聴の内容をまとめる
21	さまざまな人々との交流活動の実践 異年齢とのかかわりの指導方法(2)	*プリント19にまとめたDVDの内容をグループディスカッション(10分) 教科書 プリント資料20 DVD視聴「おみせやさんごっこ」～映像から見る異年齢保育～(15分)	さまざまな人々との交流活動の実践 教科書復習93～97
22	さまざまな人々との交流活動の実践 地域の人々とのかかわり	*さまざまな人々との交流活動の実践事例の復習内容の確認 教科書 プリント資料21DVD視聴「地域交流事業」～映像から見る地域とのかかわり～	【地域の人々とのかかわり】レポート③ 教科書復習93～97
23	他の幼児との葛藤、つまずき場面での指導方法	*【地域の人々とのかかわり】のレポートをもとにディスカッション プリント資料22	葛藤、つまずき場面での指導方法 プリント資料22の事例への取り組み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	保護者への支援事例 実践指導法(1) ～実践事例から考える～具体的支援の方法を身につける	*プリント22の事例への 取り組み内容の確認 教科書 プリント資料23 DVD視聴「保育現場での実践事例①」(10分)	～実践事例から考える～ 具体的支援の方法【復習】 教科書復習116～124
25	保護者への支援指導 実践指導法(2) ～実践事例から考える～具体的支援の方法を身につける	*実践事例から考える～ 具体的支援方法の復習 教科書 プリント資料24 DVD視聴「保育現場での実践事例②」(10分)	道徳性・規範意識と情動 のつながり 教科書復習116～124
26	就学前の子どもの育ちを支える人間関係 情動統制力の育ち 【道徳性・規範意識と情動のつながり】	*道徳性・規範意識と情 動のつながりの復習内 容における確認 教科書 プリント資料25	就学前の子どもの育ちを 支える人間関係 情動統 制力の育ちの復習 教科書復習104～115
27	幼稚園・保育所・小学校の連携のあり方 具体的指導計画の作成と理解	*人間関係 情動統制力 の育ちの復習内容の確 認 教科書 プリント資料26	幼稚園・保育所・小学校 の連携のあり方復習 教科書復習98～103
28	多文化保育と人間関係 異文化理解における保育内容の理解と指導方法の実際	*幼稚園・保育所・小学 校の連携のあり方の復 習内容をグループディ スカッション(発表) (10分) 教科書 プリント資料27	多文化保育と人間関係 教科書復習132～140
29	乳幼児を取り巻く人間関係と今後の課題	*復習した多文化保育と 人間関係で自分が保育 現場で行っていきたく 多文化保育を各自グ ループ内で発表する 教科書 プリント資料28	レポート④ 【乳幼児を取り巻く人間 関係と今後の課題】
30	保育内容指導法「人間関係」のまとめ	*乳幼児を取り巻く人間 関係と今後の課題をグ ループ内でまとめる 教科書 プリント資料29	保育内容指導法「人間関 係」のまとめ プリント1～29
期末 試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 A・J：筆記試験 前期、後期期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施

目標 K・L：レポート レポート30点満点の採点とする。（3回×7点、1回×9点）

【教科書】

書名：保育実践を学ぶ「人間関係」保育内容
著者名：咲間まりこ編
発行所：株式会社みらい
価格：2,000円（税別）

幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説書
保育所保育指針、保育所保育指針解説書
幼保連携型認定こども園教育・保育要領、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

【参考書】

特に指定しません。

授業科目名	保育内容指導法 表現Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3年次
担当教員	職名：非常勤講師		開講期	通年
	氏名：鈴木裕美子 <small>すず き ゆ み こ</small>		授業回数	30回
	〔本務先：福島大学人間発達文化学類 職名：特任教授〕		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		公益財団法人福島県スポーツ振興基金理事、公益財団法人福島市スポーツ振興公社理事、公益財団法人ガールスカウト日本連盟評議員、郡山市男女共同参画審議会委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東京教育大学体育学研究科体育学専攻修士課程修了 体育学修士 中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育） 日本体育学会、日本体育科教育学会、日本スポーツ教育学会、舞踊学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後およびメールにて質問等に対応します。		

【授業の概要】 こどもの身体表現における発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。こどもの姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考えていく。実技では保育現場で行う様々な表現遊びと指導上の留意点や、表現題材の特徴を知る。基礎・基本を体験的に学びながら、創作を通して知識や技術を身に付け、「表現」領域における身体表現の望ましい指導の在り方を探る。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
「表現」の指導法の理解をテーマとし、幼児期の発達特性を理解し、豊かな感性と表現力を養う。			目標	A・E・F
保育者として発達とねらいに応じた表現遊びを展開・指導することができるようになる。			目標	A・B
伝統的な表現遊びや、イメージを動きで表現して楽しむ体験を通して、各自の感性や身体表現能力を高める。			目標	E・F
こどもが意欲的に取り組める指導法について知識・能力を深化させることができるようになる。			目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、鑑賞(教室) (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 DVD視聴(30分)「人間発達と表現」(映像利用)	こどもの表現活動の映像鑑賞
2	「表現」に関するねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針をふまえて	教科書補足資料1	幼稚園教育要領、保育所保育指針に書かれている「ねらい」を事前に読む
3	幼児身体表現の特質	教科書補足資料2	こどもの観察
4	幼児身体表現の発達(1) ・発達の特徴	教科書補足資料3	こどもに関する新聞記事や雑誌を読む
5	幼児身体表現の発達(2) ・身体表現における発達段階	教科書補足資料4	自分の幼児期を振り返る
6	幼児身体表現の発達(3) ・身体表現の形式	教科書補足資料5	表出と表現の違いを理解する
7	前期中間試験 ・身体表現の指導の留意点	筆記試験	こどもへの言葉かけを検討する
8	身体表現の内容とその指導(1) ・心身を開放する表現遊び	DVD視聴(30分)「人間発達とダンス・表現運動」(映像利用)	表現遊びの検討
9	身体表現の内容とその指導(2) ・伝承遊び	・権兵衛さんの赤ちゃん ・はないちもんめ ・だるまさんがころんだ ・あぶくたつたにえたつた ・とんだとんだとんだ	伝承遊びから表現へ発展できる題材を探す
10	第10回:身体表現の内容とその指導(3) ・ものまね遊び	・行事 ・お仕事	ジェスチャーの練習
11	身体表現の内容とその指導(4) ・ことばを手がかりとした身体表現	・動きでしりとり ・○ではじまる言葉を動きで表現する	替え歌を作る
12	身体表現の内容とその指導(5) ・音を手がかりとした身体表現	・ペンとひきゃヒュー ・エアー楽器 ・オノマトペ	・音をまねる ・音と遊ぶ ・音を表現する ・音を出す表現 vs 音の表現
13	身体表現の内容とその指導(6) ・日常動作を手がかりとした身体表現	・○○の一日(私、宅急便屋さん、スポーツマン、忍者) ・おそうじ	一日の行動をパターン化する
14	身体表現の内容とその指導(7) ・モノを手がかりとした身体表現	遊具を操作する	遊具を使って動きを作る
15	前期末試験 ・童謡に振り付けをする	実技試験	童謡を分類

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	運動課題(1) ・走る — 止まる、走る — とぶ — ころがる	DVD視聴 (30分)「人間発達とダンス・表現運動」(映像利用)	こどもの基本動作について考える
17	運動課題(2) ・のびる — ちぢむ — まわる、ねじる — まわる — 見る	連続した運動で表現	こどもの基本的な運動について考える
18	イメージ課題(1) ・動物園にいこう	・動物の行進 ・物語を作って表現	動物園の動物を挙げる
19	イメージ課題(2) ・ディズニーランド	・乗り物博覧会 ・物語を作って表現	ディズニーランドの遊具を挙げる
20	イメージ課題(3) ・おもちゃ箱	・表しているおもちゃを当てる ・物語を作って表現	おもちゃを挙げる
21	群構成(1)	集団の動きを表現	ウエーブの表現を考える
22	群構成(2)	マスゲームを作る	マスゲームを検討する
23	見立ての世界(1) ・しんぶんし	・新聞紙で遊ぶ ・新聞紙になる ・新聞紙で表現する	新聞紙で何ができるか試す
24	見立ての世界(2) ・ボール ・縄	遊具を何かに見立てて表現する	小道具を作る(ポンポン、こきりこ竹、サンバ棒、サクラ紙の花)
25	見立ての世界(3) ・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	・パラバルーンで遊ぶ ・布を使った表現	布で何ができるか試す
26	鑑賞 ・幼児の作品、先輩作品、芸術作品など	DVD視聴 (30分)「ミュージカル」(映像利用)	見たことのあるミュージカルのストーリーを確認する
27	ミュージカル(1) ・シナリオ作り ・絵本を手がかりとした身体表現	・ストーリーを作る ・イソップ、グリム、アンデルセン、アラビアンナイト、ディズニーなどの物語の絵本を参考にする	物語をそのまま表現したり、一部変更したり、オリジナルなシナリオを作るなど、グループで検討する
28	ミュージカル(2) ・動き作り、音作り、衣装、小道具の工夫	動きを作る	使えそうな音楽を選んで持参
29	ミュージカル(3) ・踊り込み	・歌、踊り、語りを入れる ・感情を込める	メリハリを工夫する
30	ミュージカル(4) ・発表会・VTR撮影	DVD撮影	作品の場当たり、発表
期末試験	後期末試験	運動と表現の相関	評価の観点を考える

<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A : 筆記試験 60点（前期末試験30点・後期末試験30点） 目標B・E・F : グループ発表40点（前期20点 後期20点）</p>	
<p>【教科書】 書名：子ども・からだ・表現 ― 豊かな 保育内容のための理論と演習 ― <改訂2版> 著者名：西洋子、本山益子、吉川京子 発行所：市村出版 価格：2,400円（税別）</p>	<p>【参考書】 随時紹介します。</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動できる服装及び室内用シューズを着用してください。（スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めません。 2. 授業が始まるまでにアクセサリ類は必ず外してください。 3. 髪が長い学生は一つにまとめてください。 4. 貴重品はロッカーに入れてください。 	

授業科目名	保育実習Ⅰ		授業形態・単位数	実習・4単位
			開講年次	3年次
担当教員	教授 こん 今 きよ 清 たか 孝 助教 すず 鈴 き しょう 木 翔 た 太	開講期	通年	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間	今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭（平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園主幹保育教諭（平成29年4月1日～）			
社会貢献としての委員会・職等	今：福島市産官学プラットフォーム保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	無	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 実習施設の各種別の役割や機能と、保育士の業務及び職業倫理を具体的に理解し、子どもとのかかわりの中から子どもの理解を深める。また保育の計画・観察・記録・自己評価等について具体的に理解する。さらに、既習の教科目を踏まえ保育並びに保護者支援について総合的に理解を深める。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	目標	A・B		
観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。	目標	A・B・K		
既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	目標	K		
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し実践する。	目標	B・J・K		
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	目標	A		

【実習期間】

7月～8月。(概ね10日間)

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】

目標A・B・J : 指導案及びレポート

目標A・B・J・K : 実習日誌(保育所・施設)

※指導案及びレポート(保育所・施設) + 実習日誌(保育所・施設) 20%、施設評価(保育所・施設) 80%

実習の施設評価は次のとおりとする。

- 「A+」 90点～100点
- 「A」 80点～89点
- 「B」 70点～79点
- 「C」 60点～69点
- 「D」 50点～59点
- 「F」 49点以下

D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

(実費徴収)

- ① 保育実習I委託費(保育所・施設) 計10,000円
- ② 腸内感染症検査料(2回分) 計1,200円程度

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定(キャンパスライフに記載)を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - 「保育実習指導I」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定(キャンパスライフに記載)を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書(コピー)を実習先へ持参すること。実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	幼稚園教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	兼任教授 <small>ながくぼかず</small> 長久保和子	兼任講師 <small>ながしまてる</small> 長島輝子	開講期	通年
			授業回数	20回
	期末試験の有無	無		
授業に関する主な実務経験と期間	長久保：特記事項なし 長 島：福島女子短期大学附属幼稚園教諭・副園長・園長 (昭和50年4月～平成17年3月)			
社会貢献としての委員会・職等	長久保：特記事項なし 長 島：特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	長久保：日本女子大学家政学部児童学科、学士(家政学) 幼稚園教諭一種免許状、日本保育学会、東北児童青年精神医学会 長 島：國學院大學幼児教育専門学校 幼稚園教諭二級普通免許、幼稚園教諭一種免許状 日本保育学会、日本応用心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	-	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 幼稚園教育実習は、本学認定こども園での基本実習を合格した学生が協力幼稚園での4週間の実習、及びその事前・事後指導からなる学習です。4年次に、協力幼稚園実習とためのオリエンテーションや事前指導、実習反省会を含む事後指導を実施します。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
幼稚園教諭としての基礎的な幼児理解や基本的指導技術を修得する。	目標	A・B		
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。	目標	B・H・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・今後の日程と指導計画について ・授業の概要と評価について	講義 授業計画 キャンパスライフ プリント	復習： 配布資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	実習の概要(1) ・基本実習事後指導①	講義、プリント 基本実習で学んだことをグループで話し合う 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読 レポート作成
3	実習の概要(2) ・基本実習事後指導② ・レポート提出	プレゼンテーション ディスカッション 基本実習資料、日誌	復習： 配布資料を熟読
4	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(1) ・次年度「教育実習計画」について ・実習先の確認と打ち合わせについて	講義、プリント ディスカッション	復習： 配布資料を熟読
5	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(2) ・教育実習の意義・目的① 幼稚園の役割と機能 幼稚園教諭の役割	講義、プリント 幼稚園教諭の役割についてグループで話し合う	復習： 配布資料を熟読
6	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(3) ・教育実習の意義・目的② ・子ども理解と子どもへのやさらかな対応	講義、プリント 多様な子どもへの対応の むずかしさを考え話し合う	復習： 配布資料を熟読
7	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(4) ・実習生としての心得 ・守秘義務、実習保障制度について	講義、プリント 実習生として留意しなければならぬことを自分のことばで書く	復習： 配布資料を熟読
8	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(5) ・実習の内容と方法（観察・参加実習など） ・実習関係書類の作成	講義、プリント 記録書類の提出について 自分の考えを書く	復習： 配布資料を熟読
9	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(6) ・指導計画（指導案）の立て方① （立案の過程・内容・部分実習と部分案）	講義、プリント 部分案のサンプルをもとに自分の部分案を考える	復習： 配布資料を熟読 実習関連書類の作成
10	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(7) ・指導計画（指導案）の立て方② （半日実習と指導案）	講義、プリント 半日実習の構想をグループで考える	復習： 配布資料を熟読
11	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(8) ・指導計画（指導案）の立て方③ ・全日実習と日案	講義、プリント 全日実習の構想をグループで話し合い日案の書き方を考える	復習： 配布資料を熟読
12	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(9) ・指導計画の立て方④ ・指導の実際と評価 ・計画と指導の改善	講義、プリント 指導案と子どもの活動の実際 のズレに着目して指導の改善につなぐ計画の評価をまとめる	予習： 部分案作成
13	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(10) ・指導計画の立て方とまとめ	講義 指導計画の立て方を自分のことばでまとめる	予習： 部分案作成
14	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(11) ・ゲストスピーカーによる特別講義 （教育実習の実際、実習生の具体的実習方法他）	特別講義 （幼稚園園長または主任） 質疑応答	予習： 実習に向け計画を立て、 教材等準備をする

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(12) ・教材研究① 子どもたちの活動への動機づけ	講義、プリント 活動への動機づけを図る 様々な働きかけについて 自分のことばでまとめる	予習： 指導案を基に準備をする
16	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(13) ・教材研究② 多様な活動への対応	講義、プリント 演習（模擬保育） 質疑応答	予習： 指導案を基に準備をする
17	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(14) ・実習に向けてまとめ ・事務連絡	講義、プリント 子どもの様々な活動への 意欲を高める引出しにつ いてグループで話し合う	今までの資料を熟読し、 質問等整理する
18	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(1) ・教育実習実施後の反省、振り返り①	プレゼンテーション（各自） ディスカッション 質疑応答	予習： 教育実習を終えての感想、 課題等レポート作成
19	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(2) ・教育実習実施後の反省、振り返り② ・レポート提出 ・実習反省会について	プレゼンテーション（各自） ディスカッション 質疑応答	事前に「実習反省会要項」 を熟読しておく
20	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導(3) ・教育実習のまとめ	ディスカッション	質疑応答内容を考えておく
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 目標H・K : 実習事前・事後指導時の受講態度 目標A・K : レポートや報告等の内容と提出 目標A・B・H・K : 実習先からの評価点 ※詳細については、第1回および第8回で説明します。			
【教科書】 ※必要に応じ毎回プリントを配布します。 ※基本実習事前指導、または実習中に配布した資料を使用します。			
【その他補足事項】 <実習費> 実習委託費を実費徴収します。 <その他> (1) 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規程（キャンパスライフに記載）を参照してください。 (2) 学外実習を行うにあたり、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参してください。 (3) 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合があります。 (4) 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出てください。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出してください。			

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	教授 今 清孝 （こん きよ たか）	今 清孝 （こん きよ たか）	開講期	後期
			授業回数	15回
	助教 鈴木 翔太 （すず き しゅう た）	鈴木 翔太 （すず き しゅう た）	期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭（平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園主幹保育教諭（平成29年4月1日～）			
社会貢献としての委員会・職等	今：福島市産官学プラットフォーム保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 保育実習Ⅰでの保育所実習の自己評価及び学びを活かしさらには既習の教科目の関連性を強く意識し、保育について総合的に理解する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、自身の保育に対する課題や認識を明確にする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育実習の意義・目的を理解し、観察に基づいて総合的に学ぶ。	目標	A・L		
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。	目標	A・G		
保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。	目標	J・L		
保育士の専門性と職業倫理について理解する。	目標	G・J		
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	目標	A・J		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 保育実習Ⅱの意義と目的	授業計画 講義 教科書・プリント	教科書熟読 提出物記入
2	保育所の役割と機能 保育と保育相談支援	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
3	保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
4	保育所保育の形態 年齢別・異年齢・順序性・選択制・習熟度別	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
5	保育実習Ⅱの目標 実習目標・課題設定	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
6	実習の実際① 1日の流れ・子どもの活動・保育士の活動 全体指導・個別指導	講義 教科書・プリント ディスカッション	教科書、資料熟読
7	実習の実際② 実習日誌の書き方	演習 保育実習Ⅰの日誌見直し	教科書、資料熟読
8	実習の実際③ 指導計画案作成(部分実習)	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
9	実習の実際④ 指導計画案作成(総合実習)	演習 指導計画案の作成	教科書、資料熟読
10	実習の実際⑤ 模擬保育(部分実習)	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
11	実習の実際⑥ 模擬保育(総合実習)	演習 指導計画案の実施練習	指導計画案の熟読 保育教材準備
12	実習における留意点の確認 実習準備物の確認	講義 実習における留意点	資料熟読 準備物の点検
13	保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート・礼状	演習 報告レポート作成練習 礼状作成練習	資料熟読
14	保育実習Ⅱ事後指導 報告レポート	演習 報告レポート作成	礼状送付
15	保育実習Ⅱ事後指導 実習総括・自己評価・報告レポート 新たな課題設定・課題目標の明確化	演習 実習総括・自己評価 新たな課題・目標設定 報告レポート完成	報告レポート等の再点 検・整理 報告レポート提出

<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A・G・J・L：指導計画案作成、実習目標設定、模擬実習、実習終了報告レポートで評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>	
<p>【教科書】</p> <p>書名：新保育士養成講座 第9巻 保育実習 著者名：新保育士養成講座編集委員会／編 発行所：全国社会福祉協議会 価格：1,900円（税別）</p> <p>書名：保育実習の手引き（2年次配付） 発行所：福島県保育者養成校連絡会</p> <p>書名：福島県保育実習施設（3年次配付） 発行所：福島県保育者養成校連絡会</p>	
<p>【参考書】</p> <p>書名：実習日誌の書き方 著者名：相馬和子・中田カヨ子 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】</p> <p>1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>
<p>【参考書】</p> <p>書名：指導計画の考え方・立て方 著者名：久富優子／編 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】</p> <p>1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>
<p>【参考書】</p> <p>書名：幼稚園・保育所実習ハンドブック 著者名：田中まさ子／編 発行所：みらい 価格：2,000円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】</p> <p>1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <p>特別講義は保育所長又は主任保育士と、児童養護施設長をゲストスピーカーとして各1回招聘する。</p>	

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：高橋雄二		開講期	通年
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		NPO法人あざみ会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修了 修士（こども心理） 社会福祉士、介護福祉士 介護福祉教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 既習の実習や教科目の内容を踏まえ、保育における実践力を習得する。保育における観察、記録及び自己評価等について事例を通して理解すると共に、子どもの最善の利益を考慮した支援計画を立案する技術を習得する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
実習目標を具体的に設定し、実習施設と対象児、および関わり方について予備知識を得る。			目標	A
適切な実習日誌の書き方を学ぶ。			目標	A・B・D
対象児との関わりを振り返り、実習事例をまとめ、自身の保育者としての適性について考える。			目標	A・B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	事前指導1： 保育実習Ⅲの目的・目標と内容	講義 資料：「一般的な実習目標」	過去実習の日誌の検討

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	事前指導2： 各自の目標設定①	各自作業	過去実習の日誌の検討
3	事前指導3： 各自の目標設定②	各自作業	過去実習の日誌の検討
4	事前指導4： 養護系施設の理解と対象児理解	各自作業	発表資料作成
5	事前指導5： 障害児系施設の理解と対象児理解	各自作業	発表資料作成
6	事前指導6： 援助的関わりの基本	講義 資料：「援助の構造」	各自下調べ
7	事前指導7： 関わり方の具体的な方法①要養護児	発表・質疑応答	発表資料作成
8	事前指導8： 関わり方の具体的な方法②発達障害児	発表・質疑応答	発表資料作成
9	事前指導9： 日誌の書き方①説明	サンプル日誌使用	過去実習の日誌の検討
10	事前指導10： 日誌の書き方②練習（要養護児）	観察練習用VTR使用	サンプル日誌の熟読
11	事前指導11： 日誌の書き方③練習（発達障害児）	観察練習用VTR使用	前回練習の復習
12	事前指導12： 事前注意・確認	各自作業	注意事項、準備の確認(復習)
13	事後指導1： 事後反省の方法	発表と指導	発表準備
14	事後指導2： 事例発表と解釈をめぐる討論①	各自作業	発表準備
15	事後指導3： 事例発表と解釈をめぐる討論②	各自作業	発表準備
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標A・G・J・L：指導計画案作成、実習目標設定、模擬実習、実習終了報告レポートで評価する。 成績評価は、認定・不認定の判定とする。 評価基準等の詳細は、初回授業で説明する。</p>			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：田 辺 稔		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		福島市子ども子育て会議 会長（2018.3まで） 福島市児童福祉専門部会 会長（2018.4より現在に至る）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本ゼミナールは教育心理学領域における課題を自ら見だし、2年間の継続した履修を通して研究していく科目である。履修者自身を取り上げる教育心理学領域とは発達段階と発達課題・学習及び学習過程の原理・個人差把握の観点・教育評価に関わる統計解析の4項目いずれかに添う必要があり、自分の観点で論じ、研究成果を纏めることとしている。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
2カ年の継続履修を通し、卒業研究として纏めること。(単位認定は4年次となる)			目標	A・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。授業の進め方の確認 卒業論文について		
2	研究論文に触れてみる①	2018年度卒業研究を読み、それぞれの感想を述べる。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	研究論文に触れてみる② 卒業研究の大まかな方向性を決める	2018年度卒業研究を読み、それぞれの感想を述べる。	
4	CiNii文献検索について	図書館情報センターで検索の実験を体験	CiNiiから論文をDL。プレゼン用のレジюме作成
5	学術研究論文に触れてみる①	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
6	学術研究論文に触れてみる②	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
7	学術研究論文に触れてみる③	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
8	学術研究論文に触れてみる④	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
9	学術研究論文に触れてみる⑤	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
10	統計解析の基礎としてExcelの再学習① (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
11	統計解析の基礎としてExcelの再学習② (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
12	基本統計の算出 平均の差とは (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
13	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)① X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
14	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)② X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する
15	アンケート調査の方法① (学外幼児教育施設の見学)	見学先の受け入れ状況等により実施。	
16	アンケート調査の方法② (学外幼児教育施設の見学)	見学先の受け入れ状況等により実施。	
17	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)③ X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジюмеを用意する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	統計解析の実際(パラメトリックとノンパラメトリック)④ X ² 検定・平均差・相関関係など (論文の講読は継続していく)	各自の研究課題に添い、 先行研究等の論文を選び ゼミ内でプレゼンしてみる	プレゼン用のレジメを 用意する
19	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
20	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
21	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
22	各自の研究課題の発表	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
23	首都圏の学外幼児教育施設の見学 (見学をコマ数に換算します)	見学先の受け入れ状況等 により実施。	
24	首都圏の学外幼児教育施設の見学 (見学をコマ数に換算します)	見学先の受け入れ状況等 により実施。	
25	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
26	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
27	各自の研究課題の発表 課題に沿った先行研究のプレゼン	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
28	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
29	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
30	各自の研究課題の発表 (卒業研究構想発表会の準備)	各自の研究課題をゼミ ナール内でプレゼンして みる	プレゼン用のレジメを 用意する
31	調査・フィールドワークのスケジュール 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
32	調査・フィールドワークのスケジュール (依頼先との調整) 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
33	調査・フィールドワークのスケジュール 調査紙の作成・プレ調査	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
34	調査・フィールドワークのスケジュール 依頼先との調整	各自の研究課題に沿った 調査等の日程管理	
35	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	
36	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
37	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
38	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
39	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
40	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
41	課題研究への継続的取り組み (卒業研究中間発表会の準備)	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
42	課題研究への継続的取り組み	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
43	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
44	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
45	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
46	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
47	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
48	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
49	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
50	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
51	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
52	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
53	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
54	課題研究への継続的取り組み 各自の研究課題に沿った先行研究の紹介と講読	進捗状況の随時報告	必要に応じ報告書を作成
55	卒業論文のまとめ		
56	卒業論文のまとめ		
57	卒業論文のまとめ それぞれの論文を読み合う		プレゼン用のレジюмеを用意する
58	卒業論文のまとめ それぞれの論文を読み合う		プレゼン用のレジюмеを用意する
59	卒業論文のまとめ 研究発表会の準備		プレゼン用のレジюмеを用意する
60	卒業論文のまとめ 研究発表会の準備		

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

本科目は大学設置基準第二十一条三項（卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。）に準拠し、対応項目A・C・Kについてはゼミナール内のプレゼン成果および卒業研究に至る過程を踏まえ、成果として提出された「卒業論文」により評価する。

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：講師 氏名：長尾 順一郎 <small>なが お じゅんいちろう</small>		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		公立幼稚園長（平成14年4月～平成19年3月、平成21年4月～平成26年3月） 福島県国公立幼稚園長会会長（平成25年4月～平成26年3月） 福島県音楽教育研究会会長（平成24年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県教職員論文審査委員長1年間、同審査委員4年間		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部小学校課程卒業、教育学士 小学校教諭一種普通免許、中学校教諭二種普通免許（理科）、中学校教諭二種免許（音楽）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「感性と表現に関する研究」を主たる研究内容とし、幼児は身近な周囲の環境と関わりながら、音や音楽に不思議さや面白さを見付け心を動かし自己表現を通して他との新たな関わりを築いていることについて、実際の幼児の姿と関係付けて理解を深めます。 そのために、幼稚園等における保育の様子を教育的に観察することを重視し、一般的な幼児の姿ではなく、一人ひとりが営む日常生活の中で何が起きているのかを見て、その子がいかに有能であるのかを理解しようとし、その姿から何を選んで記録し、意味や価値を与えるのかという視点を学び、その結果をまとめることにより継続的な研究ができるようにします。 4年生は卒業論文指導を中心として行います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児教育の基本について理解している。			目標	A
卒業論文に関する方法を把握し、研究課題と見通しをもつ。			目標	A・C
先行研究の調査を通して、批判的な読解ができる。			目標	C
論文構成について理解し、各論同士の関係を論理的に構築することができる。			目標	C・D
4年次には、研究計画、構成案に基づき卒業論文を執筆する。			目標	C・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ゼミナールに対する心構え ・授業の概要とこれからの研究の見通し 3年次	講義：研究についての心構え 演習：研究についての抱負	研究に取り組む決意と研究内容の確認
	オリエンテーション ・卒業論文提出に関する見通し 4年次	演習：グループで研究の見通しについて意見交換	研究の見通しについての計画
2	卒業論文の書き方 ・論文とは何かについての話し合い ・文章作成の心得 3年次	講義：論文について 演習：卒業論文についての話し合い	プリントを基に論文とは何かについて予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
3	卒業論文の書き方 ・文章のスタイルについて 3年次	講義：論文について 演習：文章のスタイルについての話し合い	プリントを基に論文の書き方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
4	卒業論文の書き方 ・文章作成の練習 3年次	講義：論文について 演習：短い文章を記述し互いに批評し合う	プリントを基に文章の書き方について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
5	先行研究 ・各自の研究に関する先行研究を図書館や情報機器を利用して資料を収集 3年次	演習：各自の方法で資料収集を行う	資料収集の方法について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	先行研究による資料収集及び整理
6	先行研究 ・各自の研究に関する先行研究を図書館や情報機器を利用して資料を収集 3年次	演習：各自の方法で資料収集を行う	資料収集の方法について予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料収集と整理	資料収集及び資料の整理
7	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究の資料の批評を予習
	卒業論文の作成 ・先行研究による資料の収集・整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	批評の仕方について工夫を図るための予習
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
9	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に各自の研究に資する内容を取り入れる。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
10	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に各自の研究に資する内容を取り入れる。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の作成 ・研究テーマに関わる文献及び資料の整理 4年次	演習：各自研究テーマについての資料を整理	資料の整理
11	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即して研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	プロットから内容の構想を練る
12	先行研究 ・収集した先行研究資料を基に自らの批評を加えて発表したり、他の人の批評を聞いたりする。 3年次	演習：各自持ち寄った先行研究の資料について互いに批評し合う	先行研究から研究に資する内容を取り入れる
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係資料を熟読し執筆に備える
13	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する 3年次	演習：各自の研究テーマに即した調査方法を検討する	調査方法の予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即して研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	関係資料を熟読し執筆に備える
14	調査方法 ・具体的な調査方法について提案する 3年次	演習：各自の研究テーマに即した調査方法を検討する	調査方法の予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	調査項目 ・卒業論文の調査項目としてふさわしい内容かについて確認する 3年次	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
16	調査項目 ・互いの調査項目を出し批評し合う 3年次	演習：調査項目について吟味し互いに批評し合う	調査項目についての予習
	卒業論文の執筆 ・プロットに即した研究内容の執筆 4年次	演習：各自研究内容についての資料を基に論文の執筆	研究内容についての資料を熟読
17	分析方法 ・各自の卒業論文にふさわしい分析の仕方を考える 3年次	演習：各自分析の方法を提示し分析の仕方を検討する	分析の方法について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
18	分析方法 ・各自の卒業論文にふさわしい分析の仕方を確定する 3年次	演習：各自分析の方法を確定する	分析の方法について確認
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
19	情報の整理 ・研究の方法と資料の整理 3年次	演習：資料の整理の仕方について討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
20	情報の整理 ・研究の方法と資料の整理 3年次	演習：資料の整理の仕方について討議	資料の整理の仕方について予習
	卒業論文内容の吟味 ・執筆した論文に論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：グループで一人一人の論文を読んで齟齬がないかを確認	論文全体を通して熟読
21	論文の構成部分とその順序 ・論文の構成部分について 3年次	演習：「序論」「本論」「結論」について討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習：卒業論文を互いに読み合い修正点を指摘	卒業論文に齟齬がないかを確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	論文の構成部分とその順序 ・論文の構成順序 3年次	演習:「序論」「本論」「結論」について討議	論文の構成について予習
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの確認 4年次	演習:互いに卒業論文の内容を発表	卒業論文の内容を熟読
23	研究計画書作成 ・研究テーマの作成 3年次	演習:各自の研究テーマを発表し討議	研究テーマについての検討
	卒業論文内容の確認 ・論文全体を通して論理的なねじれや齟齬がないかの再確認 4年次	個別指導:卒業論文としての内容を確認する	卒業論文を再度読み直し確認
24	研究計画書作成 ・研究テーマの確定 ・研究テーマの意義についての検討 3年次	演習:各自の研究テーマを発表し討議	研究テーマの意義を検討し計画の見直しをもつ
	卒業論文の提出 ・研究テーマに即した2年間の研究成果を卒業論文として提出 4年次	演習:各自の卒業論文の概要を発表し合う	卒業論文を再度読み直し確認
25	研究計画書完成 ・卒業論文構想の発表会 3年次	演習:卒業論文執筆の構想を発表し批評し合う	研究計画の確認と発表の予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討 4年次	演習:資料の収集、整理、分析	発表原稿の内容を構想
26	卒業論文作成「序論」 ・問題の所在の提示についての執筆 3年次	個別指導:問題の所在が適切であるか確認	問題の所在を確認し、執筆の構想を練る
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の執筆、検討 4年次	個別指導:発表原稿の内容を検討する	発表原稿の構想を把握
27	卒業論文作成「序論」 ・問題の設定理由についての執筆 ・問題設定の動機についての執筆 3年次	個別指導:問題の設定理由・動機についての確認	問題の設定理由や動機についての内容を予習
	卒業論文発表会の準備 ・発表原稿の完成 4年次	個別指導:発表原稿として筋が通っているか確認	発表原稿の修正や文言のチェック
28	卒業論文作成「序論」 ・仮説の提示についての執筆 ・用語の説明についての執筆 3年次	個別指導:仮説や用語の説明に不備がないかを確認	仮説や用語の説明に関する整理と執筆準備
	卒業論文発表会の練習 ・リハーサルや発表会当日に向けての準備 4年次	個別指導:発表原稿等のチェックを行い、リハーサルに備える	発表の仕方を練習
29	卒業論文作成「序論」 ・研究及び調査方法についての執筆 ・論文の構想についての執筆 3年次	個別指導:「序論」としての体裁及び内容が適切であるかを確認	論文の調査方法や論文の構想についての確認
	卒業論文発表会の練習 ・発表原稿を基にわかりやすく発表できるようリハーサルを行う 4年次	演習:リハーサルを互いに聴き合い批評し合う	発表の仕方を練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	卒業論文作成「序論」 ・序論についての発表会	3年次 演習：「序論」についての発表を聞き、互いに批評し合う	序論の発表について予習
	卒業論文発表会 ・2年間の研究成果をわかりやすく発表する	4年次 演習：互いに発表しあったり聞き合ったりすることを通して研究成果を認め合う	発表の仕方を練習
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・D：2年間を通して、学習および研究した成果を卒業論文としてまとめることができる。 80点 目標A・I：音楽や保育に関する文献や専門書等を批判的に輪読することを通して、課題を事前に学習し的確なプレゼンテーションをすることができる。 10点 研究計画に沿って、指定された課題を提出することができる。 10点 以上、合計100点で評価する。			
【教科書】 使用しない			
【参考書】 (1) 書名：レポート・論文の書き方入門 第3版 著者名：河野哲也 発行所：慶応義塾大学出版会 価格：1,000円（税別） (2) 書名：大学生のための研究ハンドブック 著者名：ノートルダム清心女子大学人間生活科 編 発行所：大学教育出版 価格：1,200円（税別） (3) 書名：「文化系」学生のレポート・卒論術 著者名：渡辺潤、宮入恭平 編著 発行所：青弓社 価格：1,600円（税別） (4) 書名：学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル 著者名：滝川好夫 発行所：税務経理協会 価格：1,300円（税別）		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（各1冊） 2 本人購入（0冊）	

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡辺博志		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事（平成15年4月～平成17年3月） 福島大学総合教育研究センター准教授・教授（平成19年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		川俣町学校教育あり方検討委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学） 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状（国語）、日本カリキュラム学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「幼児期の言葉の獲得と保育者の役割」を主たる研究のテーマとする。子どもが言葉の使い手として発達していく姿や言葉が育つ環境などの諸要素を取り上げてその関連について考察するとともに、言語環境としての保育者の様々な役割とその意味について追究していく。そのために、幼稚園の保育場面と観察対象児の発話を継続的に取り上げ、その記録を分析、討議して言葉の発達と教師の役割の関連について具体的に理解を深めていく。 3年生は言葉獲得の理論と事例を関連させた卒論の基本構想を確立し、4年生は卒論指導を中心に行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
卒業研究の方法と手順を把握し、論文作成の概要、書式について理解することができる。			目標	A
先行研究（論文、実践）を調査し、レビューを行うことで研究の方向性を探り、課題のとらえ方を理解することができる。			目標	K
論文テーマに関わる各論について論理的に構成し配置することができる。4年次には、研究計画、構成構成案に基づき卒業論文を執筆する。			目標	C・D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>○オリエンテーション〈○：3年生以下同じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要とゼミナールの学びについて ・研究の見通しと方法 <p>卒業論文の作成について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文作成の方法と手順 <p>◇授業内容と年間計画の確認〈◇：4年生以下同じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文提出に関する計画の見直し ・章立ての再検討 	<p>○授業計画</p> <p>講義：「論文の作成の展望を開く」</p> <p>演習：研究に対する興味・関心の方向性についての話し合い</p> <p>◇演習：研究の見通しについてプレゼンテーションと意見交換</p>	<p>○関係図書等を基に論文作成の基本を検討する</p> <p>◇第3次研究計画を作成する</p>
2	<p>○卒業論文の作成について②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「論文」の必須条件 ・卒業論文作成の見通しと書式 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理 ・研究テーマに基づく実践計画 	<p>○講義「論文の条件」</p> <p>演習：論文作成の書式等についてモデル調査</p> <p>◇演習「論文構成プロット」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章立て ・小項目 ・小見出し、キーワード 	<p>○関係図書等を基に論文作成の基本を予習する</p> <p>◇論文構成の図解資料を作成する</p>
3	<p>○卒業論文の作成について③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図解を活用した研究の「見える化」 ・研究テーマと構成 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討① 	<p>○講義：「論文の組み立て」</p> <p>演習：図解の効果についての話し合い</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導案」をグループ検討する</p>	<p>○紹介図書を基に論文作成、図解の基本を予習</p> <p>◇授業実践指導案を作成する</p>
4	<p>○先行研究の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索環境 — 図書館の資料閲覧と検索サイト ・論文検索の習得 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討② 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導案」をグループ検討する</p>	<p>○料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇授業実践指導案を作成する</p>
5	<p>○先行研究の調査①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の整理と分析 ・実践計画の検討③ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>先行研究のキーワード洗い出し</p> <p>◇演習：各自研究テーマに基づく「実践計画・指導案」をグループ検討する</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇授業実践指導案を作成する</p>
6	<p>○先行研究の調査②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野、内容に関するキーワードの洗い出し ・研究に関連する論文・実践の論文検索 <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関わる資料の整理 ・実践の整理と考察① 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際</p> <p>先行研究のキーワードと関連研究の調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	<p>○先行研究の調査③</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関連する論文・実践の論文検索 関連研究論文から「テーマ」と「構成」の組み立てを学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関わる資料の整理 実践の整理と考察② 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「テーマ」と構成について調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
8	<p>○先行研究の調査④</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関連する論文・実践の論文検索 関連研究論文から「テーマ」と各論の組み立てを学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関わる資料の整理 実践の整理と考察③ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「テーマ」と構成について調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
9	<p>○先行研究の調査⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究に関連する論文・実践の論文検索 関連研究論文から「実践事例」の調査方法、分析を学ぶ <p>◇卒業論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関わる資料の整理 実践の整理と考察④ 	<p>○演習：資料収集、論文検索の方法と実際 先行研究の「実践事例」分析方法を調査</p> <p>◇演習：各自研究テーマについての実践と関係資料について整理をする</p>	<p>○資料収集、論文検索の方法を予習する</p> <p>◇実践の記録をもとに考察をする</p>
10	<p>○先行研究の調査⑥ — 先行研究レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ 研究モデルのテーマ、構成等分析 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：先行研究レビュー発表</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○論文レビューを作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>
11	<p>○先行研究の調査⑦ — 先行研究レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連研究論文から研究の着眼点、方法、アウトラインの組み立て、結論の導き方を学ぶ 研究モデルのテーマ、構成等分析 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：先行研究レビュー発表</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○論文レビューを作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>
12	<p>○研究課題・内容・方法の組み立て検討①</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ 実践事例、分析 各論の内容と論理的展開 <p>◇卒業論文の執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究構成の図解 研究キーワードの配置 研究構成表をもとにプロット作成 	<p>○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現</p> <p>◇演習：研究構成の図解、キーワード配置を検討し、研究プロットをもとに執筆活動を進め、個別相談をする</p>	<p>○題研究のための資料を作成する</p> <p>◇研究図解、キーワード抽出、研究構成表を作成する</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	○研究課題・内容・方法の組み立て検討② ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇プロットから「はじめに」の試案作成
14	○研究課題・内容・方法の組み立て検討③ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
15	○研究課題・内容・方法の組み立て検討④ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
16	○研究課題・内容・方法の組み立て検討⑤ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
17	○研究課題・内容・方法の組み立て検討⑥ ・研究テーマ ・実践事例、分析 ・各論の内容と論理的展開 ◇卒業論文の執筆 ・プロットを基にした論文執筆	○演習：仮の研究テーマと予想される各論の関連について図解を通して表現 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆執筆に関する個別相談	○課題研究のための資料を作成する ◇関係資料を整理し、執筆計画に基づき執筆活動を進める
18	○研究課題の中間報告① ・研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ・ゼミ内発表・合評 ◇卒業論文の作成報告会① ・ゼミ内発表・合評 ・構成プロットと執筆の実際	○合評会：研究テーマと各論の構成 ◇作成進捗状況をもとにした論文概要の合評会	○中間報告発表資料を作成する ◇論文作成の進捗状況について発表資料を作成する
19	○研究課題の中間報告② ・研究テーマ 関連する各論の妥当性検討 ・ゼミ内発表・合評 ◇卒業論文の作成報告会② ・ゼミ内発表・合評 ・構成プロットと執筆の実際	○合評会：研究テーマと各論の構成の妥当性 ◇作成進捗状況をもとにした論文概要の合評会	○中間報告発表資料を作成する ◇論文作成の進捗状況について発表資料を作成する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	○研究課題・アウトラインの検討・調整① ・テーマと各論の構成について ・研究の方法・分析の調整 ◇卒業論文の吟味・検討 ・卒業論文構成プロットと内容の調整	○演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正 ◇演習：各自研究テーマ、内容を基に論文執筆 論文構成プロットと内容の整合性について個別指導	○研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする ◇論文プロットと内容の整合性を検討する
21	○研究課題・アウトラインの検討・調整② ・テーマと各論の構成について ・研究の方法・分析の調整 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習：合評会の意見等を参考に研究のアウトラインを調整、修正 ◇演習：各自研究テーマ、内容の調整内容を基に論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究のアウトラインを検討し、調整、修正をする ◇関係資料を整理し、調整内容に基づき執筆活動を進める
22	○研究テーマに基づく研究計画の立案① ・研究テーマの意義、独自性、妥当性検討 ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習：研究計画の作成：テーマの妥当性について発表 合評会を通して批評交流 ◇演習：各自研究テーマ、内容の調整内容を基に論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画と発表資料を作成する ◇関係資料を整理し、調整内容に基づき執筆活動を進める
23	○研究テーマに基づく研究計画の立案② ・実践事例、調査分析、各論の論理的構成 ・タイムスケジュール ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の執筆 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆	○演習：各論の構成について発表 合評会を通して批評交流 ◇演習：各自研究テーマ、内容の調整内容を基に論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画とタイムスケジュールを作成する ◇関係資料を整理し、調整内容に基づき執筆活動を進める
24	○研究テーマに基づく研究計画の立案③ ・研究テーマの確定 ・実践事例、調査分析、各論の論理的構成 ・タイムスケジュール ・ゼミ内合評 ◇卒業論文の提出準備 ・プロットと内容の調整を基にした論文執筆 ・提出に関する手続き	○演習：研究テーマの決定 各論の構成仮決定 タイムスケジュール作成 ◇演習：各自研究テーマ、内容の調整内容を基に論文執筆 執筆に関する個別相談	○研究計画とタイムスケジュールを作成する ◇関係資料を整理し、調整内容に基づき執筆活動を進める
25	○研究テーマに基づく研究計画書 ・卒業論文構想発表会 ◇卒業論文の提出 ・研究テーマに即した研究成果を卒業論文として提出	○ゼミ内研究構想発表 ◇演習：「卒業論文概要版」のグループ検討	○研究構想発表会資料を作成する ◇「卒業論文概要」の作成
26	○卒業論文構成プロットの作成① ・研究計画に基づく執筆 ・研究の背景、意義、研究視点の検討 ◇卒業論文のゼミ内発表会 ・卒業論文作成2年間の歩みと研究	○個別指導 研究テーマと研究視点の関連性検討 ◇演習：卒業論文概要版ゼミ内発表	○研究の意義、独自視点のキーワードを確認し、執筆を進める ◇「卒業論文概要」の作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	○卒業論文構成プロットの作成② ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ◇卒業論文発表会の準備① ・発表原稿執筆・検討	○個別指導 用語、キーワード検討 ◇演習：資料の収集、整理、分析	○各論の小見出し、キーワードを確認し執筆する ◇発表の構想と原稿を作成する
28	○卒業論文構成プロットの作成③ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ◇卒業論文発表会の準備② ・発表原稿執筆・検討	○個別指導 研究テーマと各論の整合性検討 ◇演習：発表原稿のグループ内検討	○各論の小見出し、キーワードを確認し執筆する ◇発表の構想と原稿を作成する
29	○卒業論文構成プロットの作成④ ・研究計画に基づく執筆 ・各論の小見出し、キーワードの整合性検討 ・序論の検討 ◇卒業論文発表会の準備③ ・発表リハーサル	○個別指導 研究テーマと各論の整合性検討 ◇演習：発表リハーサルのグループ内検討	○序論を検討し作成する ◇発表原稿を作成する
30	○卒業論文構成プロットの作成⑤ ・研究計画に基づく執筆 ・序論の執筆 ◇卒業論文発表会	○個別指導 「序論」の検討 ◇卒業論文発表	○序論を執筆する ◇発表のスライド等作成
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 1 目標A・C：論文作成計画書60点 研究レビュー、先行研究調査、ゼミ内討論40点 3年次は研究対象、テーマの絞り込み、研究方法の決定、調査方法と分析の方法決定を通して論文構成を練り、研究計画を作成する。 2 目標D・K：卒業論文プロット、卒業論文100点 4年次は、適時にプレゼンテーションを実施しながら研究構成の改善、修正を加え、論文執筆に取り組む。 3 1、2の各段階ごとのまとめ、提出物、プレゼンテーションをもとに、3年生は「卒業論文研究計画書」、4年生は「卒業論文」を総合的に評価する。			
【教科書】 使用しない			
【参考書】 書 名：論文の書き方 ― ステップ式リサーチ戦略の進め ― 著者名：花井等・若松篤 発行所：有斐閣 価 格：1,600円（税別） 書 名：卒業論文・修士論文作成の要点整理 著者名：滝川好夫 発行所：税務経理協会 価 格：1,300円（税別） 書 名：よくわかる卒論の書き方 第2版 著者名：白井利明・高橋一郎 発行所：ミネルヴァ書房 価 格：2,500円（税別） その他、研究内容によって適宜紹介する		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（2冊） 2 本人購入（0冊）	
【その他補足事項】 実践研究を深めるための具体的制作の費用。および調査等に関わる費用は各自負担とする。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：鈴木美樹		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		幼稚園教諭免許状対象教員免許状更新講座講師 (平成23年～) 文部科学省認定他		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		武蔵野美術大学大学院造形研究科日本画コース修了、芸術学修士 学芸員資格・中学校教諭一種免許（美術）／高等学校教諭専修免許（美術）、 美術科教育学会、全国造形美術教育教員養成協議会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 「美術」は、日常から切り離されたものではなく、とても身近なものです。それは、芸術表現の一領域でありながら、文学や音楽、また歴史や文化、科学等の他領域とも密接にかかわっています。本ゼミナールでは、単なる制作にとどまらず、広く教養としての「美術」を学びながら、自分を取り巻く世界の諸相を、再発見していく視点を獲得します。具体的には様々な表現を通して、ものを作りだす喜びを味わいます。また、各月の「歳時記」の記述を通して自然に親しみ、感性を豊かにします。造形表現領域から、幼児の姿を理解し、保育における今日的な課題を探究します。 3年生では卒論構想発表を行い「序章」を執筆します。4年生では中間報告を行い、1月までに卒論を提出します。時間割外に個別指導を行います。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
卒業論文の形式と書き方を知り、調査・分析方法が理解できるようになる。			目標	A・B・C
先行研究のレビューを行うことで、研究の方向性を探り、問題のとらえ方を理解できる。			目標	A・C
様々な素材や道具を使用し、技法を試したりなど制作を行うことで、その特性が把握でき、表現技術が向上する。			目標	A・B
歳時記を記入することにより、感性が豊かになり、自然や文化等に対する知識が養われる。			目標	A・F
卒業論文を書くことで、自分の研究の方向性や課題が明らかになる。			目標	A・B・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標 ・授業の内容と年間計画 卒業論文の書き方① 卒業研究の形式を学ぶ 歳時記の記入方法～感性について	授業計画 講義・演習 教科書 プリント 各自、リングファイル(A4判)を準備する	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 オリエンテーション ・授業の概要と目標の確認 ・授業の内容と年間計画の確認	授業計画 講義・演習 プリント 論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
2	3年生 卒業論文の書き方② 卒業論文の構成を学ぶ 教材研究の方法について① 学習の進め方	講義・演習 教科書、プリント 材料・用具等	関係書籍等の熟読 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑥(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
3	3年生 興味・関心・価値観について 自分の価値観を検証する 教材研究の方法について② 資料整理の仕方(写真・製作物も含む)	ディスカッション 教科書	自身の興味・関心事を整理する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑦(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
4	3年生 先行研究検索の方法について 論文検索サイトの紹介 論文検索を体験する 教材研究の方法について③ 材料・用具・技法の理解を深める	講義 演習 教科書	インターネットで論文を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑧(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗状況の報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
5	3年生 先行研究の検索① 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について④ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑨(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	3年生 先行研究の検索② 興味・関心事から検索キーワードを抽出する 教材研究の方法について⑤ 材料・用具・技法の理解を深める	演習 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑩(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
7	3年生 先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑪(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
8	3年生 先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション 教科書	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑫(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
9	3年生 先行研究の検索③	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する 教科書	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑬(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
10	3年生 先行研究の探索④	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑭(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究
11	3年生 先行研究レビュー③	演習 プリント 用具、材料等	先行研究を検索 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑮(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究の検索 制作・教材研究
12	3年生 先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑯(先行研究レビュー) 調査の検討・確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究を検索 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	3年生 調査方法について① 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑰(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
14	3年生 調査方法について② 自分の研究にあった調査方法を検討する	演習 教科書	調査方法について事前に調べる 歳時記の記入
	4年生 論文作成⑱(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
15	3年生 分析方法について① 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑲(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
16	3年生 分析方法について② 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑳(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理) 提出計画確認	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究 提出計画書作成
17	3年生 分析方法について③ 自分の研究にあった分析方法を検討する	講義・演習 教科書	分析方法について事前に調べる 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉁(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
18	3年生 研究計画書作成① 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉂(先行研究確認・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
19	3年生 研究計画書作成② 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉃(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	3年生 調査対象の検討 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	演習 教科書	研究テーマの検討 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成⑳(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
21	3年生 調査方法の決定 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	演習 教科書	研究意義を考える 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉑(仮説・調査) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究 調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
22	3年生 調査項目の抽出・決定 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する 調査項目を決定する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉒(仮説・調査) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
23	3年生 分析方法の検討 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	演習 プリント 用具、材料等	歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉓(仮説・調査) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
24	3年生 分析方法の決定 調査にかかる分析方法を決定する	演習 教科書	分析方法を検討する 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉔(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
25	3年生 研究計画書を完成させる 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルの作成 卒業論文構想の発表(12月中旬) 卒業研究及び卒業論文の構想を発表する	演習 教科書	計画書の再検討 発表練習 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成㉕(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
26	3年生 論文作成① 研究の背景・目的の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の検討・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成②(考察・図版確認)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	3年生 論文作成② 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 論文作成③(考察・図版確認)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 制作・教材研究
28	3年生 論文作成③ 研究の背景・目的の執筆	論文指導 ディスカッション 教科書	研究の背景・目的の執筆・ 考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 印刷調整、論文提出	論文指導 作成進捗報告	論文提出 論文要旨作成 制作・教材研究
29	3年生 論文作成④ 序章の検討	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の検討・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 卒業研究発表会準備 論文修正	論文指導 作成進捗報告	論文修正 要旨集原稿作成 制作・教材研究
30	3年生 論文作成⑤ 序章の執筆 調査用紙の作成	論文指導 ディスカッション 教科書	序章の執筆・考察 歳時記の記入 制作・教材研究
	4年生 2年間の振り返り 卒業研究発表会準備 論文要旨修正	感想等を述べ合い、まとめを提出する 発表資料、原稿作成 質疑応答の練習	資料、原稿確認 要旨集原稿作成
<p>【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>〈3年生〉 卒業研究のテーマの決定、研究方法の決定、研究対象の決定、調査方法および分析方法の決定をしたのち、研究計画書を作成します。歳時記ノートを記入し、提出すること。 卒業論文(序章)の執筆を開始します。</p> <p>〈4年生〉 卒業論文を執筆し、期日までに提出すること。</p> <p>〈3・4年生共通〉 授業への出席、研究の意欲や態度、提出物の状況 評価基準等の詳細は、初回授業で説明します。 成績評価は上記各観点を踏まえ、対応項目A・B・C・Fについて4年次に行います。</p>			

<p>【教科書】 3年時に購入（2年間継続して使用） 書名：よくわかる卒論の書き方 著者名：白井利明・高橋一郎 著 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）</p>	<p>【参考書】</p> <p>① 書名：幼児教育法講座 新造形表現<理論・実践編> 著者名：花篤實・岡田愨吾 編著 発行所：三晃書房 価格：2,000円（税別） ※表現Ⅰの授業で使用した教科書</p> <p>② 書名：幼児造形教育の基礎知識 著者名：花篤実（監修）、 永守基樹（編集）、 清原知二（編集） 発行所：建帛社 価格：2,700円（税別）</p> <p>③ 書名：科学の健全な発展のために — 誠実な科学者の心得 — 著者名：日本学術振興会 「科学者の健全な発展のために」 編集委員会 編 発行所：丸善出版 価格：900円（税別）</p> <p>④ 書名：卒論執筆のためのWord活用術 著者名：田中幸夫 発行所：BLUEBACKS 価格：880円（税別）</p>
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各自が使用する材料・用具類は、基本的に自己負担となります。 • 感性や表現力を豊かにするため、自主的に美術館や博物館等で作品を鑑賞し、ワークショップや講演等にも、積極的に参加しましょう。（交通費や入場料他は自己負担となります） • 保育現場でのボランティア等を推奨します。 • 学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合があります。 	

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：今 清 孝	きよ たか	開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島市産官学プラットフォーム 保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、 日本子ども学会、日本保育者養成教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 子どもが育つ環境は、人的物的要素に様々な機能が加わり構成されている。こうした子どもの周辺環境を要素ごとに見つめながら、子育て社会の今日的課題と制度の変遷を整理し、子どもの最善の利益獲得を目指すために必要なことを考察していく。特に人間と社会の関係性に注目し、地域福祉やソーシャルワークの視点で「子育て支援」を考察できる、豊かな子育て社会の実現をめざす人材を育成する。 3年生は卒論構想発表を行い、4年生は構想発表した研究計画書に基づき、論文執筆を進め、中間報告を行ない、他の教員らからの意見を参考に12月までに卒業論分を提出する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
論文形式と書き方を学び、先行研究レビューと問題のとらえ方を学ぶ。			目標	A・C
調査方法と分析方法を理解し調査と分析を行う。			目標	A・B・C
研究計画書に則り、卒業論文を完成し、発表する			目標	C・D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	3年 卒業論文の書き方①	講義 卒業研究の形式を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	4年 論文作成⑥(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配付 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年 卒業論文の書き方②	講義 卒業論文の構成を学ぶ	関係書籍等を熟読する
	4年 論文作成⑦(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査依頼 調査用紙配付 先行研究検索
3	3年 興味・関心・価値観について	自分の価値観を自己検証する ディスカッション	自身の興味・関心事を整理する
	4年 論文作成⑧(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収) 論文作成⑨(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
4	3年 先行研究検索の方法	講義 論文検索サイトの紹介 論文検索の体験	実際にインターネットで論文検索する
	4年 論文作成⑩(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
5	3年 先行研究検索①	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	4年 論文作成⑪(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 先行研究検索
6	3年 先行研究検索②	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	先行研究を検索する
	4年 論文作成⑫(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
7	3年 先行研究レビュー①	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑬(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
8	3年 先行研究レビュー②	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑭(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	3年 先行研究検索③	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	4年 論文作成⑮(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
10	3年 先行研究検索④	興味・関心事から検索 キーワードを抽出する	再度、先行研究を検索する
	4年 論文作成⑯(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索
11	3年 先行研究レビュー③	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑰(先行研究レビュー) 調査開始(依頼・配付・回収) 論文作成⑱(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収 先行研究検索 調査データ整理
12	3年 先行研究レビュー④	レビュー発表 ディスカッション	論文レビューを作成する
	4年 論文作成⑲(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
13	3年 調査方法について①	自分の研究にあった調査 方法を検討する	調査方法について事前に 調べる
	4年 論文作成⑳(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
14	3年 調査方法について②	自分の研究にあった調査 方法を検討する	調査方法について事前に 調べる
	4年 論文作成㉑(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
15	3年 分析方法について①	講義 自分の研究にあった分析 方法を検討する	分析方法について事前に 調べる
	4年 論文作成㉒(先行研究確認) 調査分析(データ整理) 中間報告発表	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索 中間報告会

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	3年 ゼミ合宿 ～保育園での保育研修～ (筒井保育園・青森市)	保育研修の体験から、保育園の生活の流れ、子どもとのかかわり方を学ぶ	保育研修での学びを記録する
	4年 論文作成⑳(先行研究確認) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
17	3年 分析方法について②	講義 自分の研究にあった分析方法を検討する	分析方法について事前に調べる
	4年 論文作成㉑(仮説) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
18	3年 研究計画書作成①	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究テーマの検討をする
	4年 論文作成㉒(仮説) 調査分析(データ整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 先行研究検索
19	3年 研究計画書作成②	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作る	研究意義を考える
	4年 論文作成㉓(仮説) 調査分析(データ整理) 論文作成㉔(仮説・調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 調査データ整理 データ分析 図表作成
20	3年 調査対象の検討	演習 卒業研究の対象者の妥当性を検討する	具体的な調査対象者を考える
	4年 論文作成㉕(仮説・調査結果) 調査分析(データ分析) 論文作成㉖(調査結果) 調査分析(データ分析)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成
21	3年 調査方法の決定	演習 卒業研究の調査方法の妥当性を検討する	調査方法の検討を重ねる
	4年 論文作成㉗(考察) 論文作成㉘(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 データ分析 図表作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	3年 調査項目の抽出 調査項目の決定	演習 卒業研究の調査にかかる項目の妥当性を検討する調査項目を決定する	調査項目を検討し、抽出根拠を明確にする
	4年 論文作成⑳(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
23	3年 分析方法の検討	演習 調査にかかる分析方法の妥当性を検討する	分析方法の検討を重ねる
	4年 論文作成㉑(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
24	3年 分析方法の決定	演習 調査にかかる分析方法を決定する	分析方法の検討を重ねる
	4年 論文作成㉒(考察)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 図表作成
25	3年 研究計画書作成	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する	計画書の再検討
	4年 論文書式点検(図表確認、謝辞)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備
26	3年 研究計画書作成 論文作成㉓(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の検討 ディスカッション	研究の背景・目的の検討・ 考察
	4年 論文作成㉔(考察) 論文書式点検(引用文献、参考文献整理)	論文指導 作成進捗報告	論文作成 製本準備
27	3年 研究計画書作成 論文作成㉕(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆のタイムテーブルを作成する 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・ 考察
	4年 論文書式点検(引用文献、参考文献整理) 仮製本 卒業論文提出	論文指導 作成進捗報告	論文印刷 論文提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	3年 研究計画書完成 論文作成③(研究の背景・目的)	演習 卒業研究及び論文執筆の タイムテーブルを完成させる 論文指導 研究の背景・目的の執筆 ディスカッション	研究の背景・目的の執筆・ 考察
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
29	3年 論文作成④(序章)	論文指導 序章の検討 ディスカッション	序章の検討・考察
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
30	3年 論文作成⑤(序章) 調査用紙作成 卒業論文構想発表(2月中旬)	論文指導 序章の執筆 ディスカッション 卒業研究及び卒業論文の 構想を発表する	序章の執筆・考察 卒業論文構想発表会
	4年 卒業研究発表会準備	発表資料作成	発表練習
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 ① 目標A・B・C・D: 卒業研究のテーマの決定、研究方法の決定、研究対象の決定、調査方法および分析方法の決定をしたのち、研究計画書を作成する。 ② 目標A・B・C・D: 卒業論文を執筆する。 ③ 目標C・D: 卒業論文中間報告会にて、論文作成の状況を報告する。 ④ 目標C・D: 卒業論文を完成させ、卒業研究発表会で発表する。 成績評価は4年次に行う。			
【参考書】	書名: 新版 論文の教室 著者名: 戸田山和久 発行所: NHK BOOKS 価格: 1,200円(税別)	【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入 (0冊) 2 本人購入 (1冊)	
【参考書】	書名: 卒論執筆のためのWord活用術 著者名: 田中幸夫 発行所: BLUEBACKS 価格: 880円(税別)	【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入 (1冊) 2 本人購入 (0冊)	
【参考書】	書名: 日本社会福祉リーディングス8 子ども家庭福祉 著者名: 岩田正美/監修 山縣文治/編著 発行所: 日本図書センター 価格: 3,800円(税別)	【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入 (1冊) 2 本人購入 (0冊)	
【参考書】	書名: 社会調査のための計量テキスト分析 著者名: 樋口耕一 発行所: ナカニシヤ出版 価格: 2,800円(税別)	【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入 (1冊) 2 本人購入 (0冊)	

<p>【参考書】 書名：新版 質的研究入門<人間科学>のための方法論 著者名：ウヴェ・フリック著 小田博志 監訳 発行所：春秋社 価格：3,900円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>
<p>【参考書】 書名：質的調査法入門教育における調査法とケース・スタディ 著者名：S・B・メリアム 著 堀薫夫・久保真人・成島美弥 訳 発行所：ミネルヴァ書房 価格：4,200円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>
<p>【参考書】 書名：研究の進め方 著者名：ダン・レメニイ ほか著 小樽商科大学ビジネス創造センター 訳 発行所：同文館出版 価格：1,900円（税別）</p>	<p>【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（0冊）</p>

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：佐藤 佑貴		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター相談員 (平成19年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島市教育委員会特別支援教育指導員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	群馬大学大学院教育学研究科修了、修士（教育学） 公認心理師、臨床心理士、小学校教員専修免許状 日本心理臨床学会、日本人間性心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 保育および幼児教育における事象や問題について、個性記述的理解に関する視点で研究をしていく。 3年次には問題意識を明確にもてるようになるため、実習やボランティア等実践体験を重ねることや先行研究のクリティークを行う。また、研究方法についても知識を深め、研究改革を立てられるようにする。 4年次には、予備調査等研究の実践に入る。データの解釈等吟味のためのディスカッションを十分に行い、保育・幼児教育の現場に役立つ知見を見出す。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
2年間の学びと研究活動の成果を卒業論文として纏める。	目標	D		
先行研究およびリサーチクエスションに則した考察ができる。	目標	C		
筋道を立てて説明およびプレゼンテーションができる。	目標	I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの年間計画と、内容の説明	授業計画を使用する。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年：研究とは何をすることか？(1) 問題意識を持つ	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	関心あることについて文章化してくる。
	4年：研究計画を策定しよう(1) これまでのプロセスをまとめて研究計画を完成させる。	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	研究計画に関する資料をまとめておく。
3	3年：研究とは何をすることか？(2) 問題意識を持つ	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	関心あることについて文章化してくる。
	4年：研究計画を策定しよう(2) これまでのプロセスをまとめて研究計画を完成させる。	資料を準備し、プレゼンテーションとディスカッション	研究計画に関する資料をまとめておく。
4	3年：研究とは何をすることか？(3) 仮説生成研究と仮説検証研究について倫理的問題について	APA論文作成マニュアルを読んでディスカッション	配布資料について事前に読み、内容を説明できるようにしておく。
	4年：方法の実践(1) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
5	3年：研究とは何をすることか？(4) 先行研究に学ぶ 論文の形式とルール 文献検索の仕方を体験する	図書館での文献検索演習	関心あるテーマのキーワードを挙げておく。
	4年：方法の実践(2) 選定した研究方法を実践する。	図書館ラーニングコモンズにて実施する。	実施に必要な準備を行う。
6	3年：先行研究を読もう(1)	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ。	関心あるテーマの先行研究を収集する。
	4年：方法の実践(3) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
7	3年：先行研究を読もう(2)	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	関心あるテーマの先行研究を収集する。
	4年：方法の実践(4) 選定した研究方法を実践する。	フィールドへ足を運びデータ収集を行う。	実施に必要な準備を行う。
8	3年：先行研究を読もう(3)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(1) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	報告担当者は資料をまとめておく。
9	3年：先行研究を読もう(4)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(2) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	報告担当者は資料をまとめておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	3年：先行研究を読もう(5)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(3) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
11	3年：先行研究を読もう(6)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(4) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
12	3年：先行研究を読もう(7)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(5) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
13	3年：先行研究を読もう(8)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理(6) 収集した結果をデータ化する。	収集したローデータをパソコンを用いてデータ化する。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
14	3年：先行研究を読もう(9)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理と考察(1) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
15	3年：先行研究を読もう(10)	プレゼンテーションとディスカッション	収集した先行研究のまとめレジュメを作成する。
	4年：結果の整理と考察(2) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
16	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(1)	4年生の発表を聞きながらディスカッションに参加する。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(3) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
17	3年：リサーチクエスチョンを立てよう(2)	4年生の発表を聞きながらディスカッションに参加する。	リサーチクエスチョンについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(4) 収集したデータからリサーチクエスチョンに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	3年：リサーチクエストを立てよう(3)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエストについて文章化する。
	4年：結果の整理と考察(5) 収集したデータからリサーチクエストに答える形で考察を加える。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
19	3年：リサーチクエストを立てよう(4)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエストについて文章化する。
	4年：論文の形式に則り、執筆(1)	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
20	3年：リサーチクエストを立てよう(5)	RQについて、ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	リサーチクエストについて文章化する。
	4年：論文の形式に則り、執筆(2)	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
21	3年：研究方法について学ぼう(1) 量的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(3)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
22	3年：研究方法について学ぼう(2) 量的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(4)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
23	3年：研究方法について学ぼう(3) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(5)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
24	3年：研究方法について学ぼう(4) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(6)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
25	3年：研究方法について学ぼう(5) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(7)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	3年：研究方法について学ぼう(6) 質的研究についての文献講読	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の形式に則り、執筆(8)	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
27	3年：研究方法を選択しよう(1)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(1) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
28	3年：研究方法を選択しよう(2)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(2) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
29	3年：研究方法を選択しよう(3)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(3) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
30	3年：研究方法を選択しよう(4)	方法に関するプレゼンテーションとディスカッション	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：プレゼンテーション(4) 研究の概要についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
【授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）】 2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。 上記達成のため、以下の点において評価する。 目標C：授業時に活発に発言（意見・疑問等）しているか。 40% 目標I：プレゼンテーション時に筋立てて説明できているか。 30% 目標D：発表レジュメや論文において適切に記述できているか。 30%			
【教科書】 使用しない。		【参考書】 適宜紹介する。	
【その他補足事項】 論文作成やプレゼンテーション資料作成のため、パソコンは自分のものを用意することが望ましい。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：准教授 氏名：島田貴広		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士（スポーツ科学） 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 当ゼミナールでは子どもの運動発達とその支援、運動学習と指導に関する内容についての研究活動を行うこととする。「運動の『できる』『できない』はなぜ存在するのか。」「子どもが上手にできるようになるには指導者として何をどうすればよいのか。」といった基本的な問題を出発点に、体育科教育や運動学についての理解を深めていく。 3年次は主として体育学や運動学等の文献を輪読しながら、教育者あるいは保育者としての視点から子どもと運動にまつわる問題や課題を探り、自らの研究計画を立てていく。 4年次は卒論の作成と、途中経過のプレゼンテーションやディスカッションを中心に研究活動を行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
2年間の学びと研究活動の成果を卒業論文として纏める。			目標	C
学術論文執筆の基本的なルールと方法を習得する。			目標	D
学術論文等や専門書を読み込み、体育や運動学に関する知識を深める。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの年間計画と、内容の説明	体育分野の学術論文	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究計画の発表	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
3	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
4	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
5	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:先行研究のレビュー内容について報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
6	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
7	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
8	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の研究の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。
9	3年:「スポーツ運動学」文献の輪読と解説	スライド、DVD使用 グループディスカッション	輪読担当部分を事前に読んで、内容を説明できるようにしておく。
	4年:自分の論文の途中経過を報告	スライド、DVD使用 グループディスカッション	報告担当者は資料をまとめておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
11	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
12	3年：論文の形式について	4年生の報告を聞きながら論文の形式について学ぶ	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：論文の目次だての確認	それぞれ研究テーマと論文の目次だてについてプレゼンテーションを実施。	
13	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
14	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
15	3年：現時点で研究したいテーマについてプレゼンテーションをする。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：研究目的と方法についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
16	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
17	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	
18	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：調査や実験の内容、結果についてプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
20	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
21	3年：研究したい分野の先行研究を一つ持参し、概要をプレゼンテーションする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う。	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける。	プレゼン担当者は資料を用意しておく。
22	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
23	3年：研究の構想（概要）をまとめる。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	先行研究を集めながら研究概要を文章にまとめる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
24	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
25	3年：論文の目次だてをする。	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	研究概要に沿って目次を作ってくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。
26	3年：卒業研究計画の作成	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける。	シラバスに沿って、論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる。
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける。	論文作成作業を進める。助言指導を受けた点については修正しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
28	3年：卒業研究計画の作成	各自のテーマに従って個別に作業。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
29	3年：卒業研究計画の作成。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	助言指導を受けた点については修正しておく。
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
30	3年：卒業研究計画の提出。4年生の発表会のサポートについて打ち合わせ等を行う。	プレゼンテーションのサポートを行う。	
	4年：卒業研究発表の準備。リハーサル。	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける。	助言指導を受けた点については修正しておく。
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・D：2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。80点 目標A・K：体育や運動に関する学術論文や専門書等を輪読していくが、自分の担当箇所を事前に学習し、プレゼンテーションができるかどうか。10点 研究計画に沿って、指定された課題を提出することができるかどうか。10点 以上、合計100点で評価する			
【教科書】 書名：運動学講義 著者名：金子明友・朝岡正雄（編著） 発行所：大修館書店 価格：2,000円（税別）		【参考書】 書名：マイネル スポーツ運動学 著者名：クルト・マイネル著 金子明友訳 発行所：大修館書店 価格：4,300円（税別） 書名：スポーツ運動学 — 身体知の分析論 — 著者名：金子明友 発行所：大修館書店 価格：3,400円（税別） 書名：教師のための運動学 著者名：金子明友 監修 吉田茂 三木四郎 編 発行所：大修館書店 価格：2,000円（税別）	
【その他補足事項】 論文作成やプレゼンテーション資料作成のため、パソコンは自分のものを用意することが望ましい。			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：講師 氏名：八木孝憲		開講期	通年（2年間）
			授業回数	60回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		静岡県スクールカウンセラー（平成21年4月～平成26年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		東海心理療法研究会幹事（平成24年4月～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程、修士（臨床心理学） 臨床心理士、専門社会調査士、公認心理師、日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 当ゼミナールでは、保育や福祉にかかわる領域において、特にこどもの発達面や子ども・養育者の心理的課題と支援法を研究していく。 問題意識を明確にし、他者に配慮でき良好な対人関係を維持していくことをベースとして、自身の推論過程を意識的に吟味する再帰的な思考が求められる。また、吟味するには適切な基準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考を行い、問題提起及び課題解決に積極的に関与しうる卒業研究を推進する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
先行研究のレビューを通じて、研究史とこれまでの諸課題を認識する。			目標	A
適格なりサーテクエスチョンを立てて、それに沿った方法論を採用する。			目標	C
資料作成やプレゼンテーションを計画的に簡潔に実施できる。			目標	I
卒業論文の基本構成に沿って、意義ある卒業論文を完成させる。			目標	D
クリティカルシンキング能力を獲得する。			目標	C・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 第1回 ゼミの概要と目標及び学習方法	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成
	卒論目次作成	目次の作成と発表	研究計画確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2回 目指すものを定義する① いつまでに	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	卒論作成日程表作成	日程の作成と発表	計画案準備
3	第3回 目指すものを定義する② どのくらいのレベルを設定するか	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
4	第4回 目指すものを定義する③ 何のために(目的は)	資料に基づくディスカッション	研究スケジュールの作成 (wordかExcel)
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
5	第5回 何が問題なのかクリアにする① 自分の状況を客観的に分析する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表	指定論文を読み、要約できるようにする。	用語の意味解釈、引用人物の理解
6	第6回 何が問題なのかクリアにする② 目指すものとのギャップを認識する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
7	第7回 何が問題なのかクリアにする③ ギャップが生じている原因を本質的に説明する	資料に基づくディスカッション	研究課題のための資料作成
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
8	第8回 方法を考える① 具体的なアクションを挙げる	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
9	第9回 方法を考える② 選択したアクションをクリアに説明する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
10	第10回 研究テーマを考える① どのような領域があるのか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査開始(依頼・配布・回収)	作成進捗報告	論文作成 調査用紙回収
11	第11回 研究テーマを考える② 問題の背景は何か	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析(データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	第12回 研究テーマを考える③ 目的を明確化する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
13	第13回 方法を学ぶ① どのような方法があるのか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
14	第14回 方法を学ぶ② どのような方法を用いるか	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
15	第15回 方法を学ぶ③ 方法を選択する	資料に基づくディスカッション	配布資料の精読
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
16	第16回 先行研究の文献講読①	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	調査分析 (データ整理)	作成進捗報告	調査データ整理
17	第17回 先行研究の文献講読②	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
18	第18回 先行研究の文献講読③	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
19	第19回 先行研究の文献講読④	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
20	第20回 先行研究の文献講読⑤	プレゼンテーションとディスカッション	資料収集及び資料整理
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
21	第21回 研究方法について学ぶ① 量的研究	文献講読とディスカッション	量的研究に関する資料を通読
	論文作成 (目的・方法)	論文指導	論文作成
22	第22回 研究方法について学ぶ② 量的研究	文献講読とディスカッション	量的研究に関する資料を通読
	論文作成 (図表)	論文指導	論文作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	第23回 研究方法について学ぶ③ 質的研究	文献講読とディスカッション	室的研究に関する資料を通読
	論文作成(図表)	論文指導	論文作成
24	第24回 研究方法について学ぶ④ 質的研究	文献講読とディスカッション	質的研究に関する資料を通読
	論文作成(図表)	論文指導	論文作成
25	第25回 研究方法について学ぶ⑤ 質的研究	文献講読とディスカッション	質的研究に関する資料を通読
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
26	第26回 研究計画書の作成①	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
27	第27回 研究計画書の作成②	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結果)	論文指導	論文作成
28	第28回 研究計画書の作成③	プレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
	論文作成(結論・考察)	論文指導	論文作成
29	第29回 最新の研究動向を学ぶ①	文献講読とディスカッション	最新の研究動向を広く収集する
	論文作成(結論・考察)	論文指導	論文作成
30	第30回 最新の研究動向を学ぶ②	文献講読とディスカッション	最新の研究動向を広く収集する
	論文作成(校正)	論文指導	論文作成
【授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)】 到達目標C・D：2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。 到達目標I：演習時に活発に発言しているか。 到達目標A：先行研究を多く読んで体系を理解しているか。			
【教科書】 使用しない。(適宜資料を配付する)			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> あらゆる事項において期限厳守を徹底する。 学習の進捗度により、内容が一部変更になる場合がある。 			

授業科目名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政 やまざきのぶまさ	開講期	通年（2年間）	
		授業回数	60回	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	必修		
保育士資格	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 子どもは、感じたことや考えたことを自分なりに様々な方法で「表現」することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。この子どもの表現に関する事、特に演劇や身体表現に関する諸理論を学びながら、履修者の興味関心を広げ、自分自身で問題点や疑問点を探り、継続的な研究が可能になるようにする。 4年生は卒論の中間発表を適宜行う。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
文献検索と文献研究の方法を知る。	目標	A		
表現に関する学術論文を読み、内容を説明できること。	目標	A・C		
先行研究を調査し、レビューを行うことで研究の方向性を探り、課題の捉え方を理解することができる。	目標	I・K		
4年次には、研究計画、構成案に基づき卒業論文を執筆する。	目標	A・C・I・K		

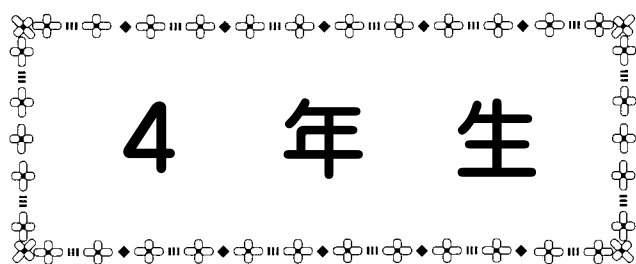
【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・年間授業の流れと留意点 ・授業の進め方の確認		
2	3年：表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
	4年：研究計画に基づく進捗状況のゼミ内発表	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
3	3年：表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
	4年：研究計画に基づく進捗状況のゼミ内発表	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
4	3年：表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
5	3年：表現領域の学術論文輪読を通して、研究の着眼点や方法、結論の導き方を学ぶ	指定された論文を読み、要約できるようにする	資料の熟読
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
6	3年：自分の研究に関連する研究内容の論文を図書館やインターネット等にて探し資料として収集	事前に論文を探し、理解していく	資料は自分で準備する
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
7	3年：自分の研究に関連する研究内容の論文を図書館やインターネット等にて探し資料として収集	事前に論文を探し、理解していく	資料は自分で準備する
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
8	3年：先行研究の資料を基に、自らの研究に資する内容を取り入れる	事前に論文を探し、理解していく	資料は自分で準備する
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
9	3年：先行研究の資料を基に、自らの研究に資する内容を取り入れる	事前に論文を探し、理解していく	資料は自分で準備する
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	3年：各自の研究課題・調査に関する中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：各自の研究課題・調査に関する中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
11	3年：各自の研究課題・調査に関する中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：各自の研究課題・調査に関する中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
12	3年：各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
13	3年：各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
14	3年：各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
15	3年：各自の研究課題に添い、先行研究等の論文を選びゼミ内でプレゼンする	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：先行研究に関わる文献検索・ゼミ内発表 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
16	3年：各自の研究課題に関する再調整と中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
17	3年：各自の研究課題に関する再調整と中間報告	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
18	3年：各自の研究課題に添い研究計画の立案	資料は各自で準備	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	3年：各自の研究課題に添い研究計画の立案	資料は各自で準備	報告担当者は資料をまとめておく
	4年：論文制作	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	報告担当者は資料をまとめておく
20	3年：研究課題についてのプレゼンと批評	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
21	3年：研究課題についてのプレゼンと批評	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
	4年：考察からまとめについてのプレゼンテーションを行う	ディスカッションを行いながら助言指導を受ける	プレゼン担当者は資料を用意しておく
22	3年：各自の研究課題に添い研究計画の修正	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける	論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける	論文作成作業を進める助言指導を受けた点については修正しておく
23	3年：各自の研究課題に添い研究計画の修正	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける	論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける	論文作成作業を進める助言指導を受けた点については修正しておく
24	3年：各自の研究課題に添い研究計画の修正	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける	論文作成に必要な作業スケジュールを考えてくる
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける	論文作成作業を進める助言指導を受けた点については修正しておく
25	3年：研究課題の決定	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける	論文作成作業を進める助言指導を受けた点については修正しておく
26	3年：研究課題の決定	個別に作業を進め、適宜助言や指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：卒業論文の最終確認と提出準備	個別に論文作成作業を進め、助言指導を受ける	論文作成作業を進める助言指導を受けた点については修正しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	3年：先行研究に関わる文献検索 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	各自のテーマに従って個別に作業	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：論文制作、提出	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
28	3年：先行研究に関わる文献検索 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	各自のテーマに従って個別に作業	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：ゼミ内卒論発表会の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	個別に発表資料等の準備と、助言・指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
29	3年：先行研究に関わる文献検索 研究計画に基づく資料収集並びに論文制作	各自のテーマに従って個別に作業	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：ゼミ内卒論発表会の準備（抄録やスライドなどプレゼン資料の作成）	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
30	3年：卒業研究計画の提出 4年生の発表会のサポート等を行う	プレゼンテーションのサポートを行う	助言指導を受けた点については修正しておく
	4年：ゼミ内卒論発表会	プレゼンテーションを行い助言指導を受ける	助言指導を受けた点については修正しておく
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標A・C・K：2年間の継続履修を通して学習および研究した成果を卒業論文としてまとめること。80点 目標A・I：表現に関する学術論文や専門書等を輪読していくが、自分の担当箇所を事前に学習し、プレゼンテーションができるかどうか。10点 研究計画に沿って、指定された課題を提出することができるかどうか。10点 以上、合計100点で評価する			
【教科書】 必要な資料は、その都度印刷物で配布する。		【参考書】 必要な書籍は履修者各自の研究領域により異なるため、授業内で逐次紹介する。	



4 年 生

授業科目名	地域福祉論		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名： <small>くさ</small> <small>か</small> <small>てる</small> 日下輝美		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		日本地域福祉学会福島県地方委員、福島県社会福祉協議会評議員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学））		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 地方分権化・社会サービスシステム・コミュニティワーク・住民参加の視点から地域福祉を捉え、その理念・対象・政策展開・構成要件・財源・主体・推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		○ J	多様性への理解力、応用力	
	○ K	課題対処力		
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
地域福祉の歴史的展開（法律、制度等）過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。		目標	J	
地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。		目標	J・K・L	
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。		目標	J・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	シラバス 配布資料に基づき講義	【予習】 新聞・雑誌を読んでくる。 【復習】 現代の地域生活と地域福祉の整理
2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 海外の地域福祉の歩みを整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉に関連する法律の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 社協活動の整理
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 住民主体の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉を支える専門職の役割について整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習 (ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉にある社会資源の整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉ニーズの把握の方法の整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域トータルケアシステムの整理
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉サービスの評価の方法について整理
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉計画の整理
13	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 福祉教育のモデル作成
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	配布資料に基づき、ディスカッションを行う 図書館を使った調べ学習(ラーニングコモンズ)	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 NPO法人の社会的役割について整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて振り返りと授業のまとめ	配布資料に基づき講義	【予習】 福祉に関する新聞記事を記述してくる。 【復習】 地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標J・K・L：期末試験(各20点・平均点) 受講ノート提出(最終回)の評価40点			

【教科書】 使用しない	
【参考書】 書名：地域福祉の理論と実際 著者名：都築光一 監修 発行所：建帛社 価格：2,520円（税別）	【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（1冊） 2 本人購入（なし）
【その他補足事項】 •「受講ノート」は必ず用意し、毎回、予習は福祉に関する新聞記事の記述。受講後（復習）は授業で学んだ事柄を整理すること。詳細については初回時に詳しく説明する。	

授業科目名	発 達 障 害		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	4年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		精神科専門医として46年間の経験		
社会貢献としての委員会・職等		福島市を含む県北地区の学校精神科医		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 自閉症スペクトラム障害（広汎性発達障害）、アスペルガー症候群、ADHD（注意欠陥・多動性障害）児・者への児童精神医学的な概念と病態を理解する。またそれを基礎として彼らへの福祉、保育、教育、心理学的なケアとサポートの方法を学ぶ。また発達障害児の早期発見と対応法、療育指導法、特別支援教育と保育の在り方、福祉的ケア、家族支援の在り方などの多面的、多角的なアプローチについて学ぶ。更に虐待やネグレクトの予防、思春期以降の2次障害と、成人してからの合併症の予防についても学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
発達障害の医学的背景について学ぶとともに、その医学的、心理学的治療とSST、TEACCHなどについて学ぶ。			目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害の総論 — 医学・心理・教育と福祉的アプローチ —	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
2	自閉症スペクトラム障害（ASD）	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習
3	アスペルガー症候群	資料（レジュメ）とテキストを用いて	次回の予習と復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	注意欠陥・多動性障害 (ADHD)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
5	学習障害 (LD)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
6	発達障害児・者へのソーシャルスキルトレーニング	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習
7	発達障害児・者へのTEACCHプログラム	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習
8	発達障害児・者への家族指導と療育指導	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
9	発達障害児・者への心理療法的アプローチ	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
10	発達障害児・者への認知行動療法	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD供覧	次回の予習と復習
11	発達障害児・者への医学的治療	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
12	発達障害児・者への就労支援	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
13	正常児 (健常児) の発育・発達	資料 (レジюме) とテキスト、人形を用いて	次回の予習と復習
14	発達障害児・者への脳科学的アプローチ	資料 (レジюме) とテキスト、脳の模型を用いて	次回の予習と復習
15	発達障害と反応性愛着障害 (被虐待児症候群)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回の予習と復習
期末試験	期末試験 (筆記試験)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)】 毎回の豆テスト 30% 期末テスト 30% レポート提出 20% 出席状況 20% 以上、目標Aについて合計100点で評価する。			
【教科書】 書名：まさか発達障害だったなんて 著者名：星野仁彦、さかもと未明 発行所：PHP新書 価格：800円 (税別)		【参考書】 書名：奥さまは発達障害 著者名：さかもと未明、星野仁彦 発行所：講談社 価格：1,300円 (税別)	

授業科目名	子育て支援政策		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：桜田葉子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県議会議員・平成15年～29年		
社会貢献としての委員会・職等		聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		国立音楽大学声楽学科卒業（芸術学士）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

【授業の概要】 少子化・人口減少に歯止めがかからず、地域社会や社会保障制度の維持が困難になることが現実の問題となっている。少子化・人口減少が社会に与える影響と、その対策としての子育て支援政策の必要性について理解を深める。また、子育て支援政策として、待機児童解消や幼児教育無償化など、幼児教育の現場も対象となってきたことから、行政の現場を視察研修して子育て支援政策の現状を学び、政策立案実習を通じてどのような子育て支援政策が必要なのかを考え、幼児教育者として理解していなければならない子育て支援政策について、グループワークを通して学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
少子化・人口減少が社会に与える影響と子育て支援の重要性を理解する。	目標	A	
子育て支援政策の現状を理解する。	目標	J	
子育て支援政策を立案する。	目標	K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「子育て支援政策」とは？	講義・グループワーク 資料：【うつくしま子ども夢プラン】【子育てしやすい福島県づくり条例】	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	少子化・人口減少社会の課題と子育て支援政策の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・国の政策 ・福島県の人口の推移と政策 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県の人口の推移】【国民生活基礎調査】【ふくしま復興のあゆみ】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
3	安心して次世代を産み育てられる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目のない福島県における妊産婦・乳幼児に対する支援体制 ・医療体制 ・家庭を築き子どもを産み育てる環境づくり 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、母子手帳の調査
4	子育てに関する支援について① <ul style="list-style-type: none"> ・子育て等に関する相談・情報提供体制づくり ・子育て世代包括支援センター 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
5	子育てに関する支援について② <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭の経済的負担軽減策 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
6	子育てに関する支援について③ <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援新制度の推進 ・保育所待機児童の解消 ・地域における子ども・子育て支援事業 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
7	子育てと社会参加の両立のための環境づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の推進 ・子育てと仕事の両立策 ・出産・子育てによる退職者に対する就業支援策 ・女性活躍推進法 ・改正育児・介護休業法のポイント 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
8	子どもの健やかな成長のための環境づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・援助を必要とする子どもや家庭に対する支援策 ・地域における子ども環境の整備 ・子どもの権利条約 	講義・グループワーク 自作資料：【福島県における子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
9	フランス・フィンランドにおける子育て支援政策について <ul style="list-style-type: none"> ・フランスにおける子育て支援 ・フィンランドにおける子育て支援「ネウボラ」 	講義・グループワーク 自作資料【フランス・フィンランドにおける子育て支援政策】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
10	合計特殊出生率日本一の岡山県奈義町における子育て支援政策について	講義・グループワーク 奈義町資料、自作資料【奈義町と福島県59市町村の比較】	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
11	「子育て支援」の現場研修① 県庁：県執行部からの説明 県庁内保育所「けやきの子」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集
12	「子育て支援」の現場研修② 県立医科大学：小児科医からの説明・看護師からの説明 「こども医療センター」「総合周産期母子医療センター」見学	特別講義（現場訪問）	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、県庁における現場研修のレポート提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	「子育て支援政策」立案 グループディスカッション	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、医大における現場研修のレポート提出
14	「子育て支援政策」立案 ディベート	グループワーク	配布資料の予習復習 新聞記事の収集、子育て支援の調査
15	「子育て支援政策」の発表	グループワーク	子育て支援政策レポート提出
期末試験	後期末試験(レポート)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・J・K：期末試験(レポート)30% 目標J：政策立案・発表30%、授業への参加態度(発言)10% 目標K：新聞記事の収集10%、現場研修レポート20%			
【教科書】 特になし。 ・自作資料を配付する		【参考書】 特になし。 参考文献は必要に応じて提示する。	
【その他補足事項】 少子化・人口減少の進展に伴い新しい政策が次々と出されているので、新聞等による情報収集に努め、少子化・人口減少対策・子育て支援政策に関心をもって授業にのぞむこと。			

授業科目名	保護者対応事例研究		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：山崎信政 <small>やまざきのぶまさ</small>	開講期	前期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	国立市社会福祉協議会評議員・福島県全私立幼稚園協会教育研究委員			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 本授業では、保護者を支援するための具体的な対応方法について学ぶ。保育現場では、子どもの支援は勿論のこと、親育ち支援の視点が重要。保育者の知識と技術、そして、地域の専門機関との連携による解決法等、より良い支援の多様なあり方を考察する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
親個人の成長と自己実現のための支援を学ぶ。	目標	A		
親と子ども、親と保護者、親同士の間関係における支援を学ぶ。	目標	A・H		
生活を営む環境や場における支援を学ぶ。	目標	A・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・保護者支援の意義について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
2	事例研究 ・孤立する子育てに対して	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	事例研究 ・虐待が疑われる場合の対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
4	事例研究 ・育児不安を抱える場合の対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
5	事例研究 ・愛着関係構築のための対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
6	事例研究 ・保護者の子育て環境構築のための対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
7	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
8	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
9	事例研究 ・保護者との連絡と連携について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
10	事例研究 ・トラブルメーカーの保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
11	事例研究 ・発達が気になる子どもとその親への支援について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
12	事例研究 ・仕事と子育てのバランスに悩む保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
13	事例研究 ・文化の違いに悩む親子への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
14	事例研究 ・自分本位な行動が目立つ保護者への対応について	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
15	事例研究 ・あらためて保護者への支援を考える	事例をもとに意見交換	資料によりノートを作成する(復習)
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】 目標A・H：子ども支援や親育ちの支援の知識や理解度に関して、試験やレポートにより50点 目標A・K：保護者を支援するための具体的な解決方法やより良い対応方法について、試験やレポートにより50点以上、合計100点で評価する			
【教科書】 特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配布する。			

授業科目名	保育・幼稚園教職実践演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡辺博志	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島県教育庁教育指導領域学習指導グループ参事（平成15年4月～平成17年3月） 福島大学総合教育研究センター准教授・教授（平成19年4月～平成25年3月）	
社会貢献としての委員会・職等		川俣町学校教育あり方検討委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員	
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学） 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状（国語）、 日本カリキュラム学会	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門教育科目	選択
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	必修
保育士資格		専門教育科目	必修
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは金曜日午前宮代キャンパス研究室で行います。	

【授業の概要】 保育現場に求められる指導上の諸問題（発達障害を含む）に対して、演習を主とした授業を通して、今後の保育実践に向けての自己課題を明確にするとともに、保育活動に必要なとされる実践的な知識・技能の補完を図ることをねらいとする。ビデオ視聴（保育参観）や実践記録の分析・グループ討議・全体討議等を通して、保育現場に不可欠な幼児理解と適切な援助や望ましい環境構成のあり方等について再確認し合いながら、実践的指導力を身につける。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育に関する学修履歴や実習経験をふり振り返り保育者としての自己課題を明らかにする。		目標	K
実践的知識技能の習得状況について省察し、履修カルテを作成する。		目標	B
保育に関する課題について具体事例をもとに現状分析し、解決のための実践的指導力について学びを深める。		目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習を振り返り、むずかしかったこと、苦勞したことを考える ・個人経験の表示とグループ討議を通じた自己課題の整理	学修や実習について省察し、確かめたいことやさらに深く学びたいことについてグループで話し合う	・これまでの学修履歴や実習から自己課題を整理する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	子どもを理解する (understanding) ということ ・子どもを「見る」「看る」「視る」「診る」に関する整理、グループ討論	子ども理解の方法や事例について話し合う ・実習で出会った○○さん ・ベテラン教師に学ぶ方法 ・私が実践したい「子ども理解」	履修ミニレポート1 左記3つの視点から自分の「子ども理解」を整理して記述する
3	もの見る眼差しと「加算法」 ・「ほめる」ということ“appreciation”＜鑑賞＞「ほめる」ことのロールプレイング	グループで場面事例をもとに「ほめる活動」のロールプレイングをする	履修ミニレポート2 効果的であった「ほめる」活動事例を整理して記述する
4	一人ひとりの子どもに寄り添うということ ・子どもと保育者の動き（一人ひとりへの心配りとフットワーク）経験者からの指導とその内容についてのグループ討論	自分が考える「教育的愛情」「よりよい対人関係」についてグループ討議をする	履修ミニレポート3 左記2つの視点から自分の考えを整理して記述する
5	ここまでの演習でいちばん深く学んだこと (わたしのまとめ→レポート①)	自分の振り返りとして自己課題に関する学びの展望を話し合う	履修ミニレポート4 小まとめを作成する
6	子どもの活動への思い願いを育てる ～内発的動機付け	自発性・能動性を引き出す環境づくり、内発的動機付けなどについて事例研究をする	履修ミニレポート5 左記の事例について授業案集などから事例を集め考察をする
7	子どもの活動（遊び）の総合性 ～経験者からの指導を受け、グループ討論を通じた整理 ・保育・教育の重点化、焦点化	実践指導者からの指導を受け、遊びのレポートリー、取り入れ方についてグループで協議する	履修ミニレポート6 「遊び」事例集の作成
8	保育者の「指導・援助」 ・安全・子どもへのやわらかな対応	言葉かけ 見守る スキンシップの具体事例についてグループで討議する	履修ミニレポート8 左記の具体事例をまとめて考察する
9	週案・日案を書く	現在の「私・シート」をもとに指導計画についての作成課題を整理するとともにクラスメートからのコメントから「気づき」をまとめる	履修ミニレポート9 「私・シート」をまとめる
10	よい計画を立案するために (わたしのまとめ→レポート②)	クラスメートから視点「自分の強みとそれを生かした展望」をまとめる	履修ミニレポート10 「私・シート」に「これからの展望」をまとめる
11	子どもの活動の実際と計画のズレ ・指導の評価と計画の修正、指導と評価の一体化、経験者からの指導を受けてのまとめ	経験者からの指導を受け、「実技」についてのまとめと活用の展望を図る	得意な実技のプレゼンテーション計画を立てる
12	指導と評価～子どもの姿を見とり ・指導の評価と改善～あすにつなぐ指導評価を巡るグループ討論	「保育の質を高める」をテーマにグループ討議をする	履修ミニレポート11 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	「気になる子への対応」と関係機関と保護者との連携	子どもの見とり、援助の在り方など保育・教育の改善についてグループで話し合う	履修ミニレポート12 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
14	めざしたい保育者像を考える ～個人意見の表示とグループ討論	目指したい保育者像について整理しグループで話し合う	履修ミニレポート13 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
15	わたしが授業を通して学んだこと (わたしのふりかえりとまとめ→レポート③)	授業を通して学んだことを発表し合う	履修ミニレポートの整理と考察をする
期末試験	後期末試験時間内の「履修カルテ」作成		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 目標K・B：レポート作成 60点 ・「履修カルテ」レポートの作成（40点） ・ミニレポートの作成（20点） 目標A ：演習、授業への主体的な取り組み 40% ・「学びの着底点」記述内容、グループ討議、プレゼンテーション、資料作成			
【教科書】 使用しない（授業内容に関する資料は、その都度、配布する） なお、以下の3冊は、準教科書として1年次から使用しているものを使用する。 ① 書名：幼稚園教育要領 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） ② 書名：保育所保育指針 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） ③ 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【参考書】 書名：保育・教職実践演習 著者名：小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子 編著 発行所：建帛社 価格：1,800円（税別） 書名：保育・教職実践演習 —— 自己課題の発見・解決に向けて 著者名：生野金三 井口眞美 田中正浩 田中正浩 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入（2冊） 2 本人購入（0冊）	
【その他補足事項】 1. 授業で配布する資料、実施した演習内容、授業キーワードについて予習・復習すること。 2. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。			

授業科目名	保育実習Ⅱ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	教授 今 清孝 （こん きよ たか）	助教 鈴木 翔太 （すず き しゅう た）	開講期	通年
			授業回数	時間割外
	期末試験の有無	無		
授業に関する主な実務経験と期間	今：筒井福祉会筒井保育園 保父（昭和59年4月～平成2年3月） 筒井福祉会筒井保育園 園長（平成2年4月～平成20年6月） 鈴木：福島学院大学附属幼稚園 幼稚園教諭（平成17年4月1日～平成22年3月31日） 福島学院大学認定こども園主幹保育教諭（平成29年4月1日～）			
社会貢献としての委員会・職等	今：福島市産官学プラットフォーム保育士キャリア形成プロジェクトチームリーダー			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	今：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻 博士課程修了 修士（社会福祉学）、保育士、日本社会福祉学会、日本家族研究・家族療法学会、日本子ども学会、日本保育者養成教育学会 鈴木：福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻 修士課程修了、修士（こども心理学） 保育士資格、幼稚園教諭第二種免許			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	無	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。また保育の計画・観察・記録・自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ自己の課題を明確化し、保育及び子育て支援について総合的に理解する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。	目標	B・J		
子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	目標	A・B・K		
既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。	目標	K		
保育の計画、実践、観察記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。	目標	B・J・K		
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	J		
保育士としての自己課題を明確化する。	目標	J・K		

【実習期間】

7月～8月。(概ね10日間)

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A・B・J：指導案及びレポート

目標A・B・J・K：実習日誌（保育所）

※指導案及びレポート（保育所）+実習日誌（保育所）20%、施設評価（保育所）80%

実習の施設評価は次のとおりとする。

- ・「A+」 90点～100点
- ・「A」 80点～89点
- ・「B」 70点～79点
- ・「C」 60点～69点
- ・「D」 50点～59点
- ・「F」 49点以下

D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

(実費徴収)

保育実習Ⅱ委託費 10,000円

腸内感染症検査料 600円程度

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅱ」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習Ⅲ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：高橋雄二		開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職等		NPO法人あざみ会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島学院大学大学院心理学研究科こども心理専攻修了 修士（こども心理） 社会福祉士、介護福祉士 介護福祉教育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について当該施設での実践を通して、理解を深める。施設の児・者の家庭状況や地域との関係にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解し、自己の課題を明確化する。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。			目標	A・B
家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。			目標	A・B・K
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			目標	A・B・K
保育士としての自己の課題を明確化する。			目標	A・B・J・K

【実習期間】

7月～8月。(概ね10日間)

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標A・B・J・K：実習施設による「実習評価表」の評価

目標A・B・J：事前・事後指導における学生の履修状況等

実習の成績評価は次のとおりとする。

- ・「A+」 90点～100点
- ・「A」 80点～89点
- ・「B」 70点～79点
- ・「C」 60点～69点
- ・「D」 50点～59点
- ・「F」 49点以下

D、Fは不合格とし、F評価の場合は原則として年度内の再実習を認めないものとする。

【実習費】

(実費徴収)

保育実習Ⅲ委託費 10,000円

腸内感染症検査料 600円程度

【その他補足事項】

- ① 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ② 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。
 - ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が、5分の4以上であること。※詳細は福島学院大学福祉学部履修規定（キャンパスライフに記載）を参照のこと。
- ③ 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。
- ④ 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。
- ⑤ 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	教育内容指導法 国語		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：教授 氏名：渡 辺 博 志		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島大学教育学部附属小学校教員教諭（昭和55年4月～昭和63年3月） 福島大学総合教育研究センター准教授・教授（平成19年4月～平成25年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		大玉村学校評価委員会委員長、福島市教育事務評価検証委員会委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業学士（教育学） 小学校一級普通免許状、中学校一級普通免許状（国語）、 日本カリキュラム学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは金曜日午前宮代キャンパス研究室で行います。		

【授業の概要】 この授業では、「小学校学習指導要領国語科」に示される学習指導に関係する目的・内容・言語活動・伝統的な言語文化について基礎的な理解を深め、国語科の授業に応用し、実際の場での活用方法を追求することを目指す。そのために、国語科学習指導に必要な不可欠な知識や方法を理解し、教材分析や授業案作成、模擬授業を通して教材研究を適切に運用する具体的な指導方法・技術を習得できるようにする。 授業の実際では、事前配付する資料を予習し、各授業テーマに関するキーワード研究、教材研究、練習活動などについて「課題追求シート」を作成して、履修に生かすようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
国語科の授業に興味関心を持つことができるようにする。			目標	B
国語科の学習指導に関する基礎的・基本的な知識・技能について理解を深め、授業案作成や模擬授業に積極的に生かすことができるようにする。			目標	A
国語科学習指導の理解を深め、今日的な国語教育の課題について考察することができるようにする。			目標	K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 「教育内容指導法・国語」の概要(資料1) 授業計画、授業の進め方、評価方法について ・事前配付資料の予習 ・「課題追求シート」「授業の着地点(省察)」	授業の進め方、評価方法の説明 ・「課題追求シート」「学びの着地点」の作成と授業内活用について	①「課題追求シート」②「学びの着地点」の作成方法について確かめ、②を作成する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	○国語科の授業(DVD資料「うとてとこ」)(資料2) 授業実践記録「うとてとこ」を視聴し、国語科授業を動かす基本的指導法の要素を取り上げ、その効果についてグループ討議する。 ・国語科教材の実際 ・教師と子どもが一緒につくる授業	「課題追求シート1」 「うとてとこ」の授業はどのように展開されたか導入・展開・まとめについて考察する(事後レポート)	「課題追求シート1」の課題についてレポートする
3	○国語科の授業を創る(資料3) 指導方法の基本とその実際 ・発問 ・学習方法(音読、学習形態、ノートなど) ・板書 ・授業案と実践の実際(一年:「はたらくじどう車」)	「課題シート2」 授業案に表された授業展開について着目した指導方法について取り上げ考察する(事前レポート) グループ討議に生かす	「課題追求シート2」の課題についてレポートする
4	○発達段階に応じる指導(資料4) 言葉の獲得からみた子どもの発達 ・低・中・高学年児童の発達と国語科学習指導 ・指導案と実践の実際「お手紙」「ごんぎつね」	「課題シート3」 「ごんぎつね」の授業展開について着目した指導方法について取り上げ考察する(事前レポート) グループ討議に生かす	「課題追求シート3」の課題についてレポートする
5	○入門期における国語科の基礎・基本(資料5) 言葉を表す「ひらがな文字の習得・文・お話」 ・言語活動「あいうえおのうた」 ・言語活動「ねえ、聞いて聞いて!スピーチ」	「課題シート4」 学習材として「あいうえおのうた」を作成する(自作) 「あいうえおのうた」作品集をつくり発表会をする。	「課題追求シート4」の課題について「あいうえおのうた」を作成する
6	○音読・朗読の指導方法とその基礎(資料6) 音読・朗読の意義と指導内容 ・文章理解 学び手としての学習の保障 言葉の重みを検討 ・イントネーション 緩急変換 間 卓立	「課題シート5」 教科書教材から音読する作品を選び、範読練習に取り組み、グループ発表会をする。	「課題追求シート5」の課題、範読をする
7	○言語指導の方法とその基礎・学年(資料7) 文字表記 音声言語 語彙 文法 ・長音・促音・拗音 濁音、半濁音「は」「を」「へ」 まる・点・かぎ	「課題シート6」 「は・を・へワークシート」に取り組み、指導のポイントについて400字程度の指導説明文を作成する。	「課題追求シート6」の課題についてレポートする
8	○「読むこと」(説明文教材)の学習指導①(資料8) 「読むこと」(説明文)の学習指導の要点 ・学習指導の実際「2年:たんぼぼのちえ」の教材研究と展開案構想	「課題シート7」 2年生教材について教材研究をして、展開部のミニ授業案を作成する	「課題追求シート7」の課題・ミニ授業案を作成する
9	○「読むこと」(説明文教材)の学習指導②(資料9) ・「2年:たんぼぼのちえ」の展開案のグループ検討と模擬授業	「課題シート8」 2年生教材について展開案を具体化する ・発問、板書計画	「課題追求シート8」の課題についてレポートする 発問 板書
10	○「読むこと」(文学教材)の学習指導①(資料10) 「読むこと」(説明文)の学習指導の要点 ・学習指導の実際「2年:スイミー」の教材研究と展開案構想	「課題シート9」 2年生教材について教材研究をして、展開部のミニ授業案を作成する	「課題追求シート9」の課題・ミニ授業案を作成する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	○「読むこと」(文学教材)の学習指導②(資料11) ・「2年:スイミー」の展開案のグループ検討と模擬授業	「課題シート10」 2年生教材について展開案を具体化する ・発問、板書計画	「課題追求シート10」の課題についてレポートする 発問 板書
12	○「書くこと」の学習指導①(資料12) 「書くこと」の学習指導の要点 ・学習指導の実際「1年:てがみでしらせよう」の教材研究と展開案構想	「課題シート11」 2年生教材について教材研究をして、展開部のミニ授業案を作成する	「課題追求シート11」の課題・ミニ授業案を作成する
13	○「書くこと」の学習指導②(資料13) ・「1年:てがみでしらせよう」の展開案のグループ検討と模擬授業	「課題シート12」 2年生教材について展開案を具体化する ・発問、板書計画	「課題追求シート12」の課題についてレポートする 発問 板書
14	○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習指導(資料14) ・関係する内容 ・書写に関する事項の内容「1年:ひらがなのかきかた」「かん字のかきかた」	「課題シート13」 「ひらがな。かん字ワークシート」に取り組み、指導のポイントについて400字程度の指導説明文を作成する	「課題追求シート13」の課題「ワークシート」を作成する 400字程度の指導説明文
15	国語学習指導と評価(資料15) 授業に生きる評価 ・評価の種類 ・学習者に受けとめられる評価	「課題シート14」 「子どもに受け入れられる評価」を読み、自分の評価観を400字程度のレポートにまとめ、グループ討議に生かす	「課題追求シート14」の課題「ワークシート」を作成する 400字程度の指導説明文
期末試験	前期試験(試験時間内課題レポート作成)		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
【授業の到達目標に不応する到達度の評価(評価方法・基準)】 1 目標A・K:期末試験50点 2 目標A・K:「課題追求シート」「学びの着地点(フィードバックシート)」40点 3 目標B:模擬授業、グループ活動、発表等の取り組みについては10点満点で評価する。 4 授業内容の理解度を確保するため5回程度の自己採点方式の確かめテストを実施する。			
【教科書】 書名:小学校学習指導要領解説 国語編 著者名:文部科学省 発行所:東洋館出版 価格:175円(税別)			
【参考書】 書名:あたらしい国語科指導法 著者名:柴田義松 編著 発行所:学文社 価格:2,100円(税別)		【図書館購入・本人購入の別】 1 図書館購入(3冊) 2 本人購入(1冊)	
【その他補足事項】 ○「課題追求シート」は授業内容と連動したテーマを設定し、作成したシートが授業で活用できるようにする。授業後に提出を求める。			

授業科目名	教育内容指導法 算数		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：佐藤博英		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島市教委会学校教育指導員（算数科担当 H9～10年度） 福島県小教研福島地区算数科研究部長（H26～28年度） 福島県小教研福島地区算数科研究部長（H28～29年度）		
社会貢献としての委員会・職等		特記事項なし		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学教育学部卒業 学士（教育学） 小教諭1級普・中教諭1級普（数学）・高教諭2級普（数学）		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目では、算数科の学習指導に必要な不可欠な知識や素養を身に付けるために、算数科における学習と指導、評価について、模擬授業・グループ討議等の実践的な演習をとって理解できるようにする。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
算数科の授業に興味・関心を持つことができるようにする。		目標	A・B	
算数科の学習指導法に関する基礎的・基本的な知識を持ち、模擬授業に積極的に生かすことができるようにする。		目標	A・B・C・J	
学習指導法の理解を通して、今日的な算数教育の課題について考察を深めることができるようにする。		目標	C・J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス (1) 授業の概要と目標 (授業内容) ・評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	「算数」の授業とは何か ・「算数科」の目標から、目指す授業を構想する。	自作資料① 小学校学習指導要領解説 算数編(※以下、毎回使用)	自作資料①を事前に読む。
3	「算数科」の授業で何が見えるか。 ・「算数科」授業を視聴し、子どもの学びを視点として、授業で大切にしていくことを議論し合う。	自作資料②(事前配布※ 以下同じ)	自作資料②を事前に読む。
4	「算数科」における子どもの学び ・具体的な教材をもとに、子どもの学びを追究する。	自作資料③ ・三角形の求積公式	自作資料③を事前に読む。
5	「算数科」の授業で子どもの意欲を育む。 ・「学びのスイッチ」を誘う「導入」の工夫について考察する。	自作資料④ ・「合併・増加」「求残・ 求差」の問題場面	自作資料④を事前に読む。
6	「算数科」の授業で数学的な考え方を育む。 ・「円の求積公式」を導き出す多様な考え方を生み出す 思考パターンを追究する。	自作資料⑤ ・「円周率」と「円の求 積公式」との関係性	自作資料⑤を事前に読む。
7	「算数科」の授業でコミュニケーション力を育む。 ・「問題解決学習」に不可欠な議論と傾聴	自作資料⑥ ・多様な考えの「練り上 げ」と数理発見	自作資料⑥を事前に読む。
8	数学的な考え方を高める「算数的活動」 ・学内探索活動における「算数的活動」の実際と活動に 内在する数学的思考力の発見	自作資料⑦ ・1対1対応 ・十進法	自作資料⑦を事前に読む。
9	模擬授業①-1 ・数と計算領域「12-7」の計算方法に関する模擬授業 案の作成	自作資料⑧ ・減加法と減々法	自作資料⑧を事前に読む。
10	模擬授業①-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑨ ・班ごとの模擬授業の実 践 ・全体での授業考察	自作資料⑨を事前に読む。
11	模擬授業②-1 ・図形領域「三角形と四角形」の弁別に関する模擬授業 案の作成	自作資料⑩ ・「三角形と四角形」の 定義と弁別	自作資料⑩を事前に読む。
12	模擬授業②-2 ・模擬授業の実践と考察	自作資料⑪ ・班ごとの模擬授業の実 践 ・全体での授業考察	自作資料⑪を事前に読む。
13	問題解決学習を視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「問題解決学習」の理論と実践	自作資料⑫ ・「問題解決学習」にお ける教師の役割	自作資料⑫を事前に読む。
14	学び合いを視点とした算数科学習指導法 ・算数科における「学び合い」の理論と実践	自作資料⑬ ・「学び合い」における 教師の役割	自作資料⑬を事前に読む。
15	評価を生かした算数科学習指導法 ・算数科における「評価」の理論と実践	自作資料⑭ ・「評価」と「授業改善」	自作資料⑭を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	前期試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。【評価する到達目標：A・B・C】</p> <p>(2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、その都度課題を設定する。 【評価する到達目標：A・B・C・J】</p> <p>(3) その他 授業内容の理解度を確認するため2～3枚程度、小テストを実施する。採点は授業の中で答え合わせを行い、理解不足の箇所を補う。【評価する到達目標：C・J】</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 書名：小学校学習指導要領解説 算数編 著者名：文部科学省 発行所：日本文教出版 価格：224円（税別）</p>		<p>【図書館購入・本人購入の別】</p> <p>1 図書館購入（0冊） 2 本人購入（1冊）</p>	

授業科目名	創作ミュージカル		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	3～4年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間		福島学院大学認定こども園園長3年2か月		
社会貢献としての委員会・職等		日本音楽療法学会東北支部福島県代表、福島市私立幼稚園協会監事		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		日本音楽療法学会認定音楽療法士、国立音楽大学教育音楽学科卒業・芸術学士・幼稚園教諭一種免許状取得、明星大学大学院修了修士（教育学）幼稚園教諭専修免許状取得、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会、日本保育学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭一種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 学生が自ら現代の社会問題及び人類愛に関するテーマを一つ取り上げ、オリジナルの脚本を作成し、学生同士ディスカッションし合いながら、音楽、ダンス、振り付け、舞台構成、照明構成そして演出を行い、総合芸術であるミュージカルを作り上げ本学ホールで発表会を行う。そして、それらの創作過程と時間外に設定する時間外練習をとおして、協調性、連帯感、責任感、自主性、創造性を育成し、現代社会の学生に必要とされるコミュニケーション能力や自己表現能力を高めていく。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代の社会問題を取り上げ、子どもの問題に結びつける内容の脚本を作成する。			目標	F
脚本に即して舞台美術、照明を考えたって踊ってお芝居を完成させる。			目標	E・F
共同での創作活動を通じて、友人との協調性、連帯感、責任感、自主性、思いやりを育成する。			目標	G・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要 ミュージカルについて オリエンテーション 台本作成について 各係の説明 教室借用について	資料配布	時間割以外の空き時間決定 時間割外の教室借用決定

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	ミュージカルのDVD鑑賞	DVD	ミュージカル内容の時間外の話し合い
3	ミュージカルのDVD鑑賞	DVD	ミュージカル内容の時間外の話し合い
4	係の決定 各係の話し合い	係ごとの話し合い	係の決定
5	ミニ・ミュージカル台本制作 照明・音響	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い
6	ミニ・ミュージカル台本制作 照明・音響	係ごとの話し合い	係ごとの話し合い
7	ミニミュージカル・台本決定 照明・音響 衣装作製	係ごとの話し合い	係ごとの話し合い
8	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
9	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
10	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
11	発表に向けての練習 リハーサル	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミニ・ミュージカルの自主練習
12	ミニ・ミュージカルの発表会①	発表	発表会
13	反省会 本発表に向けての話し合い	ディスカッション	本発表に向けての準備
14	ミュージカル台本制作 音響・照明	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い
15	ミュージカル台本制作 音響・照明	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い 係ごとの話し合い
16	ミュージカル台本制作 音響・照明 衣装作製	係ごとの話し合い	台本制作における話し合い 係ごとの話し合い
17	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
18	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
19	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
20	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
22	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
23	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製
24	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製
25	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 プログラム作製
26	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 招待状作製
27	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習 招待状作製
28	発表に向けての練習	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルの自主練習
29	リハーサル	演技、歌唱、振り付け、踊り、照明、音響の指導	ミュージカルのリハーサル
30	試験に代えて、発表会を実施する。	発表	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>目標 E・F：(1) 脚本の内容が現代の社会問題を的確に表していたか。 音響、照明、大道具、衣装が脚本に即していたか。 演技、振り付け、歌唱の完成度は高かったか。 *係りごとに点数をつける。…60%</p> <p>目標 G・L：(2) 友人との協調性が図れたか、自分の担当を責任もって遂行したかを評価の対象とする…20%</p> <p>目標 G・L：(3) ミュージカル発表の準備に対する積極性 (授業時間外での準備・練習などの活動が積極的になされたか) …20%</p> <p>自主的に活動している学生と、参加率の低い学生の評価点を明確にするために、自主練習記録表の提出を課し、担当教員がチェックする。</p>			
<p>【教科書】 教科書は使用しない。 資料は必要に応じて印刷して配布する。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>(1) 授業は千葉記念ホールで行い空き時間も千葉ホールを使用する。自主練習において教室が必要な場合については、千葉記念ホール、リハーサルルーム、アンダルシア、図書館情報センタースタジオ、音楽館各教室を借用する。手続きは教務課にて行うこととする。</p> <p>(2) 発表当日については本学認定こども園4～5歳児に鑑賞してもらう。</p> <p>(3) 発表当日については、友人、家族等を招待しても良いこととする。</p> <p>(4) プログラムや招待状を作製する。</p> <p>(5) 正当な理由なく、発表当日およびリハーサルに参加しない場合については単位を認定しない。</p>			

授業科目名	特別研究Ⅰ (お菓子づくり・パンづくり)		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任講師 氏名：橋本ヨシイ		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	平成3年より郡山市にて「ヘルシークッキング教室」主宰 テレビの料理番組生出演中（平成8年～現在）			
社会貢献としての委員会・職等	郡山市消費生活センター審議委員（終了） 青少年ホーム運営委員（終了） 郡山市環境審議委員（終了）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島県立会津短期大学家政科食物栄養専攻卒業 栄養士、管理栄養士 日本臨床栄養協会認定機構サプリメントアドバイザー 日本栄養改善学会会員 日本臨床栄養協会会員・日本調理科学会会員 日本伝統食品研究会会員・日本栄養士会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 現代においてお菓子やパンはお金を出して買うことが当たり前になっている。しかし愛情を込めて作ったパンやお菓子には見た目は不揃いであるが、自分と他の人を幸せにする不思議な力がある。手作りする時の「おいしい匂いや音」そして「素朴な味」が心と感性を豊かにすることを保育者・教育者として実感する。また、お菓子やパンに使用する素材の知識をマスターして応用力を身につける。併せて社会に出て役立つ簡単な飲み物についても学習する。4～5人の班編成で行い、手作りの楽しさと協同作業の大切さを学ぶ。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
作って食べることが健全な心、健康な体と深く関わることを学ぶ。		目標	A	
簡単なお菓子とパンの基本知識、及び技術を習得する。		目標	A	
実際の保育・教育の現場で役立つように応用力を身につける。		目標	A・B・J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の概要と授業の進め方、評価方法 調理室使用に際しての注意事項 調理室内の器具の確認 実習時の身支度や衛生面の注意事項 	シラバスの確認 調理室の器材の確認 安全な調理の確認 調理の手順の説明 配布プリント	シラバスを一読して来る こと
2	<ul style="list-style-type: none"> いちご大福 水ようかん 日本茶 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 米粉の種類 寒天の性質 	実習 (エプロン、三角布準備) <ul style="list-style-type: none"> 配布プリント使用 レポート提出 	復習とそのアレンジなども試みる
3	<ul style="list-style-type: none"> いちごヨーグルトゼリー スコーン 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> ゼラチンの性質 小麦粉の種類と性質 	同上	同上
4	<ul style="list-style-type: none"> ミルクパンの講義 (※簡単手法のみ実習) 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 発酵 粉の種類、特徴 グルテン 	同上	同上
5	<ul style="list-style-type: none"> 米粉蒸しパン スムージー 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 米粉の特徴 蒸し器の使い方 	同上	同上
6	<ul style="list-style-type: none"> クレープ (フルーツクリーム) コーヒー 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 生地の焼き方 コーヒーの入れ方 	同上	同上
7	<ul style="list-style-type: none"> 新茶のまんじゅう フルーツ葛餅 お茶(新茶を入れる) 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 八十八夜と新茶 葛粉の性質 	同上	同上
8	<ul style="list-style-type: none"> カラフル白玉 抹茶ミルク 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 野菜の色素 抹茶の溶き方 	同上	同上
9	<ul style="list-style-type: none"> フルーツゼリー マドレーヌ 紅茶 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> たんぱく質分解酵素 短時間の焼き菓子 紅茶の入れ方 	同上	同上
10	<ul style="list-style-type: none"> カスタードプディング コーヒーゼリー(黒蜜) 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 卵の加熱温度 ゼラチンの性質 	同上	同上
11	<ul style="list-style-type: none"> アーモンドチョコクッキー シナモンミルクティ 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> クッキー生地 スパイス 	同上	同上
12	<ul style="list-style-type: none"> クルミと果物のケーキ 紅茶 学習のポイント <ul style="list-style-type: none"> 長時間の焼き菓子 	同上	同上

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • おやき(南瓜) • いも餅 • ほうじ茶 <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 素朴な日常のおやつ • 郷土食 	<p>実習 (エプロン、三角布準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 配布プリント使用 • レポート提出 	<p>復習とそのアレンジなども試みる</p>
14	<p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 桃のレアチーズケーキ <p>学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 桃の扱い方 	同上	同上
15	<p>課題食材で自由にお菓子、パンを作る — 準備された食材で各班が時間内に創作 —</p>	レポート提出	
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)】</p> <p>目標A : レポート(内容及び提出状況を含む) 50点 目標B・J : 毎回の調理(身支度・理解度・向上心、出席状況を含む)を50点(各回3～4点) 以上、合計100点として評価します。 次に該当する場合は、総合評価から減点します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 私語、実習中の携帯操作、周囲への迷惑行為など「学生受講規定」に反する場合は減点の対象となります。 ※特に調理実習は危険を伴うので教員の注意を良く聞くこと。 • レポートの未提出は減点対象となります。 • 調理実習用の服装(上履き、エプロン、三角布など)を整わない場合は減点の対象となります。 ※特に上履きを持参しない場合は入室できないので要注意 			
<p>【教科書】 なし(プリントによる実習)</p>		<p>【参考書】 特に指定しないが、図書館などでお菓子やパンの本を読んで授業に臨む。</p>	
<p>【その他補足事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業内容は進捗状況や食材の入手状況により、変更することがあります。 ② 食物アレルギーのある者は必ず予め申し出る事と、アレルギーを持つ者は調理中にアレルギー食品が口に入る事の無いように自分で十分に注意して下さい。 ③ 調理実習中は火傷や怪我の無いよう、集中して作業を行い、全員で十分に気を配って下さい。 ④ 教材費として7,000円が必要です。 			

授業科目名	特別研究Ⅱ (園行事等映像制作)		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	4年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：菅 田 清 正		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	(株)テレビユー福島にてテレビ番組制作、テレビCM制作など多数制作を担当 (昭和58年4月1日～平成14年3月31日)			
社会貢献としての委員会・職等	学校法人福島学院評議委員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	<ul style="list-style-type: none"> 千代田工科芸術専門学校 放送芸術科 卒業 映像情報メディア学会正会員 			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
幼稚園教諭一種免許状	専門教育科目	選択		
保育士資格	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは火曜日午後宮代キャンパス研究室にて行います。			

【授業の概要】 本科目は、映像(動画)制作の基礎知識を修得し、WEB上に情報を発信する方法を学びます。演習では学生個人が所有するスマートフォンで撮影を行い、編集アプリを利用して、そのスマートフォン上で編集し、オリジナル映像(動画)を完成させて、YouTube等のWEB上で公開するまでを学びます。 撮影はこども園等の行事またはオリジナルCMなどを撮影し映像にまとめることを通して、映像(動画)表現を学んでいきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
スマートフォンで動画を制作し、WEB上に情報発信が出来るようになる。	目標	B		
動画制作に必要な知識と技術を修得し、自ら創造する力を身につける。	目標	A・B		
自分の考えをわかりやすく表現する能力と感性を身につける。	目標	F・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と評価方法・授業の進め方 (2) テレビCMとウェブ広告動画の違い (3) 著作権とは何か	<ul style="list-style-type: none"> シラバス・資料配布 事前学修で調べた著作権の疑問点をディスカッションする 	予習・復習：著作権の法律の理解と実例をネットで調べる
2	第1章 動画制作のワークフロー 企画から台本作成・撮影・編集・完成までの流れを把握する	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 	https://www.ediusworld.com/jp/ で予習復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第2章 撮影の基礎 (1) 画面サイズとカメラワーク (2) イマジナリーライン	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 映画「激突！」(20分)を視聴し画面構成を理解する 	https://www.ediusworld.com/jp/ で予習復習する
4	第3章 音声・照明の基礎 (1) 音源の3要素とマイクの種類、人物照明法 (2) 小テスト1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付 これまでの内容を確認する 小テスト実施する	https://www.ediusworld.com/jp/ で予習復習する
5	第4章 絵コンテ (1) 絵コンテの要素・構成 (2) 広告動画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 企画を立案 	動画の立案を次回までに完成させる
6	第5章 絵コンテ作成 (15秒又は30秒CM) (1) 絵コンテを完成 (2) 撮影準備	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 小道具の準備など 	次回までに撮影に必要なものを準備する
7	第6章 動画撮影1 (動画編集アプリ: BIVA VIDEO) (1) スマートホン操作の説明 (2) 撮影開始	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテをもとに個人で撮影開始 	撮影した素材の内容を確認しておく
8	第6章 動画撮影2 (撮影予備日) 前回に引き続き撮影を進め、終了する。	<ul style="list-style-type: none"> 今回で撮影を終了する 	撮影が終わらなかった場合は継続する
9	第7章 編集の基礎 (1) 編集とは何か (2) モンタージュ理論 小テスト2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 予習した不明点をディスカッションする 	https://www.ediusworld.com/jp/ で予習復習する
10	第8章 動画編集1 (1) 編集アプリの説明 (BIVA VIDEO) (2) 素材の取り込み、編集開始	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 編集ソフトの実演説明 個人のスマホで編集開始 	映像部分を復習で完成させる
11	第8章 動画編集2～音声編集 (1) BGMやSEなどの音付け (2) 字幕テロップの作成	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 音声編集を終了させる 選曲済みの中から選ぶ 	BGMを選曲し、字幕案を決めておく
12	第8章 動画編集3 (予備日) (1) MA (整音)、ナレーション入れ (2) 完成	<ul style="list-style-type: none"> 学生自身がナレーションを読み録音する 編集で音声を整音する 	復習で次回までに作品を完成させる
13	第9章 試写と講評 (第1グループ) (1) 個人ごとに作品を発表、その後講評	<ul style="list-style-type: none"> 完成した動画の制作意図を発表する 作品を視聴し講評する 	予習: 発表内容を作成しておく
14	(2) 試写と講評 (第2グループ) 個人ごとに作品を発表、その後講評 ・レポート (当日題名発表)	<ul style="list-style-type: none"> 完成した動画の制作意図を発表する 作品を視聴し講評する 	予習: 発表内容を作成しておく
15	第11章 まとめ (1) これまでの振り返り (2) レポート提出締切	<ul style="list-style-type: none"> まとめ資料の配布 これまでの講義内容を振り返る 	レポートを期日までに提出する
期末試験	期末試験	CM作品の上映と学生が作品をプレゼンする	予習: プレゼン用のPPを作成しておく

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

目標 B・F：作品完成度60点満点（作品40点、プレゼン力20点）

目標 A：小テスト2回実施10点満点、レポート1回10点満点

目標 I：授業への積極性20点満点で評価します。

ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。

【その他補足事項】

- (1) 授業形態により履修学生は20名以下とします。
- (2) 個人所有のスマートフォンを使用し撮影編集の作業を行うため、データ通信料金がかかることがありますのでご了承ください。
- (3) 必要であれば撮影経費（例えば、撮影用小物など）は、個人負担となる場合があります。